

3 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代～古墳時代前期の遺構は、竪穴建物跡 17 軒、竪穴状遺構 2 基、方形周溝墓 1 基、土坑 6 基、ピット 7 基を検出した。竪穴建物跡・竪穴状遺構は主に調査区の中央部付近から北東部にかけて重複せず分布し、南西部には方形周溝墓が確認されている。

竪穴建物跡・竪穴状遺構と方形周溝墓は、出土遺物から弥生時代終末期～古墳時代前期のものと考えられ、覆土の様相等から、土坑・ピットの遺構も同時期のものと想定される。

遺物は、弥生時代前期の土器が調査区南西部で確認された。弥生時代終末期から古墳時代前期の土器は、同時期の竪穴建物跡を中心に出土している。なお、弥生時代終末期から古墳時代前期の土器の時期は、比田井克仁による編年（比田井 2001、以下、「比田井編年」とする）と、神谷原遺跡における編年（大村 1981）を基にした及川良彦による年代観（及川 2015）を用いる。なお、比田井編年における古墳時代前期Ⅰ段階古相（古墳時代早期）は、及川良彦による年代観の弥生時代終末期後半、神谷原遺跡における神谷原Ⅱ段階に相当する。また、比田井編年における古墳時代前期Ⅰ段階新相（古墳時代前期前葉）は、及川良彦による年代観の古墳時代前期前葉、神谷原遺跡における神谷原Ⅲ段階に相当する。遺構の年代を示す際には、及川良彦による年代観を用いた。

なお、石製品の観察表については、第 32 表に纏めて掲載した。

1) 遺構と遺構出土遺物

A 竪穴建物跡・竪穴状遺構（第 79～252 図、第 10～28・32 表）

弥生時代終末期～古墳時代前期に帰属する竪穴建物跡は 17 軒、竪穴状遺構は 2 基検出された。遺構略号は SI である。埴が存在しないことが明らかな SI24・45 については竪穴状遺構とし、それ以外を竪穴建物跡とした。

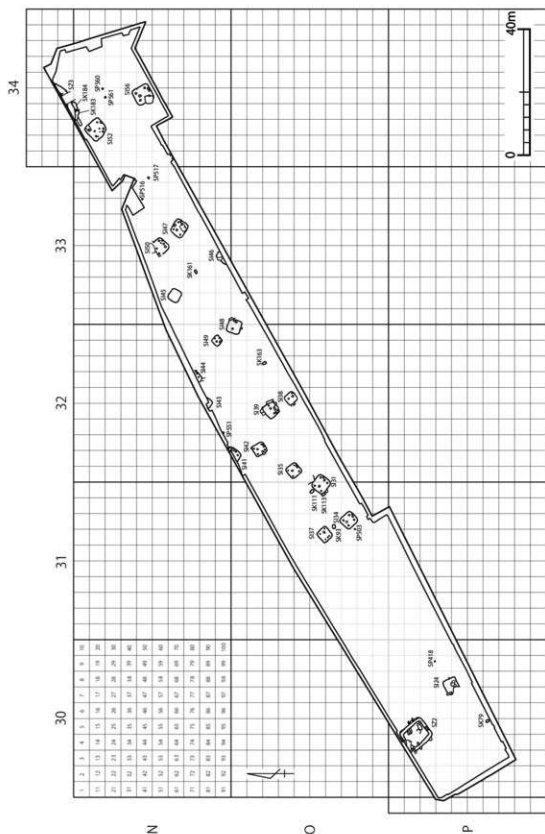
竪穴建物跡及び竪穴状遺構は、そのほとんどが調査区内の中央部から北東部にかけて、重複することなく分布している。南西部では竪穴状遺構 SI24 の 1 基だけが検出された。なお、SI24 の北西側には同時期の方形周溝墓 SZ2 が存在している。

竪穴建物跡は、出入口とされる梯子穴から見て中央より奥に埴を有し、梯子穴の右側に貯蔵穴、土堤を有し、更に隣接して赤砂が検出されることが多い。主柱穴は有するものそうでないものがある。壁溝は検出されていない。

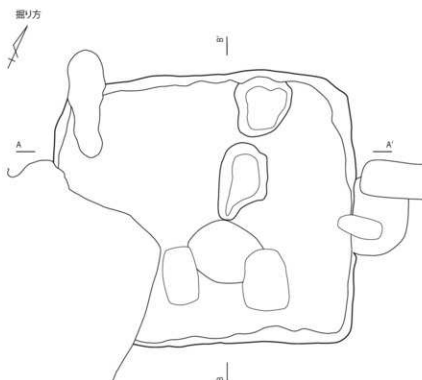
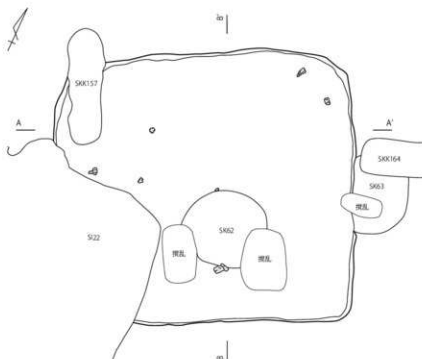
SI24（第 79～83 図、第 10・32 表）

遺構 調査区南西部の 30P・37・38・47・48 グリッドで検出された竪穴状遺構である。長軸（東西）482cm、短軸（南北）440cm の隅丸方形で、東西にやや長い。主軸方向は N-25°-W を指す。壁は垂直気味に立ち上がる。柱穴や埴等、付帯施設はいずれも有さない。検出面はⅢ層上である。古代の竪穴建物跡 SI22 により南西部の隅を大きく破壊されている他、SK62・63、SKK157 といった後代の遺構や攪乱に床面や壁を切られている。

床面は検出面からの深さが 22cm と非常に浅い。また床面は貼床で比較的平坦であるが、明瞭な硬化面は検出されなかった。掘り方の掘り込みは 19cm と浅く、底面はロームまでは達せずにⅢ 2 層で止まっている。掘り方覆土は上下 2 層に分けられ、それぞれ黒褐色土や暗褐色土が主体となっていて、ロームの混入はわずかである。



第 78 図 弥生時代・古墳時代遺構分布図 (1/1,200)

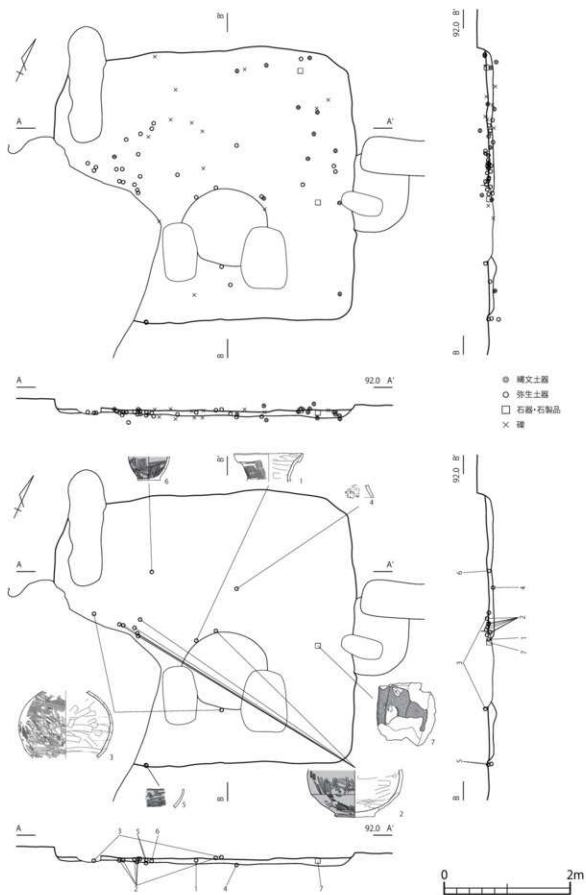


S124

1. 10YR2/1 黒色土層 直径2～3mmの黄褐色スコリア1%未満。直径30mm以下の赤色スコリア1%未満。直径3～5mmの炭化物粒子1%未満を含む。結まりやや強。粘性やや弱。砂子やや粗い。
2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径2～3mmの黄褐色スコリア1%未満。直径20mm以下の赤色スコリア1%未満。直径5～30mmの黒色土ブロック(10YR2/1)10%未満を含む。結まり・粘性やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土層 灰床上。直径2～3mmの黄褐色スコリア1%未満。直径20mm以下の赤色スコリア1%未満。直径5～40mmの硬化ブロック(10YR2/1)10%未満を含む。結まり・粘性やや強。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 灰床上。直径2mmの黄褐色スコリア1%未満。直径30mm以下の赤色スコリア1%未満。直径2～10mmのロームブロック2%を含む。結まり・粘性やや強。



第79図 S124(1)(1/60)



第80図 SI24(2)遺物分布・接合図(1/60)



1. SI24 全景 (東南東から)



2. SI24 土層断面 B-B' (東北東から)



3. SI24 掘り方土層断面 A-A' (東南東から)

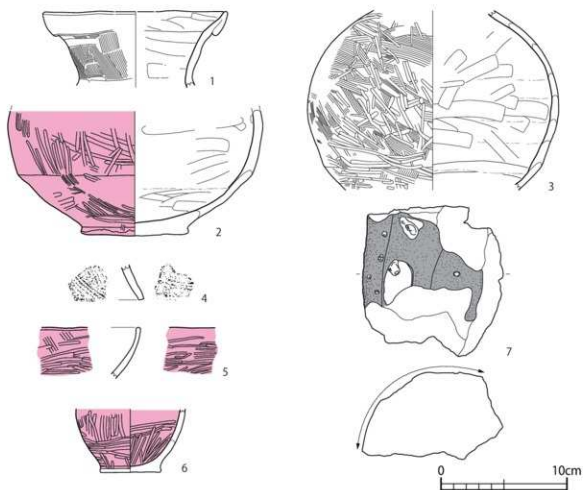


4. SI24 遺物出土状況 (東南東から)

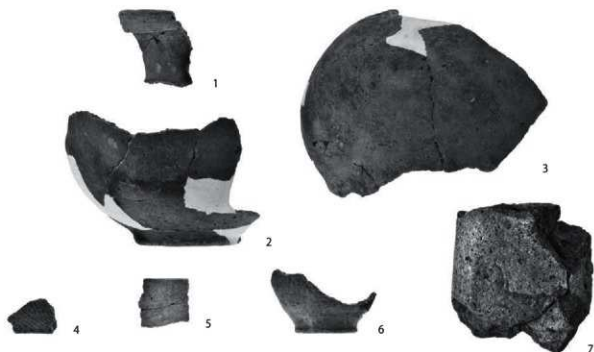


5. SI24 掘り方全景 (東南東から)

第 81 図 SI24 写真



第82図 SI24出土遺物(1/3)



第83図 SI24出土遺物写真

第10表 SI24 出土土器観察表

図	番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第82・83図	1	覆土床面	壺	(14.4) 65.0 —	複合口縁。口唇部は丸みを帯びる。口縁は内湾し、頸部はやや外反する。	外面：口縁部ナデ。頸部縦方向のハケ調整。内面：口縁部から胴部縦方向のナデ。	小礫 長石 雲母	良好		5YR6/6 橙	破片
	2	覆土床面	壺	— 8.4	胴部下半に明瞭な稜を有する。最大径は胴部下半に位置する。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：胴部縦方向のミガキ。底部：胴部縦方向のハケ調整後ナデ。内面：胴部縦方向のヘラナデまたはミガキ。	小礫 チャート 長石 石英	良好	胴部外面	5YR4/6 赤褐	残存率 25～50%
	3	覆土床面	壺	— —	胴部下半部に稜を有する。	外面：胴部縦方向のハケ調整後ミガキ。ハケメ明瞭。内面：胴部縦方向のナデ。	小礫 長石 雲母	良好		5YR5/6 明赤褐	残存率 25% 以下
	4	覆方覆土	台付甕	— —	胴部下端片。外反する。	外面：胴部斜め方向の幅広いハケ調整後ナデ。内面：胴部縦方向のナデ。	小礫 長石 白色砂粒	良好		10YR7/4 にぶい黄褐色	破片。粗いハケ状工具による幅広いハケメ（菊川系の模倣か？）
	5	覆土床面	鉢	— —	内湾する。	外面：斜め方向のハケ調整後縦方向のミガキ。内面：ナデ後横方向のミガキ。	小礫 長石 石英	良好	外面 内面	10R5/6 赤	破片
	6	覆土床面	鉢	(5.0) 4.6	胴部は内湾しながら立ち上がる。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：縦方向のミガキ後横方向のミガキ。内面：横方向のミガキ後縦方向のミガキ。	小礫 長石	良好	外面 内面	10R5/6 赤	残存率 25～50%

床面までの覆土は2層からなり、上層の黒色土には炭化物粒子がわずかに含れるま。黄褐色スコリアは確認されなかった。（相原）

出土遺物 縄文土器片 12点と弥生土器片 30点、石器 1点、礫 14点が出土した。

遺物出土状況 出土遺物の数は少ないが、床面から出土した遺物が多い。

土器 第82・83図1～3は壺である。1は、複合口縁壺の口縁部から頸部である。口唇部は丸みを帯び、頸部はやや外反しながら立ち上がる。2は、胴部から底部で、胴部下半に明瞭な稜を有する。底部は円盤状で、外面は平坦である。3は胴部で、外面はハケ調整後ミガキ調整が施されるが、ハケメはミガキによって完全に消されず、明瞭に残る。胎土は緻密で、明赤褐色である。

4は台付甕の脚部片で、外反する。外面に粗いハケ状工具による幅広いハケ調整が施される。

5と6は鉢で、ともに内外面がミガキ後赤彩される。5は口縁部である。単口縁で、体部は内湾する。

6は胴部から底部で、胴部は内湾しながら立ち上がる。

土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階古相に相当すると考えられる。

石製品 第82・83図7は、安山岩製の台石である。破損しているが、摩滅面が残る。東壁沿いの床面から出土した。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。（守屋亮）

SI31（第84～96図、第11・32表）

遺構 調査区中央の310・60・70、320・51・61グリッドで検出された竪穴建物跡である。検出面はⅡ3層面で、古代のSI30、SP472、近世以降のSDK359・362・390、SKK355・360・365の各遺構に壁や覆土の一部を切られている。

平面形態は隅丸方形で、規模は長軸513cm、短軸496cm、検出面からの深さは66cmを測り、壁は垂直気味に立ち上がる。主軸方向はN-53°-Wを指す。

床面は貼床で、壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁溝は無く、主柱穴P1～4、中央部の北寄りに炉、南東壁際中央に梯子穴P5、その東寄りに貯蔵穴P6を有する。

覆土は15層に分けられ、いずれも黄褐色スコリアを含む黒色土や黒褐色土である。黄褐色スコリアは、上部の層により多く含まれる傾向にある。

掘り方は、ローム層まで掘り下げられており、壁際がテラス状に1段高くなっている他、底面は全面的に凹凸を有している。覆土は2層に分けられ、いずれもⅢ1層をベースとし、ロームブロックや粒子を多く含んでいる。

主柱穴はP1～4の4基で、いずれもローム層まで深く掘り込まれており、断面はコ字状を呈している。床面からの深さは、P1が48cm、P2が47cm、P3が53cm、P4が50cmを測る。4基とも柱を抜き取った後に埋め戻されており、P1・2・4は柱穴の掘り方部分の最上部を貼床が被覆している。またP4では、掘り方覆土及び抜き取り穴覆土上を赤砂が覆っている状況が確認された。

P5は梯子穴と考えられる。長軸64cm、短軸50cmの卵形を呈し、底面はローム層まで掘り下げられているが、床面からの深さは37cmで、主柱穴に比べるとやや浅い。梯子を抜き取った後に埋め戻され、ピットの掘り方部分は、最上部を貼床が被覆している。

貯蔵穴はP6で、ローム層まで掘り込まれている。覆土は2層からなり、上層の1層は黄灰色粒子をわずかに含む。北西には土堤が位置している。

土堤は長さ97cm、最大幅56cm、床面からの高さ4cmで、掘り方覆土をわずかに盛り上げて構築されている。形状は、貯蔵穴を囲む様にわずかに弧を描いている。

炉は枕石を南東側に置く地床炉で、竪穴建物跡の貼床土中を底面とする掘り方を持ち、掘り方を火床部としている。火床部の被熱はわずかで、焼土ブロックと円礫を含んでいる。枕石は砂岩で、被熱と煤の付着が認められる。

赤砂は主柱穴のP4を覆う状態で検出された。検出された厚さは床面から7cmと薄いが、3層に分層されたうち最上層51層、P4にかかる部分で赤砂が濃密で、壁際はやや薄かった。また、赤砂には土器小片が複数含まれているのが確認できた。

南西壁際からは低い棚状の高まりが確認された。長軸86cm、短軸59cmで、床面から6cmを測るわずかな高まりを有している。機能等は不明である。

その他、北西壁際からは、灰の塊が検出されている。

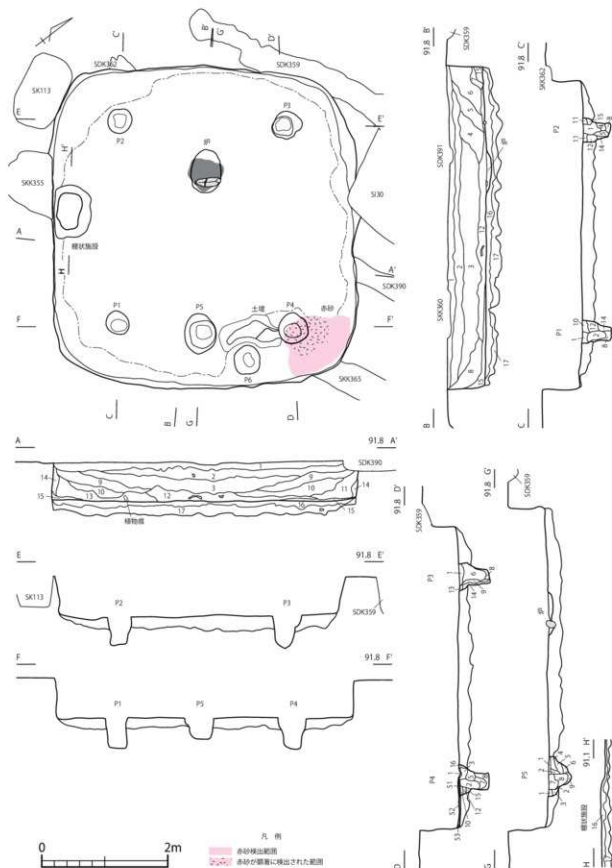
床面からは、垂木と思われるもの等、複数の炭化材が確認されており、焼失家屋の可能性はある。

(相原)

出土遺物 縄文土器片14点と弥生土器片165点、土師器3点、須恵器7点、石器3点、礫85点、炭化物13点が出土した。

遺物出土状況 遺物は、主に建物跡の南東側から集中して出土した。南隅の床面から、壺(第94・96図1)が口縁部から胴部下半までが形状を保った状態で、正位で出土した。P1の東側からは石杵(第95・96図11)が出土した。東隅の床面赤砂範囲及びP4から、壺(第94・96図2・6)が隣接して出土した。2は、P4にかかる位置から正位で出土している。この地点の床面よりやや上層からは、台付甕(第95・96図9)が出土している。また、東隅床面から出土した土器片が、SI35出土の壺(第116・117図2)と遺構間接合した。

土器 第94・96図1～8は壺で、1～4は複合口縁である。1は、口縁部から胴部上半が良好に残存する。口唇部は平坦で、単節LRの縄文が施文される。口縁部は内湾し、外面には羽状縄文が施



第 84 図 SI31(1)(1/60)

531

1. 10YR1/7 黒色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 10YR5/5 20%、直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 25YR4/8 1%未満、直徑 3mm 以下の黒褐色スコリア 10YR3/1 5%を含む。結まり有り、粘性ごくわずか、粘りややねい。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 15%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直徑 3mm 以下の黒褐色スコリア 1%を含む。結まり・粘性有り、粘り比較的細かい。
3. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 20%、直徑 10mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直徑 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%を含む。結まり・粘性有り、粘り比較的細かい。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 10%、直徑 9mm 以下の赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 3%、直徑 15mm 以下のロームブロック 2%、長さ 10mm 以下の炭化材 1%未満を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 7%、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%未満、黒褐色スコリア 2%を含む。結まりやや弱、粘性弱、粘り比較的細かい。
6. 10YR3/1 黒褐色土層 硬化した直徑 80mm 以下の黒褐色土ブロック 10YR3/1 を主体とし、直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 10%、直徑 4mm 以下の赤褐色スコリア 2%を含む。結まり強、粘性有り、粘り比較的細かい。
7. 10YR2/5 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、赤褐色スコリア 1%、直徑 7mm 以下のロームブロック 2%を含む。結まりやや弱、粘性弱、粘り細かい。
8. 10YR2/5 黒褐色土層 硬化した直徑 60mm 以下の黒褐色土ブロック 10YR3/1 を主体とし、直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、赤褐色スコリア 1%未満、直徑 40mm 以下のロームブロック 1%未満、長さ 7mm 以下の炭化材 1%未満を含む。結まり強、粘性有り、粘り細かい。
9. 10YR2/1 黒色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 7%、直徑 10mm 以下の赤褐色スコリア 2%、ロームブロック 1%を含む。結まり有り、粘性わずか、粘り比較的細かい。
10. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 15%、赤褐色スコリア 1%を含む。結まり有り、粘性弱、粘り細かい。
11. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 15%、赤褐色スコリア 1%を含む。結まり有り、粘性弱、粘り細かい。
12. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 10%、直徑 7mm 以下の赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 10%、直徑 30mm 以下のロームブロック 1%、炭化材 2%、大小の炭化材 7%を含む。結まりやや弱、粘性弱、粘り比較的細かい。
13. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%、長さ 10mm 以下の炭化材 2%を含む。結まり・粘性やや弱、粘り細かい。
14. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直徑 1mm 以下の黄褐色スコリア 1%、黒褐色土層 15%を含む。結まり弱、粘性有り、粘り細かい。
15. 7.5YR1/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
16. 10YR2/1 黒褐色土層 炭床土、黒土をベースとし、直徑 100mm 以下のソフトロームブロック 5%が混在。他に、ローム粒子 7%、直徑 15mm 以下の円礫 1%未満を含む。結まり強、粘性有り、粘り極めて細かい。
17. 10YR3/1 黒褐色土層 炭床土、黒土をベースとし、ローム粒子 20%、直徑 100mm 以下のソフトロームブロック 15%、直徑 40mm 以下の黒土ブロック 3%、直徑 40mm 以下の円礫 1%未満を含む。全体的に不均質。結まり・粘性有り、粘り細かい。

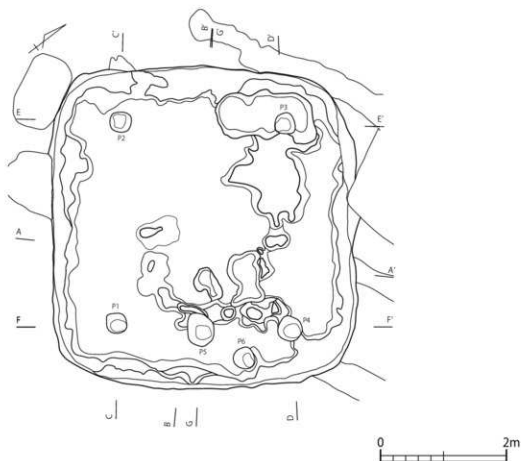
P1 ~ 4

1. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子 10%、長さ 10mm 以下の炭化材 1%未満を含む。結まり有り、粘性弱、粘り細かい。
2. 10YR3/5 黄褐色土層 ローム粒子 25%、直徑 15mm 以下のロームブロック 1%を含む。結まり弱、粘性有り、粘り細かい。
3. 10YR2/5 黄褐色土層 ローム粒子 10%、直徑 20mm 以下のロームブロック 5%、黒土ブロック 10%を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子 5%、直徑 10mm 以下のロームブロック 2%を含む。結まりに欠け、粘性有り、粘り細かい。
5. 10YR4/3 赤褐色土層 ローム粒子 40%、直徑 10mm 以下のロームブロック 10%を含む。結まりなし、粘性有り、粘り細かい。
6. 10YR2/5 黒褐色土層 ローム粒子 15%、直徑 20mm 以下のロームブロック 2%、黒土ブロック 20%を含む。結まりは弱く下部ではなしに近い。粘性有り、粘り細かい。
7. 10YR4/2 灰黄褐色土層 ローム粒子 30%、直徑 7mm 以下のロームブロック 7%を含む。結まりに欠け、粘性有り、粘り細かい。
8. 10YR4/3 赤褐色土層 ローム粒子ベース、結まりに欠け、粘性やや弱、粘り極めて細かい。
9. 10YR4/4 褐色土層 ローム粒子、直徑 25mm 以下のロームブロックをベースとし、黒土粒子が混在。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
10. 10YR2/1 黒褐色土層 黒土をベースとし、ローム粒子 5%、直徑 20mm 以下のロームブロック 3%を含む。結まり弱、粘性弱、粘り細かい。
11. 10YR2/5 黄褐色土層 ローム粒子 5%、直徑 10mm 以下のロームブロック 1%を含む。結まり弱、粘性有り、粘り極めて細かい。
12. 10YR3/6 灰黄褐色土層 ローム粒子、直徑 30mm 以下のロームブロック弱、結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
13. 10YR4/2 灰黄褐色土層 黒土をベースとし、ローム粒子 30%、直徑 20mm 以下のロームブロック 5%を含む。結まり弱、粘性有り、粘り細かい。
14. 10YR4/6 褐色土層 ローム粒子をベースとし、直徑 7mm 以下のロームブロック 5%を含む。結まりなし、粘性弱、粘り細かい。
15. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子 10%、直徑 10mm 以下のロームブロック 1%を含む。結まり弱、粘性有り、粘り細かい。
16. 10YR3/1 灰黄褐色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 3%、直徑 10mm 以下のロームブロック 1%を含む。結まりやや弱、粘性やや弱、粘り細かい。

P5

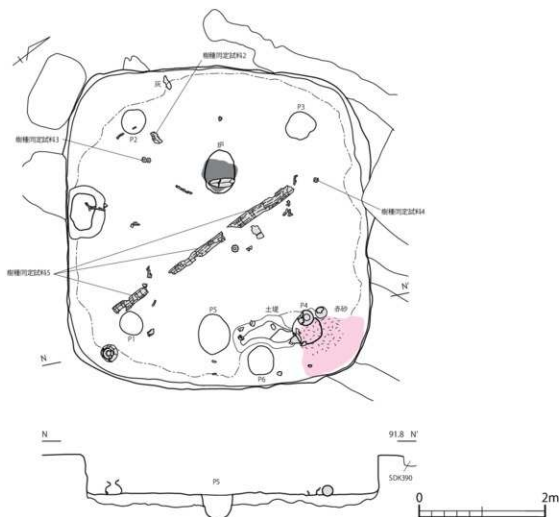
1. 10YR2/1 黒褐色土層 炭床土、直徑 7mm 以下の赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 5%を含む。結まり強、粘性有り、粘り細かい。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 黒土をベースとし、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 40%を含む。結まり有り、粘性やや弱、粘り細かい。
3. 10YR2/1 黒褐色土層 黒土をベースとし、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 3%を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
4. 10YR3/5 黄褐色土層 ローム粒子 20%、直徑 10mm 以下のロームブロック 5%、直徑 15mm 以下の黒土ブロック 5%を含む。結まり強、粘性有り、粘り細かい。
5. 10YR4/15 灰黄褐色土層 ローム粒子 30%、直徑 15mm 以下のロームブロック 5%、直徑 7mm 以下の黒土ブロック 3%を含む。結まり有り、粘性弱、粘り細かい。
6. 10YR3/3 暗褐色土層 ローム粒子 40%、直徑 7mm 以下のロームブロック 5%を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
7. 10YR2/1 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 10%、直徑 20mm 以下のロームブロック 1%未満、長さ 15mm 以下の炭化材 1%未満を含む。結まり有り、粘性弱、粘り細かい。
8. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子 15%、直徑 30mm 以下のロームブロック 7%を含む。結まりやや弱、粘性有り、粘り細かい。
9. 10YR2/1 赤褐色土層 ローム粒子ベース、結まり有り、粘性弱、粘り極めて細かい。

第 85 図 SI31(2)



第 86 図 SI31(3)(1/60)

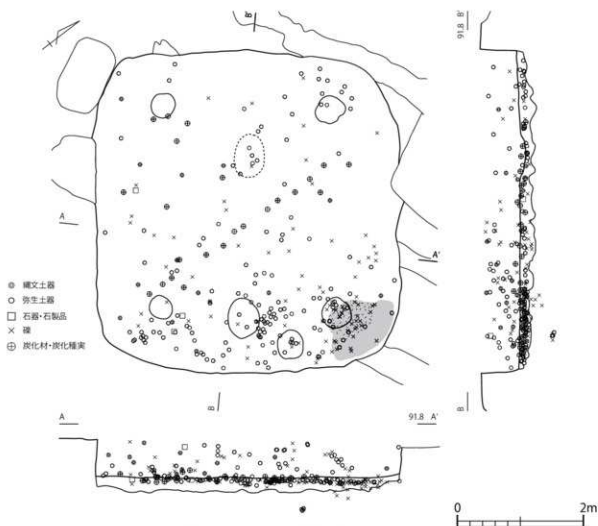
文され、上段は単節 RL で下端が S 字状端末結節文、下段は単節 LR で下端が S 字状端末結節文である。頸部と肩部の境界は強く屈曲する。頸部に 3 点 1 組の円形浮文が 3 箇所施文される。最大径は胴部下半に位置し、横広の形状である。肩部には羽状縄文が施文され、上端は S 字状、Z 字状、S 字状の 3 条の自縄結節文で区画される。上段は単節 RL で下端が S 字状端末結節文、下段は単節 LR で下端が S 字状と推定される端末結節文である。加えて、下端は S 字状、Z 字状、S 字状の 3 条の自縄結節文で区画される。外面無文部と口縁部内面はミガキ、胴部内面は横方向のヘラナデが施される。胴部下半の断面は磨滅しており、この状態で使用されていた可能性がある。2 は、口縁部から肩部が良好に残存する。口唇部は平坦で、単節 LR の縄文を施文する。口縁は内湾し、口縁部外面に羽状縄文が施文される。上段は単節 LR で下端に Z 字状端末結節文、下段は単節 RL で下端に S 字状端末結節文である。縄文施文後に下端部をナデ消し、刻みが施される。この後に刻みに合わせて 4 箇所それぞれ 10 本、11 本、9 本、9 本以上の縦列沈線文が施され、その後に円形朱文が施文される。頸部は外反し、肩部との境界は強く屈曲する。屈曲部に 3 条の S 字状自縄結節文が施文され、この上の 2 箇所または 3 箇所に 5 点 1 組と推定される円形浮文を有する。肩部には羽状縄文を施文が施文され、上端は 3 条の S 字状自縄結節文で区画される。上段は単節 LR で下端が Z 字状端末結節文、下段は単節 RL である。その後に円形朱文が施文される。口縁部内面と頸部内外面は、ミガキ後赤彩される。



第 88 図 SI31(5) 遺物出土状況図 (1/60)

3 と 4 は口縁部片である。3 は、口唇部は平坦で、単節 LR の縄文が施文される。外面には羽状縄文が施文され、上段は単節 RL で下端が S 字状端末結節文、下段は単節 LR で下端が Z 字状端末結節文。円形朱文が施される。内面はミガキ後赤彩される。4 は、口唇部が丸みを帯びる。外面に羽状縄文が施文され、上段は単節 RL で下端が S 字状端末結節文、下段は単節 LR。口縁部内面と頸部内外面はミガキ後赤彩される。5 は、壺上半部片である。胴部外面に羽状縄文が施文される。1 段目は単節 RL で下端が S 字状端末結節文。さらに 3 条の S 字状自縄結節文で区画される。2 段目は単節 LR で下端が Z 字状端末結節文、3 段目は単節 RL で下端が S 字状端末結節文、さらに 2 条の S 字状自縄結節文で区画される。4 段目は単節 LR、4 段目の縄文を沈線による鋸歯文が切り、下方は縄文が磨り消されたのち、赤彩が施される。6 は、胴部から底部で、胴部下半に明瞭な稜を有する。外面にはハケメが明瞭に残る。底部外面はわずかに窪む。胎土に赤褐色の小礫を多量に含む。7 と 8 は、壺底部である。7 はやや外反しながら、8 は内湾しながら立ち上がる。底部外面は共に平坦である。

第 95・96 図 9 と 10 は、台付甕である。9 は完形で、口唇部はハケ状工具で平坦に面取りされた後、刻みを施される。口縁部は直線的に広がり、胴部は球形で、脚部は内湾する。胴部上半は斜め方向、



第 89 図 SI31(6) 遺物分布図 (1/60)

下半は横方向のハケ調整が施される。胴部内面に炭化物が付着する。

10 は、脚部で、直線的に広がる。粗いハケ状工具による幅広いハケメが残る。

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期 I 段階古相に相当すると考えられる。

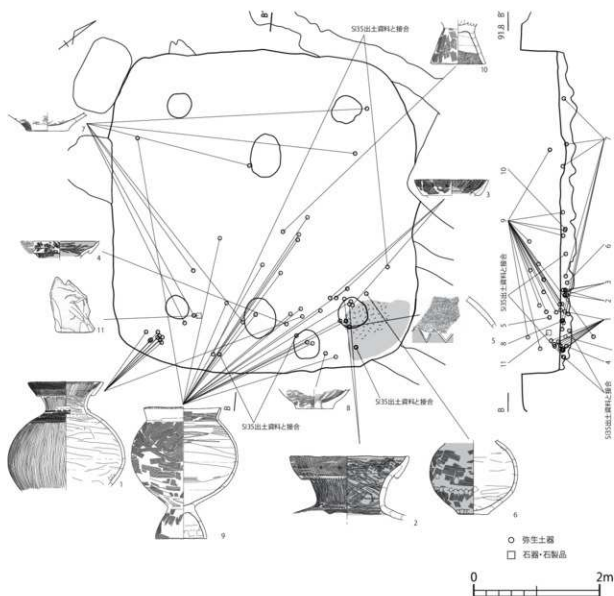
石製品 第 95・96 図 11 は、砂岩製の石杵である。形状は縦長の四角錐に近いが至である。下端面は平坦で、非常に明瞭な光沢のある磨滅痕跡が残る。

炭化材 炭化材が多数出土しており、焼失した竪穴建物の構造部材と考えられる。一部で樹種同定を実施した。建物跡中央に、南北方向に長軸を向けて大型の炭化材が出土しており（樹種同定試料 5）、棟木または梁であったと考えられる。樹種はキハダである。他に、西隅付近の破片（樹種同定試料 2）はキハダ、半割材（樹種同定試料 3）はイヌガヤ、破片（樹種同定試料 4）はキハダであった。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、炉からイネとアワの炭化種子、貯蔵穴である P6 からイネとオオムギの炭化種子が検出された。また、第 94・96 図 6 の壺内部の土壌から、アワの炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。

（守屋）



第 90 図 SI31(7) 遺物接合図 (1/60)

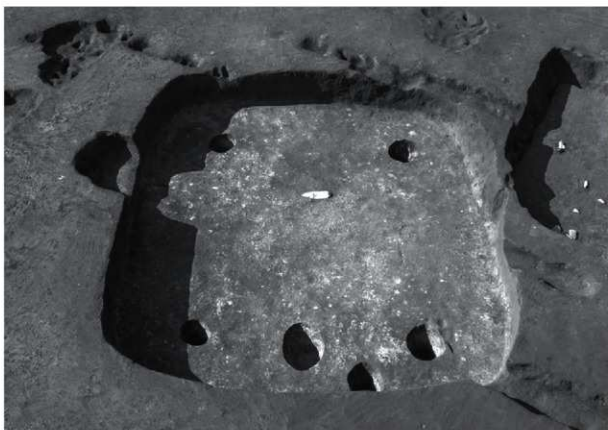
SI34 (第 97～109 図、第 12・32 表)

遺構 調査区中央部西寄りの 310・78・79・88 グリッドで検出された。検出面はⅢ層上で、縄文時代の集石 SS6 を切り、古代の SK92 が検出面の覆土範囲内で確認された他、SDK172 に切られている。また、北西 450cm には SI37 が、SI37 との間付近には SK93 が位置している。

平面形態は隅丸方形で、長軸 481cm、短軸 440cm、検出面から床面までの深さは 61cm を測る。主軸方向は N-43°-W を指す。壁は垂直気味に立ち上がるが、南壁・西壁は一部でやや開き気味に立ち上がる。

床は貼床で、ほぼ全面が硬化している。壁溝は確認されず、主柱穴は P1～4 の 4 基、中央部の北寄りに炉、南東壁寄りの中央よりやや西に梯子穴 P5、その東寄りに貯蔵穴 P6 を有している。

覆土は、黄褐色スコリアを含む黒色土や黒褐色土が主体で、床面直上の層では、炭化物粒子や小片を含む傾向がみられる。



1. SI31 全景 (南東から)



2. SI31 土層断面 A-A' (南東から)



3. SI31 P1 土層断面 (北東から)



4. SI31 P2 土層断面 (北東から)



5. SI31 P3 土層断面 (北東から)

第91図 SI31 写真(1)



1. SI31 炉土層断面 (北東から)



2. SI31 炉全景 (北東から)



3. SI31 P6(貯蔵穴)土層断面 (北北東から)



4. SI31 P4~6・土堤全景 (北西から)



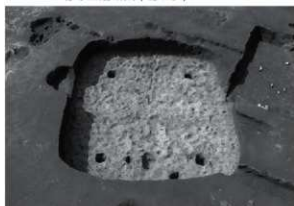
5. SI31 赤砂椋出状況 (西北西から)



6. SI31 赤砂土層断面 (北から)



7. SI31 棚状施設 (北東から)



8. SI31 掘り方全景 (南東から)

第92図 SI31 写真(2)



1. SI31 遺物出土状況 (南東から)



2. SI31 遺物出土状況 (北西から)



3. SI31 遺物出土状況 (西南西から)

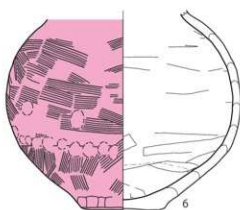
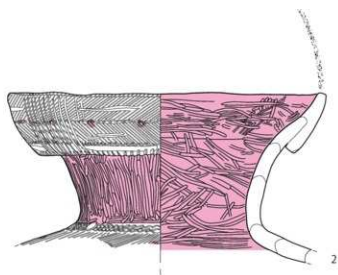
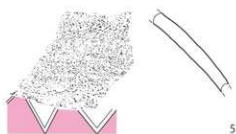
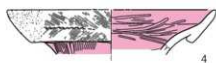
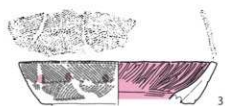


4. SI31 遺物出土状況 (北西から)

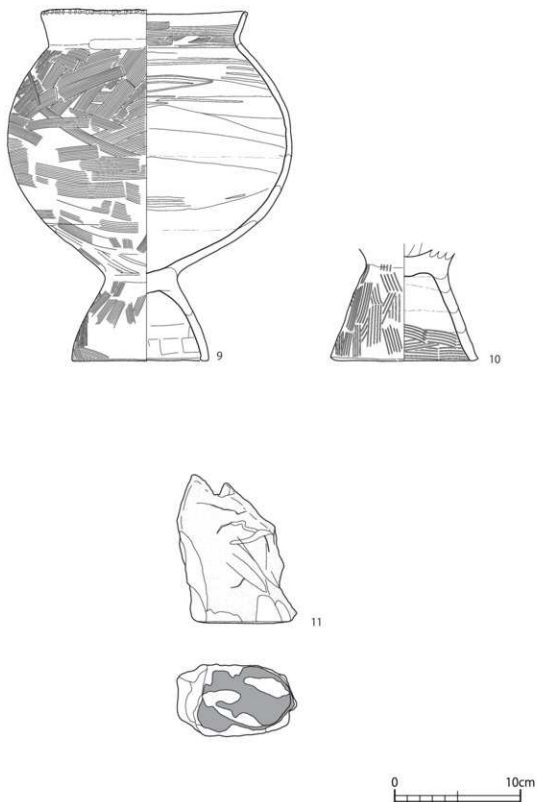


5. SI31 遺物出土状況 (北西から)

第93図 SI31 写真(3)



第94図 SI31出土遺物(1)(1/3)



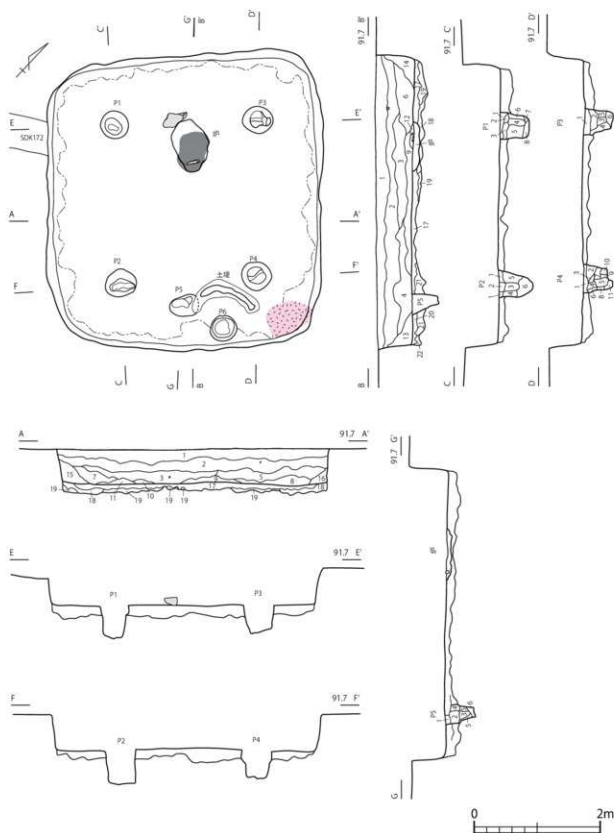
第95図 SI31出土遺物(2)(1/3)



第96図 SI31出土遺物写真

第11表 SI31出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第94・96図	1	覆土床面	15.2 (21.7) —	複合口縁。口唇部は平坦。口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。頸部は強く縮み、3点1組の円形浮文が3箇所に付けられる。最大径は頸部下平に位置し、横広の形状。	外面：口唇部単断LRの縄文。口縁部羽状縄文（上段単断RL-S端、下段単断RL-S端）。頸部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。肩部羽状縄文（上端S・Z・S白、上段単断RL-S端、下段単断RL-S端から、下端S・Z・S白）。胴部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。胴部横方向のミガキ。胴部縦方向のヘラナデ。	小礫 石英 白色砂粒	良好		10YR7/4 にふい貴糖	残存率80%。下部破断面が割傷
	2	覆土床面	24.3 (13.4) —	大型の複合口縁。口唇部は平坦。口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。口縁部外面の4箇所に10本、11本、9本、9本以上の縦列状縄文。複合部下端に刻み有する。頸部は垂直に近く、肩部との境界は強く縮み。縮曲部の2箇所または3箇所に5点1組と並走される円形浮文を有する。	外面：口唇部単断LRの縄文。口縁部羽状縄文（上段単断LR-Z端、下段単断RL-S端）。その後下端部をナデ消して刻み。刻みに合わせて縦列状縄文後円形朱文。肩部外面ナデ後縦方向のミガキ。肩部との間に3条のS白と円形浮文。これを上端の刻面として肩部に羽状縄文。上段単断LR-Z端。下段単断RL。その後円形朱文。内面：口縁部から頸部ナデ後横方向のミガキ。肩部縦方向のナデ。	小礫 長石 石英	良好	頸部外面、口縁部から頸部内面、口唇部と口縁部外面に円形朱文	10YR7/4 にふい貴糖 (赤彩) 10R4/4 赤黒	残存率20%。不明破実圧痕
	3	覆土床面	(15.1) — —	複合口縁。口唇部は平坦。口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。	外面：口唇部単断LRの縄文。口縁部羽状縄文（上段単断RL-S端、下段単断LR-Z端）。	小礫 石英	良好	口唇部及び口縁部外面に円形朱文、口縁部内面	7.5YR8/4 浅黄糖	破片
	4	覆土床面	— — —	複合口縁。口唇部は丸みを帯び、口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。	外面：口縁部羽状縄文（上段単断RL-S端、下段単断LR）。頸部縦方向のハケ調整後ミガキ。内面：口縁部から頸部縦方向のミガキ。	小礫 チャート 長石 石英	良好	頸部外面に円形朱文、内面	10YR6/4 にふい貴糖 (赤彩) 10R4/4 赤黒	破片
	5	覆土下層	— — —	胴部上平片	外面：胴部羽状縄文。1段目単断RL-S端、下端さらに3条のS白。2段目単断LR-Z端、3段目単断RL-S端、下端さらに2条のS白。4段目単断LRと縦断文。無文部はミガキによる赤彩。内面：ナデ。	小礫 チャート 長石 石英	良好	胴部外面山形文内側	10YR6/3 にふい貴糖	破片
	6	覆土床面	— 6.6 —	胴部下平に明確な境を有する。最大径は胴部下平に位置する。底部外面はわずかに窪む。	外面：全面横方向のハケ調整。一部ハケ調整後ナデ。底部付近ヘラナデ。内面：横方向のヘラナデ。小礫を多量に含む。	小礫 チャート 石英 長石 雲母	良好	胴部に一部残る	10YR8/3 浅黄糖	残存率20%。ハケメが明確に残る面
	7	覆土床面	— 8.9 —	胴部下平はやや外反しながら立ち上がる。底部外面は平坦。	外面：胴部縦方向のミガキ。底部側面縦方向のハケ調整。内面：胴部ヘラナデ後ミガキ。	石英 白色砂粒 小礫	良好		2.5Y2/1 黒	残存率25%以下
	8	覆土床面	— 7.8 —	胴部下平は、内湾しながら立ち上がる。底部外面は平坦。	外面：胴部下平横方向のミガキ。底部側面縦方向のハケ調整。内面：胴部下平縦方向のミガキ。	小礫 石英	良好		10YR6/2 灰黄糖	破片。イネ類実圧痕
第95・96図	9	覆土上層から床面	16.1 27.9 10.6	口唇部は平坦で、刻みを有する。口縁部は直線的に立ち上がる。球脚形で、脚部は内湾する。	外面：口縁部ハケ調整後コナデ。胴部上平斜め、下平横方向。胴部縦方向のハケ調整。内面：口縁部縦方向のハケ調整。胴部縦方向のヘラナデ。胴部付近のハケミズ風跡はヘラ側面縦線か。胴部縦方向のナデ。	小礫 長石 石英	良好		10YR3/1 黒黒	残存率80%。「多摩産」か。胴部内面下平に炭化物付着
	10	覆土床面	— — —	脚部は直線的に広がる。	外面：脚部縦方向の幅広いハケ調整。内面：脚部ナデ後横方向のハケ調整。	小礫 長石 石英 雲母	良好		5YR4/6 赤黒	残存率25%以下。彫いハケ状工具による細点のハケメ（菊川系の縄文か？）



第 97 図 SI34(1)(1/60)

5134

- [illegible]

P3

- ① 10YR2/1 黒色土 黒色土 5mm 以下 10YR 5/3 のローム・ブロック 5%, 黒色 3mm 以下 10YR 5/3 の赤色スチラス 3%, 黒色 5mm 以下 10YR 4/3 の酸化物質 1% を含む。黒色土 2%、黒色土 4% に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、
- ② 10YR2/2 黒色土 黒色土 1mm 以下のローム・ブロック 5% を含む。黒色土 20% が酸化物質に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、
- ③ 10YR2/3 黒色土 黒色土 5mm 以下のローム・ブロック 10% を含む。黒色土 10YR2/2.5 が酸化物質に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、
- ④ 10YR2/2 黒色土 黒色土 20mm 以下のローム・ブロック 10% を含む。黒色 3mm 以下 10YR 5/3 の赤色スチラス 5% を含む。黒色土 20%、黒色土 15% が酸化物質に置き換える。黒まりや厚い(上)土層は黒色に着色、下部は白くにつれて極めて微細な、粒性や中粒、粘子中粒が、10YR4/4、
- ⑤ 10YR4/4 黒色土 黒色土 50mm 以下のローム・ブロック 20%, 黒色 3mm 以下 10YR 5/3 の赤色スチラス 5% を含む。黒色土 5% が酸化物質に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、
- ⑥ 10YR2/2 黒色土 黒色土 50mm 以下のローム・ブロック 10% を含む。黒色土 20% が酸化物質に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、
- ⑦ 10YR2/2 黒色土 黒色土 20mm 以下のローム・ブロック 10% を含む。黒色土 20% が酸化物質に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、
- ⑧ 10YR3/3 黒色土 黒色土 5mm 以下のローム・ブロック 10%, 黒色 3mm 以下 10YR 5/3 の赤色スチラス 2% を含む。黒色土 2% が酸化物質に置き換える。黒まり中粒、粘粒や中粒、粘子中粒が、

P2

1. 10YR2/1 黒色土 粘土土、直径3mm以下のロームフラック72%、直径2mm以下のローム粒子7%、直径3mm以上の赤褐色スコア2%を含む。暗褐色土(10YR3/4)10%が表層に露出。細り状、粘り状、粘土質、粘土質。
2. 10YR2/1 黒色土 粘土土、直径5mm以下のロームフラック17%、直径3mm以下のローム粒子7%、直径5mm以上の赤褐色スコア3%、長さ10mm以上の炭化物土3%を含む。暗褐色土(10YR3/4)10%が表層に露出。細り状、粘り状、粘土質、粘土質。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘土土、直径5～10mmのロームフラック72%、直径3mm以下のローム粒子5%、直径3～5mmの赤褐色スコア1%を含む。暗褐色土17%が表層に露出。細り状、粘り状、粘土質、粘り状、粘土質。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘土土、直径30mmのロームフラック33%、直径3mm以下のローム粒子7%、直径3mm以上の赤褐色スコア2%を含む。暗褐色土10%が表層に露出。粘り状、粘り状、粘土質。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘土土、直径30mmのロームフラック55%、直径3mm以下のローム粒子5%を含む。暗褐色土40%が表層に露出。粘り状、粘り状、粘土質、粘り状、粘土質。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘土土、直径5～20mmのロームフラック22%、直径2mm以下のローム粒子5%を含む。暗褐色土10%が表層に露出。細り状、粘り状、粘土質、粘土質。

P3

- ① 10YR2/1 黒黒土 粒径上: 直径10cmのロームブロック2枚、直径2cm以下のローム粒子3%、直径2mm程の赤褐色スチリア5%を含む。黒褐色土15%が腐植に混じる。腐りやや弱。軟性やや硬。粘り強い。
- ② 10YR3/4.5 黒黒土 粒径上: 直径10cmのロームブロック15枚、直径1mm程のローム粒子10%、直径2～5mmの赤褐色スチリア5%を含む。黒褐色土15%が腐植に混じる。腐りやや弱。軟性やや硬。粘り強い。
- ③ 10YR2/1 黒黒土 粒径上: 直径10～30mmのロームブロック20%、直径1mm程のローム粒子10%を含む。黒褐色土10YR2/2.5が腐植に混じる。腐りやや弱。軟性硬。粘り強い。
- ④ 10YR2/2 黒黒土 粒径上: 直径10～40mmのロームブロック10枚、直径3mm以下のローム粒子20%を含む。黒褐色土30%が腐植に混じる。腐りやや弱。軟性やや硬。粘り強い。
- ⑤ 10YR2/1 黒黒土 粒径上: 直径10～20mmのロームブロック3枚、直径3cm以下のローム粒子7%、赤褐色スチリア5%を含む。黒褐色土5%が腐植に混じる。腐りやや弱。軟性やや硬。粘り強い。
- ⑥ 10YR4/3 暗黒土 粒径上: 直径25mmのロームブロック3%、直径3mm以下のローム粒子5%を含む。黒褐色スチリア10%を含む。黒褐色土10YR2/3.5が腐植に混じる。腐りやや弱。軟性やや硬。粘り強い。

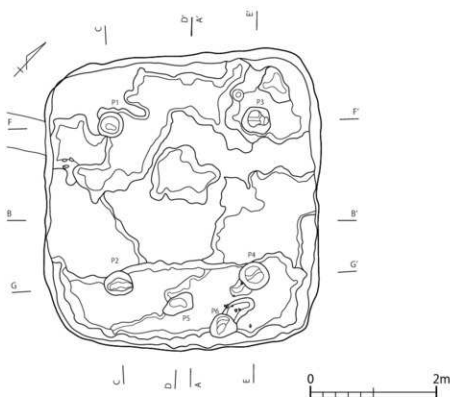
64

- [illegible]

PS

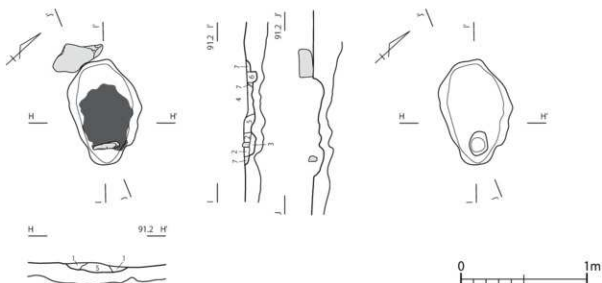
- | | | |
|----------|-------|---|
| 10、IVR22 | 黒色土壌 | 直径3cm以下のローム-根子層5%、直径2cm以下の赤褐色スズコリア1%、直径5mm以下の酸化鉄粒子1%を含む。細り方や中堅、粘着性、粘子層が、粗粒層が。 |
| 2、IVR22 | 黒褐色土壌 | 直径5〜10mmのローム-プロック3%、直径3mm以下のローム-根子層5%を含む。細り方や中堅、粘着性、粘子層が、粗粒層が、粗粒層が。 |
| 3、IVR22 | 黒褐色土壌 | 直径5〜13mmのローム-プロック3%、直径3mm以下のローム-根子層5%、赤褐色スズコリア1%を含む。粗粒層10(R)と3(3)5%の構成に似ている。細り方強、粘着性、粘子層が、粗粒層が。 |
| 4、IVR22 | 黒褐色土壌 | 直径3cm以下のローム-根子層15%、直径3〜10mmのローム-プロック2%、直径2cm以下の赤褐色スズコリア2%を含む。粗粒層上10%が厚みに似ている。細り方より、粘着性、粘子層が。 |
| 5、IVR22 | 黒褐色土壌 | 直径4mm以下のローム-根子層7%、直径3cm以下の赤褐色スズコリア3%を含む。粗粒層上10%が厚みに似ている。細り方や中堅、粘着性、粘子層が。 |
| 6、IVR22 | 黒褐色土壌 | 直径4mm以下のローム-根子層20%、直径3cm以下の赤褐色スズコリア2%を含む。粗粒層上10(R)と10%が厚みに似ている。細り方強、粘着性、粘子層が。 |

掘り方



炉

掘り方

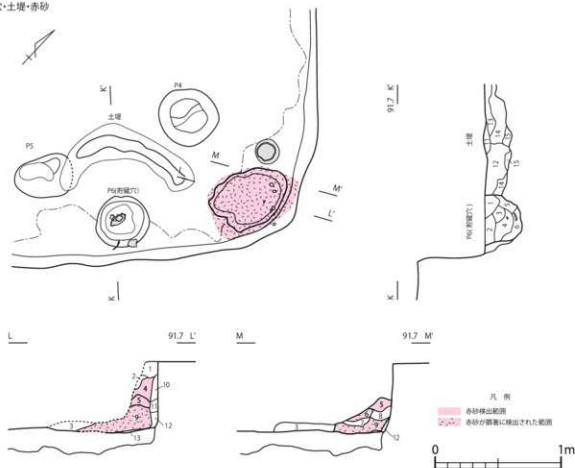


炉

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 3%, 直径 1mm 程の焼土粒子 5% を含む。黒褐色土 (10YR3/2) 2% が痕跡に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 3%, 焼土粒子 1% を含む。褐色土 (10YR4/4) 2% が痕跡に散じる。締まり有り、粘性強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 5%, 直径 10mm 以下の焼土粒子 1%, 直径 5mm 以下の炭化物粒子 10% を含む。締まり弱、粘性やや強、粒子やや粗い。
4. 7.5YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%, 直径 5mm 以下の炭化物粒子 3% を含む。黒色土 (10YR2/1) 7%, 灰 (10YR6/3) 3% が痕跡に散じる。締まりやや弱、粘性強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%, 直径 5mm 以下の炭化物粒子 2% を含む。暗赤褐色土 (5YR3/6) 25% が痕跡に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
6. 10YR1/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 7% を含む。褐色土 2% が痕跡に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
7. 10YR1/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 5%, 炭化物粒子 2% を含む。締まりやや弱、粘性強、粒子細かい。

第 99 図 SI34(3)(1/60)・炉 (1/30)

貯蔵穴・土埴・赤砂



P6(貯蔵穴)

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 5%、直徑 1mm 以下のローム粒子 15%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 10%が混在に混じる。締まりやや強、粘性強、粘り強い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 3%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 2%が混在に混じる。締まり有り、粘性強、粘り強い。
3. 10YR2/2 黒色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直徑 2mm 以下のローム粒子 2%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/1) 10%が混在に混じる。締まり有り、粘性強、粘り強い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 3%、炭化物粒子 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 5%が混在に混じる。締まりやや強、粘性強、粘り強い。
5. 10YR2/2 黒色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 10%を含む。黒褐色土 (10YR4/6) 3%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性強、粘り強い。
6. 10YR2/2 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直徑 3mm 以下のローム粒子 10%を含む。暗褐色土 7%、褐色土 2%が混在に混じる。締まり有り、粘性強、粘り強い。

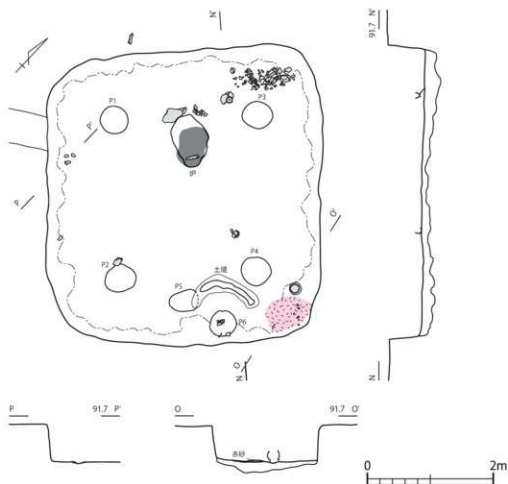
土埴面

11. 10YR4/6 褐色土層 土埴、黒色土 (10YR1.7/1) 5%が混在に混じる。締まり極めて強、粘性強、粘り強い。
12. 10YR2/2 黒色土層 直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 7%、直徑 4mm 以下のローム粒子 15%、直徑 5 ~ 50mm のロームブロック 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 20%が混在に混じる (下部に行くにつれて多くなる)。締まり中程度、粘性中程度、粘り強い。
13. 10YR1.7/1 黒色土層 灰土、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 10%、直徑 3mm 以下のローム粒子 15%、直徑 5 ~ 30mm のロームブロック 10%を含む。暗褐色土 25%が混在に混じる (下部に行くにつれて多くなる)。締まり極めて強、粘性有り、粘り強い。
14. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 10mm 以下の赤褐色スコリア 15%、直徑 10 ~ 50mm のロームブロック 10%を含む。黒色土 (10YR1.7/1) 10%、黒褐色土 (10YR2/2) 30%が混在に混じる。締まり中程度、粘性中程度、粘り強い。
15. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 7%を含む。褐色土 (10YR4/6) 10%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。

赤砂

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 5%、褐色スコリア 外 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5%が混在に混じる。締まり有り、粘性中程度、粘り強い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 2%を含む。黒褐色土 1%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 5%、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 3%、長さ 10mm 以下の炭化物 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 7%が混在に混じる。締まり有り、粘性中程度、粘り強い。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 2%を含む。赤砂 (7.5YR3/3) 5%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。建物跡上と赤砂の境界線。
5. 10YR2/3 暗褐色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。赤砂 30%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
6. 7.5YR3/3 暗褐色土層 赤砂、直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 3%、直徑 5 ~ 30mm の円礫 3%を含む。黒色土 (7.5YR2/1) 30%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
7. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。締まり有り、粘性中程度、粘り強い。赤砂を含まない。
8. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下の赤褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 15%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
9. 7.5YR2/2 暗褐色土層 赤砂、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直徑 5 ~ 20mm の円礫 3%を含む。暗褐色土 7%が混在に混じる。締まり有り、粘性強、粘り強い。
10. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
11. 7.5YR2/2 暗褐色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。赤砂 (7.5YR2/2) 2%、暗褐色土 (10YR3/4) 3%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
12. 10YR2/3 暗褐色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 3%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。
13. 7.5YR2/2 暗褐色土層 直徑 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 5%が混在に混じる。締まりやや弱、粘性中程度、粘り強い。

第 100 図 S13(4) 貯蔵穴・土埴・赤砂 (1/30)



第 101 図 SI34(5) 遺物出土状況図 (1/60)

掘り方はローム層まで掘り下げられ、全面に小さな凹凸があり、中心部付近がやや高くなっている。覆土はローム粒子やブロックを多く含む黒色土や暗褐色土等が敷き均されており、炉の周辺では、部分的に焼土を含んでいる。

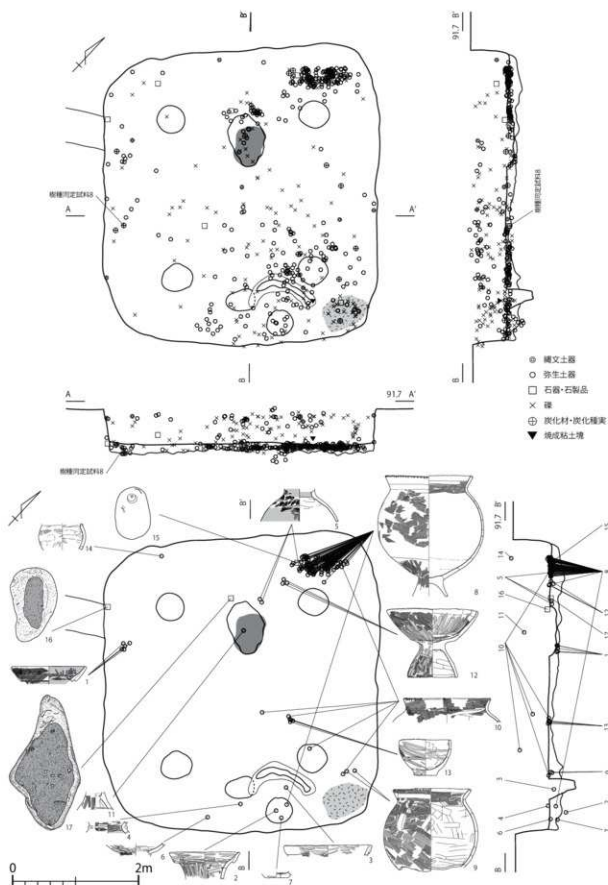
主柱穴は P1～4 の 4 基で、概ね円形を呈し、ローム層まで深く掘り込まれている。床面からの深さは、P1 が 53cm、P2 が 56cm、P3 が 47cm、P4 が 47cm を測る。いずれも柱痕跡と思われる痕跡が確認され、このうち P1・3・4 では、柱痕跡上も含め、掘り方部分の最上部を貼床が被覆している。P2 では、柱痕跡を除く部分の最上部で貼床の被覆が確認されている。

梯子穴と考えられる P5 は、ローム層まで掘り下げられている。主柱穴と同様に、柱痕跡と思われる層（1～3）が確認され、掘り方部分は最上部を貼床が被覆する。

貯蔵穴 P6 は断面が U 字状で、ローム層まで掘り込まれている。覆土は 6 層に分けられ、覆土中からは複数の土器片が出土した。貯蔵穴の北西には土堤が位置している。

土堤は最大幅 56cm、床面からの高さ 3cm で、貯蔵穴を囲む様に弧を描き、南西端は梯子穴 P5 の覆土上で確認されている。褐色土を強く固めて構築されている。

炉は枕石を南東側に置く地床炉で、不定形な長円形を呈している。竪穴建物跡貼床土中を底面とす



第 102 図 S134(6) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI34 全景 (南東から)



2. SI34 P1 土層断面 (北東から)



3. SI34 P2 土層断面 (北東から)



4. SI34 P3 土層断面 (北東から)



5. SI34 P4 土層断面 (北東から)

第 103 図 SI34 写真 (1)



1. SI34 土層断面 A-A' (南東から)



2. SI34 P6 土層断面 (北東から)



3. SI34 炉土層断面 I-I' (南南東から)



4. SI34 炉火床部検出状況 (北北東から)



5. SI34 赤砂下部土層断面 (西から)



6. SI34 赤砂土層断面 (南南東から)



7. SI34 炭化材検出状況 (北東から)



8. SI34 掘り方全景 (南東から)

第 104 図 SI34 写真 (2)



1. SI34 遺物出土状況 (南東から)



2. SI34 遺物出土状況 (北西から)



3. SI34 遺物出土状況 (南南東から)



4. SI34 遺物出土状況 (西から)



5. SI34 遺物出土状況 (西から)

第 105 図 SI34 写真 (3)

る掘り方を持ち、掘り方面の火床部は強く被熱赤化している。枕石は砂岩で、被熱と煤の付着が認められた。また、炉の北西に接する状態で砂岩製の台石（第107・109図16）が確認された。

赤砂は竪穴建物跡南東隅の壁際で検出された。土層断面のうちL-L'では、床面より高い位置から床面までの範囲の3つの層で赤砂が確認され、そのうちの最下層で赤砂が濃密で円礫を含んでいた。また、壁との間には赤砂を含まない層が薄く確認され、仕切りのようなものがあったことが想定される。土層断面M-M'では、赤砂が含まれる層（5層）と濃密に含まれる層（9層）の間の8層、赤砂が濃密に含まれる6層と9層の間の7層で赤砂が確認されなかった。このことは、木製等有機質の容器や仕切り・棚等によって赤砂が収納、保管されていたことを示唆するものと言える。（相原）

出土遺物 縄文土器片7点と弥生土器片352点（前期の1点を含む）、土師器1点、石器4点、石製品1点、礫120点、炭物13点が出土した。

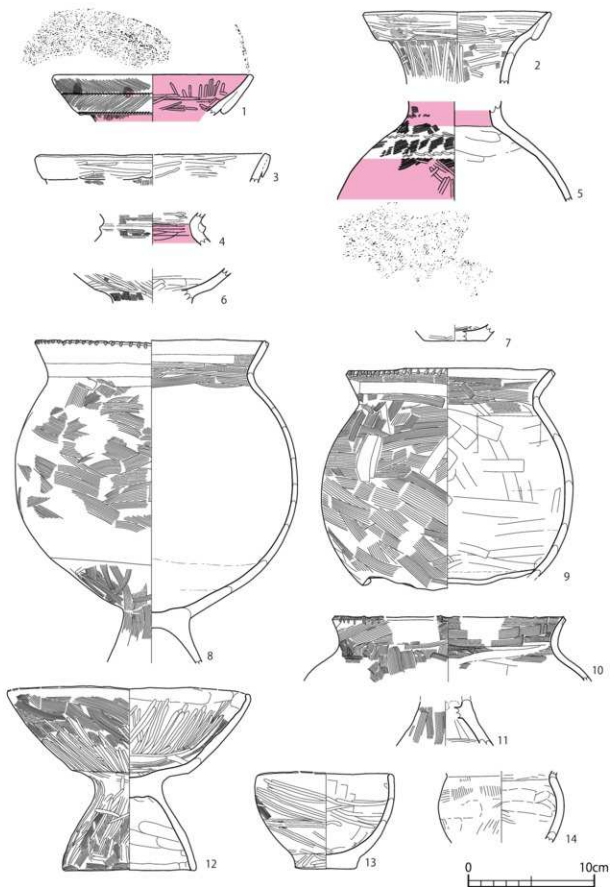
遺物出土状況 遺物は特に竪穴建物跡の北隅と東隅で集中して出土した。北隅床面からは、台付甕（第106・108図8）と高坏（同12）の破片に加え、有孔石製品（第107・109図15）が敷き詰められたような状況で出土した。炉に近接する床面からは壺（第106・108図5）と台石（第107・109図16）が出土した。東隅床面からは、台付甕（同9）が逆位で出土した。東隅付近の貯蔵穴P6からは壺（第106・108図2・7）が出土した。

土器 第106・108図1～7は壺である。1と2は複合口縁で、3は折り返し口縁である。1は、口唇部は平坦で、単節LRの縄文が施文され、その後円形朱文が施文される。口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。口縁部外面には羽状縄文が施文され、上段は単節RLで下端はS字状端末結節文、下段は単節LRで下端はZ字状端末結節文。この後に、口唇部の円形朱文と互い違いになる位置に円形朱文が施される。頸部外面と口縁部内面は赤彩される。2は、口唇部はやや平坦である。口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。口縁部外面は横方向のハケ調整後、一部にのみ単節RLの縄文が施文される。頸部外面はハケ調整後にミガキが施されるが、ハケメが良く残る。3は、口唇部は平坦で、口縁部は外反する。4は頸部で、断面三角形の突帯を有する。5は、頸部から胴部である。肩部に3段の縄文が施文される。縄文は全て無節Lで下端がZ字状端末結節文、かつ回転単位毎に途切れる。1段目の上端はZ字状自縄結節文で区画される。3段目の縄文以下の胴部外面はミガキ後赤彩される。6は、底部付近の胴部片である。底部側面付近に稜を有する。7は、小型の壺の底部で、外面は平坦である。

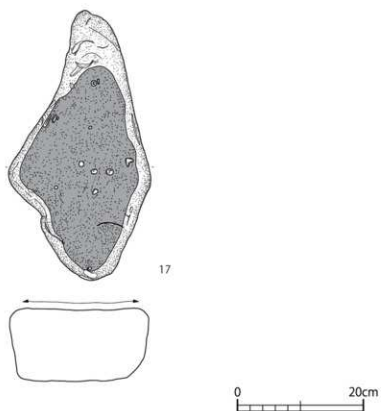
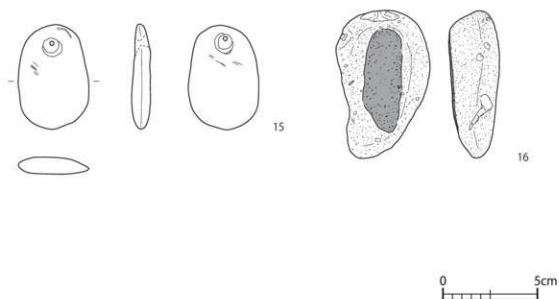
8～11は、台付甕である。8から10の口唇部は、ハケ状工具で平坦に面取りされた後、刻みを施される。8は、口縁部は直線的に広がり、頸部は屈曲する。胴部は球胴形である。胴部上半外面は横方向、胴部下半と脚部外面は縦方向のハケ調整である。脚部は破損しているが、破断面が磨滅している。9は、口縁部は直線的に広がり、頸部は屈曲する。口唇部が大きく外傾する。胴部は球胴形である。胴部下半破断面が磨滅している。8と9は、それぞれ破断面が磨滅しているため、この状態で一定期間使用された可能性がある。

10は、口縁部はやや外反し、頸部は緩やかに曲がる。口径に対して胴部が大きく張り出す。11は小型の脚部で、外反する。

12は高坏である。坏部はやや内湾し、下部に明瞭な稜線を有する。脚部は内湾し、穿孔は無い。外面はハケ調整後、ミガキが施される。欠山式の高坏を模倣したものと考えられる。



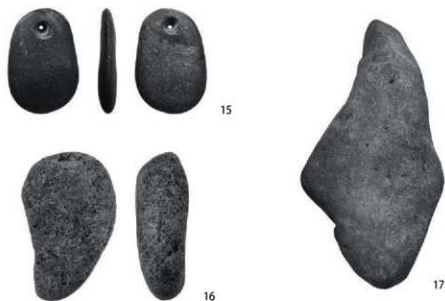
第106図 SI34出土遺物(1)(1/3)



第107図 SI34出土遺物(2)(1/2・1/6)



第108図 SI34出土遺物写真(1)



第109図 SI34出土遺物写真(2)

13は鉢である。体部は内湾しながら開く。底部外面は平坦である。14は鉢または小型の甕である。頸部が屈曲する。外面はハケ調整が施される。焼成はやや軟質で、粗製である。

土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階古相に相当すると考えられる。

石製品 第107・109図15は、粘板岩製の有孔石製品である。垂飾であると考えられる。平面形状は広卵形に近い楕円形で、側面形状は扁平である。上端付近に1箇所の穿孔を有する。穿孔は、両面からの揺鉢状の穿孔が中間でつながる。SI34の北隅床面の遺物が集中する地点から出土した。16は、花崗岩製の磨石である。歪な形状で、片面に磨減面を有する。SI34の西隅床面から出土した。SI47の第202・204図14と類似する。17は、砂岩製の台石である。扁平な形状で、上面に磨減面が広がる。炉の西側に隣接した床面から出土した。

炭化材 炭化材が出土しており、焼失した竪穴建物の構造物材と考えられる。このうち南西壁付近の床面から出土したミカン割材1点（SI34-164）について、ウィグルマッチングによる年代測定を実施した。この結果、最外試料年代は2σ暦年代（Intcal20）で87-96 cal AD（2.83%）、118-146 cal AD（92.62%）の範囲を示した（第V章第1節参照）。本試料には最外年輪は残存していなかったため、SI34の竪穴建物跡の構成材の伐採年代は、この年代より後に相当すると考えられる。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、炉からイネ、アワ、ブド属、サンショウの炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。（守屋）

SI35（第110～117図、第13表）

遺構 調査区中央部の320・31・32・41・42グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、SKK392に切られている。北西480cmにはSI31がある。

平面形態は隅丸方形で、長軸（南北）411cm、短軸（東西）406cm、検出面から床面までの深さ

第12表 SI34出土土器観察表

図	番号	層位	器種	注量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第106 + 106 同	1	覆土 床面	甕	(15.6) — —	複合口縁で、口縁部は 平坦。口縁部は内湾し、頸 部は外反する。	外面：口縁部単部1段の縄文後 円形朱文。口縁部斜状縄文（上段 単部1段と下段単部1段と2段） その後円形朱文。頸部縦方向の ハケ調整後横方向のナデ。内面：口 縁部ナデ後ミガキ。	小礫 灰石	良好	口縁部・口 縁部外面に 円形朱文、 頸部外面、 口縁部内面	7.5YR8/4 浅黄褐色	残存率 25% 以下
	2	P6 覆土	甕	(14.6) — —	複合口縁で、口縁部はや や平坦。口縁部はやや内湾 し、頸部は外反する。	外面：口縁部縦方向のハケ調整後 一部に単部1段の縄文。その後横 方向のナデまたはミガキ。頸部縦 方向のハケ調整後縦方向のミガキ。 内面：口縁部から頸部縦方向のハ ケ調整後横方向のミガキ。	中礫 石英 白色砂粒	良好		7.5YR7/4 にぶい青	残存率 25% 以下
	3	覆土 床面	甕	18.7 — —	折り返し口縁で、口縁部 は平坦。口縁部は直線的に 立ち上がる。	外面：口縁部と口縁部縦方向のミ ガキ。頸部縦方向のハケ調整。内面： 口縁部縦方向のミガキ。	小礫 石英 黒色砂粒	良好		7.5YR8/4 浅黄褐色	破片
	4	覆土 床面	甕	— — —	頸部に断面が三角形に近 い突起を有する。	外面：頸部外面突部貼付後ハケ調 整。内面：頸部ナデ後横方向のミ ガキ。	小礫 石英 雲母	良好	頸部内面	10YR5/2 灰黄褐色	破片。頸部突部、 上下逆の可能性あ り
	5	覆土 床面	甕	— — —	頸部から肩部は緩やか。	外面：頸部ハケ調整後ナデ。肩部 に3段の縄文。上端2段目で区画。 1・2段目無段1・2端。3段目無段 しで端ミガキにより4明瞭。内面： 肩部縦方向のユビナデ。	小礫 灰石 石英 雲母	良好	頸部外面	5YR4/4 にぶい赤	破片
	6	覆土 床面	甕	— — (5.0)	胴部下平片。底部側面付 近に突起を有する。やや内 湾しながら立ち上がる。	外面：胴部外面ハケ調整後斜め方 向のミガキ。底部側面ハケミ残る。 内面：胴部縦方向のナデ。	小礫 灰石 石英 黒色砂粒	良好		7.5YR8/4 浅黄褐色	破片。底部は欠損
	7	P6 覆土	甕	— — 4.9	底部片。外面は平坦。	外面：胴部外面ミガキ。底部外面 ナデ。胴部内面ナデ後ミガキ。	小礫 雲母 灰石	良好		7.5YR8/3 浅黄褐色	破片
	8	覆土 床面	台付甕	18.0 (25.5) —	口縁部は平坦で、刻みを 有する。口縁部は直線的 に開く。胴部は球胴形。 胴部接合部径は、胴部径 と比べて小さい。	外面：口縁部コナデ。胴部縦方 向のハケ調整。胴部縦方向のハケ 調整。内面：口縁部縦方向のハケ 調整。	小礫 石英 雲母	良好		10YR3/2 黒褐色	残存率 70%。胴部 は断面に削減。胴部内面下平に炭 化物付着
	9	覆土 床面	台付甕	16.1 — —	口縁部は平坦で、刻みを 有する。口縁部は直線的 に開く。口縁部は外縁。 胴部は球胴形。	外面：口縁部ナデ。胴部上平横方 向のハケ調整後一部ナデ。胴部下 平斜め方向のハケ調整。内面：口 縁部縦方向のハケ調整。胴部上平 横方向のヘラナデ。下平ヘラナデ 後ミガキ。	小礫 石英 雲母	良好		7.5YR7/4 にぶい青	残存率 70%。胴部 は断面にスス付着。 下部破断面に削減 痕
	10	覆土 床面	台付甕	(18.2) — —	口縁部は平坦で、刻みを 有する。口縁部は外反し、 口縁部は外縁。胴部径に 対し口径が小さい。	外面：口縁部縦方向。胴部縦方向 のハケ調整。内面：口縁部縦方向 のハケ調整。胴部縦方向のナデ。	小礫 灰石 シャモット	良好		10YR8/4～ 10YR6/2 浅黄褐色～ 灰黄褐色	残存率 25% 以下
	11	覆土 中層	台付甕	— — —	胴部は外反。	外面：胴部縦方向のハケ調整。内面： 底部ユビサエ。胴部ナデ。	小礫 雲母 黒色砂粒	良好		10YR7/6 明黄褐色	破片
	12	覆土 床面	高坪	(18.6) 14.8 10.3	坪部はやや内湾しながら 立ち上がり、口縁部は僅 かに内湾する。下縁に明 瞭な縁線を有する。胴部 は内湾し、穿孔無し。	外面：坪部斜め方向のハケ調整後 下平の斜め方向のミガキ。胴部 縦方向のハケ調整後横方向のミガ キ。内面：坪部縦方向のミガキ後 一部ナデ。胴部ナデ。	小礫 石英 灰石 雲母	良好		7.5YR5/4 にぶい青	残存率 80%。坪 部内面に炭化物付 着
	13	覆土 床面	鉢	10.5 7.7 4.8	体部は内湾しながら開 く。底部外面は平坦。	外面：斜め方向のハケ調整後横方 向のミガキ。内面：横方向のヘラ ナデ後横方向のミガキ。	石英 灰石 白色砂粒	良好		7.5YR6/8 赭	残存率 90%
	14	覆土 上層	鉢か甕	— — —	胴部上半に最大径を有す る。胴部は直筒。	外面：幅広のハケ調整後横方向の ナデ。胴部強いナデ。内面：横方 向のナデ。	小礫多数	やや軟質		10YR7/3 にぶい黄褐色	残存率 25～50%。 掘り出し工具に よる幅広のハケ メ（菊川系の縄 文？）

は38cmを測る。壁はやや開き気味に立ち上がる。主軸方向はN-40°-Wを指す。

床は貼床で、壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁溝は確認されず、主柱穴はP1～4の4基、中央部の北寄りに炉、南東壁寄りの中央に梯子穴P5、その東寄りに貯蔵穴P6を有する。また、P5・6の北西側には、床面に土堤が設置されている。

覆土は、黄褐色スコリアを含む黒色土や黒褐色土からなり、12層に分けられる。

掘り方はローム層まで掘り下げられ、全面に小さな凹凸があり、中心部付近がやや高い。覆土は黒色土が主体である。

主柱穴としてはP1～4の4基を調査したが、底面の深さが床面の掘り方とほぼ同じで、P1・2・4については、覆土が掘り方覆土とほぼ同一であることから、柱穴ではない可能性がある。

梯子穴と考えられるP5は、長軸53cm、短軸49cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは22cmで床面の掘り方よりやや深く掘り下げられている。覆土は4層確認された。北西側には土堤が構築されている。

貯蔵穴P6は楕円形を呈し、底部には南側に一段深いピット状の掘り込みを有している。覆土は3層に分かれ、下層の3層がピット状の部分の覆土である。北西にはP5から続く土堤が位置している。

土堤は長さ128cm、最大幅32cm、床面からの高さ3cmで、P5と貯蔵穴P6をそれぞれ囲む2つの弧が連結した形状を呈している。部分的にローム由来の褐色土を混ぜた黒色土や黒褐色土を使用し、強く突き固めて構築されている。

炉は地床炉で、不定形な長円形を呈している。枕石は砂岩で、中心部付近に置かれている。竪穴建物跡貼床土中を底面とする掘り方を持ち、掘り方面の火床部はわずかに被熱赤化している。

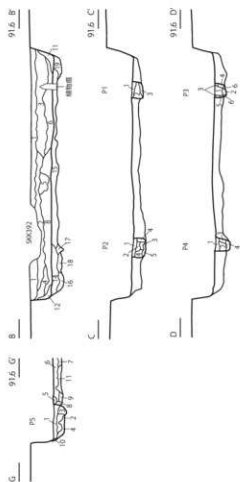
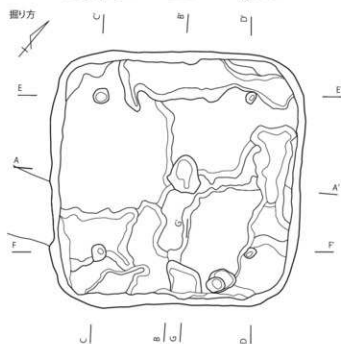
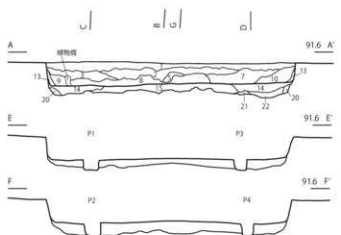
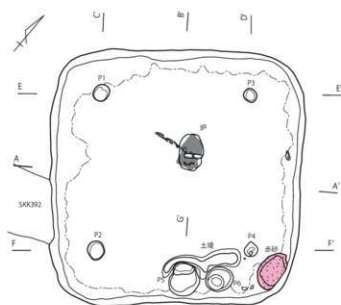
赤砂は竪穴建物跡南東隅の壁際で検出された。範囲は長軸64cm、短軸38cmの範囲で確認された。床面より上での盛り上がりは確認できず、床面から4cmの深さで検出された。黒褐色土に赤砂が斑状に含まれる他、白色粒子が10%混入していた。(相原)

出土遺物 縄文土器片3点と弥生土器片64点、土師器2点、土製品1点、礫20点、炭化物5点が出土した。

遺物出土状況 遺物は貯蔵穴P6とその周辺に集中して出土した。この床面から、壺(第116・117図1)や、SI42と遺構間接合した壺破片(第171・172図2)が出土した。炉の周辺でもある程度の遺物が出土しており、炉の北西側床面から棒状土製品(第116・117図5)が出土した。また、図示していないが、同地点から出土した壺片がSI31出土土器片と遺構間接合した。なお、この破片は炉の南西側床面で出土した壺(同4)と同一個体の可能性がある。

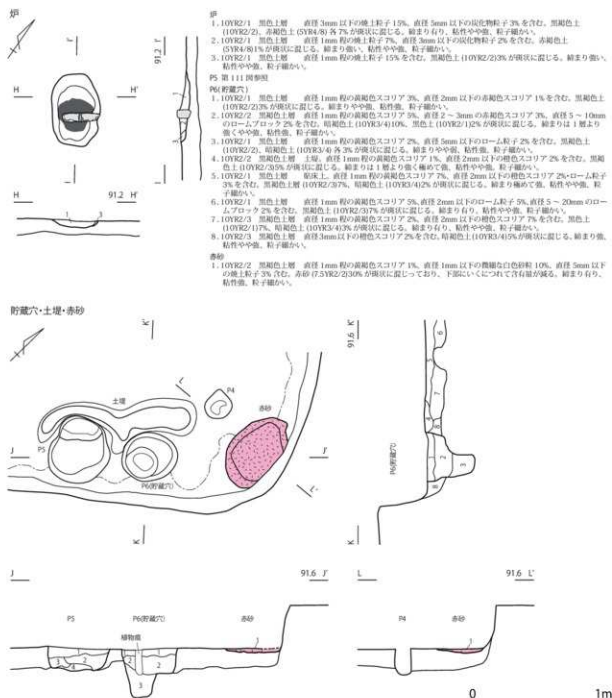
土器 第116・117図1～4は壺である。1は、ヒサゴ形壺の口縁である。単口縁で、口唇は丸みを帯びる。口縁部はやや内湾しながら立ち上がる。2は、複合口縁である。口唇部は平坦で、単節RLの縄文が施文される。口縁は内湾し、複合部下端の一部にミガキ工具の痕跡が残る。口縁部外面に縄文が施文される。上段は単節LRで下端がZ字状端末結節文、下段は単節RLで下端がS字状結節文。縄文施文後、口唇部と口縁部に円形朱文が施される。頸部は外反する。頸部外面と口縁部から頸部内面はミガキ後赤彩される。3は、壺の頸部である。外面は摩耗しているが、ミガキが確認される。4は、壺の底部で、内湾しながら立ち上がる。底部側面にハケメが残る。

5は、棒状土製品である。破損しており、用途は不明である。表面は長軸方向に沿ってミガキ調整



第 110 図 SI35(1)(1/60)





- 炉
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 15%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 3%を含む、黒褐色土 (10YR2/2)、赤褐色土 (5YR4/6) 各 7%が噴状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粘土層が薄い。
 2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の焼土粒子 7%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 2%を含む、赤褐色土 (5YR4/6) 1%が噴状に散じる。締まり強い、粘性やや強、粘土層が薄い。
 3. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の焼土粒子 15%を含む、黒褐色土 (10YR2/2) 3%が噴状に散じる。締まり強い、粘性やや強、粘土層が薄い。
- 貯蔵穴
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%を含む、黒褐色土 (10YR2/2) 3%が噴状に散じる。締まりやや強、粘性強、粘土層が薄い。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 5%、直径 2~3mm の赤褐色スコリア 3%、直径 5~10mm のロームブロック 2%を含む、暗褐色土 (10YR3/4) 10%、黒色土 (10YR2/1) 2%が噴状に散じる。締まりは 1層より強くやや強、粘性強、粘土層が薄い。
 3. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 2%、直径 5mm 以下のローム粒子 2%を含む、黒褐色土 (10YR2/2)、暗褐色土 (10YR3/4) 各 3%が噴状に散じる。締まりやや強、粘性強、粘土層が薄い。
 4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の暗褐色スコリア 2%を含む、黒褐色土 (10YR2/2) 3%が噴状に散じる。締まりは 1層より強く極めて強、粘性やや強、粘土層が薄い。
 5. 10YR2/1 黒色土層 軟土、直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 7%、直径 2mm 以下の暗褐色スコリア 2%、ローム粒子 3%を含む、黒褐色土層 (10YR2/2) 7%、暗褐色土 (10YR3/4) 2%が噴状に散じる。締まり極めて強、粘性やや強、粘土層が薄い。
 6. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 5%、直径 2mm 以下のローム粒子 5%、直径 5~20mm のロームブロック 2%を含む、黒褐色土 (10YR2/2) 3%が噴状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粘土層が薄い。
 7. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 2%、直径 2mm 以下の暗褐色スコリア 7%を含む、黒褐色土 (10YR2/1) 7%、暗褐色土 (10YR3/4) 3%が噴状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粘土層が薄い。
 8. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 3mm 以下の暗褐色スコリア 2%を含む、暗褐色土 (10YR3/4) 5%が噴状に散じる。締まり強、粘性やや強、粘土層が薄い。
- 赤砂
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%、直径 1mm 以下の焼土白色粒 10%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%を含む、赤砂 (7.5YR2/2) 30%が噴状に散じており、下部にいくにつれて含有量が減る。締まり有り、粘性強、粘土層が薄い。

される。

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期 I 段階古相に相当すると考えられる。

炭化材 炭化材 5 点が、炉内部及び炉に近接して出土している。

炭化種実（水洗選別）土壌の水洗選別の結果、炉からイネとアワの炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。

（守屋）



1. SI35 全景 (南東から)



2. SI35 P3 土層断面 (北東から)



3. SI35 P4 土層断面 (北東から)



4. SI35 土層断面 A-A' (南東から)



5. SI35 土層断面 B-B' (北東から)

第 114 図 SI35 写真 (1)



1. SI35 P5土層断面(北西から)



2. SI35 炉検出状況(南南東から)



3. SI35 炉土層断面I-I'(北東から)



4. SI35 炉全景(北東から)



5. SI35 貯蔵穴・土堤・赤砂検出状況(北西から)



6. SI35 赤砂土層断面L-L'(北から)

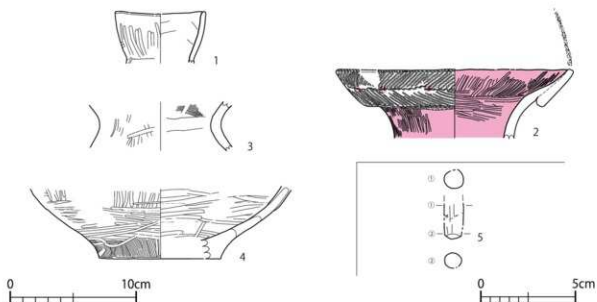


7. SI35 掘り方土層断面A-A'(南東から)



8. SI35 掘り方全景(南東から)

第115図 SI35写真(2)



第116図 SI35出土遺物(1/3・1/2)



第117図 SI35出土遺物写真

第13表 SI35 出土土器・土製品観察表

図番号	層位	器種	法量	形状の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
116・117図	1	甕土床面	遊	(7.0) (4.1) —	口縁は丸みを帯び、口縁はやや内湾しながら立ち上がる。	外面：口縁部外面縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。内面：斜め方向のヘラナデ。	小礫 石英 雲母	良好	10YR7/4 にふい・黄緑	残存率 25% 以下
2	甕土床面 SI31床面	遊	18.2 — —	複合口縁で、口縁はやや内湾する。複合部下縁の一部にミガキ工具の痕跡が現る。頸部は外反し、口縁との境界が屈曲する。	外面：口唇部と口縁部に縄文。口唇部卑部 RL。口縁部上段卑部 LRZ 端。下段卑部 RL-S 端。縄文後口縁部と口縁部に円形朱文。頸部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。内面：口縁部内面横方向のナデ後横縦方向のミガキ。頸部内面横方向のミガキ。	小礫 灰石 石英	良好	頸部外面、 口縁部から 頸部内面、 円形朱文	7.5YR7/4 にふい・橙 (赤彩) 10R4/4 赤褐	残存率 25% 以下。 遺構間接合
3	甕土床面	遊	— (4.0)	頸部片	外面：頸部縦方向のミガキ。内面：口縁部ハケ調整。頸部横方向のナデ。	小礫 石英	良好		5YR7/6 橙	破片
4	甕土床面	遊	— 9.6	頸部下平は内湾。	外面：頸部上部側縦方向のミガキ。底部付近縦方向のハケ調整後横方向のミガキ。底部ミガキ。内面：頸部縦の狭いヘラによるナデ。	小礫 雲母	良好		10YR7/4 にふい・黄緑	残存率 25% 以下
5	甕土床面	土製品 (棒状)	— —	先端にやや丸みを帯びる平坦面を有する。幅は先端からやや広がりながら立ち上がる。	外面：長軸方向のミガキ。	小礫 白色砂粒	良好		10YR3/2 黒褐	

SI37 (第118～125図、第14表)

遺構 調査区中央部の310・57・58・67・68グリッドで検出された。検出面はⅡ3層上で、SKK493に壁の一部を切られている。南東450cmにはSI34が、そのSI34との中間付近にはSK93が位置している。

平面形態は隅丸方形で、長軸415cm、短軸396cm、検出面からの深さは40cmを測る。壁は開き気味に立ち上がっている。主軸方向はN-46°-Eを指す。

床は貼床で、壁際を除くほぼ全面で硬化が確認された。壁溝は検出されなかった。P1～4の4基の主柱穴、中央部の北寄りに炉、南東壁寄りの中央に梯子穴P5・6を有する。貯蔵穴及び土堤は検出されなかった。

覆土はいずれも黄褐色スコリアを含む黒色土の6層に分けられ、そのうち4～6層は壁の崩落土と見られる。

掘り方は床面からの深さが23cmと比較的浅く、掘り込みはローム層までは達していない。全面に小さな凹凸がある。覆土は黒色土が主体で、他の竪穴建物跡と比べて褐色土の混入は少ない。

主柱穴としてP1～4の4基を調査したが、各ピットの覆土と掘り方覆土及び地山との差異は不明瞭であることから、ピットではない可能性も否定できない。

梯子穴と考えられるピットは南西壁寄りのP2・4間でP5とP6が重複して確認された。平面では切り合い関係を確認できなかったが、断面の観察で、P6の最上層が貼床土とみられることから、はじめP6が使用され、後にP5が構築された際にP6部分が貼床土で埋められたと想定される。両ピット共に、覆土は黒色土及び黒褐色土が主体となっている。

炉は地床炉で、不定形な長円形を呈し、規模は長軸71cm、短軸47cm、床面からの深さは6cmを測る。南西端に置かれた枕石は2つに割れた状態で検出された。竪穴建物跡貼床土中を底面とする掘り方を持ち、顕著な被熱や赤化は認められなかった。

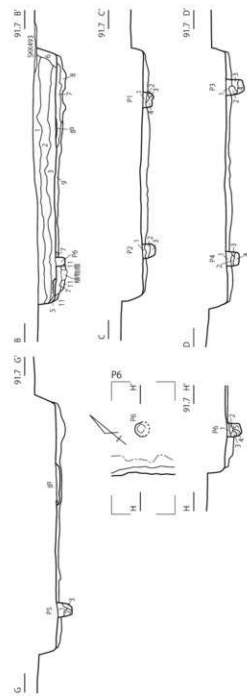
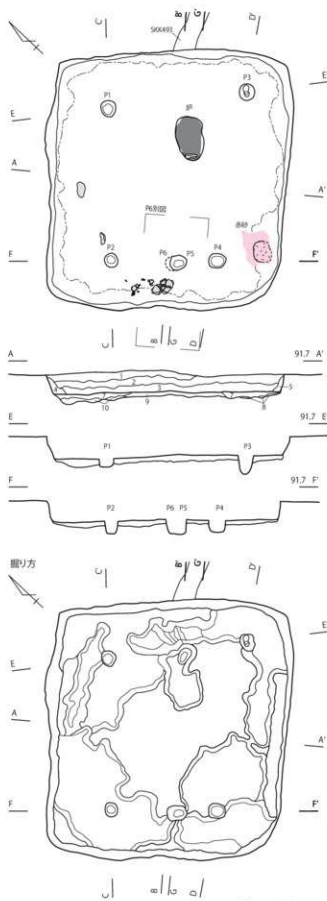
赤砂は竪穴建物跡南部の南東壁寄りで検出された。長軸61cm、短軸43cmの範囲で確認され、検出された限りでは、床面から11cmの高さで盛られていた。図示した土層断面のうち、1～3層が主たる赤砂の層で、微細な白色粒子が混入している。また5層は、赤砂が床面に含浸したものと考えられる。(相原)

出土遺物 縄文土器片3点と弥生土器片107点、礫25点が出土した。

遺物出土状況 第124・125図1～3は全て、梯子穴と考えられる竪穴建物跡南西壁側のP5・6付近の床面に集中して出土した。

土器 第124・125図1と2は壺である。1は、折り返し口縁で、口唇部はやや平坦である。口縁は大きく外反する。内外面ともにハケメが残る。2は、壺の頸部から胴部である。頸部外面はハケ調整後に円形浮文を施文される。円形浮文は2点または3点1組で5箇所配置されたと推定される。肩部に2段の縄文が施文され、上段と下段は共に単節LRで下端がZ字状端末結節文。下段下端の結節文に重複して、S字状自縄結節文が施文される。頸部と胴部外面はミガキ後赤彩される。胴部外面に龍目痕が残る(第124図2b)。

3は、広口壺である。折り返し口縁で、口縁部は外反する。口唇部は平坦に面取りされ、刻みを有する。胴部は内湾しながら立ち上がる。胴部最大径は上半に位置し、口径が最大径となる。底部は円



凡例
 赤粉検出範囲
 赤粉が顕著に検出された範囲



第118図 S137(1)(1/60)

5137

- ① 10YR2/1 黒色土壌 直径 30mm 以下の黄褐色スカラー 10%、直径 4mm 以下の暗色スカラー 5%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 7% を含む。黒炭色土 (10YR2/2) が塊状に散在する。結り強いが、部分湿りや乾、粘性有り、粘子細かい。
- ② 10YR2/1 黒色土壌 直径 20mm 以下の黄褐色スカラー 5%、暗色スカラー 2%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 3% を含む。黒炭色土 (10YR2/2.5) が塊状に散在する。結り強、粘性やや強い、粘子細かい。
- ③ 10YR2/1 黒色土壌 直径 20mm 以下の黄褐色スカラー 2%、暗色スカラー 1%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 3%、長さ 10mm 以下の炭化物 1% を含む。黒炭色土 (10YR2/3.75) が塊状に散在する。結り強、粘性やや強い、粘子細かい。
- ④ 10YR2/1 黒色土壌 直径 10mm 以下の黄褐色スカラー 3%、暗色スカラー 1%、直径 1mm 以下の黄褐色粘土 3% を含む。黒炭色土 (10YR2/2.5) が塊状に散在する。結り強、粘性やや強い、粘子細かい。
- ⑤ 10YR2/1 黒色土壌 直径 15mm 以下の黄褐色スカラー、直径 1mm 程度の暗色スカラー、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 7% を含む。黒炭色土 (10YR2/2) が塊状に散在する。結りまあり、粘性やや強い、粘子細かい。
- ⑥ 10YR2/1 黒色土壌 直径 15mm 以下の黄褐色スカラー 2%、暗色スカラー 1%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 7% を含む。黒炭色土 (10YR2/2.5) が塊状に散在する。結りまあり、粘性有り、粘子細かい。
- ⑦ 10YR2/1 黒色土壌 臥床土、直径 20mm 以下の赤褐色スカラー 5%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 15% を含む。黒炭色土 (10YR2/3)、黒色土 (10YR2/7.1) が塊状に散在する。結りま強い、粘性有り、粘子細かい。
- ⑧ 10YR1.7/1 黄褐色土壌 直径 20mm 以下の暗色スカラー 1% を含む。黒炭色土 (10YR2/3.10) が塊状に散在する。結りま強い、粘性やや強い、粘子細かい。
- ⑨ 10YR2/1 黒色土壌 直径 20mm 以下の赤褐色スカラー 2%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 5% を含む。黒炭色土 (10YR2/3) の塊状に散在する。結りま極めて強い。塊状に散在する。
- ⑩ 10YR1.7/1 黄褐色土壌 直径 35mm 以下の黄褐色スカラー 3%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粘土 3% を含む。黒炭色土 (10YR2/13)、黒色土 (10YR2/17) が塊状に散在する。結りまやや強い、粘子細かい。
- ⑪ 10YR1.7/1 黄褐色土壌 直径 30mm 以下の赤褐色スカラー 2% を含む。黒炭色土 (10YR2/15) が塊状に散在する。結りまやや強い、粘子細かい。

P1

- | | | |
|------------|-------|---|
| 1. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 1mm 程の黄褐色スコリア 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 3% が散在に混じる。締まり・粘性やや強。粒子細かい。 |
| 2. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 1mm 程の黄褐色スコリア 3%・赤褐色スコリア 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 1% が散在に混じる。締まり有り。粘性強。粒子細かい。 |
| 3. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | 直径 1mm 程の赤褐色スコリア 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/1) 5% が散在に混じる。締まり有り。粘性強。粒子細かい。 |
| 4. 10YR1/1 | 黒色土層 | 直径 1mm 程の黄褐色スコリア 1% を含む。黒色土 (10YR2/2) 33% が散在に混じる。締まりやや弱。粘性強。粒子細かい。 |

P2

1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア2%・赤褐色スコリア1%を含む。黒褐色土(10YR2/3)7%が斑状に混じる。細まり強、粘性有り、粘子層が有。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア1%、直径3mm以下の赤褐色スコリア1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)2%が斑状に混じる。細まり・粘性強、粘子層が有。
3. 10YR2/3 黄褐色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が斑状に混じる。細まり・粘性強、粘子層が有。

02

- | | | |
|--------------|-------|--|
| 1. (I)OYR2/1 | 黒色土層 | 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 2% を含む。黒褐色土 (I)OYR2/2)2%、褐色土 (I)OYR4/4)1% が散在に混じる。細まりや、粘付ややね、砂子層がない。 |
| 2. (I)OYR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1% を含む。暗褐色土 (I)OYR3/4)7% が散在に混じる。細まりややね、粘付性有、砂子層がない。 |
| 3. (I)OYR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2% を含む。黒色 (I)OYR2/1)1%、暗褐色土 (I)OYR3/4)7% が散在に混じる。細まりや、粘付性有、砂子層がない。 |
| 4. (I)OYR3/4 | 黒褐色土層 | 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1% を含む。黒褐色土 (I)OYR2/2)5% が散在に混じる。細まりややね、粘付性有、砂子層がない。 |

P4

- | | | |
|------------|-------|--|
| 1. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 5mm 以下の赤褐色スクリア 1% を含む。黒褐色土 (10YR3/2) 2% が腐敗に混じる。細まり強。粘性やや強。粒子細かい。 |
| 2. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 1mm 程度の黄褐色スクリア 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 1% が腐敗に混じる。細まり強。粘性やや強。粒子細かい。 |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄褐色スクリア 1% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 2% が腐敗に混じる。細まり強。粘性やや強。粒子細かい。 |
| 4. 10YR/1 | 黒色土層 | 直径 3mm 以下の赤褐色スクリア 1% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 10% が腐敗に混じる。細まり強。粘性強。粒子細かい。 |

PK

1. (I)0Y2/1 黒色上層 直径1mm程の黒褐色スコリア3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%を含む、明褐色上(I)0Y3/310%、黒色上(I)0Y4/4)5%が塊状に混ざる。細まりやろ、粘性、粒子細かい。
2. (I)0Y2/1 黒色上層 直径1mm程の黒褐色スコリア1%、赤褐色スコリア1%を含む、黒色上(I)0Y2/2)3%が塊状に混ざる。細まり有り、粘性、粒子細かい。
3. (I)0Y2/2 黒色上層 直径1mm程の黒褐色スコリア1%、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%・ローム粒子5%を含む、黒色上(I)0Y4/4)2%、黒色上(I)0Y2/1)5%が塊状に混ざる。細まり有り、粘性、粒子細かい。

IM

- | | | |
|---------|------|--|
| 10-Y022 | 黒色上層 | 直径 25mm 以下の赤褐色スクリア 3%・赤褐色スクリア 1%を含む。暗褐色土 (Y0Y3) 3/25%の程度に混ざる。結晶や中粒、粗粒や砂、粘土土、粘土質土、粗粒や中粒、粗粒細い。 |
| 10-Y023 | 黒色上層 | 直径 10mm 程度の赤褐色スクリア 1%・赤褐色スクリア 1%を含む。暗褐色土 (Y0Y3) 2/25%の程度に混ざる。結晶や中粒、粗粒や中粒、粗粒細い。 |
| 10-Y022 | 黒色上層 | 直径 15mm 程度の赤褐色スクリア 3%を含む。暗褐色土 (Y0Y3) 3/25%の程度に混ざる。結晶や中粒、粗粒や中粒、粗粒や中粒、粗粒細い。 |
| 10-Y022 | 黒色上層 | 直径 10mm 程度の赤褐色スクリア 1%・赤褐色スクリア 1%を含む。暗褐色土 (Y0Y3) 4/25%の程度に混ざる。結晶や中粒、粗粒や中粒、粗粒や中粒、粗粒細い。 |
| 10-Y022 | 黒色上層 | 直径 30mm 以下の赤褐色スクリア 1%・赤褐色スクリア 1%を含む。暗褐色土 (Y0Y3) 4/25%の程度に混ざる。結晶や中粒、粗粒や中粒、粗粒や中粒、粗粒細い。 |

第 119 図 SI37(2)

盤状で、外面は平坦である。

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期Ⅰ段階古相に相当すると考えられる。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、炬からイネとアワ、キビ、サンショウ等の炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。(守屋)

SI38 (第 126 ~ 137 図、第 15・32 表)

遺構 調査区中央部南寄りの 320・35・36・46 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、SKK376・377・387・501・502 及び複数の攪乱に壁や床面の一部を切られる。北西 300cm では SI39 が検出されている。

平面形態はやや不整形な隅丸方形で、長軸 369cm、短軸 344cm、検出面から床面までの深さは

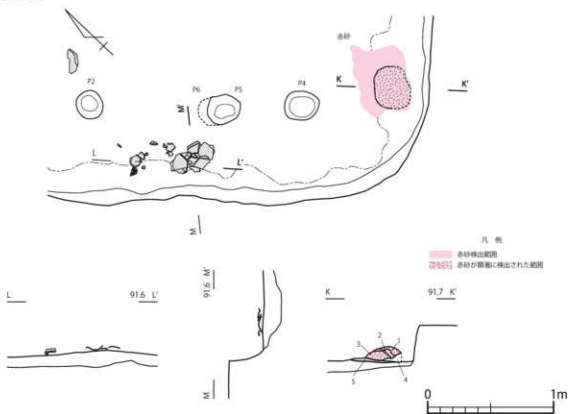
炉



炉

1. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子15%、直径2mm以下の炭化物2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)20%、黒褐色土(7.5YR2/2)10%、暗褐色土(10YR3/3)7%が混在に散じる。結まり・粘性強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の焼土粒子5%、炭化物1%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%、暗褐色土(10YR3/3)5%が混在に散じる。結まりは有り、部分所にやや強、粘性強、粒子細かい。

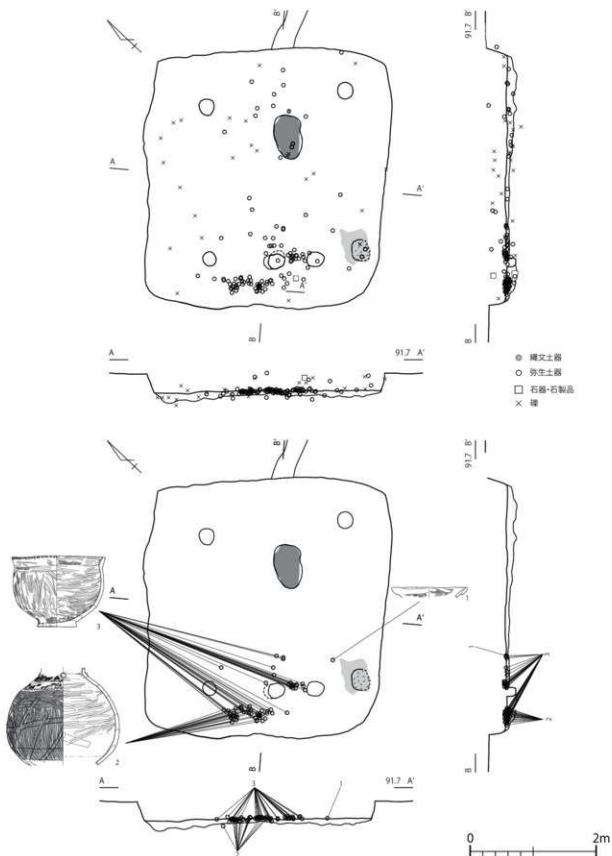
赤砂・遺物出土状況



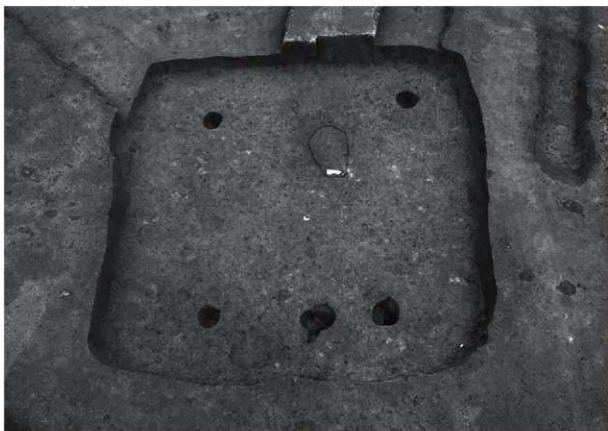
赤砂

1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア2%、直径1mm程度の褐色スコリア1%、直径1mm以下の微細な白色砂粒5%を含む。赤砂(5YR2/2)5%が混在に散じる。結まり・粘性有り、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア1%、直径1mm以下の褐色スコリア1%、直径1mm以下の微細な白色砂粒10%を含む。赤砂20%が混在に散じる。結まり・粘性有り、粒子細かいやや砂質。
3. 5YR2/2 黒褐色土層 直径2～5mmの小礫2%、直径1mm以下の微細な白色砂粒7%を含む。黒褐色土(10YR2/2)40%が混在に散じる。結まり・粘性やや強、粒子細かくやや砂質。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の黄褐色・褐色スコリア各1%、直径3mm程度の赤褐色スコリア1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)3%、赤砂1%が混在に散じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
5. 7.5YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の微細な白色砂粒3%を含む。赤砂3%が混在に散じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。赤砂が表面に染み込んだものと思われる。

第120図 SI37(3) 炉・赤砂・遺物出土状況図(1/30)



第 121 図 SI37(4) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI37 全景 (南西から)



2. SI37 P1 土層断面 (南東から)



3. SI37 P2 土層断面 (南東から)



4. SI37 P4 土層断面 (南南東から)



5. SI37 土層断面 B-B' (南東から)

第 122 図 SI37 写真 (1)



1. SI37 炉全景 (南西から)



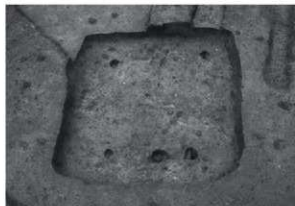
2. SI37 炉土層断面 J-J' (南東から)



3. SI37 赤砂土層断面 K-K' 1～2層 (南西から)



4. SI37 赤砂土層断面 K-K' 3～4層 (南西から)



5. SI37 掘り方全景 (南西から)



6. SI37 遺物出土状況 (北東から)

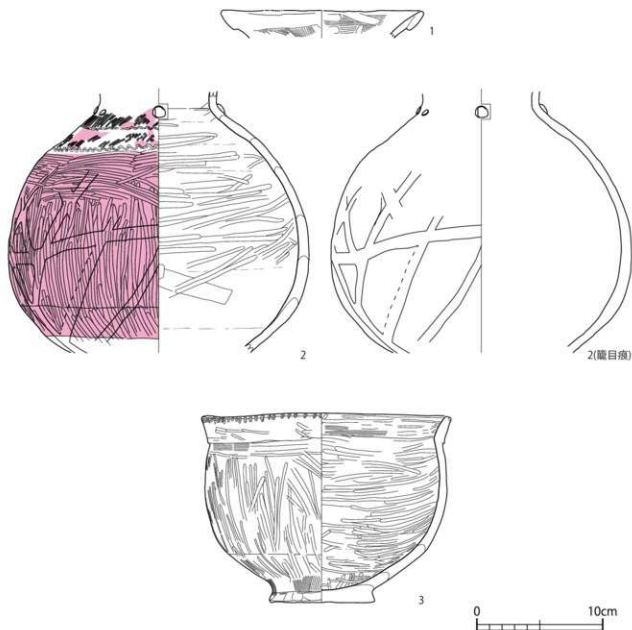


7. SI37 遺物出土状況 (北東から)



8. SI37 遺物出土状況 (北東から)

第 123 図 SI37 写真 (2)



第124図 SI37出土遺物(1/3)

71cmを測る。壁は垂直気味に立ち上がっている。主軸方向はN-46°-Wを指す。

床は貼床で、検出できなかった北東部分を除き、壁際以外のほぼ全面で硬化が確認された。壁溝は検出されなかった。支柱穴は確認されず、中央部の南東寄りにP1、同北西寄りの主軸から東にずれた位置に炉、南東壁の東寄りに貯蔵穴P2が確認された。梯子穴、土堤は検出されなかった。

また、床面のP1西側付近に被熱範囲を確認した。長さ92cm、幅60cmの範囲で焼土が認められ、中心部分で、より鮮明に焼土が確認できた。明確な掘り込み等は確認できず、床面の構築土に、部分的に焼土が含まれた可能性が考えられる。

覆土は黄褐色スコリアを含む黒色土が主体で、壁際には壁崩落土と考えられる黒褐色土もみられる。また、下位の層には焼土を多く含む層も確認された。焼土は平面的にも範囲が確認でき、状況から、



第125図 SI37出土遺物写真

第14表 SI37 出土土器観察表

図番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第124・125図	1	甕土床面	磁 (15.80 2.2 —	折り返し口縁。口縁部はやや平直。	外面：口縁部ナデ。頸部ハケ調整。内面：口縁部から頸部横方向のハケ調整後ナデ。	小礫	良好		10YR7/4にぶい貴砂	破片
	2	甕土床面	磁 — — 8.0	頸部最大径に対して、頸部径は小さい。頸部最大径は頸部下平に位置する。	外面：頸部ハケ調整後、2点か3点1組の円形浮文5カ所配置。肩部に2段の縄文。上段下段共に華部LR2端。下段S白で区画。頸部上半横方向、下半横方向のミガキ。内面：ヘラナデ後横方向のミガキ。	小礫 灰石 石英	良好	肩部に円形朱文、頸部外面	2.5YR6/4にぶい貴砂	残存率25～50%。龍目面が明確に残る
	3	甕土床面	広口壺 (18.80 15.0 8.0	折り返し口縁で、外反。口縁部は平直で、部みを有する。頸部は内側しながら開き、口縁部が最大径である。底部は円盤状で、外面は平直。	外面：口縁部ヨコナデ後一部ミガキ。頸部ハケ調整後縦方向のミガキ。頸部と底部付近にハケメ残る。底部ミガキ。内面：口縁部横方向のハケ調整後縦方向のミガキ。胴部ナデ後横方向のミガキ。	小礫 石英 雲母 白色砂粒	良好		10YR6/3にぶい貴砂	残存率80%

周囲より遺構内に廃棄されたものとみられる。また北東壁際と南東壁際では、焼土より下位の層から土器片が集中する範囲が確認された。

掘り方は床面からの深さが23cmで、ローム層まで掘り込まれている。壁際が比較的浅く、中心部分が深くなっている。覆土は黒色土や黒褐色土が主体で、ローム粒子やブロックを含んでいる。

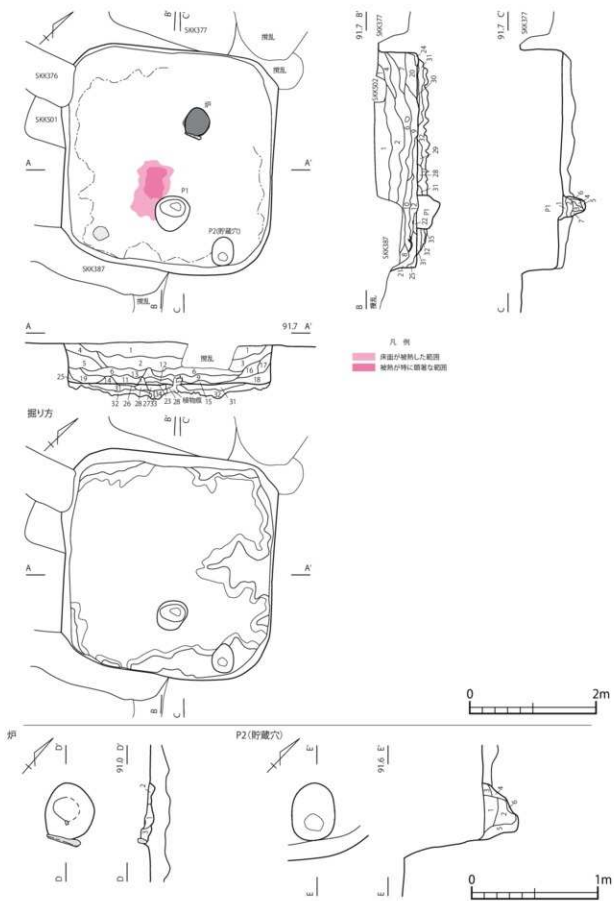
主柱穴は確認されなかったが、床面では用途不明のP1が検出された。長軸57cm、短軸53cmの卵形を呈する。断面はU字状を呈し、床面からの深さは44cmを測る。壁からの距離は離れているが、梯子穴の可能性も考えられる。

貯蔵穴P2は長軸45cm、短軸34cmの楕円形で、底部には緩やかな段差があり、建物跡の壁に近い南西側が最も深く、床面からは29cmを測る。

炉は地床炉で、楕円形を呈し、長軸45cm、短軸39cmを測る。南東端に置かれた枕石は砂岩で、被熱と煤の付着が認められる。竪穴建物跡貼床土中を底面とする掘り方を持ち、顕著な被熱は認められなかった。

赤砂は検出されなかったが、南西角付近より未焼成の粘土塊が検出された。

(相原)



S138

1. 10YR7/1 黒色土層 直徑 10mm 以下の黄褐色スコリア 10%、褐色スコリア 7%、黒色スコリア 15%、直徑 2mm 以下の赤い黄褐色粒子 10%を含む。細まりやや中、粘性有り、粘りや中強い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、褐色スコリア 3%、黒色スコリア 10%、赤い黄褐色粒子 7%、直徑 4mm 以下の焼土粒子 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.3) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性有り、粘り中強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 7%、直徑 2mm 以下の赤い黄褐色粒子 5%、直徑 3mm 以下の焼土粒子 3%を含む。褐色土 (7.5YR4/30.3) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%、褐色スコリア 3%、黒色スコリア 5%、赤い黄褐色粒子 10%を含む。細まり粘り有り、粘り中強い。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、褐色スコリア 3%、直徑 2mm 以下の赤い黄褐色粒子 7%を含む。黒色土 (10YR2/1) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
6. 7.5YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 2%、直徑 1mm 以下の黒色スコリア 3%、焼土粒子 2%を含む。細まりやや中、粘性有り、粘り中強い。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 3%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 5%を含む。黒色土 (10YR2/1) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
8. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア褐色スコリア各 3%、黒色スコリア 2%、赤い黄褐色粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.5) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
9. 10YR2/1 黒色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 7%、直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下の黒色スコリア 3%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
10. 10YR2/1 黒色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の黒色スコリア 3%、直徑 4mm 以下の焼土粒子 15%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 3%を含む。暗褐色土 (7.5YR3/47.7) が塊状に散在する。細まり粘り有り、粘りやや強。
11. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 4mm 以下の褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%、炭化物 2%を含む。細まりやや中、粘性有り、粘り中強い。
12. 7.5YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 50%、褐色スコリア 3%、焼土粒子 7%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。暗褐色土 (7.5YR3/47.20) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性有り、粘り中強い。
13. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 3%、焼土粒子 10%を含む。焼土 (7.5YR2/34.0)、褐色土 (7.5YR2/10.5) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘りやや強。
14. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の褐色スコリア 5%、焼土粒子 7%を含む。焼土 (7.5YR2/30.3)、黒色土 (7.5YR2/10.5) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘りやや強。
15. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直徑 4mm 以下の褐色スコリア 5%、直徑 3mm 以下のローム粒子 5%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 3%、直徑 5mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。褐色土 (10YR4/69.5) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
16. 7.5YR2/1 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、褐色スコリア 5%、焼土粒子 30%、直徑 2mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。褐色土 (7.5YR4/30.20)、褐色土 (7.5YR4/61.15) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘りやや強。
17. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 5%、赤い黄褐色粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2.30) が塊状に散在する。細まり粘り有り、粘り中強い。
18. 10YR2/1 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直徑 4mm 以下の褐色スコリア 5%、直徑 3mm 以下の赤い黄褐色粒子 7%、直徑 2mm 以下の焼土 2%、炭化物を含む。暗褐色土 (7.5YR3/30.3)。
19. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、褐色スコリア 3%、赤い黄褐色粒子 10%、直徑 1mm 以下の白色粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/2.7) 暗褐色土 (10YR3/45.5) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
20. 10YR7/1 黒色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 3mm 以下の褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 3%、直徑 2mm 以下の赤い黄褐色粒子 3%を含む。細まり粘り有り、粘り中強い。
21. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 4mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直徑 3mm 以下の褐色スコリア 3%、ロームブロック 5%、赤い黄褐色粒子 15%を含む。黒色土 (10YR2/10.5) 暗褐色土 (10YR3/47.7) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
22. 7.5YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 5%を含む。暗褐色土 (7.5YR3/30.20) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
23. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 3%を含む。暗褐色土 (7.5YR3/30.3) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
24. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直徑 4mm 以下の褐色スコリア 5%、直徑 5mm 以下のローム粒子 7%を含む。黒色土 (10YR2/13.3)、暗褐色土 (10YR3/45.5) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
25. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 2%を含む。黒色土 (10YR2/13.3)、暗褐色土 (10YR2/2.30) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
26. 10YR2/1 黒色土層 直徑 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 1%を含む。褐色土 (10YR4/69.2) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
27. 7.5YR4/6 暗褐色土層 直徑 5mm 以下の焼土粒子 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/40.3) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘性やや強、粘り中強い。
28. 7.5YR4/6 暗褐色土層 直徑 5mm 以下の焼土粒子 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/40.3) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘性やや強、粘り中強い。
29. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下のロームブロック 5%、直徑 10 ~ 30mm のロームブロック 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/40.15) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
30. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 4mm 以下の褐色スコリア 3%、直徑 5mm 以下のローム粒子 5%を含む。黒色土 (10YR2/1) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
31. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%、ローム粒子 7%、直徑 10 ~ 50mm のロームブロック 5%、直徑 5mm 以下の赤い黄褐色粒子 10%を含む。暗褐色土 (10YR2/4.3) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
32. 10YR2/1 黒色土層 直徑 5mm 以下の褐色スコリア 3%、直徑 5 ~ 10mm のロームブロック 7%を含む。暗褐色土 (10YR3/40.10)、褐色土 (10YR4/69.30) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
33. 10YR4/6 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/40) が 2%が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘性やや強、粘り中強い。
34. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の焼土粒子 5%、ローム粒子 7%を含む。黒色土 (10YR2/13.3)、暗褐色土 (10YR4/61.5) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘性やや強、粘り中強い。
35. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、赤い黄褐色粒子 5%を含む。黒色土 (10YR2/10.5)、焼土 (10YR4/63.30) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。

P1

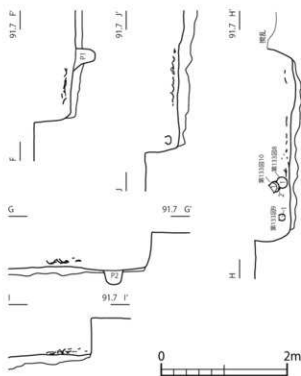
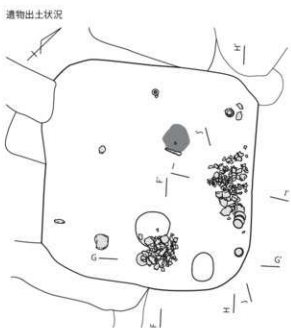
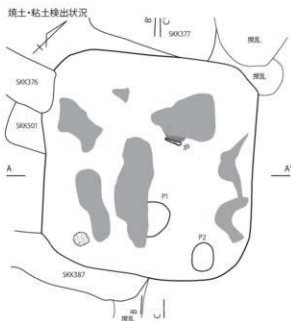
1. 10YR2/3 黒褐色土層 直徑 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、ローム粒子 10%、直徑 5mm 以下の焼土粒子 3%、炭化物 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/40) が 3%が塊状に散在する。細まり有り、粘性やや強、粘り中強い。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の褐色スコリア 2%、直徑 3mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土 5%が塊状に散在する。細まり有り、粘性やや中、粘り中強い。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 1%、ローム粒子 3%を含む。暗褐色土 20%が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 3mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土 15%が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
5. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の褐色スコリア 1%、直徑 5mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土 20%が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
6. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 2mm 以下の褐色スコリア 2%、黄褐色スコリア 1%、直徑 3mm 以下のローム粒子 5%を含む。暗褐色土 20%が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
7. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 2%、ローム粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR2/2) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。

歩

1. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 5 ~ 10mm にロームブロック 7%、直徑 10mm 以下の焼土粒子 15%、直徑 3mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/30.3) 暗褐色土 (10YR3/47.7) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%、焼土粒子 2%を含む。暗褐色土 2%が塊状に散在する。暗褐色土 (10YR3/43.3) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや強、粘り中強い。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の焼土粒子 2%、ローム粒子 5%を含む。暗褐色土 5%が塊状に散在する。細まりやや中、粘性有り、粘り中強い。

P2(新製)

1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%、赤い黄褐色粒子 5%、炭化物粒子 2%、直徑 5mm 以下のローム粒子 15%を含む。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土 (10YR2/1) 15%、暗褐色土 (10YR3/43.3) が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の褐色スコリア 3%、炭化物 1%、直徑 3mm 以下のローム粒子 5%、赤い黄褐色粒子 3%を含む。褐色土 (10YR4/69.2) が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘り中強い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 2%、直徑 5mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土、暗褐色土 5%が塊状に散在する。細まり粘りやや中、粘性やや中、粘り中強い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 3%、直徑 3mm 以下の赤い黄褐色粒子 5%を含む。暗褐色土 7%、褐色土 5%が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。
6. 10YR4/6 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 2%、黒色土 (10YR2/1) 2%、暗褐色土 (10YR2/2) 1%が塊状に散在する。細まりやや中、粘性やや中、粘り中強い。



土層内土層

第133図8

1. 7.5YR3/3 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各3%、褐色スコリア1%、直径10mm以下の焼土粒子3%、直径1mm以下のガラス質砂粒3%を含む。暗褐色土(7.5YR3/3)30%が検出に及ぶ。締まりやや強、粘性弱、粒子やや粗い。

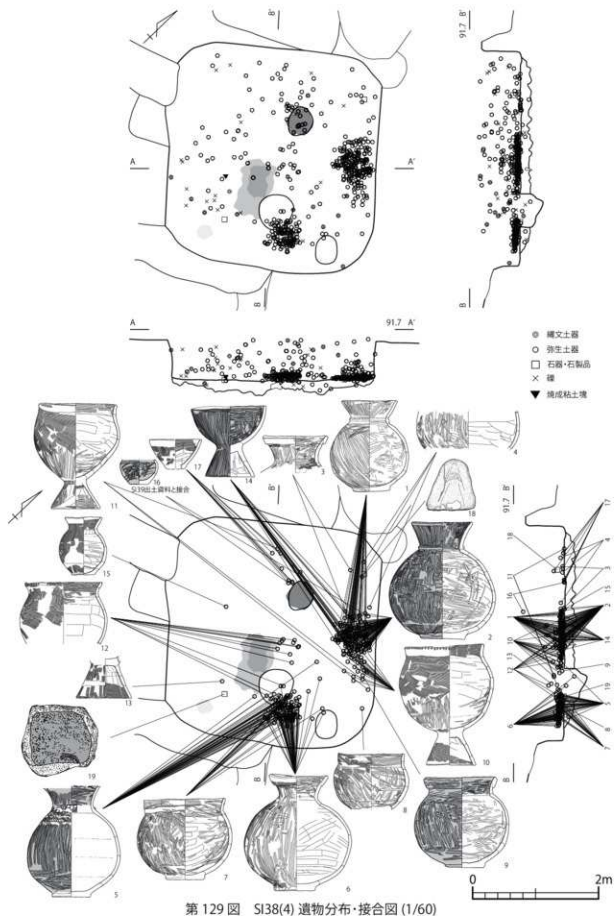
第133図9

1. 10YR2/1 褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア、褐色スコリア各3%を含む。褐色土(10YR2/1)20%が検出に及ぶ。締まり有り、粘性やや強、粒子やや粗い。

第133図10

1. 10YR2/1 褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各2%、焼土粒子7%を含む。焼土(7.5YR5/6)10%が検出に及ぶ。粒子やや粗い、締まりやや強、粘性強。
2. 10YR2/1 褐色土層 直径20mm以下の黄褐色スコリア2%、褐色スコリア1%、直径3mm以下の焼土粒子2%を含む。焼土2%が検出に及ぶ。締まりやや強、粘性弱、粒子やや粗い。

第128図 SI38(3) 焼土・粘土検出状況、遺物出土状況図(1/60)





1. SI38 全景 (南東から)



2. SI38 土層断面 B-B' (北東から)



3. SI38 P1 土層断面 (北東から)



4. SI38 炉全景 (南南東から)



5. SI38 掘り方全景 (南東から)

第 130 図 SI38 写真 (1)



1. SI38 遺物出土状況 (南東から)



2. SI38 遺物出土状況 (南から)



3. SI38 遺物出土状況 (北東から)

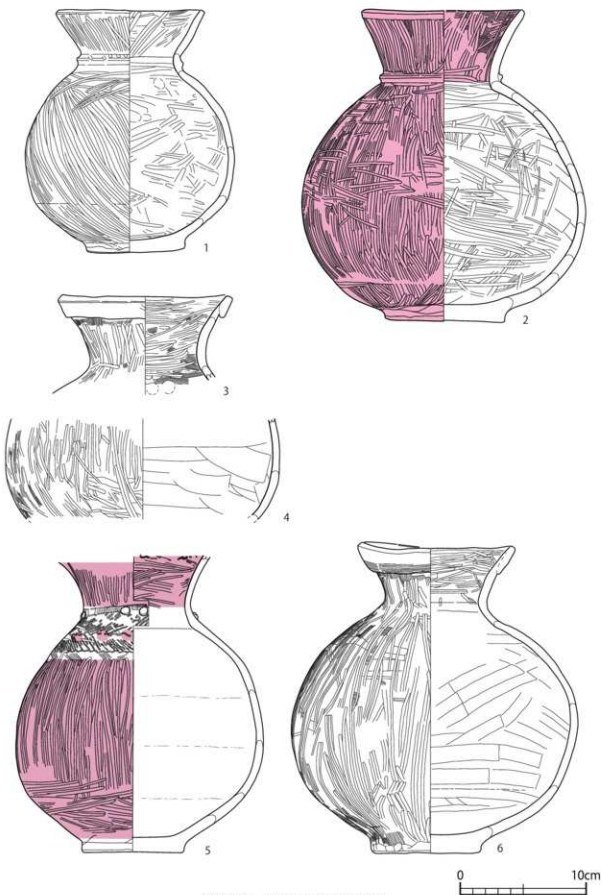


4. SI38 遺物出土状況 (南東から)

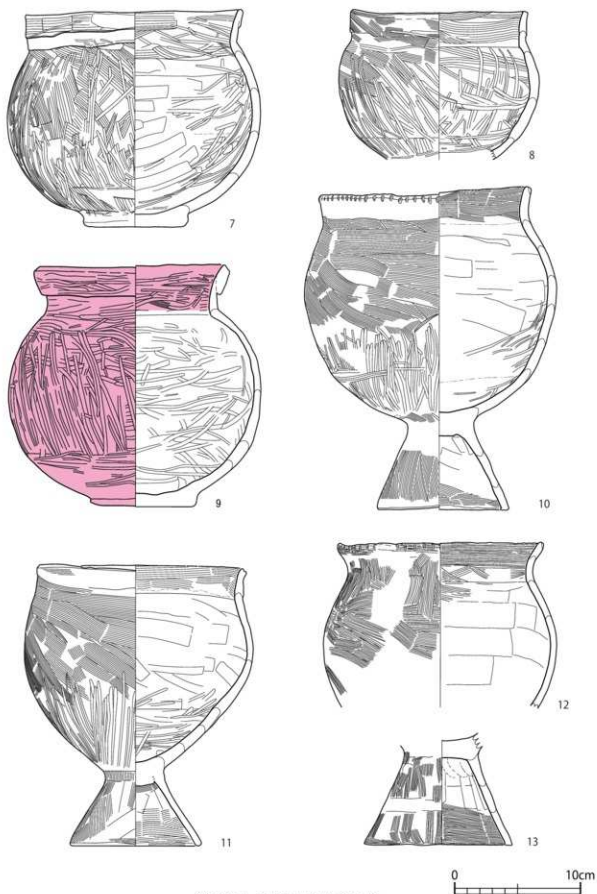


5. SI38 遺物出土状況 (南東から)

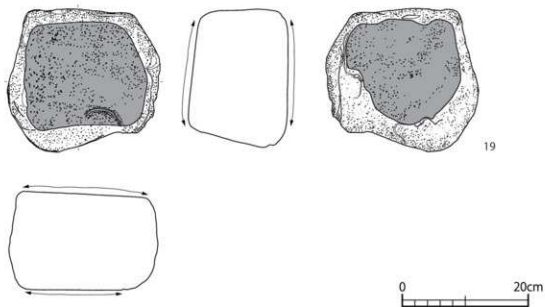
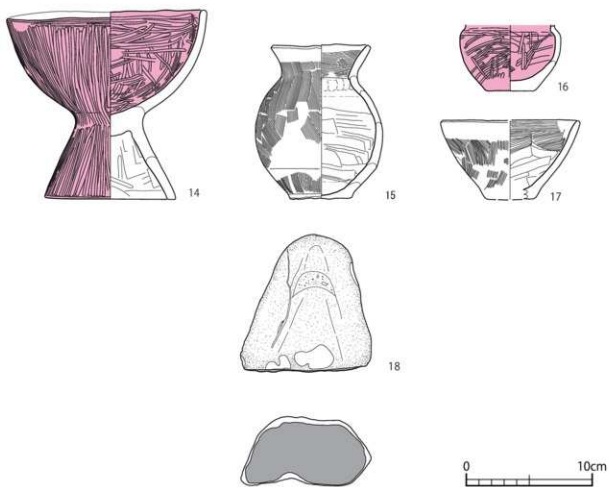
第 131 図 SI38 写真 (2)



第132図 SI38出土遺物(1)(1/3)



第133図 SI38出土遺物(2)(1/3)



第134図 SI38出土遺物(3)(1/3・1/6)

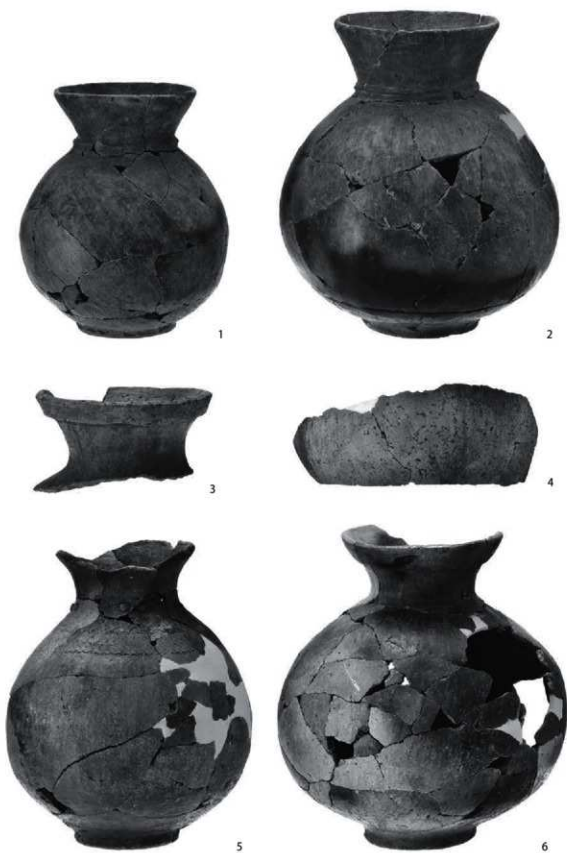
出土遺物 縄文土器片 12 点と弥生土器片 484 点、土製品 1 点、石器 2 点、礫 21 点が出土した。

遺物出土状況 遺物が多量に出土しており、特に竪穴建物跡北東壁際と南東壁際に集中して出土した。北東壁際の床面では、壺（第 132・135 図 1・2）と広口壺（第 133・136 図 9）、台付甕（同 10・11）、高坏（第 134・137 図 14）が集中して出土した。このうち、ほぼ完形の広口壺（第 133・136 図 9）の上に台付甕（同 11）の胴部が正位で重なった状態で出土した。11 の脚部は、約 2m 離れた北西壁付近の床面で出土している。P1 と南東壁の間の床面から、壺（第 132・135 図 5・6）と広口壺（第 133・136 図 7）が集中して出土した。東隅床面から、広口壺（同 8）が正位で出土した。北隅床面からは、壺（第 132・135 図 3・4）と石杵（第 134・137 図 18）が出土した。また、小型平底埴（同 16）は、SI39 との遺構間接合である。

土器 第 132・135 図 1～4 は、壺である。1 と 2 は類似した単口縁の壺である。頸部は屈曲し、断面三角形の赤道を有する。底部は円盤状で、外面は平坦である。外面と口縁部内面はミガキ後赤彩される。口縁部は、1 は直線的に開き、2 は外反する。胴部最大径は、1 では胴部中間から下半、2 では下半に位置する。3 は、折り返し口縁壺の口縁部から頸部である。口唇部は平坦で、口縁は外反しながら立ち上がる。頸部は強く屈曲する。4 は、壺の胴部中間部で、最大径を有する部分である。3 と 4 は同一地点から出土しており、同一個体の可能性が高い。5 は、壺の頸部から底部である。頸部はゆるやかに立ち上がり、胴部最大径が胴部下半に位置する。頸部に 2 個 1 組の円形貼付文が 5 箇所施される。肩部外面に羽状縄文が施文される。上段は単唇 LR で下端が Z 字状端末結節文、下段は単唇 RL で下端が S 字状端末結節文。施文後に円形朱文が計 14 箇所（1 箇所は推定）に施文される。口縁部内面には縄文が施文され、単唇 RL で下端は S 字状結節文。頸部内外面と胴部外面はミガキ後赤彩される。口縁部破断面が磨滅している。6 は、折り返し口縁で、口縁部は外反する。頸部は直線的に開き、肩部との境は屈曲する。最大径は胴部中間に位置する。器高に対し、胴部径が大きい。底部は円盤状で、外面は平坦である。

第 133・136 図 7～9 は、広口壺である。7 は折り返し口縁で、口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部外面下半の調整は粗い。底部は円盤状で、外面は平坦である。外面はハケ調整後にミガキが加えられるが、ハケメがよく残る。8 は、口縁の形状は単口縁に近いが、ハケ状工具により折り返し口縁状に整形される。口唇部は平坦で、胴部最大径は胴部上半に位置する。外面はハケ調整後、下半のみ縦方向のミガキが施される。9 は、折り返し口縁の広口壺である。口唇部は平坦である。7・8 と比較すると、胴部径に対する口径は小さい。底部外面は平坦である。外面と口縁部内面がミガキ後赤彩される。脚部は直線的に開き、外面は縦方向のハケ調整が施される。

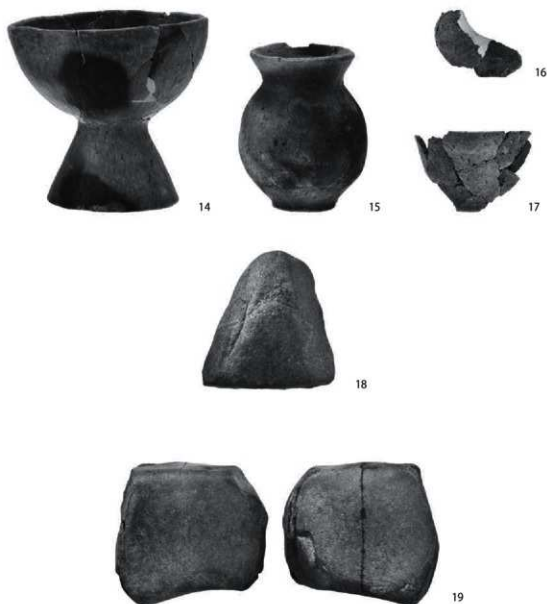
10～13 は、台付甕である。10 は、いわゆる「多摩型甕」である。口唇部は平坦で、刻みが施される。口縁部はやや外反し、頸部は緩やかに曲がる。口縁部外面はケズリのような粗い調整を残す。胴部は球形で、胴部上半外面は横方向のハケ調整、下半外面は縦方向のミガキが施される。11 は、口唇部は面取りの際に削り取られたような痕跡を残し、刻みは無い。口縁部外面はケズリのような粗い調整を残す。口縁部と胴部の境が緩やかで不明瞭である。胴部下半は直線的に立ち上がり、胴部上半との境が大きく屈曲する。胴部上半外面は横方向のハケ調整、下半外面は縦方向のミガキが施される。12 は、口縁部から胴部である。口唇部は丸みを帯び、刻みを有する。口縁と胴部の境は緩やかで、胴部は球形である。13 は、脚部で、やや外反する。外面は縦方向のハケ調整が施される。



第135図 SI38出土遺物写真(1)



第136図 SI38出土遺物写真(2)



第137図 SI38出土遺物写真(3)

第134・137図14は、高杯である。杯部に稜は無く、内湾する。脚部は直線的に広がる。ミガキ後、外面と杯部内面が赤彩される。

15は、小型壺である。口唇部は平坦で、口縁部は外反する。外面はハケ調整される。最大径は胴部中間から下部に位置し、胴部径に対して器高が高い。底部外面は平坦である。

16は、小型平底埴の胴部から底部である。内外面がミガキ後赤彩される。焼成はやや軟質で、胎土は非在地のものであるため、搬入品であると考えられる。

17は、鉢である。底部径は小さく、やや内湾しながら緩やかに立ち上がる。

土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階古相に相当すると考えられる。

石製品 第134・137図18は、砂岩製の石杵である。形状は四角錐に近い。下端面は平坦で磨滅

第15表 SI38 出土土器観察表(1)

図	番号	層位	器種	注量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第132・135図	1	覆土床面	甕	11.2 19.3 7.6	単口鉢。口頸部は平坦。口縁は直線的に開く。頸部に断面三角形の突起を有する。胴部中間から下部に最大径を有する。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：口縁部縦方向のミガキ。頸部突部ナデ彫形。胴部斜め方向のミガキ。内面：口縁部斜め方向のミガキ。胴部ナデ横方向のミガキ。	小礫 石英 雲母 黒色砂子	良好	外面全体 口縁部内面	2.5YR5/6 明赤褐色	ほぼ定形 頸部突部
	2	覆土床面	甕	12.4 24.8 9.4	単口鉢。口頸部はやや平坦。口縁は外反。胴部に断面三角形の突起を有する。胴部下部に最大径を有する。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：口縁部縦方向のハケ調整後主に縦方向のミガキ。胴部縦方向のミガキ後横方向の丁寧なミガキ。口縁部横方向のハケ調整後ミガキ。胴部横方向のナデ後ミガキ。	小礫	良好	外面全体 口縁部内面	(赤彩) 10R4/8 赤 (赤彩) 10R5/6 赤	ほぼ定形 頸部突部 アワ有ふた正直
	3	覆土床面	甕	13.2 — —	折り返し口鉢。口頸部は平坦で、口縁は外反しながら立ち上がる。胴部と頸部の境界は強く屈曲する。	外面：口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ調整後縦方向ミガキ。内面：口縁部から頸部横方向のハケ調整後横方向のミガキ。胴部ナデ。	小礫 長石 チャート	良好		10YR8/4 浅黄緑	残存率25%以下。 第132・135図4 と同一個体の可能性が高い
	4	覆土床面	甕	— (7.9)	胴部片。最大径	外面：ナデ後縦方向のミガキ。内面：横方向のヘラナデ。	小礫 長石 チャート	良好		7.5YR6/3 にぶい黄	残存率25%以下。 第132・135図3 と同一個体の可能性が高い
第133・136図	5	覆土床面	甕	— — 8.0	胴部に2個1組の円形彫付文が5箇所施される。頸部はゆるやかに立ち上がり、胴部最大径が胴部下部に位置する。口縁部縦断面が傾斜している。	外面：口縁部から頸部縦方向のミガキ。胴部上平ハケ調整後ミガキ。下平横方向のミガキ。胴部に羽状横文(上段半筋LR端、下段半筋RLS端)。上から計14箇所(1箇所は兼定)の円形文を有。内面：口縁部ハケ調整後半筋RLS端。胴部横方向のミガキ。胴部ヘラナデ。	小礫 チャート 石英 角閃石	良好	口縁部から 頸部外面、 胴部下部、 口縁部から 胴部内面	(赤彩) 2.5YR4/4 にぶい赤 (地) 7.5YR7/4 にぶい黄	ほぼ定形
	6	覆土床面	甕	12.0 24.5 8.6	複合口鉢。頸部は地面し、口縁部に向けてやや外反しながら立ち上がる。最大径は胴部中間に位置する。胴部に対し頸部径が大きい。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：口縁部ハケ調整後ヨコナデ。胴部から頸部ハケ調整後縦方向のミガキ。内面：口縁部から頸部ヨコナデ後横方向のミガキ。胴部ヘラナデ。	小礫 チャート 長石 白色砂粒	良好		2.5Y5/2 暗灰黄	ほぼ定形
	7	覆土床面	広口甕	17.2 17.2 8.0	折り返し口鉢。口縁は胴部最大径より小さく、胴部最大径は胴部の中間に位置する。底部外面は平坦。	外面：口縁部横方向のハケ調整後ヨコナデ。胴部斜め方向のハケ調整後縦方向のミガキ。口縁折り返し部下端ミガキ。胴部ナデ。内面：口縁部横方向のハケ調整後ミガキ。胴部ヘラナデまたはミガキ。	小礫 白色砂子 黒色砂子	良好		7.5YR6/6 橙	定形 アワ有ふた正直
	8	覆土床面	広口甕	13.5 — —	口頸部は平坦。口縁はほぼ垂直に立ち上がり、口縁下部に突起を有する。ハケ調整により、折り返し口縁状の形状となる。	外面：口縁部から胴部斜め方向のハケ調整。胴部ハケ調整後斜めまたは縦方向のミガキ。胴部上平ハケメくに残る。内面：口縁部から胴部横方向のハケ調整。胴部ナデ後縦または横方向のミガキ。	小礫 石英 角閃石 白色砂粒	良好		7.5YR5/4 にぶい黄	残存率80%。ア ワ有ふた正直
第133・136図	9	覆土床面	広口甕	14.7 19.0 8.2	折り返し口鉢で、口頸部は胴部最大径の中間に位置する。底部外面は平坦である。	外面：口縁部ナデ後横方向のミガキ。胴部から胴部横方向のミガキ。胴部上平ハケ調整後縦方向のミガキ。下平横方向のミガキ。内面：口縁部から胴部ハケ調整後縦方向のミガキ。胴部横方向のヘラナデまたはミガキ。	小礫 チャート 石英 雲母	良好	外面全体 口縁部内面	(赤彩) 10R4/6 赤 (赤彩) 10R4/4 赤褐色	ほぼ定形
	10	覆土床面	台付甕	16.9 25.6 10.2	斜め口鉢で、斜めは口頸外面側に付く。胴部はほぼ球形である。胴部はわずかに内湾する。	外面：口縁部斜めナデ。胴部上平横方向のハケ調整。胴部上平ハケ調整後縦方向のミガキ。胴部縦方向のハケ調整。内面：口縁部横方向のハケ調整。胴部上平横方向のナデ。下平横方向のミガキ。	小礫 角閃石 雲母	良好		胴部 10YR2/3 黒褐色 胴部 10YR5/8 黄褐色	残存率 「多摩型」 胴部内面下部に突起物付着

第15表 SI38 出土土器観察表(2)

図	番号	層位	器種	注量	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第133・136図	11	覆土 第136 図9の上	台付甕	15.9 22.2 9.9	口縁はほぼ垂直に立ち上る。口縁部と胴部の境が緩やかで不明瞭である。最大径は胴部上半に位置する。	外面：口縁部粗いナデ。胴部上半横または斜め方向のハケ調整。下半ハケ調整後縦方向のみガキ。胴部斜め方向のヘラナデまたはハケ調整。内面：口縁部横方向のハケ調整。胴部上半ナデ。下半横方向のみガキ。胴部横方向のハケ調整。	小礫 角閃石 石英 黒色砂粒	良好		7.5YR6/4 にぶい青	定形 胴部上半外面にス ス付着 口縁部外面粗い
	12	覆土 床面	台付甕	(15.8) — —	口縁はやや内湾する。口 外縁は丸みを帯び、斜め を有する。	外面：口縁部から胴部ナデ後縦方 向、胴部横方向のハケ調整。内面： 口縁部横方向のハケ調整。胴部横 方向のナデ。	小礫 雲母	良好		10YR3/1 黒褐	アワ有る型正皿
	13	覆土 床面	台付甕	— — 11.7	胴部は外反する。	外面：胴部縦方向のハケ調整後、 横方向のナデ。内面：底部ナデ。 胴部上半縦方向のナデ。下半横方 向のハケ調整。	小礫 白色砂粒 シャモット	良好		7.5YR4/4 褐 底部 7.5YR3/2 黒褐	
第134・137図	14	覆土 床面	高坏	15.6 15.0 10.3	坏部は内湾し、丸みを帯 びる。胴部は直線的に広 がる。	外面：口縁部横方向のみガキ。坏 部から胴部縦方向のみガキ。内面： 坏部縦方向または縦方向のみガキ。 胴部ヘラナデ後一部ミガキ。	小礫 雲母	良好	外面全体 坏部内面	10R4/4 赤褐	ほぼ定形 キズ有る型正皿
	15	覆土 床面	小型甕	7.7 12.2 4.9	胴部が緩やかに屈曲し、 胴部のやや下半に最大径 を有する(A1タイプ)。 最大径に対して器高が高 い。底部外面は平坦。	外面：口縁部横方向のナデ。胴部 上半縦方向、下半斜め方向。底部 側面縦方向のハケ調整。内面：口 縁部横方向のハケ調整。胴部横方 向のヘラナデ。	小礫 角閃石 雲母	良好		5YR4/4 にぶい赤褐	定形
	16	覆土 床面 SI39床面	小型 平底皿	— — 3.8	やや内湾しながら立ち上 がる。胴部が強く屈曲し、 最大径となる。	粘土部積み上げ。外面：ミガキ。 内面：ナデ後ミガキ。	小礫多数 (20%)	やや軟質	内外面全体	10R4/6 赤	残存率30%。 遺構間接合。 アワ有る型正皿。 胎土は赤在地系
	17	覆土 床面	鉢	(10.6) 6.2 2.0	底部径は小さい。やや内 湾しながら緩やかに立ち 上がる。	外面：縦方向のハケ調整後口縁部 のみ縦方向のナデ。内面：上半縦 方向のハケ調整。下半横方向のヘ ラナデ。	小礫 炭石 角閃石	良好		5YR5.6 明赤褐	

している。北隅付近の床面近くで出土した。19は、砂岩製の台石である。上面と下面はともに平坦で、摩滅している。断面は台形に近い。南隅付近の床面で、磨滅面を上に向けた状態で出土した。

炭化種実(水洗選別) 土壌の水洗選別の結果、炬からイネとアワの炭化種実が検出された。また、第133・136図9内部の土壌から、アワの炭化種子1点と、イヌタデ属の炭化果実1点、15内部の土壌から、イネとダイズ属の炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。

(守屋)

SI39(第138～148図、第15・32表)

遺構 調査区中央部の320・24・25・26・35グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、縄文時代のSP531を切っており、近世以降のSKK349・380・381・382・383・384・496及び攪乱に壁や床面等を切られている。南東300cmにはSI38が位置している。床面からは、小型壺が9点、鉄鍬1点が出土したのが特徴である。

平面形態はやや不整形な隅丸方形で、長軸461cm、短軸439cm、検出面から床面までの深さは61cmを測る。主軸方向はN-48°-Eを指す。壁はやや開き気味に立ち上がり、途中から開きが強くなっている。

床は貼床で、壁際を除くほぼ全面で硬化が確認された。壁溝は検出されなかった。また主柱穴も確認されず、北東壁寄りの中央部付近にP1、南西壁寄りの中央に梯子穴P2、同じく南西壁の東寄りに

貯蔵穴 P3 の各ビットと、建物跡中央部の北東寄りに炉、P2 に切られ南東に伸びる形で土堤が確認された。その他西側コーナー部で貯蔵穴の可能性のある P4 も確認されている。

覆土は 13 層に分けられ、黄褐色スコリアを含む黒色土がベースとなっている。

掘り方は床面からの深さが 31cm で、ローム層まで掘り込まれている。全面的に大小の凹凸があり、北西側がやや浅くなっている。覆土はロームブロックや粒子を含む黒色土が主体である。

前述の通り主柱穴は確認されなかったが、床面で用途不明のビットとして P1 が検出された。長軸 36cm、短軸 35cm の円形で、床面からの深さ 38cm である。覆土は 7 層に分けられ、そのうち 1 ～ 4 層は柱抜取穴覆土の可能性はある。

P2 は梯子穴と考えられる。平面形態は卵形で、長軸 44cm、短軸 43cm、床面からの深さは 62cm を測る。覆土は 9 層に細分され、そのうち 1 ～ 2 層が柱痕跡と思われる。また掘り方部分は最上部を貼床土（3・4 層）が被覆する。

貯蔵穴は P3 で、平面形態は不整形円形を呈し、長軸 48cm、短軸 44cm を測る。断面は、下部は V 字状を呈し、上部は垂直気味に立ち上がっている。覆土は 7 層に分けられる。

P4 は掘り方調査時に、掘り方底面で検出されたが、床面での遺物出土状況等から、本来は床面から掘り込まれていたものと考えられる。

土堤は、西側の一部が梯子穴 P2 と重複するが、前後関係は不明である。また、土堤は南東部が近世以降の土坑 SKK382 に切られており長さは不明である。最大幅 54cm、床面からの高さはわずかに 1cm を測る。

炉は地床炉で、長軸 55cm、短軸 49cm の楕円形を呈している。南西端には枕石が 2 つ置かれている。いずれも砂岩である。ローム面まで達する掘り方を持ち、掘り方覆土上に、やや被熱した火床部を持つ。

赤砂は建物跡の南隅で検出されたが、大部分が SKK381・382 によって破壊されており、検出されたのはわずかな範囲である。床面からの高さは残存部分では 11cm を測り、床面や壁面との間には赤砂を含まない層（2・3 層）があることから、床面より高い位置に保管されていたか、有機質の容器等に入れられていた可能性が考えられる。

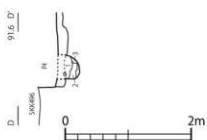
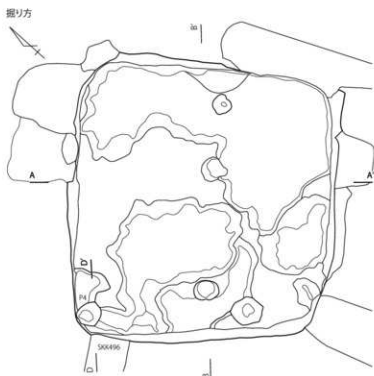
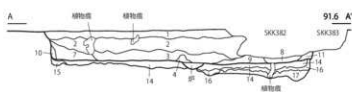
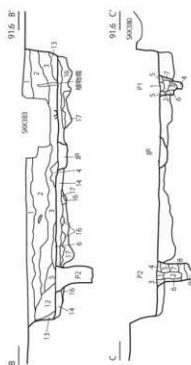
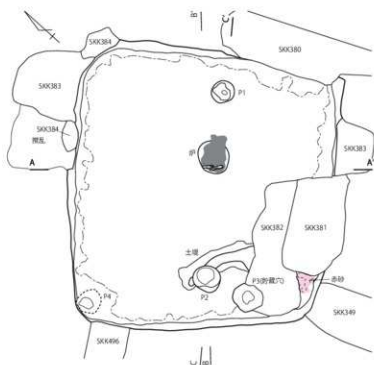
（相原）

出土遺物 縄文土器片 6 点と弥生土器片 107 点、須恵器 1 点、石器 3 点、礫 82 点、金属製品 1 点、炭化物 20 点が出土した。

遺物出土状況 竪穴建物跡北隅、東隅、西隅からそれぞれ遺物が集中して出土している。北隅床面から鉄鏝（第 147・148 図 16）と礫、東隅床面から小型壺（同 1～3）石製品（同 15）、西隅の P4 上層とその周辺から小型壺（同 4～9）、台付甕脚部（同 10・11・13a）、礫が出土した。台付甕脚部（同 10）は、小型壺（同 7）の上に重なる状態で出土した。南隅の貯蔵穴 P3 周辺で、壺底部（同 14）と台付甕脚部（同 12）が出土した。また、SI38 の小型平底埴（第 134・137 図 16）は、SI39 出土土器片と遺構間接合している。

なお、SI39 の上面に位置する SKK382 から、弥生土器壺（第 267・268 図 7・8）が出土した。この壺は SI39 に伴う遺物である可能性があるが、遺構外出土遺物として扱った。

土器 第 147・148 図 1～9 は、小型壺である。1～3 は共通して、外面がナデ調整で、胴部中間が帯状に張り出し、底部外面が平坦。焼成がやや軟質で、色調が暗い。作りは粗製であり、外面に細かいヒビ割れが多い。1 は、最大径に対して器高がやや高く、色調は褐色である。内面の一部に



第 138 図 S139(1)(1/60)

S39

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%, 直径 2mm 以下の褐色スコリア 2%・黒色スコリア 3%・にぶい黄褐色粒子 10%, 直径 4mm 以下のローム粒子 2% を含む。締まり有り。部分的にやや強。粘性やや強。粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各 5%, 直径 2mm 以下のにぶい黄褐色粒子 10%, 黒褐色土 (10YR2/3)30%, 暗褐色土 (10YR3/4)3% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%・褐色スコリア 5%, 直径 2mm 以下のにぶい黄褐色粒子 7%, 直径 5mm 以下の炭化物粒子 2%, 硬化ブロック 30% を含む。黒褐色土 15% が吸込に混じる。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 3% を含む。黒褐色土 7%, 焼土 (暗赤褐色 5YR3/6)3% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・にぶい黄褐色粒子 5%, 褐色スコリア 2% を含む。暗褐色土 7% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%, にぶい黄褐色粒子 2%, 長さ 30mm 以下の炭化物 1% を含む。暗褐色土 3% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
7. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 5%, 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%・にぶい黄褐色粒子 10% を含む。暗褐色土 7% が吸込に混じる。締まり・粘性強。粒子細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%, 直径 2mm 以下の褐色スコリア 2%・にぶい黄褐色粒子 5%, 直径 5mm 以下の焼土粒子 7%, 長さ 20mm 以下の炭化物 5% を含む。暗褐色土 10%, 褐色土 (10YR4/6)3%, 焼土 (暗赤褐色 5YR3/6)7% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性強。粒子細かい。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径 4mm 以下の黄褐色スコリア 5%, 直径 2mm 以下の褐色スコリア・にぶい黄褐色粒子 3% を含む。暗褐色土 3% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 1% を含む。暗褐色土 5% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性強。粒子細かい。
11. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 3% を含む。暗褐色土 5% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
12. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%, 褐色スコリア 2%, にぶい黄褐色粒子 7% を含む。暗褐色土 1% 各 2% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
13. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 5%, 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 7%・にぶい黄褐色粒子 5% を含む。暗褐色土 1% が吸込に混じる。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
14. 10YR2/1 黒色土層 基面上。直径 3mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 5%, 直径 2mm 以下の炭化物粒子 2%, 直径 5 ~ 50mm のロームブロック 5% を含む。暗褐色土 10% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
15. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3%, 直径 4mm 以下のローム粒子 7% を含む。暗褐色土 10%, 褐色土 3% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
16. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 3%, 直径 10 ~ 50mm のロームブロック 3% を含む。褐色土 30% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性やや強。粒子細かい。
17. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 5%, 直径 4mm 以下のローム粒子 7%, 直径 10 ~ 30mm のロームブロック 5% を含む。暗褐色土 30%, 褐色土 (10YR2/1)3% が吸込に混じる。締まり・粘性有り。粒子細かい。

P1

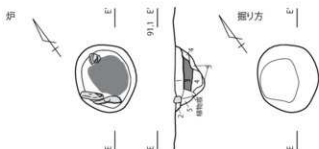
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 3%・にぶい黄褐色粒子 5% を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%, 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。褐色土 (10YR4/6)3%, 暗褐色土 (10YR3/4)5% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性やや強。粒子細かい。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%, 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3%, 直径 5mm 以下のローム粒子 5%, 直径 10 ~ 50mm のロームブロック 1% を含む。暗褐色土 7%, 褐色土 3% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性やや強。粒子細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%, 直径 3mm 以下の褐色スコリア 2% を含む。暗褐色土 20%, 黒褐色土 (10YR2/2)10%, 褐色土 5% が吸込に混じる。締まり弱。粘性やや強。粒子細かい。
5. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%, 直径 3mm 以下の褐色スコリア 2% を含む。暗褐色土 7% が吸込に混じる。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。
6. 10YR4/6 褐色土層 直径 4mm 以下の褐色スコリア 7% を含む。褐色土 (10YR2/1) 暗褐色土 各 5% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
7. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 4mm 以下の褐色スコリア 5% を含む。暗褐色土 2%, 褐色土 5% が吸込に混じる。締まり・粘性やや強。粒子細かい。

P2

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 7%・褐色スコリア 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/3)3% が吸込に混じる。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 1% を含む。黒褐色土 15% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 1%, 直径 3mm 以下のにぶい黄褐色粒子 3% を含む。褐色土 (10YR4/6)1%, 暗褐色土 (10YR3/4)5% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性強。粒子細かい。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%・褐色スコリア 3% を含む。褐色土 20% が吸込に混じる。締まり・粘性強。粒子やや粗い。
5. 10YR2/3 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 3%, 直径 10 ~ 30mm のロームブロック 2% を含む。褐色土 30%, 黒褐色土 (10YR2/1)15% が吸込に混じる。締まり・粘性強。粒子細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 2%, 長さ 20mm 以下の炭化物 1% を含む。褐色土 15%, 黒褐色土 7% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 2%, 直径 10 ~ 30mm のロームブロック 3% を含む。褐色土 20%, 黒褐色土 7% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
8. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 5%, 直径 5 ~ 50mm のロームブロック 20% を含む。褐色土 5%, 褐色土 15% が吸込に混じる。締まり・粘性やや強。粒子細かい。
9. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 5%, 直径 5mm 以下のローム粒子 50% を含む。褐色土 30%, 褐色土 3% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性強。粒子細かい。

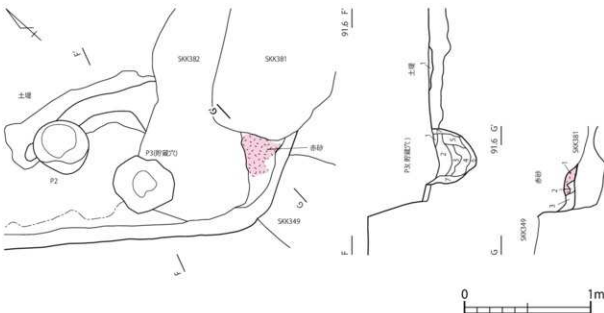
P4

1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%, 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3%・にぶい黄褐色粒子 3%・ローム粒子 7%, 直径 5 ~ 20mm のロームブロック 3% を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%, 直径 3mm 以下のローム粒子 20%, 直径 10 ~ 30mm のロームブロック 5% を含む。褐色土 (10YR4/6)30% が吸込に混じる。締まりやや強。粘性やや強。粒子細かい。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 2%, 直径 3mm 以下のローム粒子 10% を含む。褐色土 20%, 黒褐色土 (10YR2/2)15% が吸込に混じる。締まり有り。粘性やや強。粒子細かい。



- 炉
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 5%、直径 4mm 以下の焼土粒子 10%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3%を含む。褐色土 (7.5YR4/8)2%、暗褐色土 (10YR3/4)5%が塊状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 5%、直径 2mm 以下の焼土粒子 2%、直径 4mm 以下の炭化物粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)10%が塊状に散じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。
 3. 5YR4/8 赤褐色土層 灰床部。直径 3mm 以下のローム粒子 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)10%、明褐色土 (7.5YR7/2)3%が塊状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子やや粗い。
 4. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 5mm 以下のローム粒子 2%、直径 4mm 以下の焼土粒子 10%を含む。褐色土 (10YR4/6)10%、暗褐色土 (10YR2/2)3%が塊状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子やや粗い。
 5. 10YR4/6 褐色土層 直径 2mm 以下の焼土粒子 7%を含む。赤褐色土 (5YR4/8)5%、暗褐色土 (7.5YR3/4)3%が塊状に散じる。締まり強、粘性有り、粒子やや粗い。

貯蔵穴・土堤・赤砂



- 炉 貯蔵穴
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)7%が塊状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%・褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)10%が塊状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
 4. 10YR2/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)7%、暗褐色土 (10YR3/4)20%が塊状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
 5. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2)2%、黒褐色土 (10YR2/3)20%が塊状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
 6. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 4mm 以下の褐色スコリア 7%を含む。黒褐色土 (10YR2/3)5%、褐色土 (10YR4/6)15%が塊状に散じる。締まり有り、粘性強、粒子細かい。IV層土床。
 7. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 2%、直径 5～20mm のロームブロック 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%が塊状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。

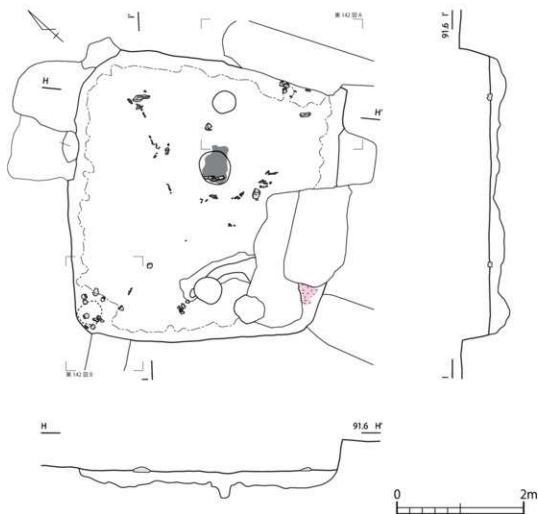
土堤

1. 10YR2/1 黒色土層 土堤。直径 3mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各 5%、直径 4mm 以下のローム粒子 7%、直径 5～30mm のロームブロック 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%が塊状に散じる。締まり極めて強、粘性強、粒子細かい。

赤砂

1. 7.5YR2/2 暗褐色土層 赤砂。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 3%、直径 1mm 以下の白色粒子 15%、直径 5mm 以下の小礫 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/3)7%、黒色土 (10YR2/1)3%が塊状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 1mm 以下の白色粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)30%が塊状に散じる。締まり・粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1%、直径 1mm 以下の白色粒子 3%を含む。暗褐色土 5%、暗褐色土 20%が塊状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。

第 140 図 SI39(3) 炉・貯蔵穴・土堤・赤砂 (1/30)

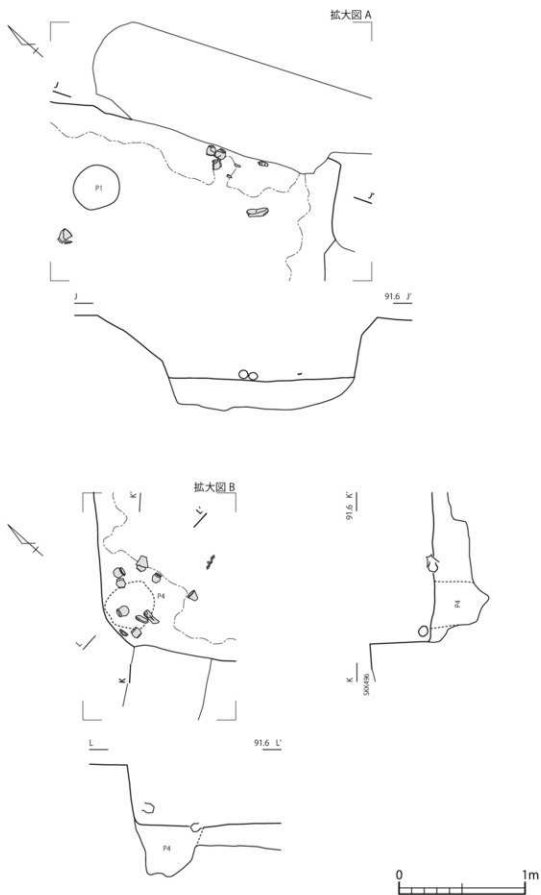


第 141 図 SI39(4) 遺物出土状況図 (1)(1/60)

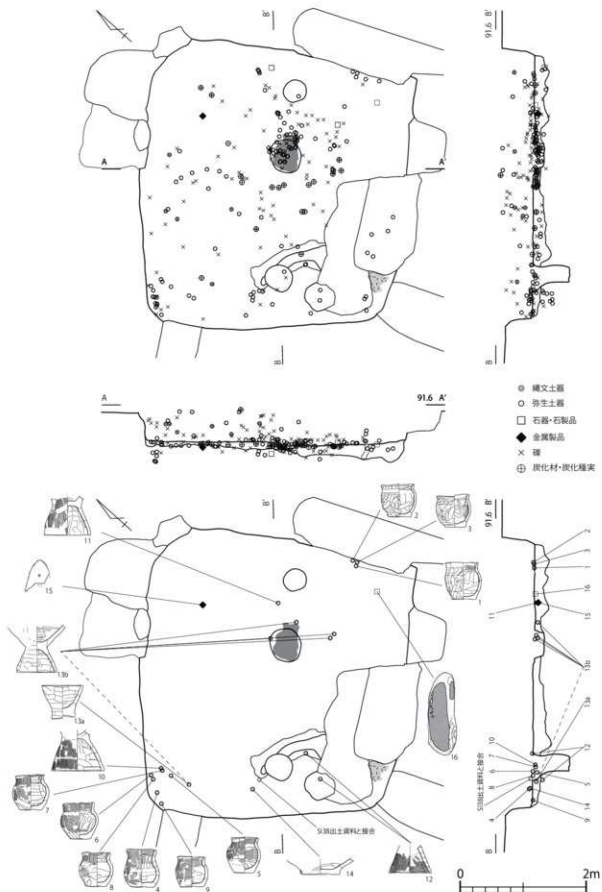
ハケメを残す。一方、2と3は、最大径と器高が同程度で、色調はにぶい黄橙色である。4～9は共通して、外面がハケ調整で、底部外面は中心部がわずかに窪むドーナツ状、焼成が良好で、色調が明るい。4は、最大径に対して器高がやや高く、最大径が胴部下半に位置する。底部外面が平坦に近い。4は、胴部最大径が胴部下半に位置する。5～9は共通して、最大径と器高が同程度である。6は、胴部下半が直線的に開きながら立ち上がる。9は、胴部中間が帯状に張り出すが、5～8と比較すると胴部下半が短いため、器高も低い。

10～13は台付甕の脚部である。10・11・13の脚部(13a)は先述した小型壺とともに出土したため、破損した台付甕脚部を小型壺の代用品として用いたと判断した。10と11は外面がハケ調整、13はナデ調整である。13については、脚部が小型壺とともに出土し、その脚部に坯から出土した胴部の破片が接合した。第147・148図の13aは台付甕脚部を小型壺の代用品したことを想定して図化し、13bは台付甕として接合した全体を図示した。12は、直線的に開く形状で、内面に輪積み痕を良く残す。内外面にハケ調整が施される。

14は、壺の底部である。底部外面は中央部のみがミガキによってドーナツ状に窪む。



第 142 図 SI39(5) 遺物出土状況図 (2)(1/30)



第 143 図 SI39(6) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI39 全景 (南西から)



2. SI39 P1 土層断面 (南東から)



3. SI39 P2 土層断面 (南東から)



4. SI39 P3(貯蔵穴) 土層断面 (東南東から)



5. SI39 P4 土層断面 (南東から)

第 144 図 SI39 写真 (1)



1. SI39 土層断面 B-B' (南東から)



2. SI39 掘り方土層断面 A-A' (南東から)



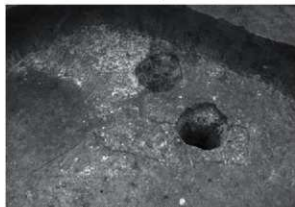
3. SI39 炉土層断面 (南東から)



4. SI39 炉火床部検出状況 (南東から)



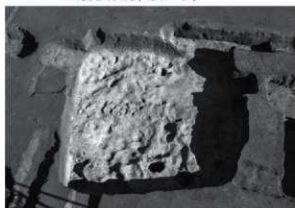
5. SI39 炉掘り方土層断面 (南東から)



6. SI39 土堤検出状況 (北東から)



7. SI39 赤砂土層断面 (東から)



8. SI39 掘り方全景 (南西から)

第 145 図 SI39 写真 (2)



1. SI39 遺物出土状況 (南西から)



2. SI39 遺物出土状況 (南東から)



3. SI39 遺物出土状況 (東北東から)



4. SI39 遺物出土状況 (北北西から)



5. SI39 遺物出土状況 (北北西から)

第 146 図 SI39 写真 (3)

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期 I 段階古相に相当すると考えられる。

石製品 第 147・148 図 15 は、ホルンフェルス製の磨石である。形状は長楕円体に近く、長軸方向に平坦な磨減面を有する。竪穴建物跡東隅床面から出土した。

金属製品 第 147・148 図 16 は、有茎脇扶三角形式（大村 1983）の鉄鏃である。断面は扁平で、中央に穿孔を有する。長さ 3.6cm、幅 1.9cm、厚さ 0.25cm、重量 2.2g である。竪穴建物跡北隅床面から出土した。

炭化材 炭化材が複数出土した。いずれも微細片であるが、多くが床面から出土し、列をなすように分布していることから、焼失した竪穴建物の構造部材の可能性も考えられる。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、荻からイネとアワの炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。（守屋）

SI41（第 149～164 図、第 17・32 表）

遺構 調査区中央部北側の 32N-91・92・93、32O-1・2・3 グリッドに位置する。北側の大部分は調査区外であったため、当初の調査範囲より 40cm 程度北西側に拡張して調査を行ったところ、後述のように、建物跡東隅付近で大量の遺物が出土したため、一通りの調査終了後、その周辺部のみ更に 120cm × 40cm 程度拡張して追加調査を実施した。今回の調査は全体の約 1/3 程度について実施したものと推察される。なお、今回の調査範囲より更に北西側については、日野市教育委員会が発掘調査を実施している。

検出面はⅡ 3 層上で、縄文時代の礫集中 SS13 の一部を切っている。南方 460cm には SI42 が位置している。

平面形態は隅丸長方形が想定される。調査範囲内での長軸（南東-北西）は 292cm で、短軸（南西-北東）は 489cm である。主軸方向は N-55°-W を指すと思われる。検出面から床面までの深さは 74cm を測る。壁はやや開き気味に立ち上がっている。

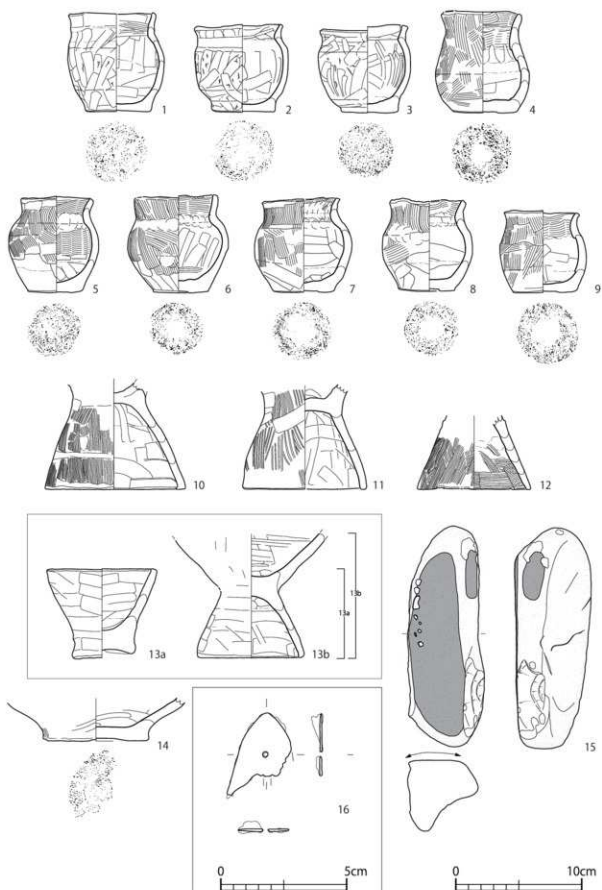
床は貼床で、壁隙を除くほぼ全面が硬化していた。壁溝は検出されていない。主柱穴と思われるピットは、調査範囲内においては P1・4 の 2 基で、その他に南東壁寄りの中央部に梯子穴 P2、更にその北東に貯蔵穴 P3、P3 の北西側に土堤が検出された。

床面までの覆土は 6 層に分けられる。1～3 層は、にぶい黄褐色スコリアを含む黒色土及び黒褐色土がベースで、自然堆積と想定される。床面直上の 3 層では、主に東側の P4 付近で炭化材が顕著に認められた。また、調査区北壁の観察では、1 層上には基本土層のⅡ 2 層がレンズ状に堆積していることが確認された。なお、この調査区北壁では、土壌サンプルを採取し、テフラ分析を実施している（第 V 章第 7 節参照）。

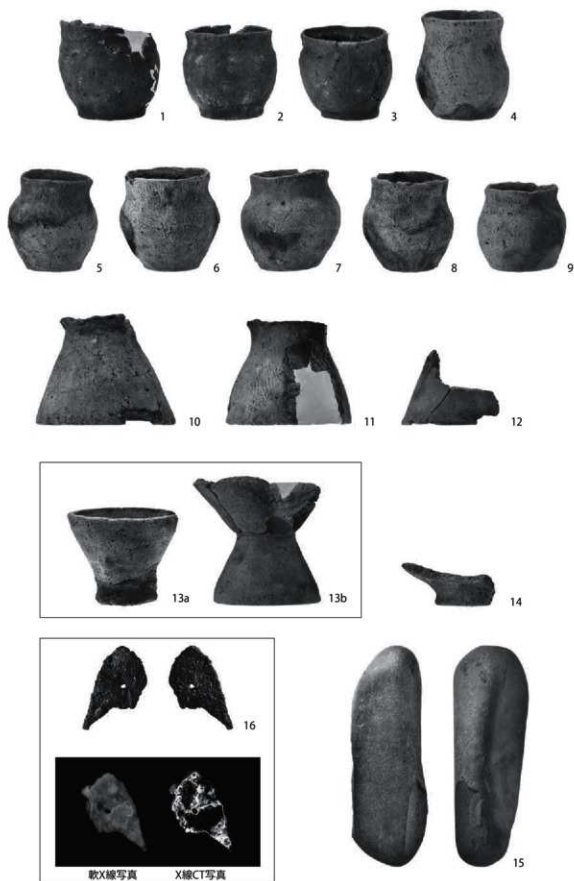
掘り方の掘り込みはやや浅く、床面からの深さは 22cm である。ローム層の上面あたりまで掘り込まれており、底面には大小の凹凸がある。覆土は 4 層に分けられ、Ⅲ 層土がベースでロームブロックや粒子を含む。

主柱穴は P1・4 の 2 基が検出された。P2 は梯子穴と考えられる。長軸 50cm、短軸 40cm、床面からの深さは 16cm と浅い。覆土は 3 層からなり、いずれも水平に堆積している。

貯蔵穴は P3 で、平面形態は不整形な長円形である。規模は長軸 123cm、短軸 61cm、床面からの深さは 36cm を測る。底部は南西側が 1 段深くっており、この深い部分で壺や小型壺、ミニチュア



第147図 SI39出土遺物(1/3・2/3)



第148図 SI39出土遺物写真

第 16 表 SI39 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	地色	赤彩	色調	備考
第 147・148 図	1	甕土 床面	小型壺 (6.5) 7.8 5.1	胴部中間が帯状に張り出し、最大径を有する。最大径に対し、器高がやや高い。底部は円盤状で、外面は平肌。	外面：口縁部縦方向のナデ。胴部縦方向のナデ。底部ナデ。内面：口縁部縦方向のハケ調整後ナデ。胴部縦方向のヘラナデ。	小礫	やや軟質		10YR4/2 灰黄褐色	残存率 60%
	2	甕土 床面	小型壺 7.0 6.9 5.0	胴部中間が帯状に張り出し、最大径を有する。最大径と器高が同程度。底部は円盤状で、外面は平肌。	外面：口縁部ヨコナデ。胴部と底部ナデ。内面：ヘラナデ。	小礫	やや軟質		10YR4/2 灰黄褐色	完形
	3	甕土 床面	小型壺 6.8 7.0 4.4	胴部中間が帯状に張り出し、最大径を有する。最大径と器高が同程度。歪みが大きい。底部は円盤状で、外面は平肌。	外面：口縁部と底部付近縦方向、胴部縦方向のナデ。底部ナデ。内面：縦方向のナデ後一部で縦方向のみナデ。	小礫 雲母	やや軟質		10YR4/2 灰黄褐色	完形
	4	甕土 床面	小型壺 6.0 8.1 5.0	胴部はゆるやかに立ち上がり、胴部下平に最大径を有する。最大径に対して器高が高い。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	粘土厚積み上げ。外面：胴部上平縦方向、下平縦方向のハケ調整。内面：上平縦方向のハケ調整。下平縦方向のナデ。	チャート 石英 小礫	良好		7.5YR7/3 にふい・黄褐色	完形 マサキ?7反
	5	甕土 床面	小型壺 5.7 7.6 4.3	胴部上平に最大径を有する。最大径に対して器高がやや高い。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：ハケ調整。内面：口縁部から胴部上平ハケ調整。胴部下平縦方向のナデ。	長石 石英 小礫 チャート	良好		10YR7/4 にふい・黄褐色	完形
	6	甕土 床面	小型壺 6.8 7.8 4.4	胴部に段を有し、胴部上平に最大径を有する。胴部下平が直線的に開く。最大径と器高が同程度。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：口縁部から胴部上平ハケ調整。下平ナデ。内面：口縁部縦方向のハケ調整。胴部ナデ。	小礫 石英 雲母	良好		10YR5/4 にふい・黄褐色	完形
	7	甕土 床面	小型壺 6.1 7.5 4.8	胴部中間が帯状に張り出し、胴部中央に最大径を有する。最大径と器高が同程度。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：縦方向のハケ調整後一部ヘラナデ。内面：口縁部縦方向のハケ調整。胴部縦方向のヘラナデ。	長石 石英 小礫 チャート	良好		10YR6/4 にふい・黄褐色	完形
	8	甕土 床面	小型壺 6.2 7.4 4.5	胴部中間が帯状に張り出し、胴部中央に最大径を有する。最大径と器高が同程度。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：口縁部縦方向のハケ調整。胴部縦方向のハケ調整及びナデ。内面：口縁部縦方向のハケ調整。胴部ナデ。	小礫 石英 雲母 チャート	良好		10YR6/4 にふい・黄褐色	完形
	9	甕土 床面	小型壺 6.0 6.5 5.0	胴部中間が帯状に張り出し、胴部中央に最大径を有する。最大径と器高が同程度。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：縦方向のハケ調整。内面：口縁部縦方向のハケ調整。胴部ヘラナデ。	小礫 長石 石英	良好		7.5YR7/4 にふい・黄褐色	完形
	10	甕土 床面	台付甕 (8.7) 11.0	胴部はやや内湾する。	外面：胴部縦方向のハケ調整後ナデ。内面：胴部斜め方向のナデ。	小礫多数 (15%)	良好		5YR6/6 褐色	残存率 25% 以下。 台付甕胴部の再利 用。
	11	甕土 床面	台付甕 (8.3) (9.7)	胴部は内湾する。	外面：胴部縦方向の軸足のハケ調整後縦方向のナデ。内面：胴部底ユビナデ。胴部縦方向の軸足のヘラナデ後縦方向のナデ。	小礫 雲母 白色砂粒	良好		7.5YR6/4 にふい・黄褐色	残存率 25% 以下。 台付甕胴部の再利 用。軸足のナデ工 具による軸足のハ ケメ（菊川系の模 倣か？）
	12	甕土 床面	台付甕 6.0 6.0 0.0	直線的に広がる。内面に輪縁み直線を半周に現す。	外面：胴部斜め方向のハケ調整後ナデ。内面：上平ナデ。下平縦方向のハケ調整。	小礫 長石 石英	良好		7.5YR6/4 にふい・黄褐色	残存率 25% 以下
	13a	甕土 床面	台付甕 8.2 7.1 4.3	台付甕胴部の再利 用。内湾する。	外面：縦方向または斜め方向のナ デ。内面：縦方向のナデ。	小礫 石英 雲母	良好		5YR6/4 にふい・黄褐色	残存率 25% 以下。 台付甕胴部の再利 用。
	13b	甕土 床面	台付甕 — 8.2	胴部下平の底部付近の立ち上がりは直線的である。胴部は内湾する。	外面：胴部ナデまたはハケ調整。胴部縦方向または斜め方向のナデ。内面：胴部縦方向のヘラナデ。胴部縦方向のナデ。	小礫 石英 雲母	良好		5YR6/4 にふい・黄褐色 胴部 10YR6/3 にふい・黄褐色	残存率 25% 以下。
	14	甕土 床面	甕 — (8.4)	底部平。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：胴部ミガキ。底部中央部のみミガキ。内面：底部ヘラナデ。	小礫 長石	良好		10YR5/3 にふい・黄褐色	破片

土器等が出土した。覆土は5層に分けられ、そのうち4層は炭化材が主体で、1～3層にも微量の炭化物片や粒子を含むが、5層には含まない。

土堤は、貯蔵穴P3の北西側、主柱穴P4の南西側に位置する。長さ80cm、幅28cm、床面からの高さ2cmを測る。

炉は調査範囲内では検出されなかった。

赤砂は建物跡の東隅で検出された。床面からの盛り上がりは確認されず、床面下に深さ4cmの掘り込み内で赤砂が確認された。

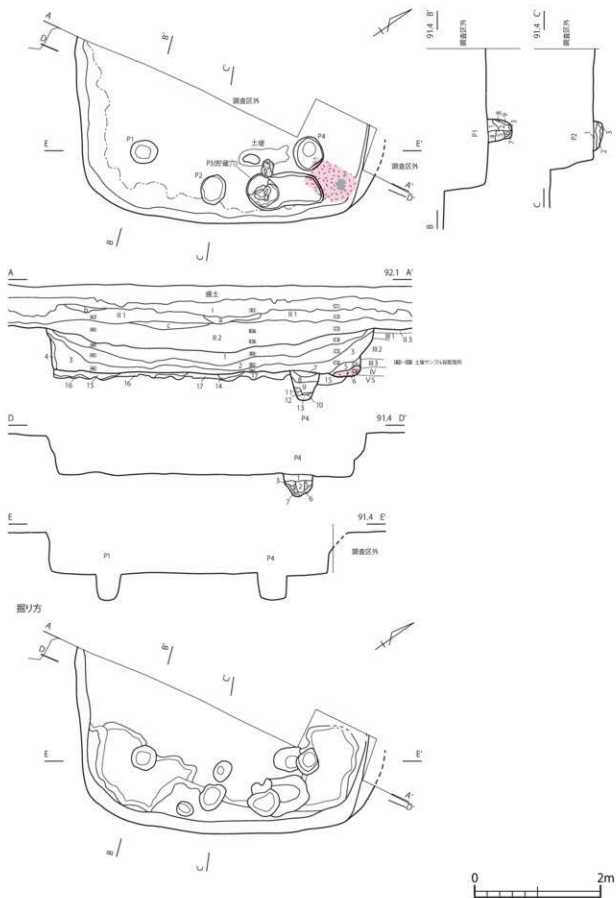
(相原)

出土遺物 縄文土器片4点と弥生土器片207点、土製品2点、石器4点、石製品4点、鉄滓1点、礫58点、炭化材80点が出土した。鉄滓は後世の混入であると判断した。

遺物出土状況 SI41の東隅に遺物が集中して出土した。赤砂堆積箇所の床面に、土器が上から鉢(第161・164図12)、鉢(同13)、台付甕胴部(第160・163図9)の順に正位で重なった状態で出土した。さらにこの北側の床面に、高坏(第161・163図11)、台付甕(第160・163図7)、壺(第159・162図2と3)が密集して出土した。貯蔵穴P3からは、壺(同1)とミニチュア土器(第161・164図15)出土した。また、P3縁辺の床面から、台石(同18)が出土した。

土器 第159・162図1～6は壺である。1は、単口縁の壺である。口唇部は平坦で、口縁部は外反する。器形はイチジク形で、胴部最大径が底部に近い箇所に位置する。外面は丁寧な縦方向のミガキで調整される。底部外面は中央が緩やかに窪み、その部分のみミガキがみられる。また、底部外面に多量のアワ有ふ果圧痕が確認された(第V章第6節参照)。在地化した東海系壺の可能性はある。2は複合口縁で、口縁部上端がわずかに内湾し、頸部は外反する。胴部径に対し、器高は低い。底部は円盤状で、外面はヘラミガキにより平坦である。3は複合口縁で、口縁部は大きく開きながら内湾する。頸部は垂直に近い状態から大きく外反しながら立ち上がる。胴部最大径は胴部中間に位置し、球胴形である。胴部径に対し、器高が高い。胴部外面はミガキ後赤彩が施されている可能性がある。また、図示はしていないが、胴部の一部に籠目痕の可能性のある痕跡が確認されている。4は、小型の壺の口縁である。折り返し口縁であるが、折り返し部分が剥離している。口唇部に単節LR、肩部外面に単節RL、口縁部内面に単節RLで下端がS字状末端結節文の縄文が施文される。駿河・相模湾系の模倣の可能性はある。5は、小型の壺の胴部から底部である。胴部内面上半に輪積み痕を明瞭に残す。最大径は胴部下半に位置する。底部は円盤状で、外面は平坦である。胴部下半から底部にかけて外面が暗赤褐色を呈するが、胎土と焼成によるものであり、赤彩ではない。6は、底部である。胴部は直線的に広がりながら立ち上がる。底部外面中央が緩やかに窪む。

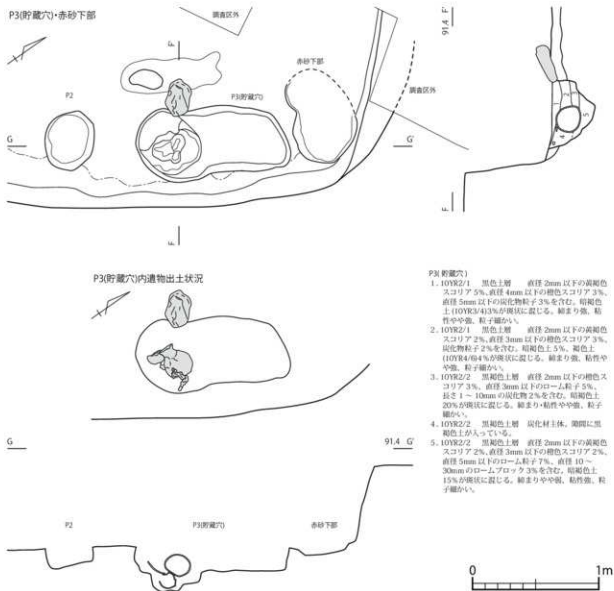
7～10は、台付甕である。7は、いわゆる「多摩型甕」である。口唇部は平坦で、刻みを有する。口縁部は直線的に開き、頸部は強く屈曲する。胴部は球胴形で、外面上半はハケ調整、下半は縦方向のミガキ調整が施される。脚部は直線状に開く。胴部内面に炭化物が付着する。8は、口唇部は平坦で、刻みを有する。口縁部はやや内湾する。口径と胴部最大径がほぼ同じで、胴部最大径が胴部上半に位置し、胴長な器形である。脚部は明瞭な段を有し、内湾する。全体的に作りが粗く、歪な形状である。9は、口縁部から胴部である。口唇部は平坦で、刻みを有する。口縁部は直線的に開く。口縁部外面は斜め方向のケズリ状の粗いヘラナデが施される。胴部上半に最大が位置する。10は、口縁部から胴部で、やや小型である。口縁部は平坦で、刻みは無い。底部外面は外側に膨らむ。



第 149 図 S41(1)(1/60)

SI41

1. 近世以降の組上
- B1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア (10YR5/4)7%、直径3mm以下の黒色スコリア5%、白色砂粒2%、焼土粒子1%未満、直径5mm以下の焼土ブロック1%未満を含む。締まり有り、粘性なし、粘り強い。
- B2. 7.5YR1/1 黒色土層 直径3mm以下の赤い黄褐色スコリア20%、直径2mm以下の赤褐色スコリア3%、直径3mm以下の黒色スコリア10%、白色砂粒2%を含む。締まりやや弱、粘性弱い、粘り強い。
- B3. 7.5YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の赤い黄褐色スコリア (7.5YR5/4)5%、直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア7%、直径3mm以下の黒色スコリア2%を含む。締まり有り、粘性弱、粘り強い。
- a. 7.5YR3/1 黒色土層 土層上をベースとし、土層上ブロック7%が観察される。他に、直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア5%、直径3mm以下の黒色スコリア5%を含む。締まり有り、粘性なし、粘り強い。
- b. 5YR3.5/1 暗褐色土層 土層上をベースとし、少量の土層上が観察。直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア7%、直径3mm以下の黒色スコリア1%を含む。締まり強、粘性に欠け、粘り強い砂質。
- c. 7.5YR2/1 黒色土層 土層上をベースとし、土層上が観察。直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア10%、直径1mmの赤褐色スコリア1%、直径3mm以下の黒色スコリア15%、白色砂粒5%を含む。締まりやや弱、粘性なし、粘り強い。
- 7.5YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の赤い黄褐色スコリア15%、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、直径3mm以下の黒色スコリア5%、白色砂粒7%を含む。締まりやや弱、粘性わずか、粘りやや強い。
- 7.5YR3/1 黒色土層 直径3mm以下の赤い黄褐色スコリア10%、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、直径3mm以下の黒色スコリア2%、白色砂粒5%、ローム粒子3%、焼土粒子2%、直径5mm以下の焼土ブロック1%、炭化物粒子1%、長さ5mm以下の炭化材1%を含む。締まり弱、粘性やや弱、粘り比較的強い。
- 10YR3/1 黒色土層 長さ100mm以下の炭化材5%を含む(偶に塊状で観察)。他に、直径2mm以下の赤い黄褐色スコリア5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子3%、焼土粒子2%、直径7mm以下の焼土ブロック1%、炭化物粒子7%を含む。締まり・粘性やや弱、粘りやや強い。
5. 5YR3/1 黒色土層 土層上をベースとし、ローム粒子3%を含む。締まり・粘性弱、粘り強い。
5. 5YR3/1 黒色土層 直径1mm程度の赤い黄褐色スコリア3%、ローム粒子3%、焼土粒子2%、炭化物粒子7%、長さ20mm以下の炭化材5%を含む。締まり・粘性有り、粘り強い。
6. 2.5YR3/1 暗赤褐色土層 人為的堆積。赤粉から混ざる。他に直径10mm以下の焼土塊1%、焼土粒子1%、炭化物粒子1%を含む。締まり有り、粘性弱、粘りやや弱く砂質。
7. 10YR3/1.5 暗褐色土層 直径25mm以下の焼土ブロック5%を含む。他にローム粒子10%、直径15mm以下のロームブロック1%未満、炭化物粒子・長さ10mm以下の炭化材1%を含む。締まり弱、粘性有り、粘り強い。
8. 10YR3/2 暗褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子15%、直径5mm以下のロームブロック2%を含む。締まり弱、粘性有り、粘り強い。人為的堆積。
9. 10YR3/2.5 暗褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子25%、直径7mm以下のロームブロック2%を含む。締まりは8層より弱、粘性有り、粘り強い。
10. 10YR3/1 暗褐色土層 人為的堆積。黒土層をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子5%を含む。縦糸絡みで締まりは強、粘性有り、粘り極めて強い。
11. 10YR3/1 暗褐色土層 黒土層をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子7%、直径5mm以下のロームブロック2%を含む。締まり・粘性有り、粘り強い。人為的堆積。柱穴掘り方。
12. 10YR5/8 黄褐色土層 ローム粒子ベース。締まり有り、粘性やや弱、粘り強い。人為的堆積。柱穴掘り方。
13. 10YR4/3 赤い黄褐色土層 多量のローム土(ローム粒子50%、直径10mm以下のロームブロック5%)に黒土層を7%含む。締まり・粘性有り、粘り極めて強い。人為的堆積。焼土上、黒土層をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア3%、ローム粒子7%を含む。締まりやや弱、粘性わずか、粘り弱い。
14. 7.5YR2/1 黒色土層 焼土上、黒土層をベースとし、直径4mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子10%、直径10mm以下のロームブロック3%を含む。締まりは硬質で、粘性わずか、粘りやや強い。
16. 10YR3/2 暗褐色土層 焼土上、黒土層をベースとし、直径20mm以下のロームブロック10%が観察。他に、直径2mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子15%を含む。締まりは硬質で、粘性わずか、粘りやや強い。
17. 10YR3/2.5 暗褐色土層 焼土上、黒土層をベースとし、直径2mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子20%、直径15mm以下のロームブロック5%を含む。締まりは硬質で、粘性わずか、粘りやや強い。
- P1
1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%、褐色スコリア3%、ローム粒子10%、直径5mm以下の炭化物粒子3%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が観察に露出。締まりやや弱、粘性弱、粘り強い。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%、直径3mm以下の褐色スコリア3%、直径5～10mmのロームブロック1%を含む。暗褐色土40%が観察に露出。締まりやや弱、粘性弱、粘り強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア5%、褐色スコリア2%を含む。暗褐色土が7%が観察に露出。締まり強く硬化している。粘性弱、粘り強い。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%、褐色スコリア5%、直径5mm以下のローム粒子15%、直径10mm程度のロームブロック3%を含む。暗褐色土10%が観察に露出。締まり・粘性やや弱、粘り強い。
5. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%、褐色スコリア5%、ローム粒子15%、直径5～20mmのロームブロック5%を含む。暗褐色土5%、褐色土10YR4/6)5%が観察に露出。締まり有り、粘性やや弱、粘り強い。
6. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%、褐色スコリア3%、直径3mm以下のローム粒子20%、直径5～20mmのロームブロック5%を含む。暗褐色土30%が観察に露出。締まり有り、粘性弱、粘り強い。
7. 10YR4/6 褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR2/2)3%が観察に露出。締まり・粘性弱、粘り強い。
8. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%、直径5mm以下のローム粒子2%を含む。暗褐色土7%が観察に露出。締まり有り、粘性やや弱、粘り強い。
9. 10YR4/6 褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%、黄褐色スコリア2%、直径4mm以下のローム粒子7%を含む。暗褐色土10%が観察に露出。締まりやや弱、粘性弱、粘り強い。
- P2
1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア5%、直径4mm以下の褐色スコリア5%、炭化物粒子3%を含む。暗褐色土(10YR3/4)7%が観察に露出。締まり・粘性やや弱、粘り強い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各5%、直径2mm以下の炭化物粒子2%、直径5mm以下のローム粒子7%を含む。暗褐色土7%、褐色土(10YR4/6)3%が観察に露出。締まり・粘性やや弱、粘り強い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%、ローム粒子15%、直径4mm以下の褐色スコリア5%を含む。暗褐色土7%、褐色土30%が観察に露出。締まり・粘性やや弱、粘り強い。
- P4
1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア2%、炭化物粒子1%、直径2mm以下の黄褐色スコリア1%、直径5～10mmのロームブロック3%を含む。褐色土(10YR4/6)3%が観察に露出。締まりやや弱、粘性弱、粘り強い。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%、直径5～10mmのロームブロック3%を含む。黒色土(10YR2/1)7%が観察に露出。締まり有り、粘性弱、粘り強い。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア2%、ローム粒子5%、直径10～30mmのロームブロック2%を含む。暗褐色土(10YR3/2)5%、褐色土(10YR4/6)3%が観察に露出。締まり有り、粘性弱、粘り強い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の褐色スコリア3%、直径3mm以下のローム粒子5%を含む。暗褐色土5%、褐色土(10YR4/6)2%が観察に露出。締まりやや弱、粘性弱、粘り強い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の褐色スコリア3%、直径2mm以下のローム粒子2%を含む。暗褐色土3%、褐色土(10YR4/6)2%が観察に露出。締まり有り、粘性弱、粘り強い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の褐色スコリア1%、直径4mm以下のローム粒子5%を含む。暗褐色土(10YR2/2)5%、暗褐色土10%、褐色土3%が観察に露出。締まり・粘性弱、粘り強い。
7. 10YR4/6 褐色土層 直径2mm以下の褐色スコリア2%を含む。黒色土・暗褐色土各5%が観察に露出。締まり・粘性弱、粘り強い。



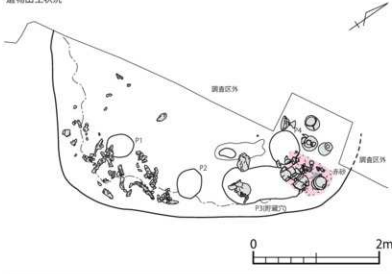
第 151 図 SI41(3) 貯蔵穴・赤砂下部 (1/30)

第 161・163 図 11 は、高弁である。口縁部は直線的に垂直に立ち上がる。弁部はやや内湾し、下半の外面と内面の両方に明瞭な稜を有する。脚部は内湾し、3 箇所に穿孔を有する。口径に対し、器高は高い。ミガキ後、内外面に赤彩される。欠山式または屋敷敷系の古段階の可能性はある。

第 161・164 図 12 ~ 14 は鉢である。12 と 13 は、口径に対して器高が低い。12 は単口縁で、口縁部は直線的に立ち上がる。胴部下半に明瞭な屈曲部を有する。外面は縦方向のハケ調整後、縦方向のミガキが施されるが、ハケメが明瞭に残る。13 は単口縁で、口唇部は平坦である。口縁部はやや外反する。胴部下半に明瞭な稜線を有する。底部外面は中央が緩やかに窪む。胎土に石英を多く含む。14 は、小型の鉢である。口唇部は平坦で、口縁部は外側に向かって摘み出される。大きく内湾し、碗状を呈する。

15 は、ミニチュア土器の底部である。底部外面がやや膨らむ。

遺物出土状況



土器内土層

第159図2 壺胴部内土層増殖状況

1. 10YR1.7/1 黒色土層 長さ5～10mmの炭化物片3%, 直径0.1～0.5mmの白色砂粒2%, 直径3～10mmの礫2%を含む。2層に比べて粘まりが弱く、さらさらしている。粘性弱。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径5～30mmの炭化物片5%, 直径0.5～1mmの赤色砂粒5%, 直径0.1～0.5mmの白色砂粒2%, 直径3～5mmの礫2%を含む。土がブロック状に固まっており、1層と比較して粘まりが強い。粘性有り。

第159図3 壺胴部内土層増殖状況

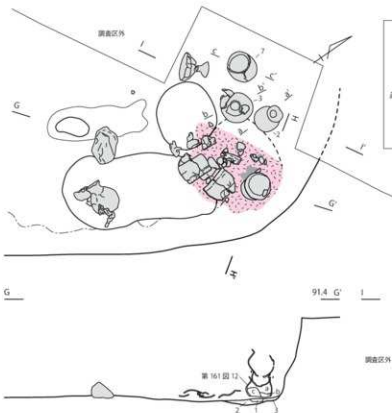
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の炭化物粒子1%, 直径0.1～0.5mmの白色砂粒2%を含む。粘まり有り。前面付近で土がブロック状に固まり、粘性極めて強い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2～5mmの焼土粒子2%, 長さ3～30mmの炭化物片15%, 直径0.5～1mmの赤色砂粒10%, 直径0.5～1mmの白色砂粒10%を含む。1層とは明確に異なり、炭化物片と砂粒を多量に含む。砂質以上。粘まり弱。粘性極めて弱い。

第160図7 砂付壺胴部内土層増殖状況

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子2%, 直径0.5～1mmの赤色砂粒5%, 直径0.1～0.5mmの白色砂粒3%を含む。粘まり弱。粘性弱。
2. 7.5YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の炭化物粒子2%, 直径0.5～1mmの赤色砂粒5%, 直径0.1～0.5mmの白色砂粒3%, 直径20mm以下の礫3%を含む。粘まり弱。粘性極めて弱い。



土器内断面模式図



土器内土層

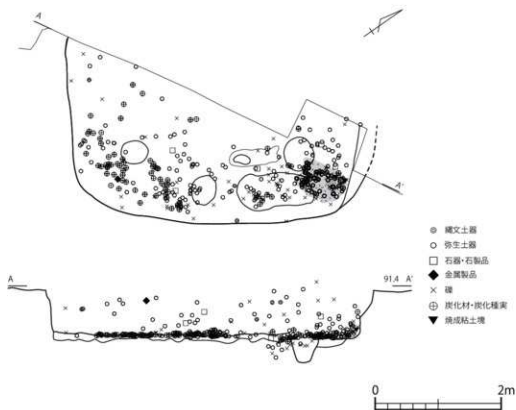
南東隅出土土器 3段目(第161図12)内土層増殖状況

- a. 5YR3/3 暗赤褐色土層 赤砂。直径3mm以下の黄褐色スコリア3%, 褐色スコリア1%, 直径1mm以下の白色砂粒15%を含む。黒褐色土(10YR2/2)2%が混在に散じる。粘まり-粘性やや強。粒子やや粗く砂質。
- b. 7.5YR2/3 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各1%, 直径1mm以下の白色砂粒10%を含む。赤砂(5YR3/3)20%が混在に散じる。粘まりやや強。粘性有り。粒子細かい。
- c. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア、褐色スコリア各1%, 直径1mm以下の白色砂粒5%を含む。赤砂3%, 暗褐色土(7.5YR2/3)5%が混在に散じる。粘まり-粘性有り。粒子やや粗いが1層よりは細かい。

赤砂下部

1. 7.5YR2/2 暗褐色土層 直径5mm以下の黄褐色スコリア3%, 直径2mm以下の褐色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR4/4)10%, 赤砂(7.5YR2/3)15%が混在に散じる。粘まり有り。粘性やや強。粒子細かい。
2. 7.5YR2/2 暗褐色土層 直径5mm以下の黄褐色スコリア5%, 直径3mm以下の褐色スコリア3%, 長さ10mm以下の炭化物2%を含む。黒色土(10YR2/1)5%が混在に散じる。粘まり-粘性強。粒子細かい。
3. 7.5YR2/3 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%, 褐色スコリア5%, 暗褐色土(10YR3/3)3%が混在に散じる。粘まりやや強。粘性強。粒子細かい。

第152図 SI41(4) 遺物出土状況図(1/60・1/30)



第 153 図 SI41(5) 遺物分布図 (1/60)

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期 I 段階古相に相当すると考えられる。

石製品 第 161・164 図 16 は、アブライト製の磨石である。形状は楕円体で、全面が磨滅している。17 は、砂岩（銚子砂岩）製の磨石である。平面形状は楕円形で、側面形状は扁平である。一方の平坦面が磨滅する。SI47 出土磨石（第 202・204 図 14）と類似する。18 は、砂岩製の台石である。両方の平坦面に磨滅面を有する。

炭化材 南隅の床面直上を中心に、炭化材が非常に多数出土しており、焼失した竪穴建物の構造部材と考えられる。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、貯蔵穴と考えられる P3 から、イネとキビ、オオムギ・コムギ、ダイズ属、オニグルミ等の炭化種実が検出された。また、P3 から出土した壺（第 159・162 図 1）内土壌からも、イネ、イヌタデ属、ダイズ属等の炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。（守屋）

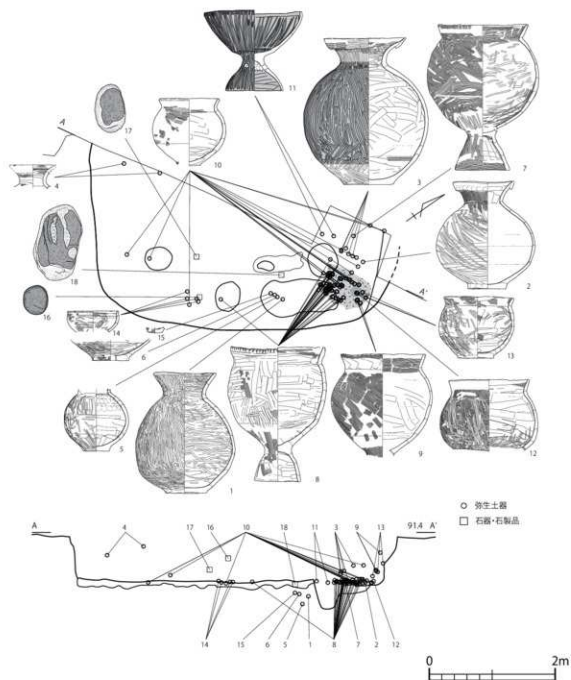
SI42（第 165～172 図、第 18 表）

遺構 調査区中央部北側の 320・12・13・22・23 グリッドに位置する。

検出面はⅢ層上で、近世以降の遺構である SKK522・523・524・526 に壁や床面の一部を切られている。また、北方 460cm には SI41 が位置している。

平面形態はやや角の丸みの強い隅丸長方形で、長軸（南北）は 418cm で、短軸（東西）は 373cm で、主軸方向は N-30°-W を指す。検出面から床面までは 28cm で、壁は内湾したのち垂直に立ち上がる。

床は貼床で、壁際を除く広い範囲で硬化が見られた。溝溝は無い。主柱穴と思われるピット P1～4、



第 154 図 SI41(6) 遺物接合図 (1/60)



1. SI41 全景 (南東から)



2. SI41 P1土層断面 (南西から)



3. SI41 P4土層断面 D-D' (南南東から)



4. SI41 P2土層断面 (南西から)



5. SI41 土壌サンプル採取位置 (南南東から)

第155図 SI41 写真(1)



1. SI41 土層断面 (南南東から)



2. SI41 P3(貯蔵穴)土層断面 (北東から)



3. SI41 P3(貯蔵穴)遺物出土状況 (南東から)



4. SI41 赤砂・粘土検出状況 (南西から)



5. SI41 炭化材検出状況 (南東から)

第 156 図 SI41 写真 (2)



1. SI41 遺物出土状況 (北西から)



2. SI41 遺物出土状況 (南南西から)



3. SI41 遺物出土状況 (南西から)



4. SI41 遺物出土状況・赤砂検出状況 (南西から)



5. SI41 遺物出土状況 (南西から)

第 157 図 SI41 写真 (3)



1. SI41 遺物出土状況 (南南東から)



2. SI41 遺物出土状況 (東北東から)



3. SI41 遺物出土状況 (南南東から)

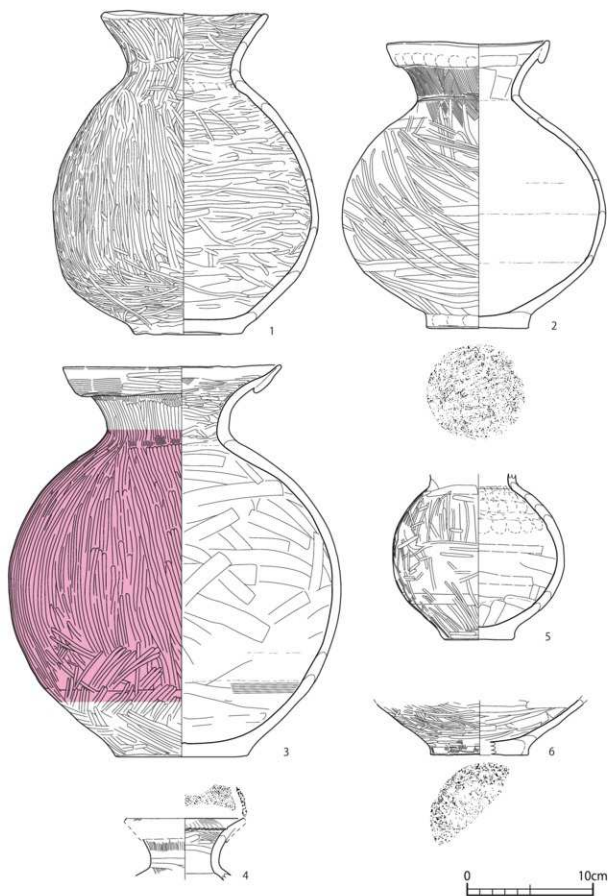


4. SI41 遺物出土状況 (南から)



5. SI41 遺物出土状況 (南南東から)

第 158 図 SI41 写真 (4)



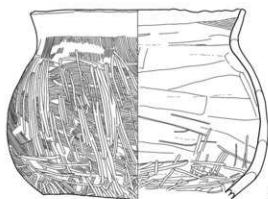
第159図 SI41出土遺物(1)(1/3)



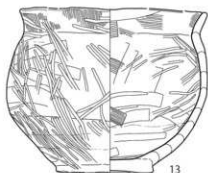
第160図 SI41出土遺物(2)(1/3)



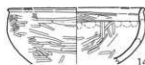
11



12



13



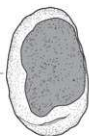
14



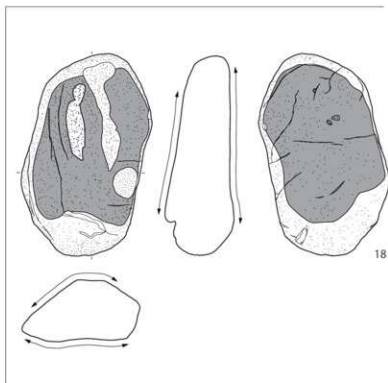
15



16



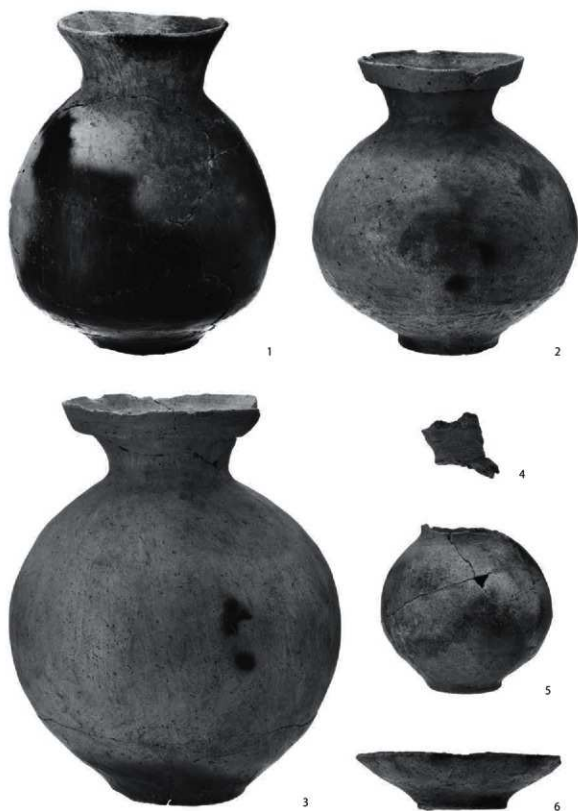
17



18



第161图 SI41出土遺物(3)(1/3·1/6)



第162図 SI41出土遺物写真(1)



7



8



9

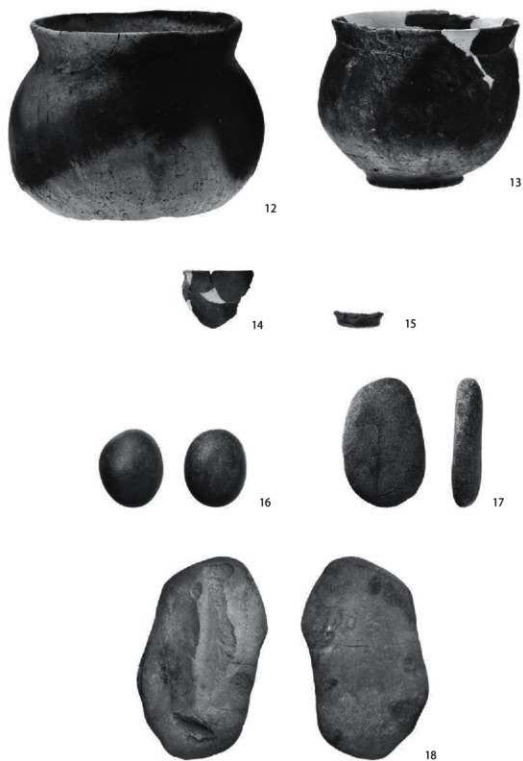


10



11

第163图 SI41出土遺物写真(2)



第164図 S41出土遺物写真(3)

第 17 表 SI41 出土土器観察表 (1)

図	番号	層位	器種	注量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第 159 + 162 図	1	P3 覆土	甕	12.6 25.5 8.7	口縁部は平坦で、口縁部は外反。器形はイシジク形で、胴部最大径は胴部下半に位置する。底部外面は縦やかに窪む。	外面：口縁部から胴部上半縦方向のミガキ。下半横方向のミガキ。底部中央ミガキ。内面：口縁部から胴部横方向のミガキ。	小礫 長石	良好		2.5Y7/4 浅黄	完形。在地化した東海系遺か？底部外面多量注産（アワ有ふ果、キビ類果？）
	2	覆土 床面	甕	12.3 22.9 8.0	複合口縁で、口縁部内面に明瞭な稜線を有する。頂部は外反する。胴部下半に最大径が位置する。胴部底に対し、器高は低い。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：口縁部ユビオサエ後ナデ。胴部縦方向のハケ調整。胴部上半ハケ調整後縦方向のミガキ。下半縦方向または横方向のミガキ。内面：口縁部ハケ調整後ナデ。胴部ヘラナデ。	小礫 石英 雲母	良好		10YR7/4 にふい貴糖	完形。
	3	覆土 床面	甕	17.2 31.1 10.4	複合口縁で、口縁は内湾する。頸部と肩部の境界は強く屈曲し、頸部は垂直に近い形状から大きく外反しながら立ち上がる。胴部最大径は胴部中間に位置し、球梨形である。	外面：口縁部横方向のハケ調整後縦方向のミガキ。胴部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。胴部斜めまたは横方向のハケ調整後縦方向のミガキ。内面：口縁部から胴部横方向のハケ調整後縦方向のミガキ。胴部横方向のナデ。胴部下半の一部で横方向のハケ調整。	中・小礫 チャート 石英	良好	外面	10YR8/4 浅黄緑	ほぼ完形 龍口部の可能性のある痕跡あり
	4	覆土 上から 中層	甕	— — —	小型の甕である。口縁は複合口縁で、大きく外反する。頸部と肩部の境は強く屈曲する。	外面：口縁部単部 1 反。口縁部から胴部縦方向のハケ調整後頸部のみ横方向のナデ。肩部単部 2 反。内面：口縁部単部 2 反。S 端。頸部から肩部ハケ調整後横方向のナデ。	小礫 石英 白色砂粒	良好		10YR6/4 にふい貴糖	残存率 25% 以下。 複合口縁の口縁部が割落。頸部・相模湾系の模倣か？
	5	覆土 床面	甕	— (13.1) 5.2	胴部内面上半に輪帯面を明瞭に残す。最大径は胴部下半に位置する。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：ヘラナデ後縦方向のミガキ。内面：横方向のヘラナデ。上半輪帯面部分ユビオサエ。	小礫	良好		10YR6/4 ~ 2.5YR3/6 にふい貴糖 ～暗赤褐	残存率 80%。小 の甕
	6	覆土 床面	甕	— (5.2) (9.2)	胴部は直線的に立ち上がりながら立ち上がる。底部外面中央が縦やかに窪む。	外面：胴部縦方向、底部付近縦方向のミガキ。底部外面縦方向のハケ調整。内面：横方向のヘラナデ。断面：上半・下半接合面はハケ状工具で平坦に面取り。	小礫 白色砂粒	良好		10YR7/4 にふい貴糖	残存率 25% 以下。 不明実注産
	7	覆土 床面	台付甕	18.5 30.9 11.5	口縁は平坦で、切みを有する。口縁部は直線的に開く。球梨形である。頸部はやや内湾し、下腹内面は折り返し状となる。	外面：口縁部斜め方向のハケ調整後横方向のナデ。胴部上半縦方向、下半横方向のハケ調整。胴部下半縦方向のミガキ。胴部縦方向のハケ調整後横方向のミガキ。内面：口縁部横方向のハケ調整。胴部ナデまたはハケ調整後横方向のミガキ。胴部底ミガキ。胴部横方向のヘラナデまたはハケ調整。	小礫 雲母	良好		10YR7/4 にふい貴糖 胴部下半 2.5YR6/4 にふい貴糖	完形。 多摩型遺上。 胴部底部に炭化物付着 アワ有ふ果・蘋果注産 赤みが顕著なため、接合・復元できなかった。
	8	覆土 床面	台付甕	19.5 28.4 9.7	口縁は平坦で、切みを有する。口縁部はやや内湾する。口径と胴部最大径がほぼ同じで、胴部最大径が胴部上半に位置するため胴部は球形である。胴部は明瞭な段を有し、内湾する。	外面：口縁部外から胴部ハケ調整後横方向のナデ。胴部縦方向のハケ調整後上半はナデ。下半ヘラ状工具によるミガキ。ハケをよく残す箇所もある。胴部縦方向のハケ調整後一部ナデ。内面：口縁部横方向のハケ調整後一部横方向のヘラナデ。胴部上半横方向のヘラナデ。下半ナデ後縦方向のミガキ。胴部横方向のヘラナデ。	小礫 長石 チャート 雲母	良好		2.5YR5/4 にふい赤褐	ほぼ完形 アワ果実注産
	9	覆土 床面	台付甕	17.2 (21.5) —	口縁は平坦で、切みを有する。切みの間隔は比較的広い。口縁部は直線的に開く。口縁部外面が表面が粗く残る。最大径は胴部上半に位置する。	外面：口縁部ハケ調整後切み。口縁部斜め方向のケズリに近い粗いヘラナデ。胴部斜め方向のハケ調整。胴部付近縦方向のヘラナデ。内面：口縁部横方向のハケ調整。胴部横方向のヘラナデ。	小礫 角閃石 雲母 白色砂粒	良好		2.5YR6/8 粗	残存率 70%。口縁部外面粗い。内面全体に炭化物付着。イネ果実注産
	10	覆土 床面	台付甕	(12.4) — —	口縁は平坦。球梨形で、比較的小型である。	外面：口縁部横方向のナデ。胴部斜め方向のハケ調整。内面：口縁部横方向のハケ調整後ナデ。胴部横方向のナデ。	小礫 石英 雲母 白色粘土	良好		10YR3/1 黒褐	残存率 25 ~ 50%

第 17 表 SI41 出土土器観察表 (2)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第 161・163 図	11	覆土床面	高坪	20.6 17.0 12.2	杯部の口縁は内湾する。杯部の外面と内面の両方に明瞭な稜を有する。脚部は内湾し、3 箇所、浮丸を有する。口徑に対し、底高は高い。	外面：杯部ハケ調整後縦方向のミガキ。脚部ハケ調整後縦方向のミガキ。内面：杯部縦方向のミガキ。脚部縦方向のミガキ。	小礫 石英 雲母	良好	外面 内面	2.5YR6/6 橙	ほぼ完成。欠山式または元屋敷敷の古瓦割か？アワ有ふ渠・渠型、不明確定止痕
	12	覆土第 164 図 13 の上	鉢	16.7 (15.1)	口縁部は平坦。胴部下に明瞭な稜を有する。	外面：口縁部縦方向のハケ調整後横方向のナデ。胴部横あるいは斜め方向のハケ調整後に縦方向のミガキ。内面：口縁部横方向のハケ調整後ナデ。胴部上半横方向のヘラナデ。下半ナデ後横方向のミガキ。	小礫 石英 雲母 白色砂粒	良好		7.5YR7/3 にぶい橙	残存率 80%。アワ有渠止痕
第 161・164 図	13	覆土第 163 図 7 の上	鉢	14.4 13.1 7.6	口縁部は平坦。口徑に対して器高が小さい。胴部最大径は下平に位置する。胴部下に明瞭な稜を有する。底部は円盤状で、外面中央部が緩やかに窪む。	外面：口縁部縦方向のハケ調整後ミガキ。胴部横または斜め方向のナデ後横方向のミガキ。底部中央はミガキ。内面：口縁部横方向のハケ調整。胴部横方向のナデ後横方向のミガキ。	石英 炭石 小礫	良好		7.5YR2/1 黒 底部付近 7.5YR6/4 にぶい橙	ほぼ完成。胎土に石英が多い。外面にスス付き。直炊きの痕跡。イネ類入止痕
	14	覆土床面	鉢	(10.8) —	口縁部は外面に向かって傾み出される。大きく内湾し、縁状を付する。	外面：口縁部ナデ。胴部ハケ調整後横方向のミガキ。内面：口縁部横方向のハケ調整後ミガキ。胴部斜め方向のミガキ。	小礫 石英	良好		5YR4/4 にぶい赤褐	残存率 25% 以下
	15	P3 覆土	ミニチュア土器 (壺)	— 3.3	小型の底部片。底部外面は外側に膨らむ。	外面：底部付近ハケ調整後ナデ。底部ミガキ。内面：底部ナデ。	小礫 炭石 白色砂粒	良好		5YR3/2 暗赤褐	破片

南東壁寄りの中央に梯子穴 P5、その北東に貯蔵穴 P6、建物跡中央部の北寄りに炉、P5 と P6 の北西側にそれぞれ土堤が検出された。

床面までの覆土は 4 層に分けられる。黄褐色系のスコリアを含む黒色土がベースとなっている。

掘り方は、全体の中央部は浅く、その周囲から壁際にかけては深く掘り込まれており、浅い部分は基本土層のⅢ～Ⅳ層、深い部分がローム層の上面辺りまで達している。掘り方の覆土はⅢ層がベースの黒色土が主体で、ロームの混入は少ない。

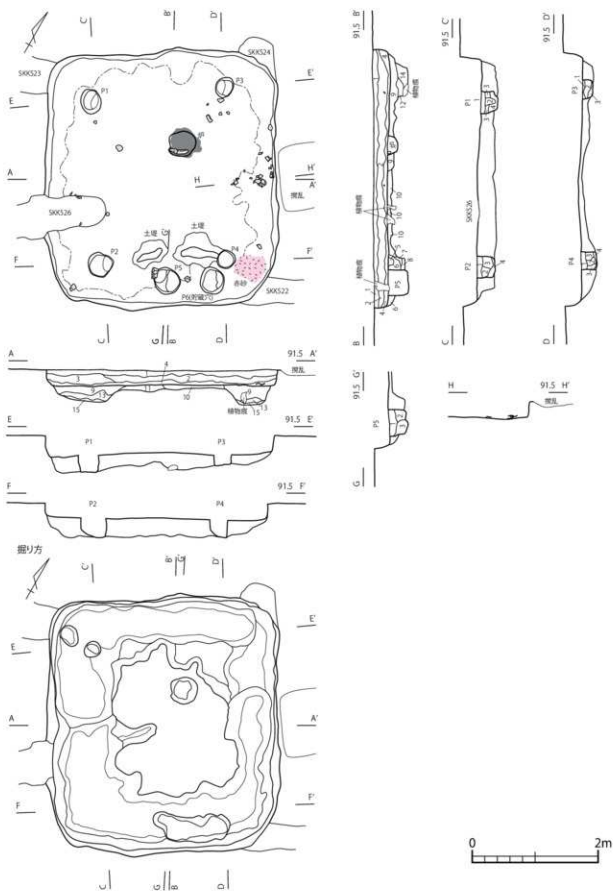
主柱穴としては P1～4 の 4 基を調査したが、底面の深さが床面の掘り方とほぼ同じであり、覆土も掘り方覆土との差異は無く、ピットではない可能性も否定できない。

P5 は梯子穴と考えられる。平面形態は楕円形、断面はコ字状を呈し、長軸 45cm、短軸 39cm、床面からの深さは 32cm を測る。

貯蔵穴は P6 で、平面形態はやや不整形な円形である。底部はわずかな段差を有し、壁は概ね垂直に立ち上がっている。規模は長軸 45cm、短軸 40cm の楕円形で、床面からの深さ 30cm を測る。覆土は 3 層に分けられ、土器小片等が出土している。

土堤は、梯子穴 P5 と貯蔵穴 P6 の北西側に 2 つに分割された状態で検出された。本来、一連のものであった可能性もある。P5 側が長さ 59cm、38cm、床面からの高さ 1cm、P6 側が長さ 83cm、幅 62cm、床面からの高さ 1cm を測る。P6 側のものは東端が P4 に接しているが、新旧関係は不明である。いずれも、黒色土を主体とする土壌を突き固めて構築されている。

炉は地床炉で不整形な円形を呈する。長軸 42cm、短軸 39cm を測る。炉の南寄りには枕石が置かれている。石材は砂岩で、被熱による赤化と煤の付着が認められた。長年に亘って被熱していたとみられ、脆くなっている。炉の掘り方はローム面まで達し、掘り方の覆土上に火床部を持ち、中央部付



第 165 図 S142(1)(1/60)

SI42

1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の褐色スコリア5%・にぶい黄褐色スコリア(10YR6/4)10%・直径3mm以下の黒色スコリア3%・直径1mm以下の浅黄褐色粒子5%を含む。細まり・粘性有り、粘子層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の褐色スコリア2%・黄褐色スコリア5%を含む。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の褐色スコリア5%・黄褐色スコリア7%を含む。黒褐色土(10YR2/2)1%・硬質ブロックが散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の褐色・黄褐色スコリア各2%を含む。黒褐色土3%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%・直径2mm以下のにぶい黄褐色粒子3%を含む。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア3%・直径3mm以下のにぶい黄褐色粒子5%を含む。黒褐色土5%・暗褐色土(10YR3/3)1%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア1%・直径3mm以下の褐色スコリア1%・にぶい黄褐色粒子5%を含む。黒褐色土5%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%・直径3mm以下の褐色スコリア2%・にぶい黄褐色粒子5%を含む。黒褐色土5%・暗褐色土(10YR3/4)2%・褐色土(10YR4/6)3%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
9. 10YR2/1 黒色土層 灰床土。直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア1%・にぶい黄褐色粒子7%を含む。黒褐色土5%・暗褐色土(10YR3/3)1%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 灰床土。直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア1%を含む。黒褐色土(10YR2/1)3%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
11. 10YR2/1 黒色土層 灰床土。直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア2%・直径1mm程度のにぶい黄褐色粒子5%を含む。黒褐色土15%・暗褐色土(10YR3/3)3%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
12. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の褐色スコリア1%・にぶい黄褐色粒子5%・直径1mm程度の黄褐色スコリア1%を含む。黒褐色土10%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
13. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア2%・にぶい黄褐色粒子5%・直径1mm以下の白色砂粒7%を含む。暗褐色土(10YR3/2)20%・暗褐色土(10YR3/4)7%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
14. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア1%・にぶい黄褐色粒子7%を含む。黒褐色土15%・暗褐色土(10YR3/4)7%が散在に散見。細まり有り、粘性やや強、粘子層が浅い。
15. 10YR3/4 暗褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%を含む。黒褐色土2%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
- P1
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア2%・直径2mm以下の褐色スコリア3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の褐色スコリア2%を含む。黒褐色土(10YR2/1)15%・暗褐色土(10YR3/4)30%が散在に散見。細まり有り、粘性やや強、粘子層が浅い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア1%・褐色スコリア2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm程度の褐色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR3/3)7%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
- P2
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア1%・直径2mm以下の褐色スコリア3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)3%が散在に散見。細まり有り部分にやや強、粘性、粘子層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の褐色スコリア1%を含む。黒褐色土(10YR2/2)2%が散在に散見。細まり有り、粘性やや強、粘子層が浅い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm程度の褐色スコリア2%を含む。暗褐色土(10YR3/4)10%・褐色土(10YR2/1)5%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
4. 10YR3/2 暗褐色土層 直径2mm以下の褐色スコリア2%を含む。暗褐色土(10YR3/4)3%・黒色土(10YR2/1)2%が散在に散見。細まり有り、粘性やや強、粘子層が浅い。
- P3
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア1%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)10%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
3. 10YR3/3 暗褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
- P4
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア1%を含む。黒褐色土(10YR2/2)10%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア2%・直径3～5mmの赤褐色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR3/4)10%・黒褐色土(10YR2/2)7%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘性やや強、粘子層が浅い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア2%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が散在に散見。細まり強、粘性やや強、粘子層が浅い。
4. 10YR3/4 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%を含む。黒色土(10YR2/1)5%・褐色土(10YR4/6)3%が散在に散見。細まりやや強、粘性、粘子層が浅い。
- P5
1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア5%・直径3mm以下の褐色スコリア3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)3%が散在に散見。細まり・粘性やや強、粘子層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア2%を含む。褐色土(10YR4/6)2%が散在に散見。細まり有り、粘性、粘子層が浅い。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各2%を含む。暗褐色土(10YR3/4)15%が散在に散見。細まりやや強、粘性、粘子層が浅い。

第166図 SI42(2)

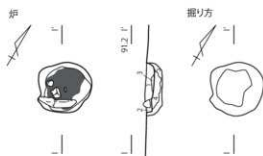
近が比較的強く被熱している。

赤砂は建物跡東側の壁際で検出された。床面からの盛り上がりはわずかに確認され、赤黒色砂質粒子が40%と主体を占める他、灰も1%ほど混入していた。(相原)

出土遺物 縄文土器片2点と弥生土器片133点、土師器2点、石器2点、石製品1点、礫231点が出土した。

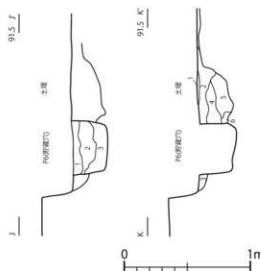
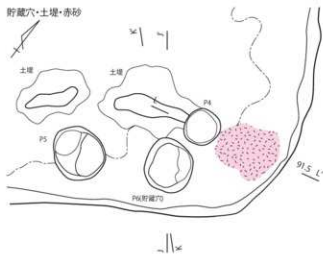
遺物出土状況 遺物は竪穴建物跡北東壁側から集中して出土した。北東壁側の床面から、壺(第171・172図1・2・4)が纏まって出土した。また、2はSI35の東隅床面から出土した破片と遺構間接合した。

土器 第171・172図1～4は、壺である。1は、ヒサゴ形壺に近い形状を呈する。口唇部は丸みを帯び、口縁部は受口状に内湾する。胴部上半は丸みを帯び、下半は外反しながら立ち上がる。最大径は胴部中間から下半に位置する。底部外面は平坦である。内外面ともにミガキが施される。2は、ヒサゴ形壺である。口唇部は一部へら状工具で面取りされるが、丸みを帯びる。口縁部は直線状に開き、肩部にやや緩やかな稜を有する。胴部下半に明瞭な稜を有し、この稜が最大径となる。胴部下半は内湾する。底部外面はミガキにより平坦である。外面と口縁部内面は丁寧なミガキ、胴部内面はへ



- 歩
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色スコリア 2%、直径 5mm 以下の焼土粒子 7% を含む。焼土・焼副焼色 7.5YR2/3.7% が焼灰に散じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程の黄褐色スコリア 2%、直径 2mm 以下の焼土粒子 2% を含む。焼土 3% が焼灰に散じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 3. 7.5YR2/3 焼副焼色土層 直径 10mm 以下の焼土粒子 15% を含む。黒色土 (10YR1.7/1) 10% が焼灰に散じる。結まり・粘性有り、粒子やや粗い。
 4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 15% を含む。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
 5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3% を含む。結まり・粘性やや強、粒子細かい。

貯蔵穴・土堤・赤砂



赤砂

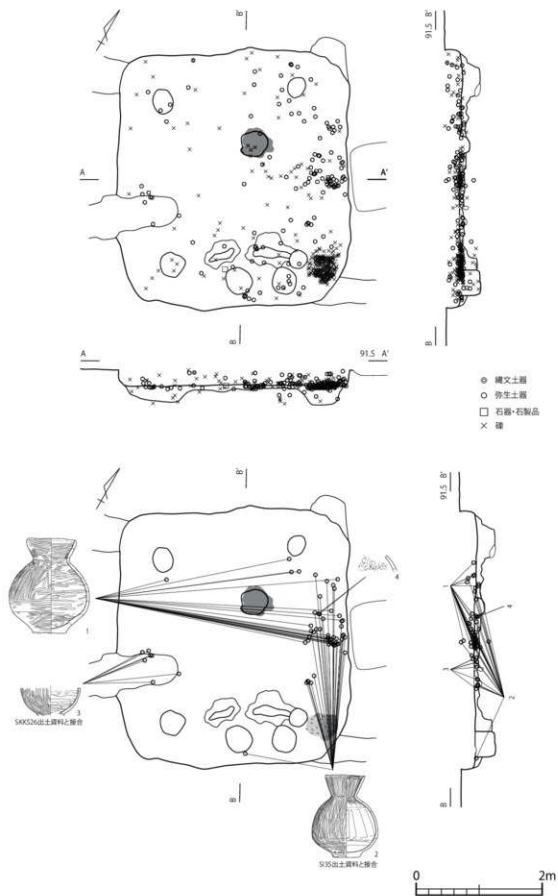
1. 10YR2/1 黒色土層 赤砂、赤黒色砂鉄粒子 (2.5YR2/1) 40% が焼灰に散じる。直径 2mm 以下の褐色スコリア 5%・焼土粒子 2%、直径 1mm 以下の白色砂粒 15%、直径 3mm 以下の炭化物粒子、直径 10mm 以下の小礫、灰 (浅黄褐色 10YR8/4) 各 1% を含む。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。

P6(貯蔵穴)

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の褐色スコリア 5% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 5% が焼灰に散じる。結まり・粘性強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直径 1mm 程の褐色スコリア 2% を含む。黒色土 (10YR2/1) 5%、暗褐色土 (10YR3/4) 2% が焼灰に散じる。結まりやや強、粘性強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%、直径 2mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 3%、暗褐色土 (10YR3/4) 15% が焼灰に散じる。結まりやや強、粘性強、粒子細かい。

土堤

1. 10YR2/1 黒色土層 土堤、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%、暗褐色土 (10YR3/4) 10% が焼灰に散じる。結まり極めて強、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 堅床土、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 3%・にぶい黄褐色粒子 3% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%、暗褐色土 (10YR3/4) 20% が焼灰に散じる。結まり強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 堅床土、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 1% を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 20% が焼灰に散じる。結まり強、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 1%・にぶい黄褐色粒子 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10%、暗褐色土 (10YR3/4) 30% が焼灰に散じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア、にぶい黄褐色粒子 各 1%、直径 4mm 以下のローム粒子 15%、直径 5～30mm のロームブロック 3% を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 10% が焼灰に散じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR2/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。黒色土 (10YR2/1) 5%、褐色土 (10YR4/6) 2% が焼灰に散じる。結まりやや強、粘性強、粒子細かい。



第 168 図 SI42(4) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI42 全景 (南南東から)



2. SI42 P1 土層断面 (東北東から)



3. SI42 P4 土層断面 (東北東から)



4. SI42 P5 土層断面 (東北東から)



5. SI42 P6(貯蔵穴) 土層断面 (東北東から)

第 169 図 SI42 写真 (1)



1. SI42 土層断面 A-A'(南南東から)



2. SI42 土層断面 B-B'(東北東から)



3. SI42 赤砂検出状況(西北西から)



4. SI42 掘り方全景(南南東から)



5. SI42 炉全景(南南東から)



6. SI42 炉土層断面(東北東から)

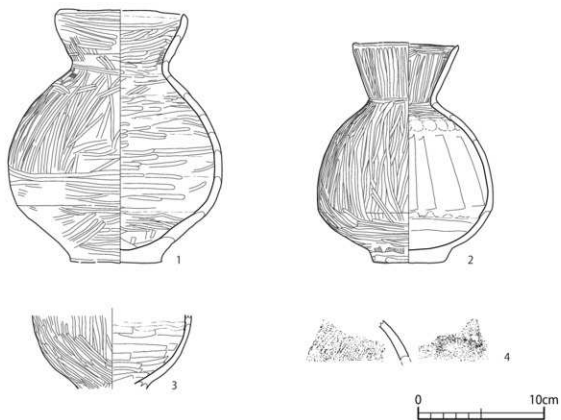


7. SI42 炉火床部検出状況(南南東から)



8. SI42 炉掘り方土層断面(東北東から)

第170図 SI42 写真(2)



第171図 SI42出土遺物(1/3)



第172図 SI42出土遺物写真

第18表 SI42 出土土器観察表

図	番号	層位	器種	量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第171・172図	1	覆土床面	壺	9.9 20.2 (7.2)	受口は口縁、胴部上半は丸みを帯び、下半は外反しなから立ち上がる。最大径は胴部中間からト干に位置する。口縁部は丸みを帯びる。底部外面は平坦。	外面：口縁部横方向、胴部上半縦方向、下半縦方向のミガキ。内面：口縁部から胴部上半横方向のミガキ。下半横方向のヘラナデ縦横方向のミガキ。	小礫	良好		7.5YR7/4にぶい橙	残存率60%。イロハセミシ近似種実用土版
	2	覆土床面 SI35床面	壺	(8.1) 17.4 5.7	口縁はやや受口状。胴部に緩やかな稜。胴部下半に明瞭な屈曲部を有する。ト干の稜が最大径となる。口縁部は丸みを帯びる。底部外面は平坦。	外面：口縁部から胴部上半縦方向のミガキ。下半縦方向のミガキ。下半横方向のミガキ。底部ミガキ。内面：口縁部縦方向、胴部から胴部横方向のミガキ。胴部横方向のヘラナデ。	小礫 雲母	良好		10YR6/4にぶい黄橙	残存率70%。遺構間接合
	3	覆土床面	壺	— —	胴部下半は丸みを帯びる。胎土にだま状の粘土が多く含まれるため、表面の凹凸が大きい。	外面：胴部縦方向のミガキ。内面：胴部横方向のヘラナデ。	小礫 石炭	良好		7.5YR4/6期	残存率25%以下
	4	覆土床面	壺	— —	胴部片	外面：斜め方向のミガキ。内面：横方向のヘラナデ。	小礫 石炭 白色砂粒	良好		7.5YR6/4にぶい橙	破片。イネ須恵土版

ラナデが施される。3は、小型の壺の胴部下半である。外面は縦方向のミガキが加えられるが、胎土の一部で粘土がダム状になっているため、凹凸が激しい。4は、胴部上半片である。外面にミガキが施される。

土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階古相に相当すると考えられる。

炭化種実（水洗選別） 杵から、イネとアワ、ブドウ属、サンショウ等の炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期であると考えられる。

（守屋）

SI43（第173～177図、第19表）

遺構 調査区中央部北側の32N-85・86グリッドに位置する。北側の大部分は調査区外に続いていたため、建物跡南西壁周辺部の調査範囲を90cm程度北側に拡張して調査を実施した。なお、更にその北側については日野市教育委員会が調査を実施している。今回の調査は全体の1/4程度について実施したものと推察される。

検出面はⅢ層上であるが、遺構上部の大部分は複数の溝状の攪乱で破壊されている。北東550cmにはSI44が位置している。

平面形態は隅丸長方形と推察され、調査範囲内での長軸（南東-北西）は249cmで、短軸（南西-北東）は266cmである。主軸方向はN-49°-Wを指すと思われる。検出面から床面までの深さは60cmで、壁はやや開きながら直線的に立ち上がっている。

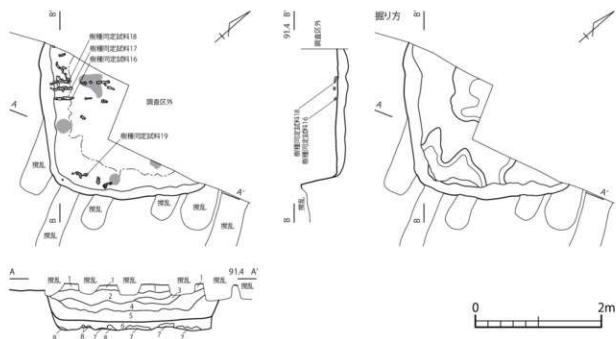
床は貼床で、壁際から50cm前後離れた位置より内側が硬化している。壁溝は無い。調査範囲内では主柱穴をはじめとしたピットや貯蔵穴、炉、土堤は検出されていない。赤砂も検出されなかった。

床面までの覆土は5層に分けられ、概ねレンズ状に堆積する。いずれの層も黄褐色系のスコリアを含んでおり、最下層の5層には焼土や炭化材が混入し、床面付近からは炭化材が多数検出された他、焼土も纏まって検出された。

掘り方はローム層の上部まで掘り込まれており、床面からの深さは20cmを測る。覆土は黒褐色土が主体で、ロームの混入は少ない。

（相原）

出土遺物 縄文土器片1点と弥生土器片8点、須恵器1点、土製品2点、礫4点、炭化物34点



- S143
1. IOYR2/1 黒色土層 直径30mm以下の黄褐色スコリア5%、直径2mm以下の橙色スコリア3%、直径1mm程度の明黄褐色スコリア7%を含む。細まり・粘性有り、粒子細かい。
 2. IOYR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%、直径1mm程度の橙色スコリア3%・焼土粒子5%を含む。細まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
 3. IOYR17/1 黒褐色土層 直径30mm以下の黄褐色スコリア5%、直径1mm程度の橙色スコリア3%、炭化物粒子3%を含む。黒褐色土 (IOYR2/2) 10%が破片に散じる。細まり・粘性やや強、粒子細かい。炭化材片が侵入した上がブロック状に散化。
 4. IOYR2/1 黒色土層 直径30mm以下の黄褐色スコリア3%・橙色スコリア2%を含む。黒褐色土0%。暗褐色土 (IOYR3/3) 5%が破片に散じる。細まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
 5. IOYR2/1 黒色土層 直径30mm以下の黄褐色スコリア5%、橙色スコリア3%、焼土粒子5%、長さ10mm以下の炭化物7%を含む。焼土 (2.5YR4/8) 3%、黒褐色土15%、暗褐色土 (IOYR3/3) 25%が破片に散じる。細まり・粘性やや強、粒子細かい。
 6. IOYR2/2 黒褐色土層 直径30mm以下の黄褐色スコリア3%、直径5mm以下の橙色スコリア5%、長さ10mm以下の炭化物2%を含む。暗褐色土 (IOYR3/4) 15%、褐色土 (10YR4/6) 5%が破片に散じる。細まり強、粘性やや強、粒子細かい。
 7. IOYR3/4 暗褐色土層 直径30mm以下の橙色スコリア3%を含む。黒褐色土30%、褐色土5%が破片に散じる。細まり強、粘性やや強、粒子細かい。
 8. IOYR3/4 暗褐色土層 直径50mm以下の橙色スコリア3%を含む。黒褐色土3%、褐色土15%が破片に散じる。細まり強、粘性やや強、粒子細かい。

第173図 S143(1)(1/60)

が出土した。

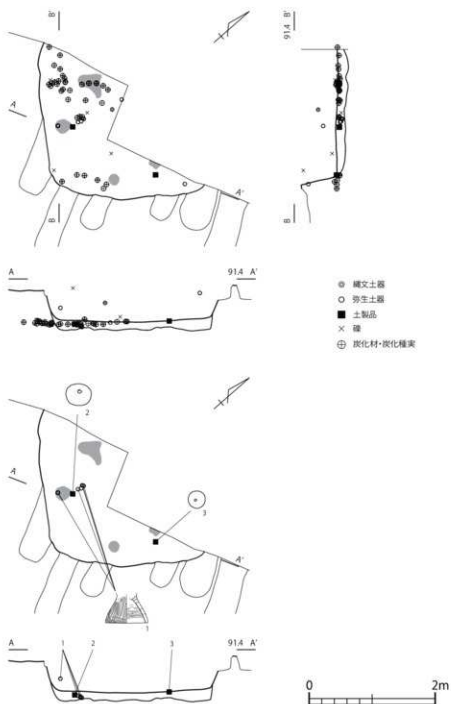
遺物出土状況 遺構の大部分が調査区外であったため、遺物は少ない。一方、多数の炭化材が床面で出土しており、焼失した竪穴建物の構造材であると考えられる。

土器 第176・177図1は、高坏の脚部である。内湾し、3箇所に通孔を有する。外面は下端のハケ調整後、縦方向のミガキが加えられる。2と3は、土製品 (土玉) である。2は、やや小型の土玉である。長軸方向に通孔を有し、穿孔径は1.8mmである。形状は楕円体である。外面はナデまたはミガキで調整される。3は、小型の土玉である。長軸方向に通孔を有し、穿孔径は1.3mmである。形状は楕円体である。外面はナデ調整される。

土器の年代は、比田井編年 (比田井2001) の古墳時代前期1段階古相に相当すると考えられる。

炭化材 炭化材が多数出土しており、焼失した竪穴建物の構造材と考えられる。このうち、垂木と考えられる炭化材4点の樹種同定を実施した。南西壁沿いで出土した芯持丸木材 (樹種同定試料16) はヤナギ属、その北西側の芯持丸木材 (樹種同定試料17) はヤナギ属、半割材 (樹種同定試料18) はヤナギ属、南東壁沿いで出土した割材と考えられる材 (樹種同定試料19) はヤナギ属で、試料は全てヤナギ属であった。

出土遺物から、遺構の時期は弥生時代終末期から古墳時代前期であると考えられる。 (守屋)

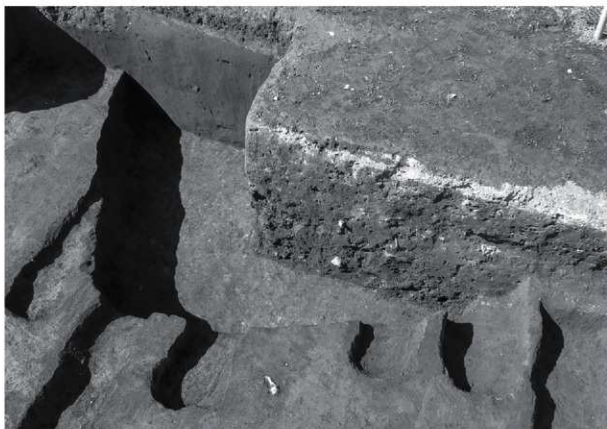


第174図 SI43(2) 遺物分布・接合図 (1/60)

SI44 (第178～182図、第20・32表)

遺構 調査区中央部北側の32N・77・78・87グリッドに位置する。北側の大部分は調査区外で、その部分は日野市教育委員会が調査を実施している。今回の調査は全体の約1/5について実施したものと推察される。

検出面はⅢ層上で、遺構上部は複数の掘乱により破壊されている。南西550cmにはSI44が位置している。



1. SI43 全景 (南東から)



2. SI43 土層断面 (南南東から)



3. SI43 掘り方土層断面 (南南東から)

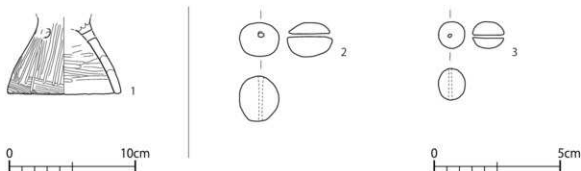


4. SI43 炭化材検出状況 (南東から)



5. SI43 炭化材検出状況 (北北東から)

第 175 図 SI43 写真



第176図 SI43出土遺物(1/3・2/3)



第177図 SI43出土遺物写真

第 19 表 SI43 出土土器・土製品観察表

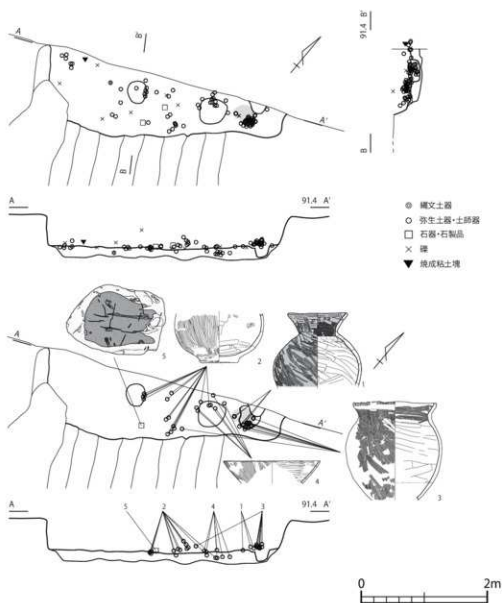
図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第 176・177 図	1	覆土 床面	高坏 — (H.1) (H.0)	脚部に穿孔を有する。穿孔は計 3箇所と推定される。	外面：脚部縦方向のハタ調整後縦方向のミガキ。内面：脚部ナデ後縦方向のミガキ。	チャート 灰石	良好		10YR7/4 にぶい黄橙	残存率 40%
	2	覆土 床面	土製品 (土玉) (高さ) 1.8 (幅) 1.4 (厚さ) 1.4	長軸に穿孔があり、縦長である。穿孔径 1.8mm。	外面：ナデまたはミガキ。	小礫	良好		5YR6/6 橙	完形
	3	覆土 床面	土製品 (土玉) (高さ) 1.2 (幅) 1.1 (厚さ) 1.1	長軸に穿孔があり、縦長である。穿孔径 1.3mm。	外面：ナデ。	小礫 石英	良好		5YR5/6 明赤褐	完形

平面形態は南北に長い隅丸長方形と推察され、調査範囲内での長軸（南東-北西）は 147cm で、短軸（南西-北東）は 377cm である。主軸方向は N-40°-W を指すと思われる。検出面から床面までの深さは 53cm で、壁は、東壁は開き気味に、西壁は垂直に立ち上がっている。

床は貼床で、壁際を除いた部分が硬化している。壁溝は無い。調査範囲内では主柱穴は検出されなかったが、梯子穴の可能性のあるビット（P1）や貯蔵穴（P3）の他、1基のビット（P2）が確認された。調査範囲内においては炉、土堤は検出されなかった。

床面までの覆土については、ベルトを設定せず掘削したため不明である。

掘り方は、壁際に狭いテラス状の段差を有しているが、全体的に凹凸は少ない。深い部分ではロー



第 179 図 SI44(2) 遺物分布・接合図 (1/60)

ム層の上面あたりまで掘り込まれている。掘り方の覆土は、Ⅲ層がベースの上層と、ロームブロックや粒子が多く混入する下層の2層に分けられる。

梯子穴と考えられるP1は、南東壁寄りの中央よりやや西側に位置し、平面形態は卵形、長軸36cm、短軸30cmを測る。床面からの深さは15cmで、掘り方の底部とほぼ同一の深さである。覆土は2層に分かれる。

貯蔵穴はP3で、隅丸の台形状を呈し、底面は建物跡壁際が1段深くなっている。長軸44cm、短軸42cm、床面からの深さは22cmである。覆土は2層に分かれ、底面付近では土器小片が複数出土している。

P2は北側が調査区外に続いており全容は不明だが、形状は楕円形と推察され、調査範囲内における規模は長軸30cm、短軸20cmを測る。



1. SI44 全景 (北西から)



2. SI44 P3(貯蔵穴) 遺物出土状況 (南東から)



3. SI44 遺物出土状況 (北西から)

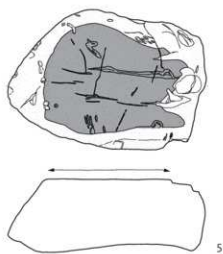
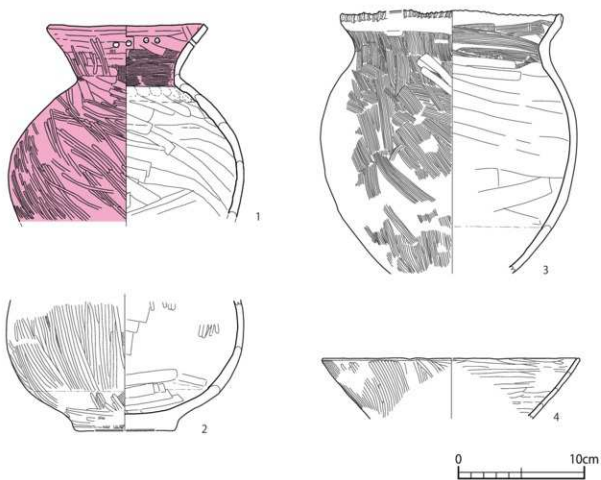


4. SI44 遺物出土状況 (南東から)



5. SI44 掘り方全景 (北西から)

第180図 SI44写真



第181図 S144出土遺物(1/3・1/6)



第182図 SI44出土遺物写真

赤砂は東角の壁際で盛り土状に検出され、P2 と接している。2層に分けられ、上層がより赤砂を多く含んでいる。赤砂の直上からは複数の土器（第181・182図1・3他）が出土しており、赤砂の用途との関連性が考えられる。（相原）

出土遺物 縄文土器片1点と弥生土器・土師器片73点、土製品1点、石器1点、石製品1点、礫9点が出土した。

遺物出土状況 竪穴建物跡東隅の赤砂分布範囲と貯蔵穴と考えられるP3の周囲に遺物が集中して出土した。東隅からは、壺（第181・182図1）と台付甕（同3）が纏まって出土した。1は、口縁部から胴部下半まで良好な状態で遺存していた。P1と南東壁の間で、台石（同5）が平坦面を上に向けて出土した。

第20表 SI44 出土土器観察表

図	番号	層位	器種	寸法	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第181・182図	1	覆土床面	壺	12.3 (15.0)	単口縁で、口唇部は平坦、口縁部は外反し、2箇所に2点1組の穿孔を有する。頸部は強く屈曲。	外面：口縁部から頸部縦方向のハケ調整後縦方向のナデ。一部でさらに縦方向のミガキ。胴部ナデ後斜め方向のミガキ。内面：口縁部縦方向のナデ。頸部縦方向のハケ調整。胴部斜め方向のナデ。	小礫 チャート 白色砂粒	良好	外面全体 口縁部内面	10R4/8 赤	残存率 70%
	2	覆土床面	壺	17.4 (10.2)	最大径は胴部下半に位置すると想定される。	外面：胴部ハケ調整後縦方向のミガキ。内面：胴部上半ナデ後縦方向のミガキ。下半縦方向のヘラナデ。	中礫 石炭 角閃石	良好		5YR5/6 明赤褐色	残存率 40%
	3	覆土床面	台付甕	17.4 (20.0)	口唇部は丸みを帯び、刻みを有する。口縁部はやや内湾し、頸部は緩やか。最大径が胴部上半に位置する。胴部下半は緩やかに内湾し、全体的に胴長である。	外面：口縁部ハケ調整後ナデ。頸部から胴部斜め方向のハケ調整。内面：口縁部ナデ。頸部縦方向のハケ調整。胴部縦方向のヘラナデ。	小礫 白色砂粒	良好		5YR4/4 にぶい赤褐色	残存率 50～75%
	4	P3 覆土	高坏	(20.2) (4.8)	坏部は直線的に開く。器壁が薄い。	外面：坏部斜め方向のミガキ。内面：坏部縦方向のヘラナデ。	小礫 白色砂粒	良好		7.5YR4/6 褐	破片。元組敷系高坏。半口頸部・不明線圧痕

土器 第181・182図1と2は、壺である。1は単口縁で、口唇部はハケ状工具で平坦に面取りされる。口縁部は外反し、頸部は強く屈曲する。口縁部には、2箇所に2点1組の穿孔を有する。外面と口縁部内面はミガキ後赤彩が施される。赤彩が施されない内面胴部も、明赤褐色を呈している。2は、壺の胴部から底部である。最大径は胴部下半に位置すると想定され、底部外面は平坦である。

3は、台付甕である。口唇部は丸みを帯び、刻みが密に施される。口縁部はやや内湾し、口径に対し器高は高く、胴長な形状である。外面は縦方向のハケ調整が施される。

4は、元屋敷系高坏である。坏部は器厚が薄く、直線的に広がる。内外面に丁寧なミガキが施される。土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階新相に相当すると考えられる。

石製品 第181・182図5は、砂岩製の台石である。上面に平坦面を有し、平坦面全体が磨滅する。出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。（守屋）

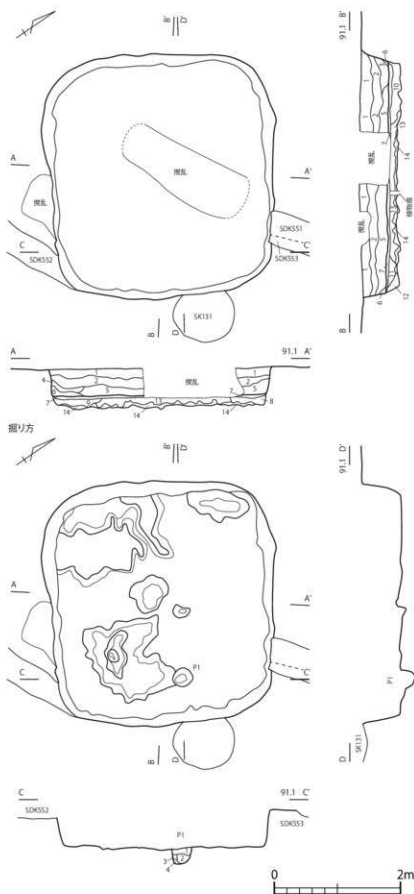
SI45（第183～185図、第21表）

遺構 調査区中央部北東寄りの33N-52・62・63グリッドに位置する。炉が検出されていないので竪穴状遺構とした。検出面はⅢ層上で、古代のSK131、近世以降の遺構である551・552・553及び攪乱に覆土や壁、床面の一部を切られている。

平面形態は隅丸方形で、長軸（南東-北西）は390cmで、短軸（南西-北東）は372cmを測る。主軸方向はN-56°-Wを指す。検出面から床面までの深さは48cmで、壁はやや開き気味に立ち上がっている。

床は貼床で、比較的平坦である。硬化した面は検出されず、床面においては、壁溝や主柱穴・貯蔵穴等は検出されなかった。ピットについては、掘り方底面からP1が検出された。遺構中央の攪乱は床面に達していたものの、床面をわずかに削る程度であった。炉の掘り込みがあるならば攪乱底面にその痕跡が検出できたものと思われる。よって、炉は構築されなかったものと判断した。

床面までの覆土は6層に分けられる。いずれも黒色土で、黄褐色や橙色のスコリアを含有している。掘り方はローム層の上面近くまで掘り込まれており、全体的に小さな凹凸があるが、比較的平坦で



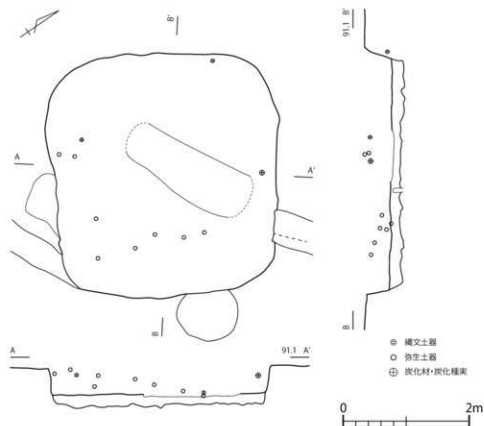
S45

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 5%・炭褐色スコリア 7%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア (10YR2/2) 3%、直径 1mm 以下の黒褐色粘土 5% を含む。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。B2 層相当と考えられる。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 5%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 2% を含む。締まりやや弱、粘性やや強、粒子細かい。1 層よりもやや明るく顕る。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 2% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 1% が塊状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア 2%・炭褐色スコリア 3% を含む。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。3 層に類似するが、締まりやや弱。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 7% を含む。黒褐色土 10%、暗褐色土 (10YR3/4) 3% が塊状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 3%、直径 1mm 以下のローム粒子 5% を含む。暗褐色土 7%、暗褐色土 3% が塊状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。5 層に類似するが、5 層よりも暗褐色土、スコリアの含有量が少ない。
7. 10YR2/1 黒色土層 暗床土。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 5mm 以下の褐色スコリア 5%、ローム粒子 15% を含む。暗褐色土 7% が塊状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 7%、直径 15mm 以下のロームブロック 15% を含む。暗褐色土 10%、暗褐色土 7% が塊状に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 7mm 以下のローム粒子 20%、直径 10～50mm のロームブロック 3% を含む。暗褐色土 20% が塊状に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 10mm 以下のローム粒子 20%、直径 10～30mm のロームブロック 7% を含む。暗褐色土 10% が塊状に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
11. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 5%・ローム粒子 7%、直径 20～50mm のロームブロック 3% を含む。暗褐色土 5% が塊状に散じる。締まり・粘性強、粒子細かい。
12. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 7% を含む。暗褐色土 30%、褐色土 (10YR4/6) 5% が塊状に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
13. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 10%、直径 10mm 以下のロームブロック 15% を含む。暗褐色土 30%、黒色土 (10YR2/2) 10% が塊状に散じる。締まり・粘性強、粒子細かい。
14. 10YR2/4 暗褐色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 7% を含む。褐色土 40% が塊状に散じる。締まり・粘性強、粒子細かい。

P1

1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 3mm 以下のローム粒子 15% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 7% が塊状に散じる。締まりやや弱、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 15% を含む。暗褐色土 10% が塊状に散じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
3. 10YR4/6 褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 30% が塊状に散じる。締まりやや弱、粘性強、粒子細かい。
4. 10YR4/6 褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 7% が塊状に散じる。締まりやや弱、3 層より有り、粘性強、粒子細かい。

第 183 図 S45(1)(1/60)



第184図 SI45(2) 遺物分布図 (1/60)

ある。掘り方の覆土は、ロームブロックや粒子を含有する黒色土からなる上層と、基本土層Ⅳ～Ⅲ層土を主体とする下層の2つに大きく分けられる。

P1 は貼床掘削後、掘り方底面から検出された。長軸 32cm、短軸 29cm の楕円形を呈し、検出した深さは 26cm である。覆土は 4 層に分けられた。(相原)

出土遺物 縄文土器片 2 点と弥生土器・土師器片 8 点、炭化物 1 点が出土した。

遺物出土状況 遺物出土数は非常に少なく、上層から下層にかけて散漫に出土している。

土器 図示できる遺物は出土しなかった。

炭化材 炭化材が 1 点のみ出土した。

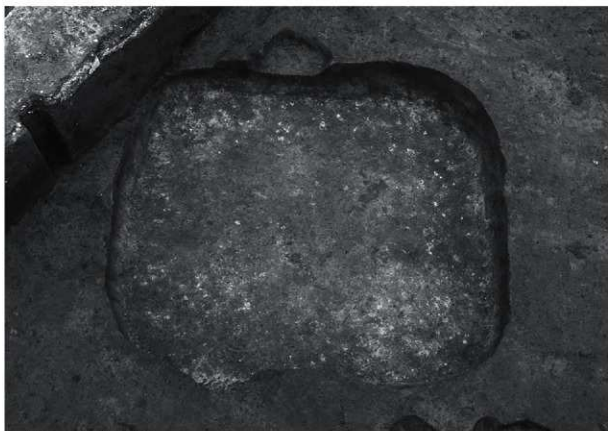
遺物が非常に少ないため、遺構の詳細な時期を決定するのは困難であるが、弥生時代終末期から古墳時代前期であると考えられる。(守屋)

SI46 (第 186～190 図、第 21 表)

遺構 調査区中央部北東寄りの 33N-94・95 グリッドに位置する。南側の大部分は調査区外で、その部分は日野市教育委員会が発掘調査を実施している。今回の調査は全体の約 1/5 について実施したものと推察される。

検出面はⅢ層上で、壁や床、覆土の一部を SDK678・681 及び攪乱に切られている。

平面形態は南東-北西に長い隅丸長方形と推察される。調査範囲内での長軸(南東-北西)は 261cm、同じく短軸(南西-北東)は 436cm である。主軸方向は N-49°-W を指すとみられる。検



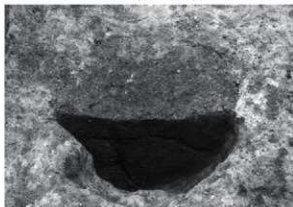
1. SI45 全景 (北東から)



2. SI45 土層断面 A-A' (南東から)



3. SI45 掘り方土層断面 A-A' (北東から)

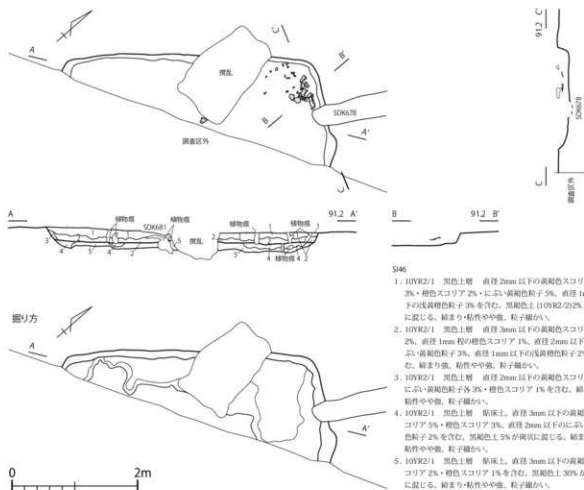


4. SI45 P1 土層断面 (南東から)



5. SI45 掘り方全景 (北東から)

第 185 図 SI45 写真



第186図 SI46(1)(1/60)

出面から床面までの深さは28cmと浅く、壁は開き気味に立ち上がっている。

床は貼床で、硬化範囲は確認できなかった。主柱穴をはじめ、貯蔵穴、炉等の付帯施設は、調査範囲内においては検出されなかった。

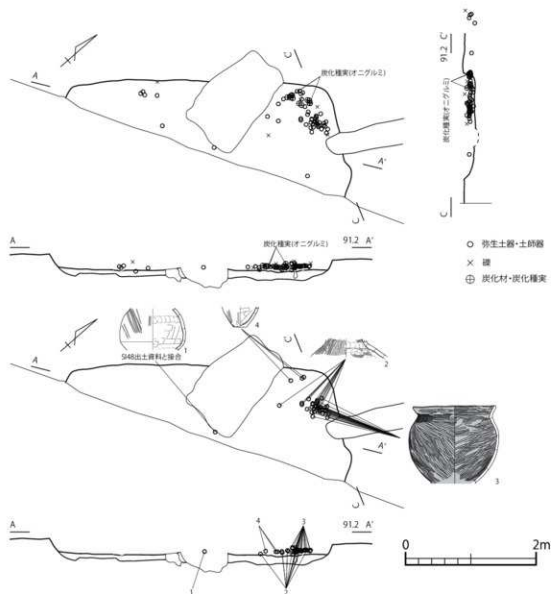
覆土は3層に分けられる。いずれも黄褐色スコリアを含有する黒色土が主体で、1・2層は水平に堆積し、3層は壁際で認められる。

掘り方は概ねⅢ3層まで掘り下げられており、凹凸は少ない。覆土は黒色土がベースで2層に分けられる。(相原)

出土遺物 弥生土器・土師器片 48点、礫8点、炭化物11点(炭化種実3点、炭化材8点)が出土した。

遺物出土状況 SI46北隅の床面付近から、壺(第189・190図2)と甕(同3)、鉢または小型甕(同4)、オニグルミ炭化核が纏まって出土した。また、遺構中央から出土した壺(同1)は、SI48の床面から出土した土器片と遺構間接合した。

土器 第189・190図1と2は、壺である。1は、肩部に緩やかな稜を有する。胴部下半に明瞭な稜を有し、胴部最大径となる。ヒサゴ形甕であると考えられる。外面はミガキ後赤彩が施されたと考えられ、胴部下半にわずかに痕跡が残る。2は、頸部から肩部で、頸部は緩やかに曲がる。外面に



第 187 図 SI46(2) 遺物分布・接合図 (1/60)

縦方向のミガキが施される。

3は、鉢である。単口縁で、口唇部は丸みを帯びる。口縁部はやや外反する。頸部はハケ調整により、稜線が作り出される。最大径は胴部上半に位置する。内外面はミガキ後赤彩が施される。4は、鉢または小型壺の胴部から底部である。胴部はやや内湾しながら立ち上がる。底部径は小さく、底部外面は平坦である。

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期Ⅰ段階新相に相当すると考えられる。

炭化材 竪穴建物跡北隅の遺物が纏まって出土した地点から、炭化材が出土している。

炭化種実（点上げ） SI46 北隅の床面付近から、炭化したオニグルミ核の破片 3 点が纏まって出土した。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。

（守屋）



1. SI46 全景 (北西から)



2. SI46 土層断面 (北西から)



4. SI46 掘り方土層断面 (北西から)

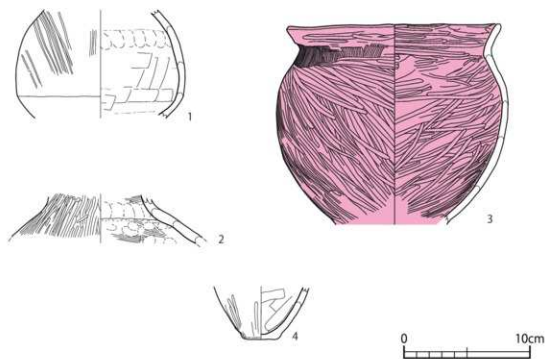


3. SI46 遺物出土状況 (南東から)



5. SI46 炭化種実出土状況 (南東から)

第 188 図 SI46 写真



第189図 SI46出土遺物(1/3)



第190図 SI46出土遺物写真

第 21 表 SI46 出土土器観察表

図 189	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色票	備考
第 189 図	1	覆土 床面 SI46 床面	— — —	— — —	— — —	外面：横方向のナデ後縦方向のミガキ。内面：横方向のヘラナデ。	灰石 石英 白色砂粒	良好	外面 (前縁)	10YR8/3 浅黄褐色 残存率 25～50%。 遺構間接合。ヒザ ゴ造か
	2	覆土 床面	— — —	— — —	— — —	外面：頸部から肩部縦方向のミガキ。内面：頸部縦方向のミガキ。 肩部斜め方向のハケ調整。	小礫 石英 灰石	良好		7.5YR5/4 にぶい黄 残存率 25% 以下
	3	覆土 床面	10.6 (15.5) —	— — —	— — —	外面：口縁部縦方向のナデ後一部ミガキ。頸部縦方向のハケ調整。 頸部斜め方向のミガキ。内面：口 縁部から頸部縦方向のミガキ。頸 部斜め方向のミガキ。	小礫 石英	良好	外面 内面	2.5YR5/4 にぶい赤褐色 残存率 50%
	4	覆土 床面	— — (2.7)	— — —	— — —	外面：頸部縦方向のミガキ。内面： 頸部斜めまたは横方向のナデ。	小礫 灰石 石英	良好		10YR7/4 にぶい黄褐色 残存率 25% 以下

SI47 (第 191～204 図、第 22・32 表)

遺構 調査区北東寄りの 33N-66・67・76・77 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、古代～中世の土坑 SK145 及び掘乱に壁や床面の一部を切られている。また、北西 340cm には、同時期の SI50 が位置している。

平面形態は隅丸長方形で、長軸（南東-北西）505cm、短軸（南西-北東）454cm、検出面からの深さは 65cm を測る。主軸方向は N-56°-W を指す。壁は、南北の壁は垂直気味に、東西の壁は内湾気味あるいは開き気味に立ち上がっている。

床面は貼床で、壁際を除く広い範囲が硬化している。壁溝は無く、主柱穴 P1～4、南東壁際中央に梯子穴 P5、その東寄りの壁際に P6（貯蔵穴 A）、北東壁寄り中央に P7（貯蔵穴 B）、床面中央部のやや北寄りに炉を有する。その他、土堤は 2 箇所確認された。

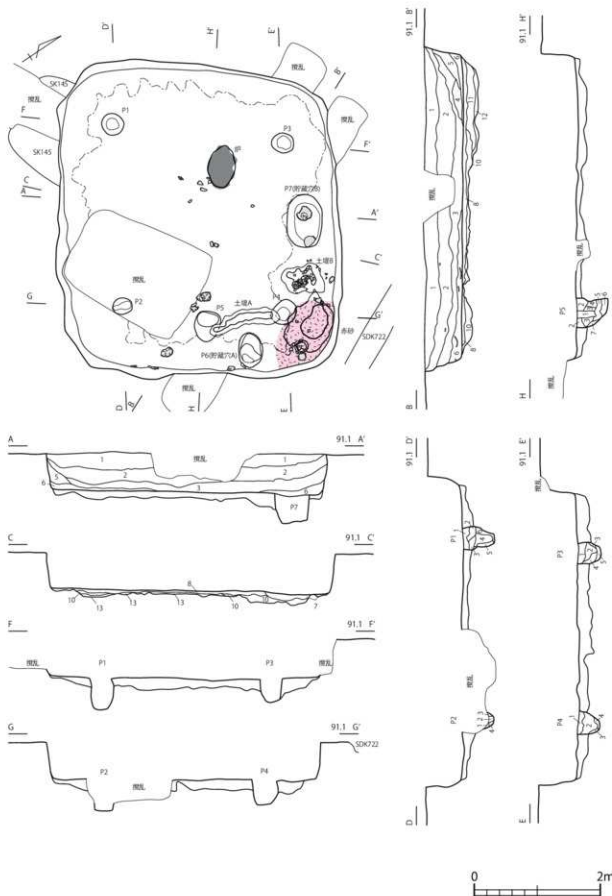
床面までの覆土は 6 層に分けられる。そのうち 1～3 層は黄褐色系のスコリアを含む黒色土層で、自然堆積と思われる。4 層はローム主体で、投棄されたものと思われる。

掘り方は、中央部付近が浅く、その周囲がやや深くなっている他、壁際には狭いテラス状の段差がある。浅い部分は基本土層のⅣ層、深い部分はローム層の上面あたりまで掘り込まれている。掘り方の覆土は 7 層に分けられ、ロームブロックや粒子が混入する黒褐色土が主体である。

主柱穴は P1～4 の 4 基で、そのうち P2 は掘乱の底面から検出された。いずれも平面形態は楕円形で、ローム層まで深く掘り込まれている。明確な柱痕跡は確認されず、P2 を除いては、貼床状の締まった覆土が最上部を被覆している。

P5 は梯子穴と考えられる。長軸 48cm、短軸 40cm の卵形で、床面からの深さは 51cm である。最深部はピット中央ではなく、建物跡の中心寄りである北西側である。7 層に分層され、柱痕跡と思われる 1 層周囲の上部を締まりの強い 2 層で囲んでおり、また 1 層の下部に硬化した黒色土のブロックを含有する 5 層が敷かれている様子が土層断面から窺える。

貯蔵穴は P6（A）、P7（B）の 2 基が確認された。P6（貯蔵穴 A）は楕円形で、規模は長軸 56cm、短軸 38cm、床面からの深さ 28cm を測る。底部は建物跡の壁に近い南東側が一段深くなっており、壁は垂直気味に立ち上がっている。覆土は 3 層に分けられ、遺物はほとんど出土していない。P7（貯蔵穴 B）は小判型を呈し、長軸 84cm、短軸 57cm、床面からの深さ 45cm を測る。底部は比較的平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がっている。覆土下層から底面にかけて、壺胴部の大型破片（第



第 191 图 S147(1)(1/60)

547

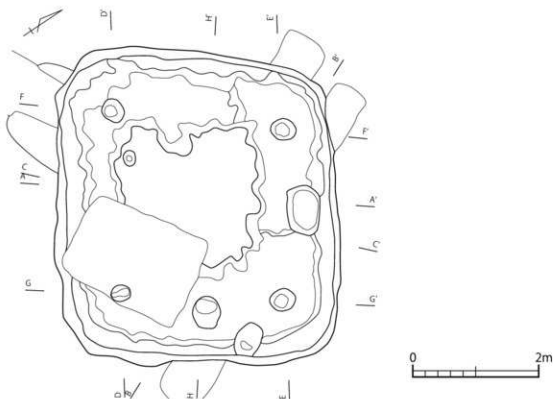
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/4)25%、赤褐色スコリア (2.5YR4/6)7%、黒色スコリア 3%を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子やや粗い、4層より意味がある。H3層相当上。
2. 7.5YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 10%、赤褐色スコリア 7%、黒色スコリア 3%を含む。締まりは有るが1層に劣る。粘性有り、粒子やや粗い、H3層相当上に堆積している可能性有り。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径上をベースとし、H2層相当上から少量混入。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直径 1mm 程の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 3%を含む。締まりは1層より有り、粘性有り、粒子細かい。
4. 10YR5/4 黄褐色土層 ローム粒子・直径 30mm 以下のロームブロックをベースとし、黒褐色土が混入。締まり弱、粘性有り、粒子極めて細かい、人為的堆積。段段されたローム。
5. 10YR1.7/1 黒色土層 直径上をベースとし、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、赤褐色スコリア 1%を含む。締まりはやや強、粘性は有るが3層に劣る。細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 3%を含む。締まり弱、粘性有り、粒子極めて細かい。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径上、黒褐色土をベースとし、直径 4mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 5%、直径 5mm 以下のロームブロック 3%を含む。締まり有り、粘性有り、粒子細かい。
8. 粘着部、粒子細かい。人為的堆積。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径上、直径 30mm 以下のロームブロック 10%が混入する。他に、直径 4mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 15%、直径 40mm 以下の赤褐色スコリア 5%を含む。締まりは強硬で、粘性わずか、粒子細かい。人為的堆積。
10. 10YR4/4 黄褐色土層 直径上、黒褐色土をベースとし、ローム粒子 15%、直径 30mm 以下のロームブロック 5%、直径 20mm 以下の赤褐色スコリア 3%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
11. 10YR2/2 黒褐色土層 直径上、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 30%、直径 10mm 以下の黒褐色スコリア 10%を含む。締まり粘性有り、粒子細かい、人為的堆積。
12. 10YR1.7/1 黒色土層 粘着部有り、粒子細かい。人為的堆積。
13. 10YR2/5/1 黒褐色土層 直径上、直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 20%、直径 7mm 以下のロームブロック 5%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
14. 10YR2/2 黒褐色土層 直径上、直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 20%、直径 7mm 以下のロームブロック 5%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
15. 10YR2/2 黒褐色土層 直径上、直径 10mm 以下のロームブロック 5%を含む。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。人為的堆積。
- P1
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 2%、ローム粒子、黄褐色土層に黄褐色土層各 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%が混入に混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下のローム粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)5%、暗褐色土 2%が混入に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 15%、暗褐色土 (10YR4/6)3%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 15%、褐色スコリア 3%を含む。暗褐色土 20%、暗褐色土 7%が混入に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア 2%、直径 5~10mm のロームブロック 2%を含む。暗褐色土 10%、暗褐色土 7%、暗褐色土 3%が混入に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
6. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 3%、ローム粒子 5%を含む。暗褐色土 5%、暗褐色土 10%が混入に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
- P2
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 2%、ローム粒子 10%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)20%が混入に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
2. 10YR2/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 2%、ローム粒子 20%、直径 3~5mm のロームブロック 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/1)5%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 5%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)2%が混入に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
4. 10YR4/6 暗褐色土層 直径 1mm 程の褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 10%が混入に混じる。締まり有り、粘性強、粒子細かい。
- P3
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、黄褐色土層 3%、褐色スコリア、ローム粒子 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)5%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 3%、暗褐色土 (10YR3/3)2%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR4/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR2/1)20%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 3%、暗褐色土 (10YR4/6)1%が混入に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR2/3 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 1%を含む。暗褐色土 15%、暗褐色土 5%が混入に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。
- P4
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 2%、直径 3mm 以下の黄褐色土層 5%を含む。暗褐色土 (10YR3/3)2%、暗褐色土 (10YR4/6)7%が混入に混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 1%を含む。暗褐色土 (10YR2/2)5%、暗褐色土 (10YR3/4)3%、暗褐色土 2%が混入に混じる。締まり有り部分にやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 2%、直径 3mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土 5%、暗褐色土 7%が混入に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 3%、ローム粒子 10%を含む。暗褐色土 5%が混入に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
- P5
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 2%、黄褐色土層 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4)5%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。粘着部。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、褐色スコリア 2%、ローム粒子 5%、黄褐色土層 7%を含む。暗褐色土 7%、暗褐色土 (10YR4/6)3%が混入に混じる。締まり有るが部分的にやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各 2%、ローム粒子 3%を含む。暗褐色土 15%、暗褐色土 (10YR4/6)2%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%、褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下のローム粒子 7%を含む。暗褐色土 20%が混入に混じる。締まり粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア、黄褐色土層 3%、ローム粒子 3%、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 20%、暗褐色土 5%が混入に混じる。30~100mm の礫化ブロックが上部に散見できる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR2/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 1%、褐色スコリア 3%、ローム粒子 5%を含む。暗褐色土 7%が混入に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
7. 10YR4/6 暗褐色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア 2%、ローム粒子 3%を含む。暗褐色土 (10YR2/1)5%、暗褐色土 3%が混入に混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。

第 192 図 547(2)

201・203 図 1) が 2 点出土している。覆土は 7 層に分けられ、そのうち 4 層は上記の胴部破片の内部に堆積した黒色土で、強く締まっていた。貯蔵穴 B では、直上から土器片が多数 (第 202・203 図 6 他) 出土した。

土堤は 2 箇所検出された。土堤 A は P6 (貯蔵穴 A) の西側で検出された。長さ 113cm、幅

掘り方



炉

P6(貯蔵穴)・土堤A



炉

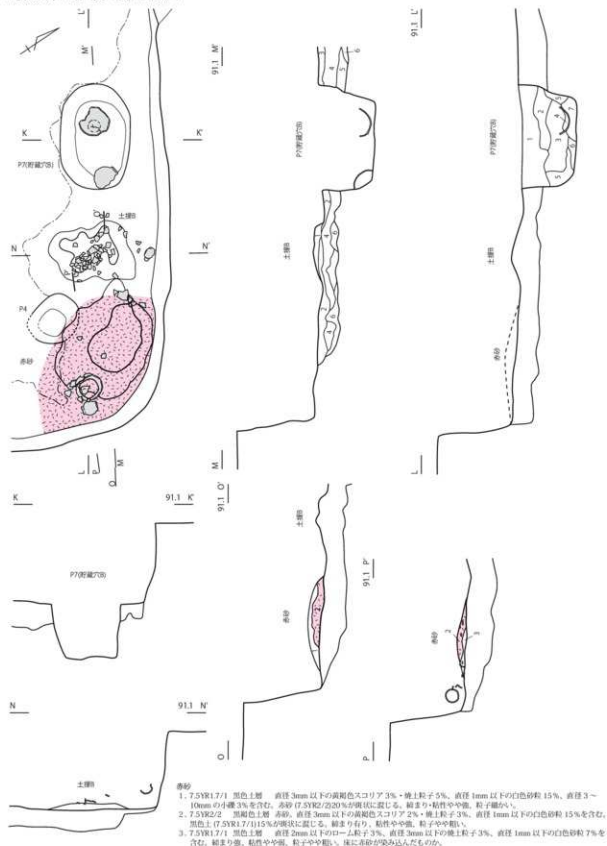
1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子2%・焼土粒子5%・灰(7.5YR6/4)1%、長さ10mm以下の炭化物3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)3%が焼状に露じる。細まり強、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下のローム粒子3%、直径10mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下の炭化物粒子2%を含む。褐色土(10YR4/4)7%、灰(10YR6/2)3%が焼状に露じる。細まり強、粘性有り、粒子細かい。

P6(貯蔵穴)

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の明茶褐色スコリア1%、褐色スコリア各2%、にぶい黄褐色粒子5%、直径10mm程度のロームブロック1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が焼状に露じる。細まりやや強、粘性強、粒子細かい。
 2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア、褐色スコリア各2%、にぶい黄褐色粒子、ロームブロック各3%を含む。暗褐色土(10YR2/1)、暗褐色土各15%、褐色土(10YR4/4)3%が焼状に露じる。細まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
 3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%、褐色スコリア1%を含む。暗褐色土(10YR2/2)、暗褐色土(10YR4/4)各7%が焼状に露じる。細まり・粘性やや強、粒子細かい。
- 土堤A
4. 10YR3/1 暗褐色土層 土層A、黄褐色土をベースとし、直径4mm以下の明茶褐色スコリア1%、ローム粒子15%、直径30mm以下の扁平化したロームブロック10%を含む。ロームブロックは表層付近に位置。細まりは緩弱で、粘性ごくわずか、粒子細かい。人為的堆積。
 5. 10YR3/1 暗褐色土層 灰床土、直径30mm以下のロームブロック10%が焼状を呈する。他に、直径4mm以下の明茶褐色スコリア1%、ローム粒子15%、直径40mm以下の灰層上ブロック5%を含む。細まりは緩弱で、粘性わずか、粒子細かい。人為的堆積。
 6. 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 灰床土、黄褐色土をベースとし、ローム粒子15%、直径30mm以下のロームブロック5%、灰層上粒子20%、直径20mm以下の灰層上ブロック3%を含む。細まりやや強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。

第193図 SI47(3)(1/60)・炉・貯蔵穴・土堤(1/30)

P7(貯蔵穴B)・土壇B・赤砂・遺物出土状況図



第194図 S147(4)貯蔵穴・土壇・赤砂・遺物出土状況図(1/30)

10、Y0Y2/1 黒色上層	直径2mm以下の微細スコリア5%、直径3mm以下の微細スコリア3%、ローム粒7%を含む。黒色上層(10YR2/2)7%、暗褐色上層(10YR4/3)6%が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
2、10YR2/1 黒色上層	直径2mm以下の微細スコリア17%、直径3mm以下のロームスコリア2%を含む。黒褐色上層が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
3、10YR2/1 黒色上層	直径5mm以下の微細スコリア17%、直径3mm以下のロームスコリア2%を含む。黒褐色上層が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
4、10YR2/1 黒色上層	直径3mm以下の微細スコリア17%、直径3mm以下のロームスコリア2%を含む。黒褐色上層が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
5、10YR2/1 黒色上層	直径3mm以下の微細スコリア3%、ローム粒10%を含む。暗褐色上層(10YR3/4)15%、暗褐色上層7%が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
6、10YR4/6 暗褐色上層	直径3mm以下の微細スコリア3%を含む。黒色上層(10YR2/1)2%が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
7、10YR4/6 暗褐色上層	直径3mm以下の微細スコリア3%を含む。黒色上層が横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。

土質調査

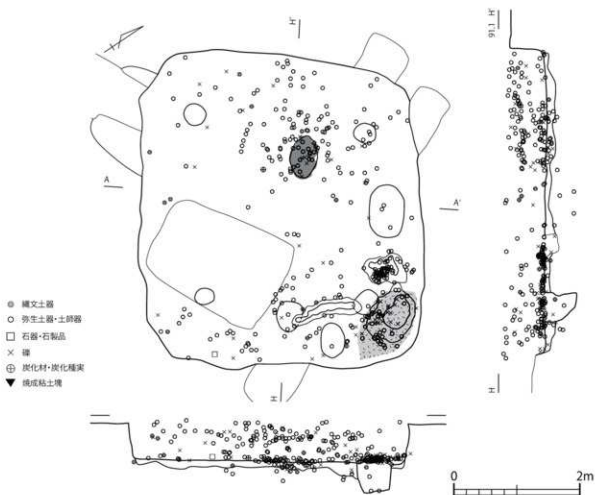
10、Y0Y2/1 黒色上層	主として黒い土をベースとし、直径4mm以下の明褐色スコリア2%、ローム粒7%を含む。直径30mm以下のロームブロック3%、直径30mm以下の暗褐色土ブロック5%を含む。表面に暗褐色土ブロックが横切に露出している。よく混同する。粘りや粘りや、粘り強い。
2、10YR3/1 暗褐色上層	暗褐色上層とベースをとり、直径4mm以下の明褐色スコリア2%、ローム粒5%を含む。直径5mm以下のロームブロック3%を含む。粘りや粘りや、粘り強い。
3、10YR3/1 暗褐色上層	暗褐色上層とベースをとり、直径4mm以下のロームブロック10%が横切に露出する。他に、直径4mm以下の明褐色スコリア1%、ローム粒15%、直径40mm以下の暗褐色土ブロック5%を含む。粘りや粘りや、粘り強い。
4、10YR2/1 暗褐色上層	暗褐色上層とベースをとり、直径3mm以下の明褐色スコリア7%、ローム粒10%、直径30mm以下のロームブロック1%未満、直径20mm以下の暗褐色土ブロック3%を含む。粘りや粘りや、粘り強い。
5、10YR2/1 暗褐色上層	暗褐色上層とベースをとり、直径2mm以下の明褐色スコリア7%、ローム粒15%を含む。粘りや粘りやが横切に露出する。粘りや粘りや、粘り強い。
6、10YR4/3 暗褐色土塊	暗褐色上層とベースをとり、ローム粒15%、直径30mm以下のロームブロック5%、黒色上層粒20%、直径20mm以下の暗褐色土ブロック3%を含む。粘りや粘りや、粘り強い。

23cm、床面からの高さ 5cm で、直線的である。土堤 B は主柱穴 P4 と P7 (貯蔵穴 B) の間で検出され、長軸 70cm、短軸 50cm、床面からの高さ 7cm を測り、形状は不定形である。

赤砂は床面東隅の壁沿いで検出された。床面からの盛り上がりは最大 14cm が確認され、上面からは甕(第 202・203 図 7) や小型壺(第 202・204 図 11) 等の土器が出土した。(相原)

遺物出土状況 遺物は炉の周辺と竪穴建物跡東隅周辺に集中して出土した。炉周辺の床面から広口壺(第201・203図4)、高環片(Si50と遺構間接合・第227・228図6)が出土した。他に台付甕(第202・203図10)が出土したが、出土層位が覆土上層であるため、建物廃絶後に投棄されたものと考えられる。東隅周辺では、土堤Bの直上から、壺(第201・203図3)、台付甕(第202・203図6)、小型の甕(同12・13)、東隅床面から、台付甕(同7)、小型壺(同11)が出土した。P7(貯蔵穴B)の内部からは、壺(第201・203図1)が出土した。石製品(第202・204図14)は、南東の壁面付近から出土した。

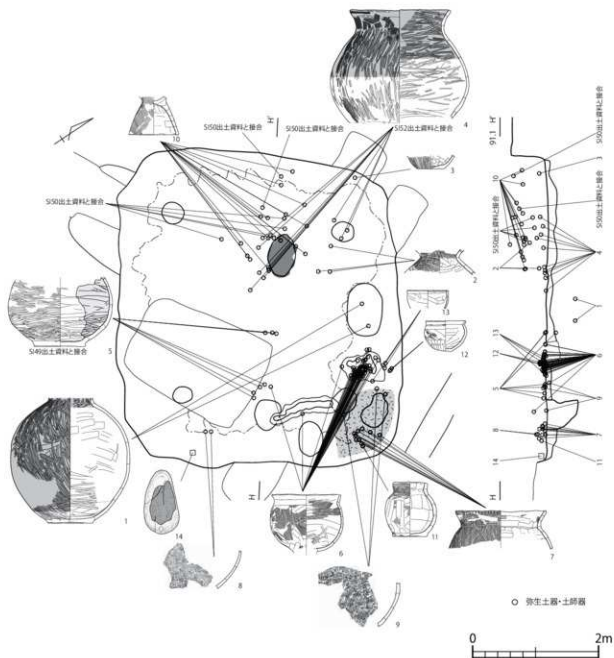
— 242 —



第196図 SI47(6)遺物分布図(1/60)

土器 第201・203図1～3は、壺である。1は、壺の胴部から底部である。最大径は胴部中間に位置し、最大径に対し器高が高く、胴長な形状である。胴部外面と頸部内面はミガキ後赤彩が施される。2は、壺の頸部である。粗いハケ状工具で幅広いハケ調整後、ミガキが施される。明瞭なハケメが残る。頸部は強く屈曲する。胎土は在地のものとは異なり、白色小角礫を多く含む。色調は赤褐色を呈する。搬入品であると考えられる。3は、壺の胴部下半から底部である。外面はミガキが施される。底部外面中央がドーナツ状に窪む。胎土が緻密である。

4と5は、広口壺である。4は、広口壺の口縁から胴部である。折り返し口縁に類似する単口縁で、口唇部は平坦である。頸部は緩やかに曲がる。胴部中間が口径と比較して大きく張り出し、最大径となる。外面は縦方向、内面は横方向のミガキが施される。内面が赤彩されており、外面も不明瞭であるが赤彩されている可能性がある。5は、広口壺の胴部から底部である。胴部下半に最大径が位置する。内面の底部付近に明瞭な稜を有する。底部は円盤状で、外面は平坦である。外面は幅広いハケ調整後、横方向のミガキが施される。内面は横方向のナデが施される。SI49と遺構間接合しているが、SI49出土破片のみ内面に赤色顔料の可能性がある赤彩状の範囲が認められるため、土器の破砕後、胴部片を赤色顔料のパレットに転用したのと考えられる。



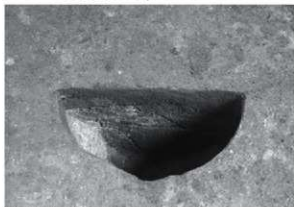
第197図 SI47(7) 遺物接合図 (1/60)

第203・203図6～10は、台付甕である。6は、小型の台付甕である。口唇部は丸みを帯びる。頸部外面はハケ調整後、強くナデが加えられ、稜が生じている。胴部下半は大きく内湾し、口径と胴部径は近く、対して胴部高は低い。7は、口唇部は丸みを帯び、刻みを有する。口縁部は外反し、頸部は強く屈曲する。8は、胴部片である。外面はハケ調整である。9は、胴部片である。外面はハケ調整で、内面には炭化物が付着する。10は、脚部で、内湾する。胴部との接統部の破断面が摩耗しており、転用器台として使用された可能性がある。

11は、小型壺で、口唇部は丸みを帯びる。口縁部は直線的で、垂直に立ち上がる。肩部に稜を有し、胴部中央に最大径を有する。胴部径に対し、器高が高い。底部外面はやや窪む。



1. SI47 全景 (南東から)



2. SI47 P1 土層断面 (北北東から)



3. SI47 P2 土層断面 (北北東から)

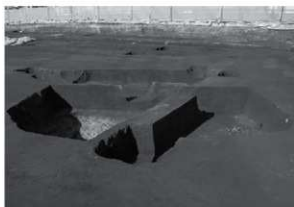


4. SI47 P3 土層断面 (北北東から)



5. SI47 P5 土層断面 (北東から)

第 198 図 SI47 写真 (1)



1. SI47 土層断面 A-A'(南東から)



2. SI47 土層断面 B-B'(西南西から)



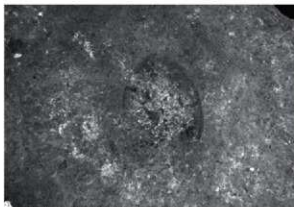
3. SI47 P6(貯蔵穴 A) 土層断面 (北北東から)



4. SI47 P7(貯蔵穴 B) 遺物出土状況 (北北東から)



5. SI47 炉土層断面 (北東から)



6. SI47 炉掘り方全景 (南東から)



7. SI47 赤砂土層断面 P-P'(南南西から)

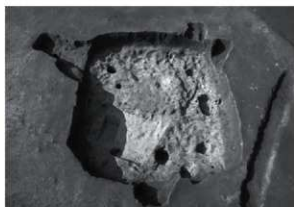


8. SI47 赤砂土層断面 O-O'(西南西から)

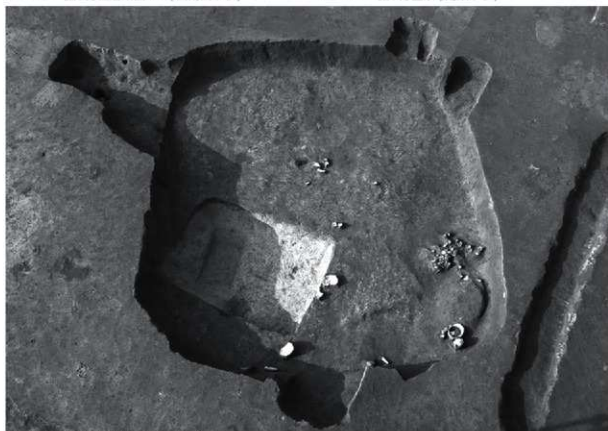
第 199 図 SI47 写真 (2)



1. SI47 掘り方土層断面 B-B' (西南西から)



2. SI47 掘り方全景 (南東から)



3. SI47 遺物出土状況 (南東から)

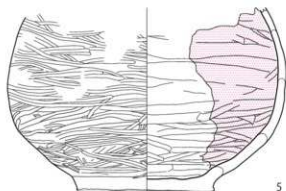
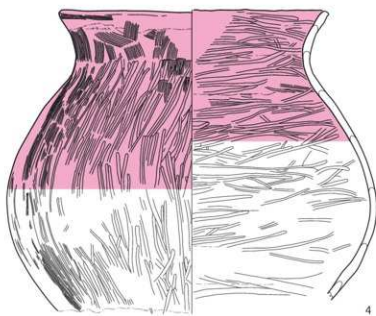
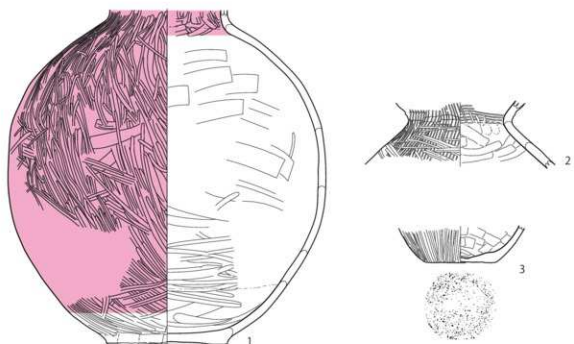


4. SI47 遺物出土状況 (東南東から)

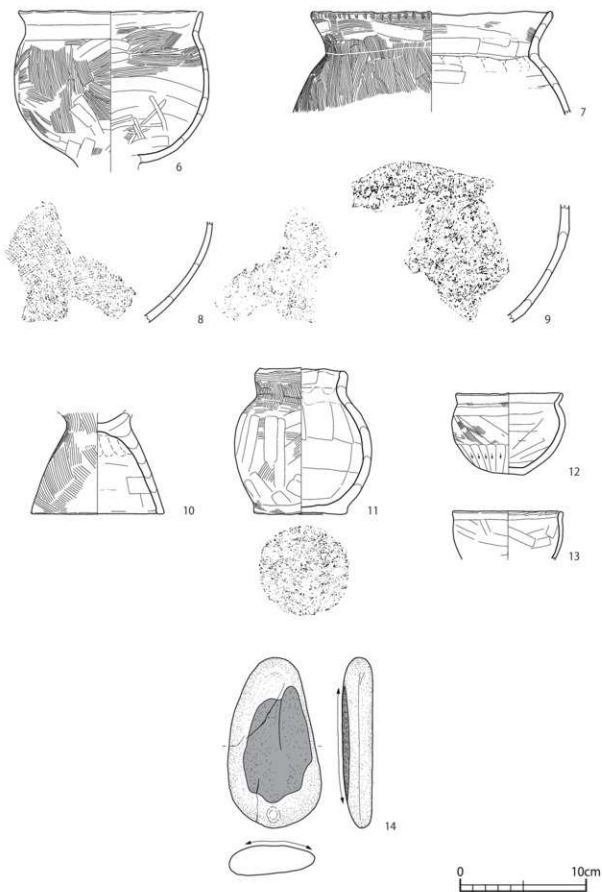


5. SI47 遺物出土状況 (南東から)

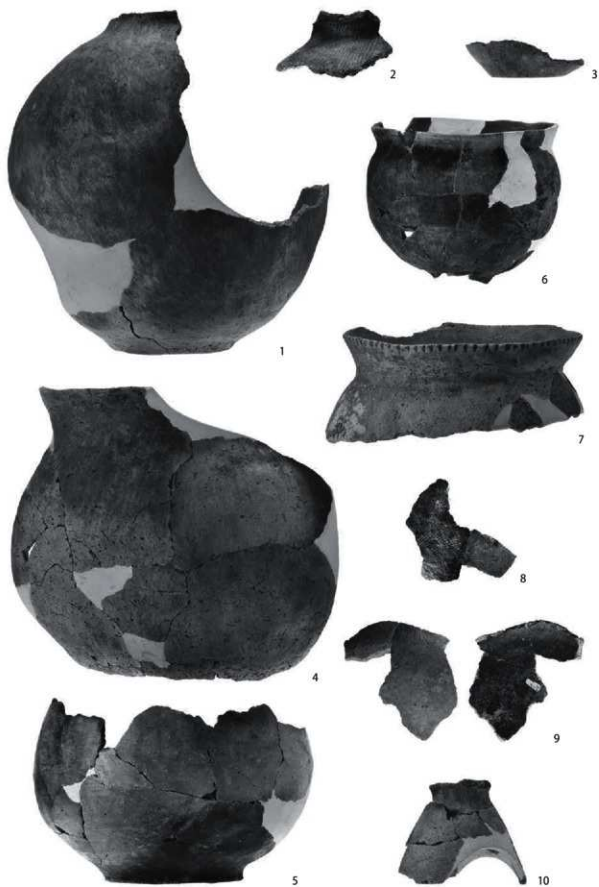
第 200 図 SI47 写真 (3)



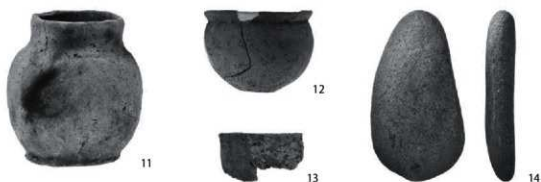
第201図 SI47出土遺物(1)(1/3)



第202図 SI47出土遺物(2)(1/3)



第203図 SI47出土遺物写真(1)



第204図 SI47出土遺物写真(2)

12と13は、小型の鉢である。12は、口縁部は受口状に内湾し、頸部は強く屈曲する。胴部上半が張り出し、最大径となる。底部径は小さく、平坦である。胎土は在地のものとは異なり、色調は橙色である。小型平底鉢の直前段階のものである可能性がある。13は、口唇部が平坦で、口縁部はやや外反する。口径と体部最大径がほぼ同じで、体部はやや内湾する。器壁は薄い。

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期Ⅰ段階新相に相当すると考えられる。

石製品 第202・204図14は、砂岩（銚子砂岩）製の磨石である。扁平で、一方の平坦面に磨減面を有する。磨減面は長軸に沿って2面存在し、切り合う。SI34の第107・109図16と類似する。

炭化材 炭化材が1点のみ出土している。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、炬からイネとアワ、ダイズ属の炭化種子が検出された。特に、アワの炭化種子が多量である。

付着炭化物の分析 台付甕片（第202・203図9）の内面に付着炭化物と土器胎土に対し、炭素窒素安定同位体比分析と残存脂質分析を実施した。炭素窒素安定同位体比分析の結果、C4植物への偏りが確認され、さらに残存脂質分析の結果、キビのバイオマーカーであるミリアシンが検出された（第Ⅴ章第5節参照）。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。

（守屋）

SI48（第205～211図、第23表）

遺構 調査区中央部の32N-100、33N-91、32O-10、33O-1グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、古代のSD9の他、近世以降のSKK594・598・602・603に切られる。また、北西300cmにはSI49が位置している。

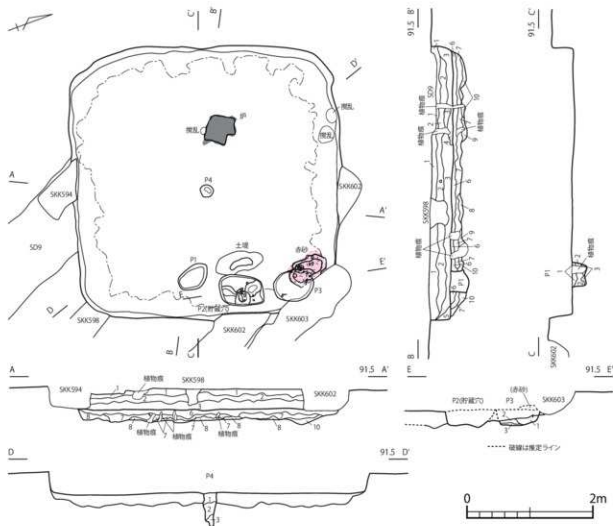
平面形態は隅丸方形で、長軸440cm、短軸430cm、検出面からの深さは39cmを測る。壁はやや内湾気味に立ち上がっている。主軸方向はN-70°-Wを指す。

床面は貼床で、壁際を除く広い範囲が硬化している。壁溝、主柱穴は確認されなかった。東壁寄りの中央よりやや南に梯子穴と思われるP1、同じく東壁際のP1より北側に貯蔵穴P2、更にその北側に貯蔵穴の可能性のあるP3が並ぶように検出された。また、建物跡中心部にP4、P4の西側に炬、P2の西側に土堤が検出された。

床面までの覆土は5層に分けられる。いずれも黄褐色スコリアを含む黒色土がベースで、そのうち

第 22 表 SI47 出土土器観察表

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第 201・203 図	1	P7 覆土	甕	— 9.6	最大径は胴部中間に位置する。最大径に対し、器高が高い。底部外面はヘラケズリによりドーナツ型となる。	外面：胴部ハケ調整後ヘラナデ。その残土に縦方向のミガキ。底部付近縦方向と横方向のミガキ。内面：頸部縦方向のミガキ。胴部上半横方向のヘラナデ。下半ヘラナデ後横方向のミガキ。	中小礫 石英 辰石	良好	外面 頸部内面	(赤彩) 10R5/4 赤褐色 7.5YR8/6 浅黄褐色	残存率 50～75%
	2	覆土 中から 下層	甕	— —	頸部が強く屈曲する。	外面：頸部から肩部幅広いハケ調整後横方向のミガキ。ハケ味がよく残る。内面：頸部縦方向のハケ調整後ミガキ。胴部縦方向のナデ。	白色小角礫 チャート 石英	緻密		5YR4/4 にぶい赤褐色	残存率 25% 以下。 古いハケ状工具による幅広いハケメ（菊川系の特徴か？、個人品か）。第 267・268 図と類似
	3	覆土 床面	甕	— 5.6	底部側面に残は無く、内消しながら立ち上がる。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：胴部縦方向のミガキ。内面：胴部縦方向のナデ。	小礫 石英	緻密		10YR6/3 にぶい黄褐色	残存率 25% 以下
	4	覆土 床面 S150E床面 S152E床面	広口甕	(20.8) (23.8) —	単口甕で、口頸部は平坦。口頸部は外反し、頸部は縦やか。胴部中間が口径と比較して大きく張り出し、最大径となる。	外面：口縁部ナデまたは横方向のハケ調整。頸部縦方向のハケ調整。胴部上半横方向のミガキ。胴部上半ハケ味がよく残る。内面：口縁部から胴部上半横方向のミガキ。下半横方向のヘラナデ。	小礫 石英 雲母	緻密	外面？ 内面	7.5YR6/6 褐色	残存率 50～75%。遺構間接合、イネ炭灰・アツ布ふる炭灰
第 202・203 図	5	覆土 床面 SI49E床面	広口甕	— (14.3) 10.6	最大径は胴部下平のやや低い位置にある。内面の底部付近に残は有する。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：胴部幅広いハケ調整後横方向のミガキ。内面：胴部縦方向のヘラナデ。	小礫 石英 白色砂粒	良好	内面の一部 (赤色顔料か)	7.5YR6/6 褐色 (内面顔料) 10R3/6 暗赤	残存率 60%。遺構間接合。古いハケ状工具による幅広いハケメ。炭灰出土土片は赤色顔料用のバレットに転用か。アツ布ふる炭灰
	6	覆土 床面	台付甕	14.3 (12.3) —	単口甕で口頸部は丸みを帯びる。口縁部はやや外反。胴部最大径に対して器高が低い。	外面：口縁部横方向のナデ。胴部ハケ調整後横方向の強いナデ。胴部下半縦方向のハケ調整。内面：口縁部から胴部上半横方向のナデまたはハケ調整。下半ナデ後一部ミガキ。	小礫 雲母	良好		7.5YR5/3 にぶい黄褐色	残存率 70%。小型の台付甕
	7	覆土 床面	台付甕	18.9 — —	口頸部は丸みを帯び、唇みを有する。口縁部は外反し、頸部は強く屈曲する。	外面：口縁部横方向のハケ調整後ナデ。胴部縦方向のハケ調整。内面：口縁部縦方向のハケ調整後ナデ。胴部ナデ。	小礫 白色砂粒	良好		10YR8/4 浅黄褐色	残存率 25～50%
	8	覆土 床面	台付甕	— — —	胴部下平片	外面：胴部斜め方向のハケ調整。内面：胴部ナデまたはハケ調整。	小礫 石英	良好		7.5YR4/4 褐色	破片。イネふる炭灰
	9	覆土 床面	台付甕	— — —	胴部片	外面：ハケ調整後ナデ。内面：ナデ。	小礫	良好		10YR8/4 浅黄褐色	破片。内面に炭灰。物付着。微粒子分析資料
	10	覆土 上から 中層	台付甕	— (10.4)	胴部は内消する。	外面：胴部斜め方向のハケ調整。内面：横方向のヘラナデ。	小礫 白色砂粒	良好		7.5YR5/4 にぶい黄褐色	残存率 25% 以下。破断面の摩耗あり。転用甕の可能性あり
	11	覆土 床面	小型甕	6.8 11.6 7.4	口頸部は丸みを帯びる。口縁部は直線的で、垂直に立ち上がる。肩部に残はを有し、胴部中央に最大径を有する。底部外面はやや窪む。	外面：口縁部横方向。胴部縦方向のハケ調整。胴部縦方向のハケ調整後ナデ。内面：口縁部から胴部ナデ。胴部縦方向の幅広いヘラナデ。	小礫 辰石	良好		10YR7/4 にぶい黄褐色	定形
	12	覆土 床面	鉢	(8.3) 6.5 2.3	受け口状口縁で、頸部は強く屈曲。最大径は胴部上半に位置する。底部径は小さく、平坦。	外面：口縁部ナデ。胴部上半斜め方向のハケ調整またはナデ。下半横方向のケズリ。内面：口縁部から胴部上半横方向のナデ。下半横方向のヘラナデ後ナデ。	小礫 辰石 角閃石 白色砂粒	軟質		5YR7/8 褐色	残存率 75%。小型丸底鉢の直前か？個人品か
	13	覆土 床面	鉢	8.5 (3.8)	口径と体部最大径はほぼ同じ。口頸部は平坦で、口縁部がやや外反。胴部は緩やかに内消する。器厚は薄い。	外面：横方向のナデ。内面：口縁部ハケ調整後横方向のナデ。胴部ナデ。	小礫 石英	良好		10YR6/4 にぶい黄褐色	残存率 25% 以下



S148

1. 10YR1/7 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粒子 15% を含む。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。若干層状性あり。
2. 10YR1/7 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 7%・褐色スコリア 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 2% が挟状に混じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%・褐色スコリア 2% を含む。黒褐色土 5% が挟状に混じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 5%、焼土 (5YR4/8) 15% が挟状に混じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 2% を含む。暗褐色土 7% が挟状に混じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR2/2 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 10%、焼土 (10YR4/6) 7% が挟状に混じる。結まり強、粘性やや強、粒子細かい。
7. 10YR2/2 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 5% を含む。暗褐色土 20%、焼土 10% が挟状に混じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
8. 10YR3/4 暗褐色土層 やや強、粒子細かい。直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 5% を含む。暗褐色土 (10YR2/2) 10%、焼土 7% が挟状に混じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
9. 10YR3/4 暗褐色土層 が挟状に混じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。直径 4mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 5mm 以下のローム粒子 7% を含む。黒褐色土 (10YR2/1) 3%、焼土 7% が挟状に混じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
10. 10YR2/2 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 5%、焼土 13% が挟状に混じる。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。

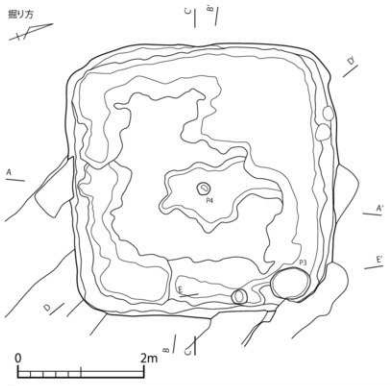
P1

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア 各 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 1% を含む。結まり強、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 1mm 程度の褐色スコリア 1% を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 7% が挟状に混じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1% を含む。黒褐色土 (10YR2/1) 5%、暗褐色土 (10YR2/2) 3% が挟状に混じる。結まり・粘性やや強、粒子細かい。

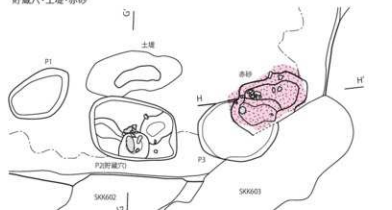
P3

1. 10YR2/2 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 5%・ローム粒子 3%、直径 1mm 以下の白色砂粒 5%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 20%、赤砂 (7.5YR2/2) 10% が挟状に混じる。結まり有り、粘性強、粒子細かい。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 各 2%、ローム粒子 5%、直径 1mm 以下の白色砂粒 5% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%、赤砂 10% が挟状に混じる。結まりやや強、粘性強、粒子細かい。
3. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 5%、直径 10mm 以下のローム粒子 7% を含む。暗褐色土 (10YR2/2) 7% が挟状に混じる。結まり有り、粘性強、粒子細かい。

第 205 図 S148(1)(1/60)



貯蔵穴・土堤・赤砂

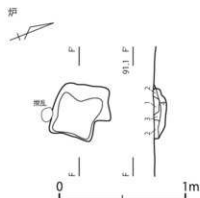


P2貯蔵穴・土堤

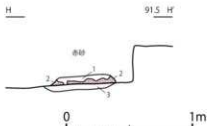
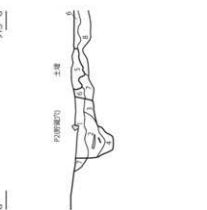
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア5%・褐色スコリア1%、直径5mm以下のローム粒子2%、直径3mm以下の炭化物粒子1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア2%、直径3mm以下のローム粒子7%を含む。暗褐色土7%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア1%を含む。黒褐色土(10YR2/2)2%、暗褐色土15%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%、直径2mm以下の褐色スコリア1%、直径5mm以下のローム粒子30%を含む。暗褐色土20%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%、直径4mm以下の褐色スコリア2%、直径3mm以下の赤い黄褐色粒子5%、直径1mm以下の白色砂粒3%を含む。暗褐色土5%が横状に散じる。締まり極めて強、粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 灰土。直径4mm以下の褐色スコリア3%、直径3mm以下の黄褐色スコリア・赤い黄褐色粒子各3%、直径1mm以下の白色砂粒3%を含む。暗褐色土7%が横状に散じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア3%、直径2mm以下の赤い黄褐色粒子2%を含む。暗褐色土10%、褐色土(10YR4/6)2%が横状に散じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 灰土。直径2mm以下の黄褐色スコリア1%、直径4mm以下の褐色スコリア3%を含む。暗褐色土15%、褐色土5%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。

赤砂

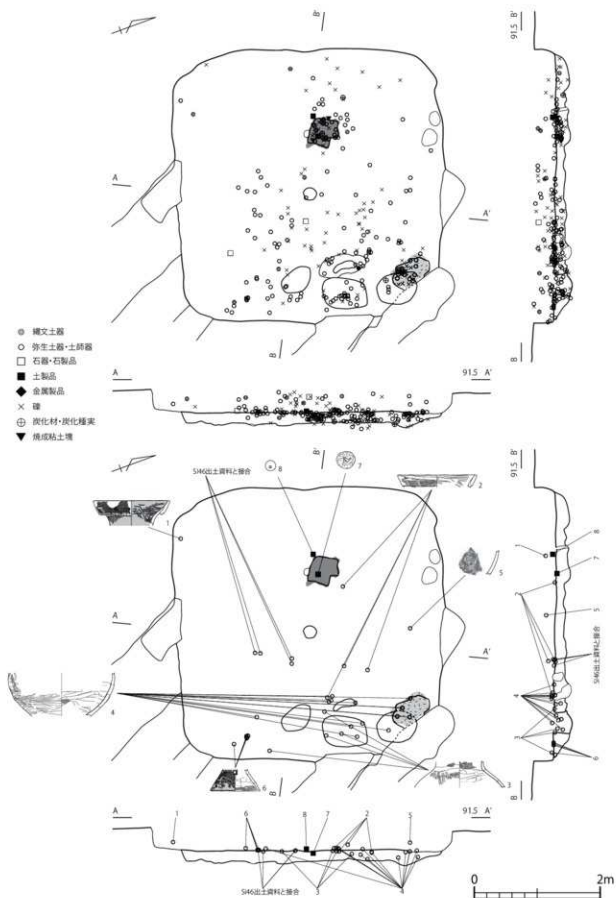
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色・褐色スコリア各1%、直径3mm以下の赤い黄褐色粒子1%、直径1mm以下の白色砂粒3%を含む。赤砂(10YR2/2)10%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 赤砂。直径1mm以下の黄褐色スコリア1%・褐色スコリア2%、直径1mm以下の白色砂粒、直径3mm以下の小礫2%を含む。赤砂30%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
3. 7.5YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア2%、直径3mm以下の褐色スコリア1%、直径4mm以下の小礫5%を含む。赤砂15%、黒褐色土(10YR2/2)20%、暗褐色土(10YR3/4)3%が横状に散じる。締まり強、粘性有り、粒子細かい。



1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%・黄褐色スコリア2%・ローム粒子2%を含む。焼土(暗褐色7.5YR3/4)7%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・ローム粒子3%・焼土粒子7%、直径2mm以下の炭化物粒子1%を含む。焼土10%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
3. 7.5YR2/3 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%、直径4mm以下の焼土粒子7%を含む。黄褐色土(10YR2/2)5%が横状に散じる。締まり・粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmの黄褐色スコリア2%、直径2mm以下の褐色スコリア3%、焼土粒子7%、直径10~50mmの焼土ブロック(10YR4/6)3%を含む。暗褐色土(7.5YR3/4)15%が横状に散じる。締まり有り部分的にやや強、粘性やや強、粒子細かい。



第206図 S148(2)(1/60)、炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)





1. SI48 全景 (東南東から)



2. SI48 土層断面 A-A' (東南東から)



3. SI48 土層断面 B-B' (北北東から)



4. SI48 P1 土層断面 (北北東から)



5. SI48 P2(貯蔵穴) 土層断面 (北北東から)

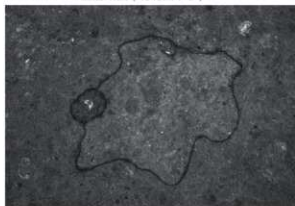
第 208 図 SI48 写真 (1)



1. SI48 P3土層断面(北北西から)



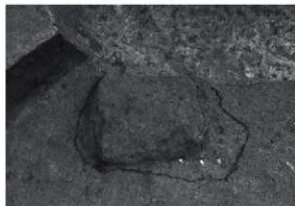
2. SI48 P4土層断面(西南西から)



3. SI48 炉全景(東南東から)



4. SI48 炉土層断面(北北東から)



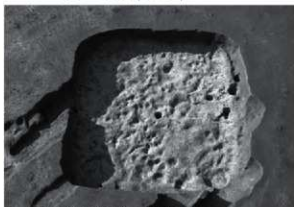
5. SI48 赤砂椽出状況(西南西から)



6. SI48 赤砂土層断面(東から)

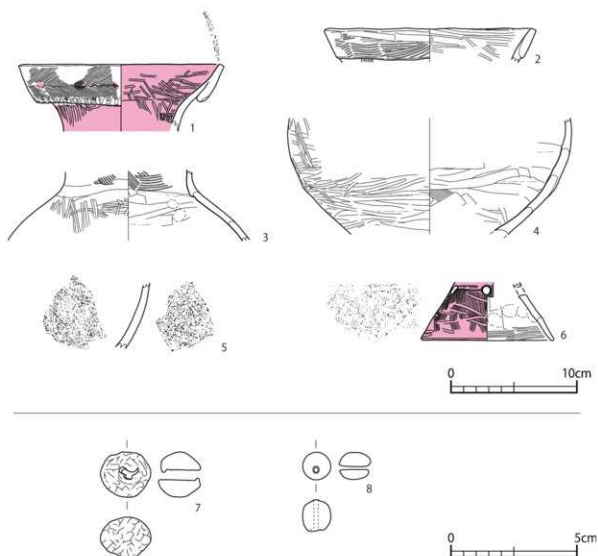


7. SI48 遺物出土状況(北北東から)



8. SI48 掘り方全景(東南東から)

第 209 図 SI48 写真(2)



第210図 SI48出土遺物(1/3・2/3)

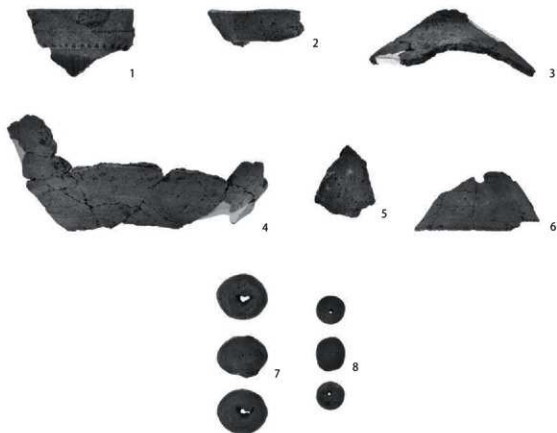
炉に近い4層は、焼土が多く検出されている。

掘り方は、壁際の一部に狭いテラス状の段差がある他、全体的に凹凸を有している。掘り込みは床面から深いところで25cm程度で、概ねローム層の上面まで達している。掘り方の覆土は5層に分けられ、黒褐色土もしくは暗褐色土が主体である。ロームの混入は少ない。

P1は、位置的には梯子穴と考えられる。長軸54cm、短軸37cm、床面からの深さは32cmである。

貯蔵穴P2は隅丸長方形を呈し、規模は長軸69cm、短軸51cm、床面からの深さ30cmを測る。底部は窪みや段差を有し、壁は垂直に立ち上がる。覆土は4層に分けられ、壺(第210・211図3・4)等が出土している。

また、貯蔵穴P2に隣接して、北東側には貯蔵穴の可能性のあるP3が確認された。掘り方掘削中に検出されたが、本来は床面から掘り込まれていたと想定される。平面形態は楕円形を呈し、長軸70cm、短軸52cm、床面からの深さ31cmを測る。底部は中心部分がやや窪んでいるが、比較的平坦である。壁はやや内湾気味に立ち上がっている。平面的には赤砂の堆積より下位に位置しており、確



第211図 SI48出土遺物写真

認められた範囲内で3層に分けられる覆土の各層からも赤砂が検出された。

床面の中央にはP4が確認された。直径20cmの円形を呈し、床面からの深さは54cmとやや深い。覆土は3層からなる。

土堤は貯蔵穴P2の西側で検出された。長さ78cm、幅35cm、床面からの高さ3cmで、直線的である。主に黒色土を突き固めて構築されている。

炉は地床炉で不整形を呈し、東西49cm、南北47cmを測る。竪穴建物跡貼床土中を底面とする掘り方を持つ。4層からなる覆土のうち、最下層の4層は強く被熱している。枕石は検出されなかった。

赤砂は建物跡北東隅の壁沿い、P3の一部にかかる状態で検出された。一部がSKK603により切られている。床面からの盛り上がりは最大9cmが確認され、3層に分層したうちの2層が赤砂層である。上面からは土器が出土片や小礫が複数出土した。

(相原)

出土遺物 縄文土器片6点と弥生土器・土師器片152点、土師器1点、土製品4点、石器1点、礫81点、炭化物6点が出土した。

遺物出土状況 遺物は炉の周辺と竪穴建物跡東隅周辺で集中して出土した。炉の周辺の床面から、土玉2点(第210・211図7・8)が出土している。東隅周辺の床面からは、壺(同3・4)が出土した。

また、SI46で出土した壺(第189・190図1)は、SI48の床面から出土した土器片と遺構間接合した。SI48を切る近世土坑SKK602からは、台付甕脚部(第267・268図12)が出土しており、本

第23表 SI48 出土土器・土製品観察表

図	番号	部位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第210・211図	1	覆土下層	壺	(15.3) —	複合口縁で、口縁下端に刻みを有する。口縁部は受け口状に内湾する。口唇部は平坦で縦文施す。	外面：口唇部は単節 RL。口縁部は羽状縦文(上段単節 LRZ 端、下段単節 RLZ 端)。上段と下段の境界に円形朱文。頸部縦方向のハケ調整縦方向のミガキ。内面：口縁部から頸部縦方向のナデ縦横または斜め方向のミガキ。	小礫	良好	頸部外面、口縁部から頸部内面、口縁部外面に円形朱文	7.5YR6/6 橙	残存率 25% 以下
	2	覆土床面	壺	(16.0) —	折り返し口縁で、口縁部はやや外反する。口唇部は平坦。	外面：口縁部縦方向の幅広いハケ調整縦横方向のナデ。複合部下端ミガキ。頸部縦方向のハケ調整。内面：口縁部ナデ縦横方向のミガキ。	小礫	良好		7.5YR7/4 に近い橙	残存率 25% 以下。粗いハケ状工具による幅広いハケメ(菊川系の模倣か?)
	3	覆土床面	壺	— —	肩部から頸部は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。	外面：頸部縦方向の幅広いハケ調整縦横方向のナデ。肩部ハケ調整縦横方向のナデ。内面：頸部縦方向のハケ調整。頸部縦方向のナデ。	小礫 石英	良好		7.5YR6/6 橙	残存率 25% 以下。粗いハケ状工具による幅広いハケメ(菊川系の模倣か?)
	4	覆土床面	壺	— —	胴部下平	外面：胴部縦方向のミガキ。内面：胴部ハケ調整縦横方向のナデ。	小礫 長石	良好		10YR6/4 に近い黄褐色	残存率 25% 以下
	5	覆土中層	壺	— —	胴部片	外面：胴部ハケ調整後ミガキ。内面：胴部ナデ。	小礫 長石 石英	良好		7.5YR4/6 橙	破片。キビ顔面圧痕
	6	覆土床面	高坏	— (10.0)	脚部は直線的に広がる。少なくとも2箇所が穿孔される。	外面：脚部縦方向のハケ調整後主に横方向のミガキ。内面：脚部ヘラナデ。下部は横方向のハケ調整。	小礫、 チャート 石英	良好	外面	2.5YR6/4 に近い橙	残存率 25% 以下
	7	覆土床面	土製品(土玉)	(高さ) 1.6 (幅) 2.0 (厚さ) 1.8	短軸に穿孔があり、幅広い。側面縦は算盤玉形である。穿孔径最大 4.4mm。	外面：全面ミガキ。ミガキ痕跡がよく残る。穿孔：両側から施され、2本の孔が重複する。	小礫 雲母	良好		5YR5/4 に近い赤褐色	完形
	8	覆土床面	土製品(土玉)	(高さ) 1.2 (幅) 1.1 (厚さ) 1.1	長軸に穿孔があり、縦長である。穿孔径最大 1.5mm。	外面：ナデ。	小礫 白色砂粒	良好		7.5YR6/4 に近い橙	完形

来は SI48 に伴う遺物であった可能性があるが、遺構外出土遺物として扱った。

土器 第189・190図1～5は、壺である。1は複合口縁で、複合部下端に刻みを有する。口唇部は平坦で、単節 RL の縄文が施文される。口縁部は内湾し、頸部は外反する。口縁部外面は羽状縄文が施文され、上段は単節 LR で下端が Z 字状端末結節文、下段は単節 RL で下端はおそらく S 字状端末結節文であろう。縄文施文後、円形朱文が施される。頸部外面と口縁部から頸部内面はミガキ後赤彩が施される。2は、折り返し口縁で、口唇部は平坦に面取りされる。口縁部と頸部は外反する。口縁部外面には、粗いハケ状工具による幅広いハケメが施される。3は、頸部から肩部である。頸部は緩やかに曲がる。外面は、粗いハケ状工具による幅広いハケメをヘラナデで消し、さらに縦方向のミガキを加える。4は、胴部下半である。下半に明瞭な稜を有する。5は、胴部片である。

6は、高坏の脚部で、直線的に開く。少なくとも2箇所に穿孔が施される。また、2箇所の穿孔の間に沈線が存在する。外面は縦方向のハケ調整後、ミガキ後赤彩が施される。

7と8は、土製品(土玉)である。7は、比較的大型の土玉で、側面形状は楕円形である。穿孔は、短軸方向に対し、棒状工具により両側から施されているため、ずれて歪な形状である。穿孔径は最大で 4.4mm である。全面に粗くミガキを施しており、表面の凹凸が目立つ。8は、小型の土玉で、長軸方向に穿孔が施される。穿孔の断面形は楕円形で、直径は最大で 1.5mm である。

土器の年代は、比田井編年（比田井 2001）の古墳時代前期 1 段階新相に相当すると考えられる。

炭化材 炉の周辺等で炭化材が少数出土しているが、いずれも小片である。

炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、炉からイネとアワ、オニグルミの炭化種実が検出された。また、貯蔵穴と考えられる P7 から、不明の炭化種実が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。（守屋）

SI49（第 212～217 図、第 24 表）

遺構 調査区中央部の 32N-89・90・99・100 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、近世以降の SDK900・975・976・977、SKK593 及び攪乱に切られる。また、南東 300cm には SI48 が位置している。

平面形態は隅丸方形で、南東-北西 288cm、北東-南西 281cm と小型である。検出面からの深さは 47cm で、壁は概ね垂直に立ち上がっている。主軸方向は N-47°-W を指す。

床面は貼床で、硬化面は壁際を除く広い範囲で確認されたが、南西・北西壁寄りでは、硬化が見られない範囲が広がっている。壁溝、主柱穴は確認されなかった。南東壁際の中央に梯子穴と思われる P3、南西壁際の南寄りに貯蔵穴 P2、北東壁寄りの中央にピットが 1 基検出された（P1）。また、床面中央部のやや北西では炉が検出された。

床面までの覆土は 10 層に分けられ、その多くが黄褐色スコリアを含む黒色土がベースとなっている。このうち、床面に接する 6・9 層には焼土を含んでいる。焼土は面的にも範囲が確認されていて、焼土の混入した土が外部から持ち込まれて投棄されたと想定される。また、南東壁際の 8 層にはロームブロックや斑状の暗褐色土が多く含まれており、こちらも平面的に範囲を確認することができた。この 8 層は外部からの投棄が想定される。

掘り方の掘り込みはローム層まで達し、全体的に凹凸を有している。東隅を除いて、隅の部分がやや深く掘り込まれている。掘り方の覆土は主に黒色土や黒褐色土を主体とし、5 層に分けられる。そのうち下層の 17 層には、ローム由来の褐色土が斑状に多く含まれている。

P3 は梯子穴と考えられる。長軸 32cm、短軸 26cm、床面からの深さ 29cm の楕円形で、断面形状は U 字状、覆土は 3 層に分けられる。

貯蔵穴 P2 は、掘り方覆土の掘削中に検出されたが、本来は床面から掘り込まれていたものである。隅丸長方形を呈し、規模は長軸 75cm、短軸 48cm、深さ 38cm を測る。底部は比較的平坦である。

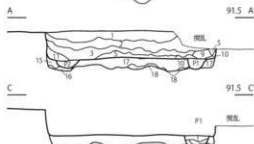
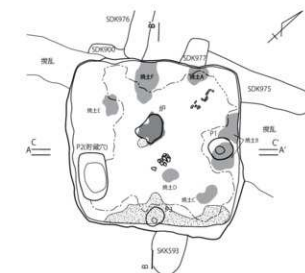
P1 は北東壁寄りの中央で検出された。36cm 四方の丸隅方形で、深さ 21cm、断面形態は U 字状を呈する。覆土は 3 層に分けられ、上層の 1・2 層は黒色土層、下層の 3 層はローム主体の層である。

炉は不整形の地床炉で、貼床土中を底面とする浅い掘り方を持つ。覆土は単層で、焼土や炭化物粒子を含むが、被熱の程度は弱い。枕石は検出されなかった。

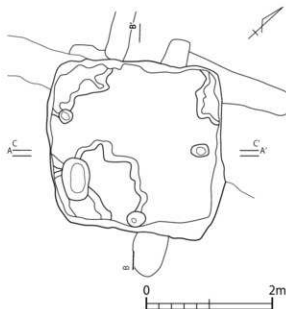
土堤と赤砂は検出されなかった。（相原）

出土遺物 縄文土器片 5 点と弥生土器・土師器片 13 点、礫 17 点、炭化物 5 点が出土した。

遺物出土状況 出土遺物が非常に少ないことが特徴である。第 216・217 図 1 は、SI49 の覆土最上層からの出土であり、遺構に伴わない可能性がある。また、SI49 中央の床面から出土した広口壺片が、SI47 から出土した広口壺片と接合した（第 202・203 図 5）。前述の通り、本遺構の床面直上から出土した土器片には、内面に赤色顔料の可能性のある赤彩状範囲が確認されている。

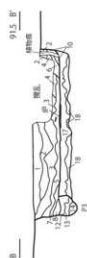


掘り方



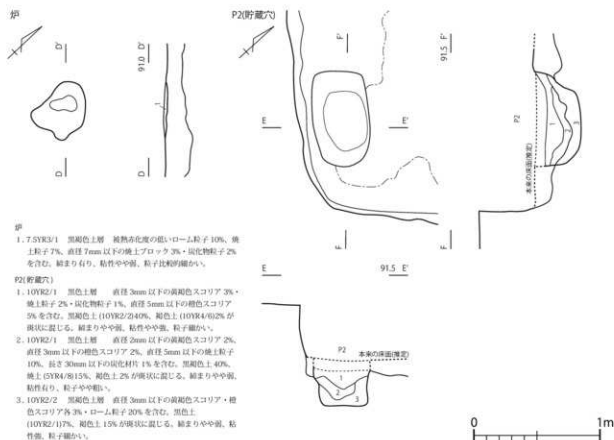
P1

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア5%・褐色スコリア3%、長さ10mm以下の炭化物1%を含む。黒褐色土(10YR2/2)7%、褐色土(10YR4/6)2%が喉状に散在。結まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%、暗褐色土(10YR3/4)7%、褐色土(10YR4/6)3%が喉状に散在。結まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR4/6 褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア3%を含む。黒色土(10YR2/1)3%、黒褐色土(10YR2/2)5%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。



549

1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の褐色スコリア3%、直径3mm以下の黄褐色スコリア5%、黒色スコリア、にふい黄褐色粒子各3%を含む。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各3%、黒色スコリア、にふい黄褐色粒子各2%、直径5～10mmのロームブロック1%を含む。暗褐色土(10YR3/3)3%が喉状に散在。結まりは有り部分的にやや強、粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各2%、直径2mm以下のにふい黄褐色粒子15%を含む。暗褐色土(10YR3/3)2%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア2%、にふい黄褐色粒子3%、直径5～10mmのロームブロック2%を含む。暗褐色土(10YR3/3)2%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア5%、にふい黄褐色粒子、焼土粒子各3%、直径5～10mmのロームブロック3%、1～5mmの炭化物2%を含む。暗褐色土(10YR3/3)5%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア2%、直径3mm以下の褐色スコリア2%、直径4mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下の炭化物1%を含む。焼土(5YR4/6)2%が喉状に散在。粒子細かい。結まり有り、粘性有り。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各1%、にふい黄褐色粒子10%を含む。暗褐色土(10YR3/3)2%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%、直径5mm以下の褐色スコリア3%、直径5～50mmのロームブロック15%を含む。暗褐色土(10YR3/3)30%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア1%、直径3mm以下の焼土粒子10%・炭化物粒子3%を含む。焼土(5YR4/6)10%、暗褐色土(10YR3/3)3%が喉状に散在。結まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%、直径2mm以下のにふい黄褐色粒子3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)2%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
11. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア1%、直径2mm以下の褐色スコリア2%、にふい黄褐色粒子7%を含む。黒褐色土2%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
12. 10YR2/2 黒褐色土層 P3. 直径3mm以下の褐色スコリア5%・ローム粒子10%・直径10～30mmのロームブロック3%、直径3mm以下の炭化物粒子1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
13. 10YR2/3 黒褐色土層 P3. 直径3mm以下の褐色スコリア2%・ローム粒子5%を含む。暗褐色土(10YR3/4)10%、褐色土(10YR4/6)5%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
14. 10YR2/1 黒色土層 P3. 直径5mm以下の褐色スコリア3%、直径3mm以下のローム粒子5%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%、褐色7%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
15. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア7%・ローム粒子10%、長さ10mm以下の炭化物1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%、褐色土3%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。
16. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア2%・ローム粒子15%を含む。暗褐色土(10YR3/4)7%、褐色土3%が喉状に散在。結まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
17. 10YR2/2 黒褐色土層 焼土上。直径5mm以下の褐色スコリア5%、直径3mm以下の黄褐色スコリア3%を含む。暗褐色土(10YR3/4)30%、褐色土15%が喉状に散在。結まり強、粘性やや強、粒子細かい。
18. 10YR4/6 褐色土層 直径5mm以下の褐色スコリア5%を含む。黒褐色土10%、暗褐色土(10YR3/4)7%が喉状に散在。結まり・粘性やや強、粒子細かい。



第 213 図 SI49(2) 炉・貯蔵穴 (1/30)

土器 図示できる遺物は少ない。第 216・217 図 1 は、壺の底部片で、外面は平坦である。底部側面はハケ調整である。

土器の年代は、SI47 の第 201・203 図 5 と接合した破片から、比田井編年 (比田井 2001) の古墳時代前期 I 段階新相に相当すると考えられる。

炭化材 北隅から中央に向かって出土したものの他、5 点の炭化材が出土している。

炭化種実 (水洗選別) 炉からサンショウとハギ属の炭化種子、焼土 A からハギ属の炭化種子、焼土 B からエノキグサ属の炭化種子が検出された。

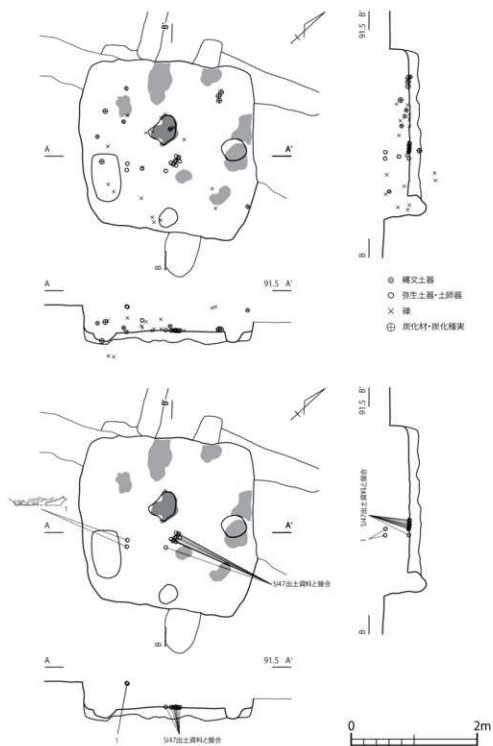
出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。 (守屋)

SI50 (第 218 ～ 228 図、第 25 表)

遺構 調査区北東部の 33N-55・56・65・66 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、SK146 (SI50 覆土上で検出)、SDK1005、SKK644 (SI50 覆土上で検出)・711・712 及び攪乱に切られている。また、南東 340cm には同時期の SI47 が位置している。

平面形態は隅丸長方形で、長軸 530cm、短軸 477cm、検出面からの深さは 66cm を測る。壁はやや内湾気味に立ち上がっている。主軸方向は N-46°-W を指す。

床面は貼床で、硬化面は、西側半分では壁際を除く範囲で確認されたが、東側では、硬化が弱かったためか確認することができなかった。壁溝は確認されず、主柱穴は 3 基 (P1 ～ 3) が確認された。



第 214 図 SI49(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. SI49 全景 (南東から)



2. SI49 P1 土層断面 (南東から)



3. SI49 P2(貯蔵穴) 土層断面 (南東から)

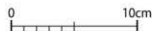


4. SI49 土層断面 A-A' (南東から)



5. SI49 遺物出土状況 (南東から)

第 215 図 SI49 写真



第216図 SI49出土遺物(1/3)



第217図 SI49出土遺物写真

第 24 表 SI49 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第 216 + 217 図	1	覆土 土層	— (1.7) (9.7)	底部分。底面外面は平坦。	外面：縦方向のハケ調整後横方向 のミガキ。内面：ヘラナデ。	小硬 長石 石灰	良好		10YR6/4 にふい黄砂	残存率 25% 以下

残る 1 基は攪乱により湮滅したと思われる。南東壁寄り中央のやや南西側に梯子穴と思われる P5、南東壁際の北東寄りに貯蔵穴 P6 の他、主柱穴 P3 の南西に小さなピット (P4) が検出された。炉は建物中央のやや北寄りで検出された。

床面までの覆土は 8 層に分けられる。主に黄褐色スコリアを含む黒色土がベースとなっており、壁際の 5～7 層には焼土が含まれていた。なお、床面の西壁寄りからは、後述の通り複数の炭化材が出土している。

掘り方の掘り込みは概ね基本土層 IV～VS 層まで達し、北壁を除く壁際に緩やかな段差を有している。その他の部分は緩やかな凹凸を有している。掘り方の覆土は 2 層に分けられ、そのうち下層の 10 層は、褐色土や暗褐色土が斑状に多く含まれている。

主柱穴は、前述の通り 4 基あったと想定されるうちの 3 基が検出された。床面からの深さは P1 が 53cm、P2 が 60cm、P3 が 36cm で、いずれもローム層まで深く掘り込まれている。

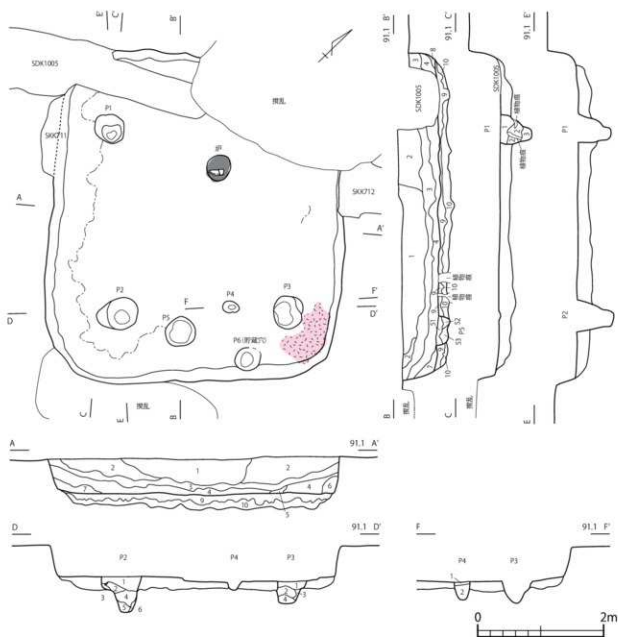
P4 は梯子穴と考えられる。長軸 49cm、短軸 47cm の円形を呈し、床面からの深さ 22cm、覆土は 3 層に分けられる。

貯蔵穴 P6 は円形を呈し、規模は長軸 40cm、短軸 37cm、深さ 20cm とやや小型である。覆土は 3 層に分けられ、そのうち 1 層には焼土粒子がやや多く含まれている。

主柱穴 P2・3 間の P3 寄りで検出された小型のピット P4 は、平面形態は楕円形で、長軸 26cm、短軸 20cm、深さ 29cm を測る。覆土は 2 層からなり、上層の 1 層は貼床と同様に強く硬化しており、埋め戻しの後に転圧されたと想定される。

炉は円形を呈する地床炉で、長軸 41cm、短軸 38cm を測る。竪穴建物跡貼床土中を底面とする浅い掘り方を持つ。覆土は 1 層のみで、焼土を含むが被熱の程度は弱い。枕石は砂岩で、炉の中心よりやや南東寄りに置かれている。被熱や煤の付着が確認され、2 つに割れていた。

赤砂は建物跡東隅際で、床面から 15cm 盛り上がり検出された。土層断面 J-J' の観察によると、赤砂を含む 1～3 層のうち、1 層で特に赤砂の含有が顕著で、焼土も含まれていた。5 層は床面より



第218図 SI50(1)(1/60)

低い位置で確認されており、赤砂が床面に染み込んだものと思われる。

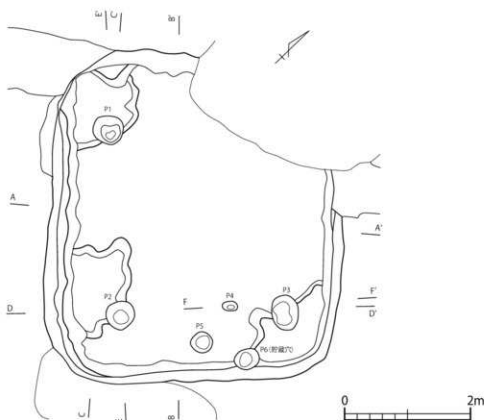
なお、土堤は検出されなかった。

(相原)

出土遺物 縄文土器片 5点と弥生土器・土師器片 108点、土製品 3点、石器 1点、礫 37点、炭化物 12点が出土した。

遺物出土状況 SI50の竪穴建物跡東隅と南隅で遺物が集中して出土した。壺（第227・228図1）と広口壺（同3）、台付甕（同5）、高坏（同6）、鉢（同7・8）は東隅の床面から纏まって出土した。台付甕（同4）は南隅から出土した。壺（同2）は炉に隣接した床面から出土した。

また、東隅から出土した台付甕（同5）と高坏（同6）は、SI47と遺構間接合した。同様に東隅



S50

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各5%、直径5mm以下の黄褐色スコリア(10YR7/6)30%、直径2mm以下の黒色スコリア5%を含む。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い。B2層相当。
2. 10YR2/2 黒色土層 直径5mm以下の黄褐色スコリア50%、直径3mm以下の黄褐色スコリア5%・褐色スコリア・黒色スコリア各3%を含む。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の黄褐色スコリア10%、直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各3%・黒色スコリア2%・炭化物粒子1%を含む。細まりやや強、部分的に塊状、粘性有り、粘土層が浅い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア3%、直径2mm以下の黄褐色スコリア5%・焼土粒子7%、長さ10mm以下の炭化物3%を含む。暗褐色土(10YR3/4)2%が塊状に散在する。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア5%・黄褐色スコリア2%・褐色スコリア1%・焼土粒子7%、長さ10mm以下の炭化物3%を含む。焼土2%が塊状に散在する。細まり強、粘性有り、粘土層が浅い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア5%・黄褐色スコリア・褐色スコリア各2%・直径3mm以下の焼土粒子7%、長さ30mm以下の炭化物5%を含む。焼土3%が塊状に散在する。細まり・粘性有り、粘土層が浅い。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア・焼土粒子各3%、炭化物粒子1%、直径3mm以下の褐色スコリア1%を含む。暗褐色土2%が塊状に散在する。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm程度の黄褐色スコリア2%、直径2mm以下の黄褐色スコリア2%・褐色スコリア3%を含む。黒褐色土(10YR2/2)15%、暗褐色土5%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性やや強、粘土層が浅い。
9. 10YR2/1 黒色土層 焼土床。直径3mm以下の黄褐色スコリア・黄褐色スコリア各2%・褐色スコリア5%・炭化物粒子1%を含む。暗褐色土5%、黒褐色土7%が塊状に散在する。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い、部分的に黒褐色土がブロックを含む。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の褐色スコリア3%、直径3mm以下のローム粒子10%、長さ10mm以下の炭化物1%を含む。黒色土(10YR2/1)2%、暗褐色土20%、褐色土(10YR4/6)30%が塊状に散在する。細まり・粘性やや強、粘土層が浅い。

P1

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各5%、直径5mm以下の炭化物粒子1%を含む。暗褐色土(10YR3/4)7%が塊状に散在する。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア5%を含む。黒褐色土(10YR2/2)10%、暗褐色土3%、褐色土(10YR4/6)2%が塊状に散在する。細まり有り、粘性やや強、粘土層が浅い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア1%・褐色スコリア2%を含む。黒色土(10YR2/1)2%、暗褐色土15%、褐色土2%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性やや強、粘土層が浅い。

P2

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア10%・褐色スコリア5%、直径2mm以下のローム粒子10%、直径5mm以下の炭化物粒子2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)15%、暗褐色土(10YR3/4)7%が塊状に散在する。細まり・粘性やや強、粘土層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各3%、直径5mm以下のローム粒子15%を含む。暗褐色土10%、褐色土(10YR4/6)3%が塊状に散在する。細まり有り、粘性やや強、粘土層が浅い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各2%、直径5～30mmのロームブロック7%を含む。暗褐色土10%が塊状に散在する。細まり有り、粘性やや強、粘土層が浅い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各7%・ローム粒子20%を含む。暗褐色土・褐色土各7%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性やや強、粘土層が浅い。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各2%・ローム粒子10%を含む。暗褐色土30%、褐色土3%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性やや強、粘土層が浅い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア1%、直径10～20mmのロームブロック10%を含む。褐色土10%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性やや強、粘土層が浅い。

P3

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア7%・褐色スコリア3%、直径5mm以下の炭化物粒子2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)5%、暗褐色土(10YR3/4)10%が塊状に散在する。細まり・粘性やや強、粘土層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア10%・褐色スコリア5%を含む。黒褐色土40%、暗褐色土3%が塊状に散在する。細まり有り、粘性やや強、粘土層が浅い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア3%・褐色スコリア5%を含む。黒褐色土30%、暗褐色土10%、褐色土(10YR4/6)7%が塊状に散在する。細まり・粘性やや強、粘土層が浅い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各5%を含む。黒色土(10YR2/1)20%、暗褐色土10%が塊状に散在する。細まり強、粘性強、粘土層が浅い。

P4

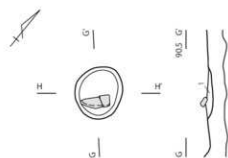
1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア1%・褐色スコリア2%を含む。暗褐色土(10YR3/4)5%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性強、粘土層が浅い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各1%、直径3mm以下のローム粒子3%を含む。褐色土(10YR4/6)3%が塊状に散在する。細まり強、粘性やや強、粘土層が浅い。

P5

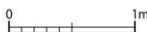
51. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア3%、褐色スコリア・ローム粒子各2%を含む。黒褐色土(10YR2/2)、暗褐色土(10YR3/4)各7%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性強、粘土層が浅い。
52. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各2%を含む。暗褐色土7%が塊状に散在する。細まりやや強、粘性強、粘土層が浅い。
53. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各3%、ローム粒子5%を含む。暗褐色土7%、暗褐色土・褐色土(10YR4/6)各5%が塊状に散在する。細まり・粘性強、粘土層が浅い。

第219図 S150(2)(1/60)

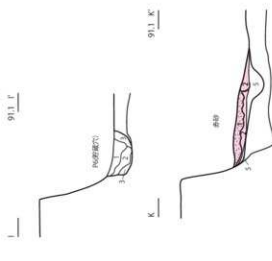
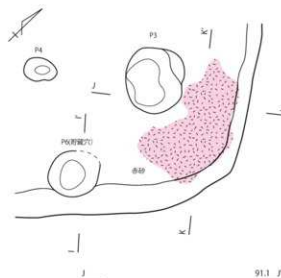
炉



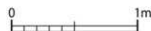
1. 7.5YR3/2 黒褐色土層 ローム粒子5%、焼土粒子3%、直径5mm以下の焼土ブロック2%、炭化物粒子1%を含む。締まり有り、粘性強、粒子細かい。



貯蔵穴・赤砂



凡例
 赤砂抽出範囲
 赤砂が顕著に抽出された範囲



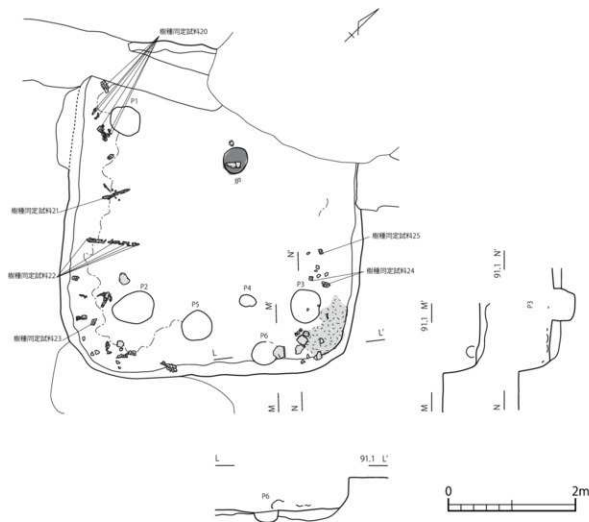
P6(貯蔵穴)

1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア5%・焼土粒子3%、直径3mm以下の褐色スコリア5%、直径3～5mmの炭化物粒子2%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 暗褐色土 (10YR3/4) 各2%が横状に混じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下の褐色スコリア2%を含む。暗褐色土5%が横状に混じる。締まり・粘性強、粒子細かい。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア2%を含む。暗褐色土15%が横状に混じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。

赤砂

1. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/6) 1%・ローム粒子3%、直径1mm以下の白色砂粒15%、直径5mm以下の焼土粒子 (7.5YR5/2) 3%、直径3～5mmの小礫2%を含む。赤砂 (7.5YR3/2) 40%が横状に混じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直径1mm以下の白色砂粒2%、直径3mm以下の粘土粒子 (7.5YR5/6) 1%、直径3mm以下の粘土粒子 (7.5YR5/2) 3%を含む。赤砂3%が横状に混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直径2mm以下のローム粒子2%、直径1mm以下の白色砂粒3%を含む。赤砂30%が横状に混じる。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
4. 10YR2/2 暗褐色土層 直径3mm以下のローム粒子1%、直径1mm以下の白色砂粒2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 2%が横状に混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
5. 10YR3/2 暗褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア3%、直径1mm以下の白色砂粒10%、直径10mm以下の小礫3%を含む。赤砂10%が横状に混じる。締まりやや強、粘性強、粒子細かい。

第220図 SI50(3) 炉・貯蔵穴・赤砂 (1/30)



第 221 図 SI50(4) 遺物出土状況図 (1/60)

から出土した広口壺片が、SI47、SI52 と遺構間接合した（第 201・203 図 4）。他に、未掲載の鉢が SI47 と遺構間接合した。

土器 第 227・228 図 1 と 2 は、壺である。1 は、折り返し口縁で、口唇部は平坦である。口縁部と頸部は外反する。口縁部外面に 6 本 1 組の縦列沈線文を有する。外面はハケ調整後ナデ、内面はハケ調整後ミガキが施される。内外面が赤彩される。2 は、底部片である。底部外面は平坦で、木葉痕が残る。

3 は、広口壺である。折り返し口縁で、口唇部は丸みを帯びる。口縁部はやや外反し、頸部は屈曲する。最大径は胴部中間に位置する。底部外面はドーナツ状に窪む。胴部外面は斜め方向のミガキ調整が施され、頸部にはハケメが残る。内面には炭化物が付着する。

4 と 5 は、台付壺である。4 は、口縁部から胴部である。口唇部は平坦に面取りされ、口縁は直線的に開く。最大径は胴部上半に位置し、胴部下半は直線的に立ち上がる。胴部下半内面に炭化物が付着する。5 は、台付壺の胴部である。外面は粗いハケ状工具による幅広のハケメが残る。内面全体に炭化物が付着する。



第222図 SI50(5) 遺物分布図(1/60)

6は、高坏である。口唇部がやや肥厚する。坏部は内湾する。内外面は後赤彩が施される。

7～9は、鉢である。7は、単口縁であるがやや膨らみ、外面に稜を有する。胴が張り出し、最大径は口径よりわずかに大きい。器壁は薄い。外面と内面がミガキ後赤彩される。8は、口縁部はやや肥厚し、外反する。体部は内湾しながら広がる。底部外面中央がドーナツ状に窪む。9は、小型の鉢である。胴部は内湾しながら立ち上がる。底部は円盤状で、外面中央がミガキまたナデによりやや窪む。

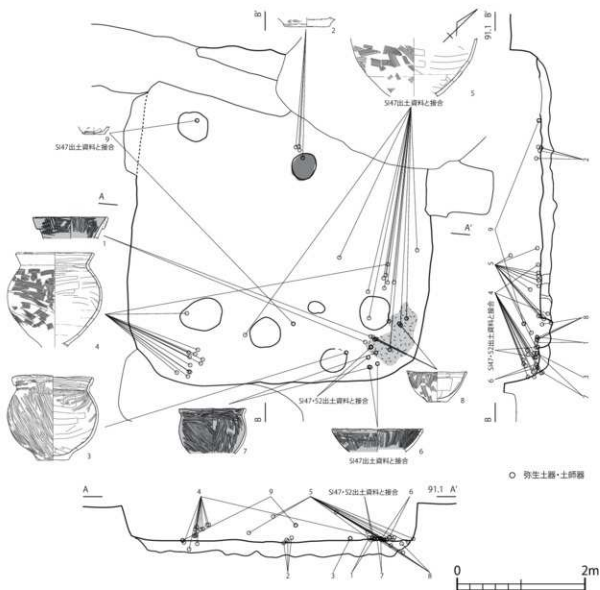
土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階新相に相当すると考えられる。

炭化材 炭化材が多数出土しており、焼失した竪穴建物の構造部材と考えられる。このうち6点に対し樹種同定を実施した。西隅で出土した割材（樹種同定試料20）はムクロジ、南西壁沿いで出土した破片（樹種同定試料21）には、コナラ属アカガシ亜属、ケンボナシ属、ムクロジが含まれ、その南東で出土した破片（樹種同定試料22）はムクロジ、南隅で出土した板目材（樹種同定試料23）はムクロジ、北東壁沿いで出土した割材と考えられる破片（樹種同定試料24）はムクロジ、その北西側で出土した割材（樹種同定試料25）はムクロジであった。全体的に、ムクロジが多い。

炭化種実（水洗選別） 第227・228図3内の土壌から、ダイズ属種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。

（守屋）



第 223 図 SI50(6) 遺物接合図 (1/60)

SI52 (第 229 ～ 236 図、第 26 表)

遺構 調査区北東部の 34N・3・12・13・14・23 グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、古代～中世の SK181、SP572・573・575・615、近世以降の SDK787・789・794・940・941・944 及び攪乱に切られている。

SI52 は、調査当初、400cm×300cm 程度の台形状の竪穴建物跡として調査を実施したが、調査終了後、周囲の包含層掘削時に、南壁と東壁がそれぞれ 150cm 程度外側まで広がっていることが確認されたため、その部分のみ追加で調査を実施した。全景写真や土層断面の写真等の記録が十分でないのは、そのためである。

平面形態は歪な隅丸方形で、北西壁と北東壁が比較的整っているのに比し、南西壁と南東壁は不整形である。長軸 615cm、短軸 582cm で、今回の報告の中では最大規模となっているが、検出面からの深さは 28cm と浅い。壁はやや開きながら立ち上がっている。主軸方向は N-48°-W を指す。



1. SI50 全景 (南東から)



2. SI50 P1 土層断面 (北東から)



3. SI50 P2 土層断面 (南東から)



4. SI50 P3 土層断面 (南東から)



5. SI50 P4 土層断面 (南東から)

第 224 図 SI50 写真 (1)



1. SI50 P5 土層断面 (北東から)



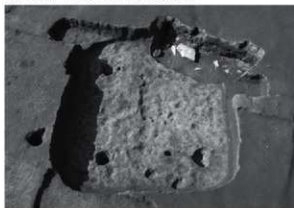
2. SI50 P6 土層断面 (北東から)



3. SI50 土層断面 A-A' (南東から)



4. SI50 掘り方土層断面 A-A' (南東から)



5. SI50 掘り方全景 (南東から)



6. SI50 赤砂土層断面 (南東から)



7. SI50 炉全景 (南東から)



8. SI50 炉土層断面 (北東から)

第 225 図 SI50 写真 (2)



1. SI50 遺物出土状況 (南東から)



2. SI50 遺物出土状況 (西から)



3. SI50 遺物出土状況 (北西から)

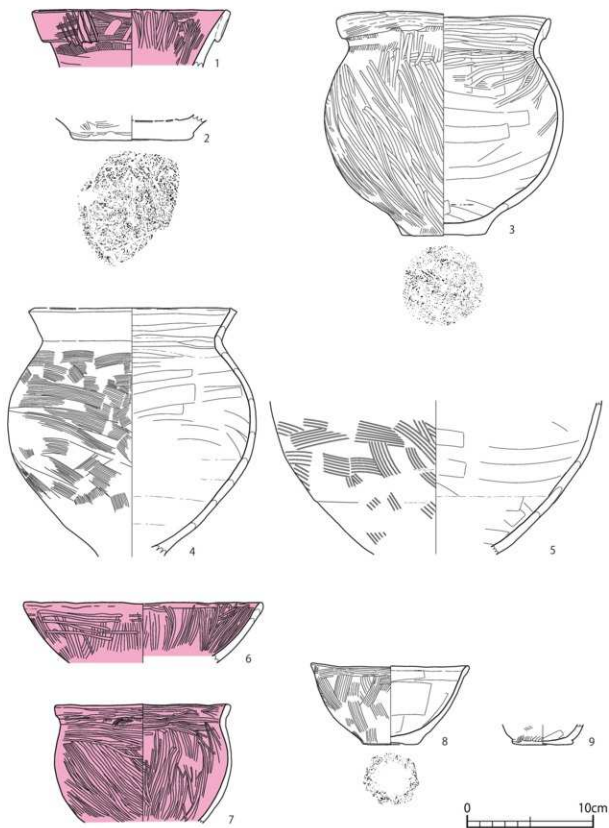


4. SI50 炭化材検出状況 (東北東から)



5. SI50 炭化材検出状況 (東北東から)

第 226 図 SI50 写真 (3)



第227図 SI50出土遺物(1/3)



第228図 S150出土遺物写真

床面は貼床で、やや小さなうねりを有している。明瞭な硬化面は確認されなかった。壁溝は無い。主柱穴は P2・4～6 の 4 基、南東壁際の中央に貯蔵穴 P3 が確認された。他に、主柱穴 P5 の南側に小さなピット (P1) が検出されている。炉は建物中央の北西寄りで検出された。

床面までの覆土は 4 層に分けられ、基本土層Ⅱ層系の土壌がベースの 1 層、Ⅱ層土にⅢ層土が混在する 2 層、Ⅲ層土ベースで壁の崩落土と思われる 3 層、炉の影響を受けた焼土を多く含む 4 層からなる。

掘り方の掘り込みは床面からの深さで 16cm と全体に浅く、概ねⅣ層までである。南東壁から南西壁にかけて壁寄りが一段深く掘り込まれている。その他の部分も凹凸を有している。掘り方の覆土は 2 層に分けられ、いずれもⅢ層土がベースとなっており、ロームの混入はわずかである。

主柱穴は、前述の通り 4 基で、P2 は古代の土坑 SK181 の底面で検出された。残る P 4～6 は床

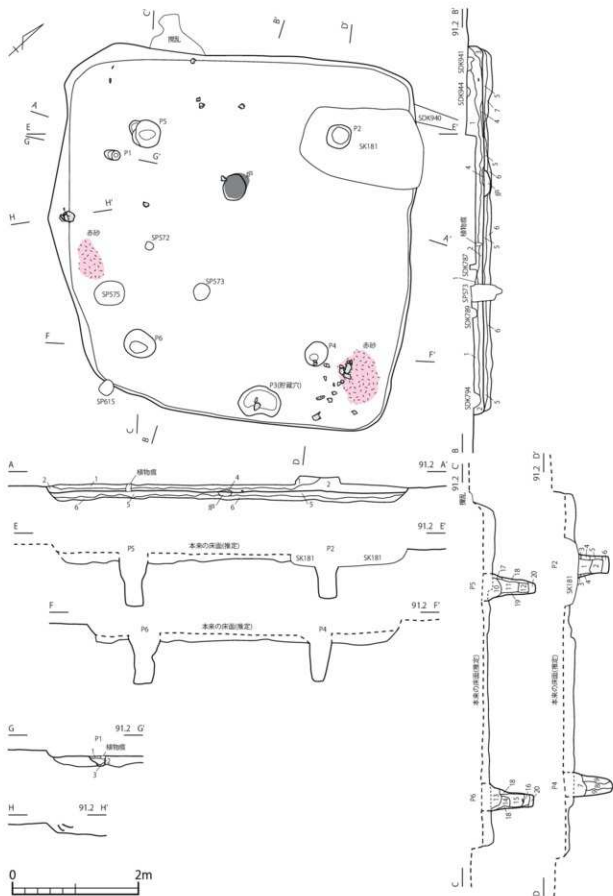
第25表 SI50出土土器観察表

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第227・228図	1	覆土床面	甕	(15.1) (4.5) —	複合口縁で、6本1組の縦列状縦文を有する。口唇部はやや平坦。	外面：口縁部横方向のハケ調整後ナデ。頸部縦方向のハケ調整後横方向のナデ。内面：口縁部から頸部横方向のハケ調整後縦方向のミガキ。	小礫 白色砂粒	良好	外面 内面	10R5/4 赤黒	残存率 25% 以下
	2	覆土床面	甕	— 9.4	底部片。底部外面は平坦で、木炭痕が残る。	外面：底部付近ナデ後横方向のミガキ。底部木炭痕。内面：ナデ。	小礫 灰石 石英 白色砂粒	良好		10YR3/1 黒黒	破片。底部木炭痕
	3	覆土床面	広口甕	16.6 17.7 6.6	口縁は複合口縁で、やや外反する。最大径は胴部中間に位置する。底部外面はドーナツ状。	外面：口縁部横方向のハケ調整後ナデまたはミガキ。頸部縦方向のハケ調整後ナデ。胴部縦方向のミガキ。内面：口縁部縦方向のミガキ。頸部縦方向のハケ調整後一部ミガキ。胴部縦方向のヘラナデ。	石英 小礫 雲母	やや軟質		2.5YR5/6 暗	残存率 25% 以下。石英と雲母を多量に含む。内面に炭化物付着。アワ有る裏面
	4	覆土床面	台付甕	(15.5) — —	口唇部は平坦に面取りされる。口縁部は直線的に開く。最大径は胴部上半に位置し、肩部が張る。	外面：口縁部横方向のナデ。胴部上半縦方向。下半縦方向のハケ調整。内面：口縁部縦方向のナデ。頸部縦方向のヘラナデまたはハケ調整。胴部縦方向のナデ。	小礫 石英	やや軟質		7.5YR5/3 にぶい暗	残存率 40%。胴部下半内面に炭化物付着
	5	覆土上層 SI47上層	台付甕	— — —	胴部下半	外面：胴部斜め方向の幅広いハケ調整。内面：胴部縦方向のナデ。	石英 小礫 白色砂粒	良好		7.5YR3/3 暗黒	残存率 25～50%。遺物同接合。石英多数。彫いハケ状工具による幅広いハケ目（菊川系の模倣か？）。内面に炭化物付着
	6	覆土床面 SI47上層	高杯	18.9 — —	口唇部が肥厚する。杯部は内湾する。	外面：口唇部付近横方向のナデまたはハケ調整後横方向のミガキ。杯部縦方向のハケ調整またはナデ後縦方向のミガキ。内面：杯部ナデ後縦方向のミガキ。	小礫 石英 角閃石	良好	外面 内面	5YR6/4 にぶい暗	残存率 25% 以下。遺物同接合。元屋敷系高杯
	7	覆土床面	鉢	13.7 (9.1) —	単口鉢であるがややゆがみ、外面に稜を有する。胴が張り、最大径は口径より大きい。	外面：口縁部横方向のミガキ。胴部斜め方向のハケ調整後横方向のミガキ。胴部斜め方向のミガキ。内面：口縁部縦方向のミガキ。胴部縦方向のミガキ。	小礫 灰石 白色砂粒	良好	外面 内面	2.5YR5/4 にぶい暗	残存率 25% 以下
	8	覆土床面	鉢	12.4 6.5 4.2	口縁はやや肥厚し、外反する。体部は内湾しながら広がる。底部外面中央がドーナツ状に窪む。	外面：口縁部横方向のハケ調整後横方向のナデ。胴部斜め方向のハケ調整。内面：口縁部横方向のナデ。胴部ナデ。	石英 小礫	良好		7.5YR7/4 にぶい暗	残存率 70%
	9	覆土床面 SI47上層	鉢か	— 4.7	胴部は内湾しながら立ち上がる。底部は円盤状で、外面中央はやや窪む。	外面：胴部ハケ調整。底部中央ナデまたはミガキ。内面：ナデ。	小礫 石英 白色砂粒	良好		10YR7/3 にぶい黄暗	残存率 25% 以下

面では検出できず、掘り方掘削時に確認された。柱の抜き取り後に埋め戻され、貼床と同様に転圧されていたものと想定される。主柱穴はいずれも円形もしくは楕円形を呈し、推定の床面からの深さがP2は70cm、P4は77cm、P5は84cm、P6は79cmで、ローム層を深く掘り込んでいる。また、いずれも土層断面で柱抜き取り穴の覆土もしくは柱痕跡が観察でき、P5・6では、Ⅲ層土にロームを混和させた硬緻な層を最下層に見ることができる。

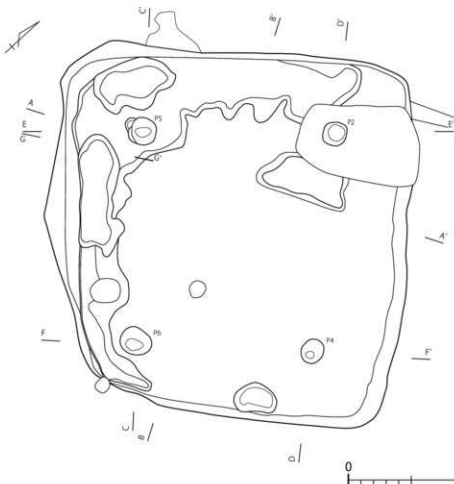
貯蔵穴P3は、主柱穴と同様、掘り方掘削時に検出された。平面形態は歪な楕円形を呈し、規模は長軸64cm、短軸46cmを測る。想定床面からの深さは28cmで、ローム層を掘り込んで構築されている。検出時の覆土は2層に分けられ、いずれもⅢ層土をベースとしており、人為的に埋め戻されている。覆土からは、上部で高杯環部、中位から下位で礫と土器片が出土した。

小型のビットP1は、平面形態は楕円形で、長軸26cm、短軸16cm、深さ16cmを測る。覆土は3層からなり、上層の1層は、貼床と同様に強く硬化している



第 229 図 SIS2(1)(1/60)

掘り方



S52

1. 10YR1/7 黒色土層 母2層相当上、直径2mm以下の赤い・黄褐色スコリア20%、直径3mm以下の黒色スコリア7%、直径1mm以下の白色砂粒5%、炭化物粒子2%、長さ7mm以下の炭化材1%未満を含む。締まり有り、粘性弱、粘りやや弱。
2. 10YR2/1 黒色土層 母2層上に黒層土が露出。直径2mm以下の赤い・黄褐色スコリア10%、直径3mm以下の黒色スコリア5%、直径1mm以下の白色砂粒3%、炭化物粒子1%未満を含む。締まりやや弱、粘性やや弱、粘り比較的弱い。
3. 10YR2.5/1 黒褐色土層 黒層土をベースとし、母層土が露出。直径1mm程の赤い・黄褐色スコリア7%、直径2mm以下の黒色スコリア1%、焼土粒子1%、炭化物粒子1%を含む。締まり有り、粘性やや弱で2層より弱、粘り弱い。
4. 5YR3/2 暗赤褐色土層 焼土を多く含む。焼土粒子15%を含む。締まり・粘性有り、粘りやや弱。
5. 10YR3/1 黒褐色土層 母床土、黒層土をベースとし、直径4mm以下の赤褐色スコリア12.5YR4/6/2、ローム粒子3%、IV層土粒子7%、焼土粒子1%未満を含む。締まり有り、粘性やや弱、粘り弱い。
6. 10YR3/1 黒褐色土層 母床土、黒層土をベースとし、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%、ローム粒子1%、IV層土粒子3%を含む。締まり・粘性有り、粘り弱い。

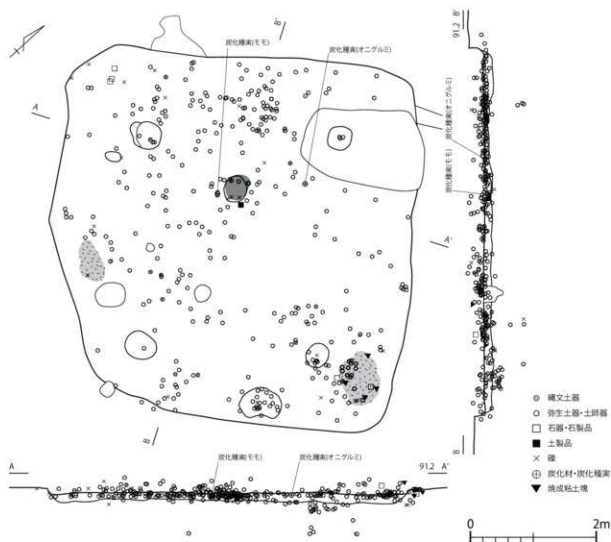
P1

1. 10YR2.5/1 黒褐色土層 母床土、黒層土をベースとし、母層土が露出。直径1mm程の赤い・黄褐色スコリア1%、直径2mm以下の黒色スコリア3%を含む。締まり有り、粘性弱、粘り弱い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径1mm程の赤い・黄褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の黒色スコリア1%を含む。締まり弱、粘性有り、粘り弱い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 母2層土をベースとし、直径1mm以下の赤褐色スコリア1%を含む。締まり・粘性有り、粘り弱い。

P2-P4-6

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%、白色砂粒2%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り弱い。
2. 10YR2.5/1 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア1%未満、ローム粒子5%、直径7mm以下のロームブロック2%を含む。締まりに欠け、粘性有り、粘り弱い。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 母2層土をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア1%未満、ローム粒子1%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り弱い。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 ローム粒子5%、直径5mm以下のロームブロック2%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り弱い。
5. 10YR4/3 赤い・黄褐色土層 ローム粒子10%を含む。締まり・粘性有り、粘り弱い。
6. 10YR4/2 黄褐色土層 母層土をベースとし、ローム粒子25%、直径15mm以下のロームブロック5%を含む。締まり・粘性有り、粘り弱い。
7. 10YR3/1 黒褐色土層 母層土をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア1%、ローム粒子15%を含む。締まり有り、粘性弱、粘り弱い。
8. 10YR2/1 黒色土層 ローム粒子7%を含む。締まりに欠け、粘性有り、粘り弱い。
9. 10YR4/2.5 赤い・黄褐色土層 母層土に多量のロームを混入。ローム粒子30%、直径10mm以下のロームブロック7%を含む。締まりやや弱、粘性弱、粘り弱い。
10. 10YR2/1 黒色土層 母層土をベースとし、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、ローム粒子2%を含む。締まりやや弱、粘性弱、粘り弱い。
11. 10YR2/1.5 黒褐色土層 母層土をベースとし、直径20mm以下の母2層土ブロック30%が断片状を有する。締まり弱、粘性弱、粘り極めて弱い。
12. 10YR2/2 黒褐色土層 母層土をベースとし、ローム粒子15%、直径5mm以下のロームブロック7%を含む。締まりなし、粘性に乏し、粘り極めて弱い。
13. 10YR2/1 黒褐色土層 母層土をベースとし、直径1mm程の赤い・黄褐色スコリア5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア1%未満、直径2mm以下の黒色スコリア2%、ローム粒子2%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り弱い。
14. 10YR3/1 黒褐色土層 母層土をベースとし、ローム粒子5%を含む。締まり有り、粘性弱、粘り弱い。
15. 10YR2/1 黒色土層 母層土をベースとし、直径3mm以下の母2層土ブロック1%未満、ローム粒子2%を含む。締まりやや弱、粘性弱、粘り弱い。
16. 10YR3/2 黒褐色土層 母2層土をベースとする。締まり・粘性弱、粘り極めて弱い。
17. 10YR3/2 黒褐色土層 母2層相当上、直径3mm以下の赤褐色スコリア1%を含む。締まり有り、粘性やや弱、粘り弱い。
18. 10YR4/3 赤い・黄褐色土層 母層土にロームを混入。ローム粒子30%、直径20mm以下のロームブロック20%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り弱い。
19. 10YR3/3 暗褐色土層 母層土にロームを混入。ローム粒子20%、直径20mm以下のロームブロック10%を含む。締まりやや弱、粘性有り、粘り弱い。
20. 10YR4/3 赤い・黄褐色土層 母層土にロームを混入。ローム粒子40%を含む。締まりは破壊で、粘性弱、粘り極めて弱い。

第230図 S152(2)(1/60)



第232図 SI52(4) 遺物分布図 (1/60)

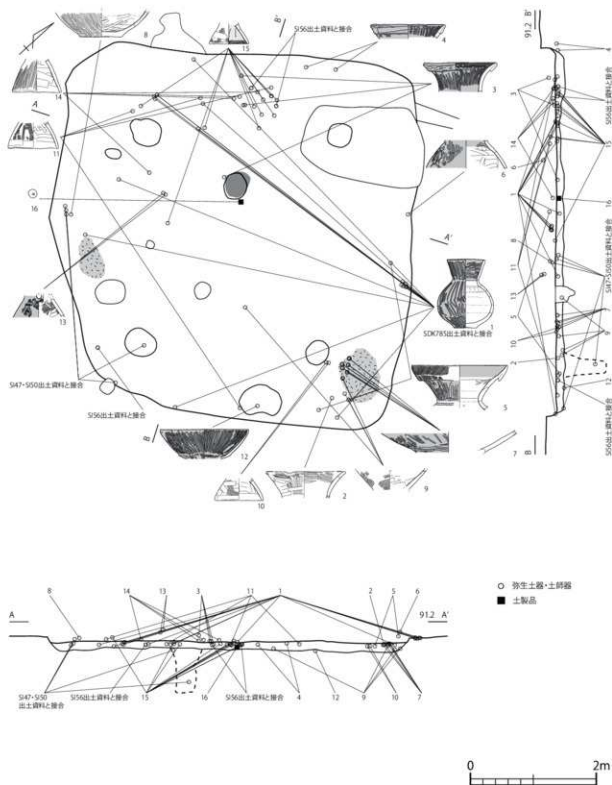
炉は楕円形を呈する地床炉で、長軸 43cm、短軸 36cm を測り、竪穴建物跡貼床土中を底面とする掘り方を持つ。覆土は 3 層に分けられ、2 層に焼土を多く含む。枕石は検出されなかった。

赤砂は 2 箇所検出された。1 つは建物跡東隅付近で、床面から 9cm の高まりが確認された。土層断面 M-M' の 3 層では、白色砂粒を多く含む赤砂層が確認できる。また、直上からは土器片が複数確認された。

南西壁付近の赤砂は分布が確認できたのみで、高まりは確認できなかった。(相原)

出土遺物 縄文土器片 10 点と弥生土器・土師器片 334 点、土製品 5 点、石器 1 点、礫 36 点、炭化種実 2 点が出土した。

遺物出土状況 遺物は、西隅から炉の周辺と、東隅周辺で集中して出土した。西隅から炉の周辺の床面から、壺(第 236・237 図 3)、高環(同 14) 高環または台付甕の脚部(同 15) 等が出土した。炉の東側に隣接する床面からは、土玉(同 16) が出土した。東隅周辺の床面からは、壺(同 2・7)、台付甕(同 9・10)、P3(貯蔵穴) 覆土から高環(同 12) が出土した。



第 233 図 SI52(5) 遺物接合図 (1/60)



1. SI52 掘り方全景 (南東から)



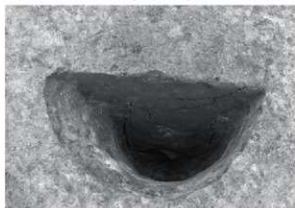
2. SI52 P2 土層断面 (南西から)



3. SI52 P4 土層断面 (南西から)

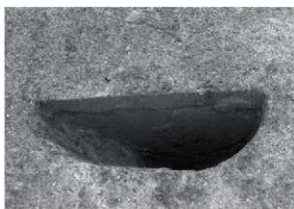


4. SI52 P5 土層断面 (南西から)

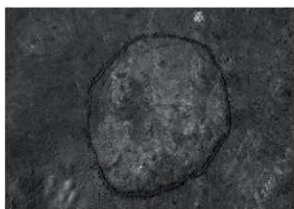


5. SI52 P6 土層断面 (南西から)

第 234 図 SI52 写真 (1)



1. SI52 P1 土層断面 (南東から)



2. SI52 炉全景 (南西から)



3. SI52 炉土層断面 I-I' (西南西から)



4. SI52 炉掘り方全景 (西から)



5. SI52 P3(貯蔵穴)土層断面 (西南西から)



6. SI52 P3(貯蔵穴)遺物出土状況 (北北西から)

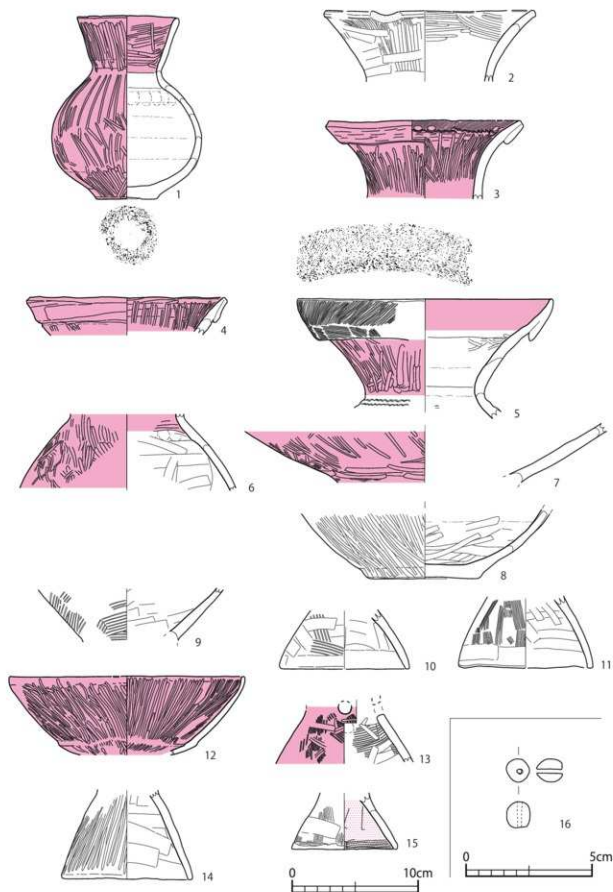


7. SI52 赤砂検出・遺物出土状況 (南西から)

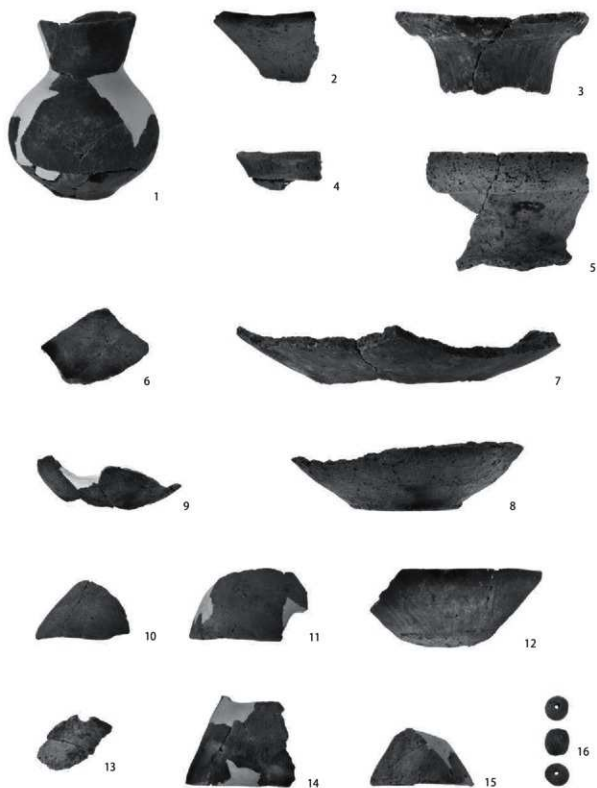


8. SI52 赤砂土層断面 N-N' (北西から)

第 235 図 SI52 写真 (2)



第236図 S152出土遺物(1/3・2/3)



第237図 SI52出土遺物写真

第 26 表 Si52 出土土器・土製品観察表 (1)

図 番号	部位	器種	注記	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第 226・227 図	1	甕土 床面	— — 8.1 — 4.9	口縁は直線的に広がり、口内面は丸みを帯びる。最大径は胴部中間に位置する。底部外面中央がドーナツ状に窪む。内面には輪郭みの痕跡をよく残す。	外面：縦方向のミガキ。底部中央ケズリによりドーナツ型となる。 内面：口縁部縦方向のミガキ。胴部斜め方向のナデ。	小礫 石英 白色砂粒	良好	外面全体 口縁部内面	5YR4/6 赤褐色	残存率 60%。小型の甕
	2	甕土 床面	— — (16.3) — —	口縁は大きく外反する。口内面は丸みを帯びる。	外面：口縁部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。その後縦方向のナデ。内面：口縁部縦方向のミガキ。	小礫 チャート 石英	良好		7.5YR7/4 にぶい青	残存率 25% 以下。口内面の打ち欠きは加工か。赤彩の可能性あり
	3	甕土 床面	— — (15.1) — —	折り返し口縁で、口内面は平坦。口縁部内面に凹形浮文を施文。2 点 1 組で 4 個所に施文されていると想定される。頸部は垂直に近い状態から強く外反しながら立ち上がる。	外面：口縁部縦方向のナデ。頸部縦方向のミガキ。内面：口縁部平面的 L.R 2 層。頸部縦方向のミガキ。	小礫 チャート	良好	口縁部から 頸部外面・内面	10R4/4 赤褐色	残存率 25% 以下
	4	甕土 床面	— — (15.4) — —	複合口縁で、口縁部はやや外反する。口内面は平坦。	外面：口縁部縦方向のナデ。頸部ミガキ。内面：口縁部から頸部縦方向のヘラナデ後縦方向のミガキ。	中礫 石英 雲母	良好	両面	2.5YR5/6 明赤褐色	残存率 25% 以下
	5	甕土 床面	— — (20.1) (9.5) —	複合口縁。口縁部は内湾し、頸部は直線的に広がる。胴部との境は強く屈曲。	外面：口縁部 2 段の無彫刻文（上段は連続的な無彫刻。下段は断続的な無彫刻）。頸部ナデ後縦方向（上から下）のミガキ。内面：口縁部から頸部縦方向のナデ後ミガキ。	小礫 石英	やや軟弱	外面？ 内面？	10YR5/2 灰白	残存率 25% 以下。無彫刻文
	6	甕土 上唇	— — (61.0) — —	胴部上平片。	外面：ナデ後ミガキ。内面：頸部縦方向のミガキ。胴部ヘラナデ。	小礫多数 石英	良好	外面 頸部内面	2.5YR6/4 にぶい青	残存率 25% 以下
	7	甕土 床面	— — — —	大型の甕である。直線的に、大きく外側に開きながら立ち上がる。	外面：胴部下平ヘラナデ後縦方向のミガキ。底部付近縦方向のハケ調整後縦方向のヘラナデ。内面：胴部下平ナデ。	小礫 チャート 石英	良好	外面	10R4/6 赤	残存率 25% 以下
	8	甕土 床面	— — (5.1) 8.3	胴部下平は緩やかに内湾する。底部外面は中央が緩やかに窪む。	外面：胴部下平縦方向のミガキ。内面：胴部下平縦方向のヘラナデ。断面：上平・下平接合面は平坦に面取り。	小礫 チャート 石英	良好		7.5YR6/6 青	残存率 25% 以下
	9	甕土 床面	— — (49.0) — —	胴部下平片。	外面：ナデ後斜め方向の輪郭のハケ調整。内面：ナデ。	石英 小礫	良好		7.5YR5/4 にぶい青	残存率 25% 以下。彫いハケ状工具による輪郭のハケメ（菊川系の模倣か？）。イネ窯直土版
	10	甕土 床面	— — (10.2) — —	頸部は内湾する。	外面：頸部輪郭のハケ調整後縦方向または斜め方向のナデ。内面：頸部縦方向のナデ。	石英 小礫 長石	良好		10YR6/4 にぶい黄褐色	残存率 25% 以下。彫いハケ状工具による輪郭のハケメ（菊川系の模倣か？）
	11	甕土 床面	— — (10.4) — —	頸部は内湾する。	外面：頸部縦方向の彫いハケ調整。下縁付近縦方向のナデ。内面：胴部ヘラナデ。	小礫 長石 石英	良好		10YR6/4 にぶい黄褐色	残存率 25% 以下
	12	P3 (貯蔵) 甕土	— — (18.5) — —	口内面は握まり上げられ、垂直に立ち上がる。環部はやや内湾し、下部に段を有する。	外面：口内面ナデ。環部縦方向のミガキ。内面：環部縦方向のミガキ。	小礫 チャート 白色砂粒	良好	環部外面・内面	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	残存率 25% 以下。元紀敷高環の古段か？
	13	甕土 上唇	— — — —	頸部に穿孔を有する。	外面：胴部斜め方向のハケ調整後ミガキ。内面：頸部縦方向のハケ調整後ヘラナデ。	小礫	良好	外面	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	破片
	14	甕土 床面	— — (10.4) — —	頸部はやや内湾する。	外面：頸部縦方向のミガキ。内面：頸部縦方向のナデ。	小礫 石英	良好		7.5YR5/6 明褐色	残存率 25% 以下
	15	甕土 床面	— — — 8.2	胴部は直線的に広がる。	外面：頸部縦方向のハケ調整後ナデ。下縁縦方向のハケ調整。内面：ナデ後ミガキ。下縁縦方向のハケ調整。	小礫 石英	良好	頸部内面 (赤色顔料か)	7.5YR5/4 にぶい青	残存率 25% 以下。赤色顔料用のパレットに転用か

第26表 SI52 出土土器・土製品観察表(2)

図番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考
第236・237図	16 覆土 床面	土製品 (土玉)	(高さ) 1.0 (幅) 1.0 (厚さ) 0.9	長軸に穿孔があり、縦長である。穿孔径最大1.6mm。	外面：ナデ。	小礫 石英	良好		7.5YR6/6 橙	定形

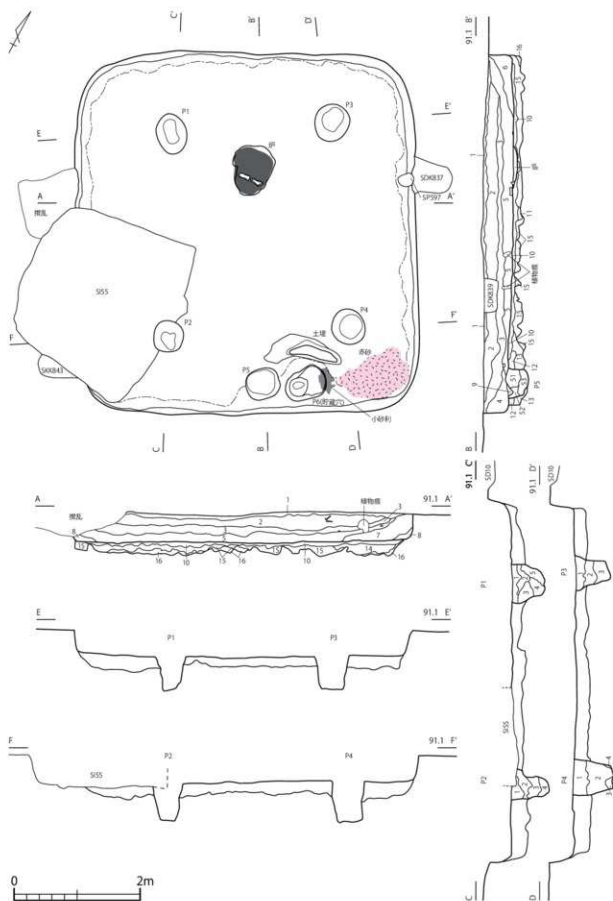
南隅周辺の床面及びP6から出土した破片が、SI47、SI50と遺構間接合した(第201・203図4)。また、南隅床面から出土した破片がSI56出土台付甕胴部(第249・250図12)と、北西壁付近の床面から出土した破片がSI56出土台付甕脚部(第249・251図17)と遺構間接合した。

土器 第236・237図1～8は壺である。1は、ヒサゴ形壺である。口唇部は丸みを帯び、口縁部は直線的に広がる。最大径は胴部中間に位置する。底部外面中央がドーナツ状に窪む。外面と口縁部内面はミガキ後赤彩が施される。内面には輪積みの痕跡をよく残す。2は、単口縁で、口唇部は丸みを帯びる。口縁部と頸部は大きく外反しながら立ち上がる。図示していないが、口縁部内面と外面が赤彩されていた可能性がある。口唇部の破損部分は摩耗しているため、人為的な打ち欠きの可能性がある。3は、折り返し口縁で、口唇部は平坦である。口縁部と頸部は垂直に近い状態から強く外反しながら立ち上がる。口縁部内面に1段の縄文が施文される。単唇LRで下端がZ字状端未結節文である。縄文施文後に口縁部内面に2点1組の円形浮文が施文されており、計4箇所に施文されていたと推定される。口唇部と口縁部外面がナデ後赤彩、頸部内外面がミガキ後赤彩される。4は、折り返し口縁で、口縁部はやや外反する。口唇部は面取りされ平坦である。内外面が赤彩される。口縁部折り返し部分下端と頸部外面の境の調整が粗く、輪積み痕が明瞭に残る。5は複合口縁で、口唇部は丸みを帯びる。口縁部は内湾し、頸部は直線的に広がる。肩部との境は強く屈曲する。口縁部外面は2段の無節縄文が施文され、上段は連続的な無節L、下段は断続的な無節Rである。頸部外面と口縁部内面はミガキ後赤彩される。焼成はやや軟質で、色調が灰白色である。6は、胴部上半である。外面と頸部内面はミガキ後赤彩が施される。7は、大型の壺の胴部下半で、直線的に大きく外側に開きながら立ち上がる。底部側面付近は、縦方向のハケ調整後、横方向のヘラナデが加えられる。8は、胴部下半から底部である。胴部下半は緩やかに内湾する。底部外面は中央が緩やかに窪む。

9～11は、台付甕である。9は、胴部下半である。外面は粗いハケ状工具による幅広のハケメが残る。10と11は脚部である。10は、大きく内湾する。外面は粗いハケ状工具による幅広のハケメが残る。11は、内湾する。外面は目の細かいハケ状工具によるハケメが残る。

12～14は、高環である。12は、環部である。口唇部は内側につまみ上げられて垂直に立ち上がり、稜を有する。環部はやや内湾しながら立ち上がる。環部と脚部の境界に段を有する。環部内外面は縦方向のミガキ後赤彩される。元屋敷系高環であると考えられる。13は脚部で、直線的に広がる。穿孔を有する。内外面はともにハケ調整で、外面には赤彩が施される。14は、やや内湾する。外面は縦方向のミガキが施される。15は、高環または台付甕の脚部で、直線的に広がる。内面には赤彩状の範囲が広がり、赤色顔料のパレットとして転用された可能性がある。

16は、土製品(土玉)である。小型であり、形状は楕円形である。長軸方向に穿孔を有し、穿孔径は最大で1.6mmである。外面はナデ調整される。



第 238 圖 S156(1)(1/60)

556

1. 2.5Y2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 7%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 2% (2.5Y4/8) 3%, 直徑 3mm 以下の黒色スコリア 3%, 白色砂粒 5%, 直徑 3mm 以下の灰白色砂質粘土 1% 未満を含む。細まり有り、粘性わずか、粒子やや粗い。
2. 10YR2.5/1 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 15%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 3%, 直徑 3mm 以下の黒色スコリア 3%, 白色砂粒 7% を含む。細まりやや粗い、粘性わずか、粒子やや粗い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 15%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%, 白色砂粒 3% を含む。細まり粗、粘性有り、粒子は粗め細かい。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 7%, 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%, 白色砂粒 3% を含む。細まり粗、粘性有り、粒子細かい。
5. 2.5Y2/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 20%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 3%, 白色砂粒 3%, ローム粒子 5%, 直徑 20mm 以下のロームブロック 1% 未満を含む。細まりは 4 層より粗、粘性強、粒子極めて細かい。
6. 10YR2.5/1 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 7%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%, 白色砂粒 2%, ローム粒子 2% を含む。細まり粗、粘性有り、粒子細かい。
7. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 10%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 5%, 白色砂粒 1%, ローム粒子 5%, 直徑 10mm 以下のロームブロック 1% を含む。細まり粗、粘性有り、粒子細かい。
8. 10YR3.5/1.5 灰黒褐色土層 直徑 5mm 以下の明赤褐色スコリア 2%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%, 白色砂粒 1%, ローム粒子 4%, 直徑 15mm 以下のロームブロック 1% を含む。細まり粗、粘性有り、粒子細かい。
9. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%, ローム粒子 4%, 直徑 3mm 以下の赤褐色スコリア 3% を含む。細まり粗、粘性有り、粒子極めて細かい。人為的堆積。
10. 10YR3/1 黒褐色土層 直徑 40mm 以下のロームブロック 5% が偏在。他に、ローム粒子 10% を含む。細まりは硬塊で、粘性弱、粒子細かい。
11. 10YR2.5/1 黒褐色土層 直徑 5mm をベースとし、ローム粒子 5%, 直徑 10mm 以下のロームブロック 1% を含む。細まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
12. 10YR3/2 黒褐色土層 直徑 10mm 以下のロームブロック 1% 未満を含む。細まり有り、粘性弱、粒子細かい。
13. 10YR2.5/1 黒褐色土層 直徑 5mm をベースとし、直徑 50mm 以下のロームブロック 10% が偏在を呈する。他に、ローム粒子 25% を含む。細まり粘性やや強、粒子細かい。
14. 10YR3/4 黒褐色土層 直徑 40mm 以下のロームブロック 3% を含む。細まり粘性有り、粒子細かい。
15. 10YR1.7/1 黒色土層 直徑 2mm をベースとし、ローム粒子 20%, 直徑 70mm 以下 (40mm 以下主体) のロームブロック 10%, 直徑 15mm 以上 10% を含む。細まり粘性やや強、粒子細かい。
16. 10YR1.5/1 黒褐色土層 直徑 30mm 以下のロームブロック 7% を含む。細まり粘性やや強、粒子やや粗い。
- P1
1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, ローム粒子 15%, 直徑 10 ~ 20mm のロームブロック 2% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) が偏在に散在する。細まりやや粗い、部分所に強、粘性有り、粒子細かい。(P1 の 1 層と同じ)
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 5mm 以下の褐色スコリア 7%, ローム粒子 20%, 直徑 10 ~ 50mm のロームブロック 7% を含む。黒色土 (10YR2/1) 2%, 暗褐色土 (10YR3/4) 10% が偏在に散在する。細まりやや粗、粘性やや強、粒子やや粗い。
3. 10YR4/6 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, 直徑 10 ~ 50mm のロームブロック 10% を含む。暗褐色土 (10YR2/2) 2%, 暗褐色土 (10YR2/1) 各 3% が偏在に散在する。細まりやや粗、粘性やや強、粒子やや粗い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 7%, 直徑 5mm 以下のローム粒子 15%, 直徑 10 ~ 50mm のロームブロック 13% を含む。褐色土 (10YR4/6) 10% が偏在に散在する。細まり粗、粘性強、粒子粗い。
5. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, 直徑 5mm 以下のローム粒子 7% を含む。褐色土 (10YR4/6) 20%, 暗褐色土 (10YR2/1) 3% が偏在に散在する。細まりやや粗、粘性強、粒子やや粗い。
- P2
1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, ローム粒子 15%, 直徑 10 ~ 20mm のロームブロック 2% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) が偏在に散在する。細まりやや粗い、部分所に強、粘性有り、粒子細かい。(P1 の 1 層と同じ)
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 5mm 以下の褐色スコリア 5%, ローム粒子 30%, 直徑 5 ~ 50mm のロームブロック 5% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 5% が偏在に散在する。細まり有り、粘性強、粒子細かい。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, 直徑 5 ~ 50mm のロームブロック 20% を含む。褐色土 (10YR4/6) 30%, 暗褐色土 (10YR2/1) 5% が偏在に散在する。細まりやや粗、粘性強、粒子粗い。
4. 10YR4/6 暗褐色土層 ロームブロック主体。直徑 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 (10YR2/1) 2%, 暗褐色土 (10YR3/4) 5% が偏在に散在する。細まりやや粗、粘性強、粒子粗い。
- P3
1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, ローム粒子 15%, 直徑 10 ~ 20mm のロームブロック 2% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) が偏在に散在する。細まりやや粗い、部分所に強、粘性有り、粒子細かい。(P1 の 1 層と同じ)
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 5mm 以下の褐色スコリア 3%, ローム粒子 30%, 直徑 5 ~ 50mm のロームブロック 5% を含む。褐色土 (10YR4/6) 20%, 暗褐色土 (10YR3/4) 10% が偏在に散在する。細まりやや粗い、部分所に強、粘性やや強、粒子やや粗い。
3. 10YR4/6 暗褐色土層 ロームブロック主体。直徑 3mm 以下の褐色スコリア 7% を含む。暗褐色土 (10YR2/2) 7%, 暗褐色土 (10YR3/4) 3% が偏在に散在する。細まり粗、粘性やや強、粒子粗い。
- P4
1. 10YR2/1 黒色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 5%, ローム粒子 15%, 直徑 10 ~ 20mm のロームブロック 2% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) が偏在に散在する。細まりやや粗い、部分所に強、粘性有り、粒子細かい。(P1 の 1 層と同じ)
2. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 5mm 以下の褐色スコリア 3%, ローム粒子 30%, 直徑 5 ~ 50mm のロームブロック 40% を含む。褐色土 (10YR4/6) 20%, 暗褐色土 (10YR3/4) 10% が偏在に散在する。細まりやや粗い、部分所に強、粘性やや強、粒子やや粗い。
3. 10YR2/2 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 (10YR4/6) 30% が偏在に散在する。細まり粗、粘性強、粒子細かい。
4. 10YR4/6 暗褐色土層 直徑 3mm 以下の褐色スコリア 3% を含む。暗褐色土 (10YR2/2) 3% が偏在に散在する。細まりやや粗、粘性強、粒子細かい。
- P5
1. 10YR2.5/1 暗褐色土層 直徑 2mm をベースとし、直徑 2mm 以下の赤褐色スコリア 1% 未満、ローム粒子 3%, 直徑 10mm 以下のロームブロック 1% を含む。細まりやや粗、粘性有り、粒子極めて細かい。人為的堆積。
2. 10YR3/1 暗褐色土層 ローム粒子 25%, 直徑 20mm 以下のロームブロック 2% を含む。細まりやや粗、粘性強、粒子極めて細かい。人為的堆積。
3. 10YR4/2 灰黒褐色土層 ローム粒子 40%, 直徑 40mm 以下のロームブロック 25%, 直徑 15mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/1) 5% を含む。細まり粗、粘性強、粒子極めて細かい。人為的堆積。

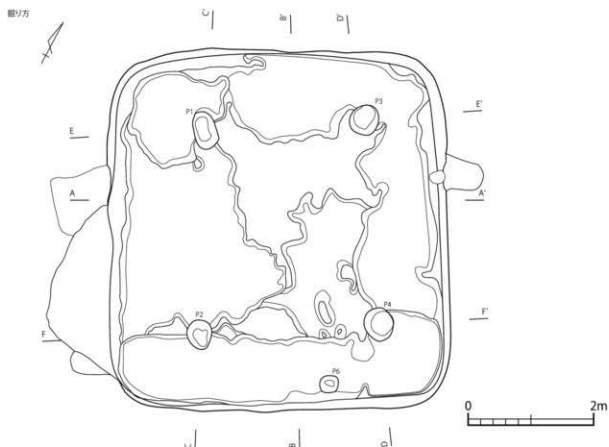
第 239 図 SI56(2)

土器の年代は、比田井編年 (比田井 2001) の古墳時代前期 I 段階新相に相当すると考えられる。
炭化種実 (点上げ) 炉周辺の床面から、炭化したオニグルミ核の破片 1 点と炭化したモモ核の破片 1 点が出土した。

炭化種実 (水洗選別) 土壌の水洗選別の結果、炉からイネ、アワ、ブドウ属、オニグルミの炭化種実が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。

(守屋)



第240図 SI56(3)(1/60)

SI56 (第238～251図、第27・32表)

遺構 調査区北東部の34N・35・44・45・46・55グリッドに位置する。検出面はⅢ層上で、SI55、SP597、SDK837・839、SKK843及び攪乱に切られている。

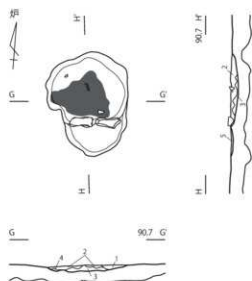
平面形態は隅丸方形で、長軸(南北)571cm、短軸(東西)547cm、検出面から床面までの深さは53cmを測る。壁は垂直気味に立ち上がっている。主軸方向はN-28°-Wを指す。

床面は貼床で、小さな凹凸を有する。壁際や貯蔵穴周辺を除いて、ほぼ全面が硬化している。壁溝は無い。主柱穴はP1～4の4基、南壁寄り中央付近に梯子穴と思われるP5、P5東側の壁際に貯蔵穴P6、貯蔵穴の北側に土堤が確認されている。

床面までの覆土は8層に分けられ、黄褐色スコリアを多く含む1～3・5層と、基本土層Ⅲ層系の土壌がベースの4・6～8層に分けられる。後者は主に壁沿いで確認されている。

掘り方は基本土層Ⅴ層までの掘り込まれており、建物跡中央部が比較的浅く、それ以外がやや深い他、全体的に大小の凹凸を有している。掘り方の覆土は7層に分けられ、いずれもⅢ層土をベースとし、ロームブロックや同粒子が混入されている。

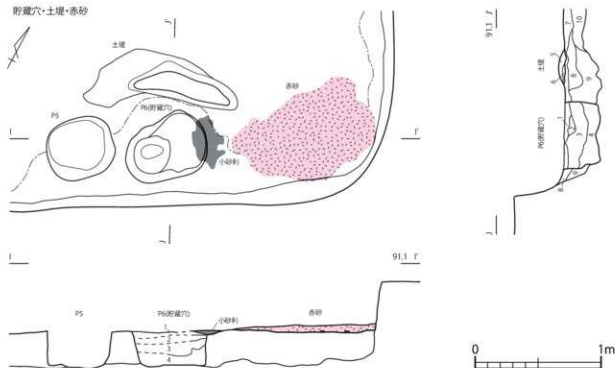
主柱穴は、前述の通り4基で、円形もしくは楕円形を呈している。断面形態はコ字状で、ローム層を深く掘り込んでおり、床面からの深さはP1が55cm、P2が62cm、P3が60cm、P4が6cmを測る。いずれも柱抜き穴や柱痕跡は確認できなかった。



図

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%, ローム粒子5%, 直径7mm以下のロームブロック1%未満, 焼土粒子3%, 炭化物粒子1%未満を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子粗い。
2. 5YR3/1 黒褐色土層 焼土粒子10%, 直径5mm以下の焼土ブロック3%, 炭化物粒子1%を含む。締まり有り、粘性わずか、粒子粗い。
3. 5YR3/2 暗赤褐色土層 焼土粒子40%, 直径5mm以下の焼土ブロック7%を含む。締まり強、粘性なし、粒子粗い。
4. 7.5YR3/1.5 灰褐色土層 焼土粒子20%を含む。締まり強、粘性なし、粒子粗い。
5. 7.5YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%, 焼土粒子1%, 直径5mm以下の焼土ブロック1%未満, ローム粒子10%を含む。締まり有り、粘性なし、粒子粗い。

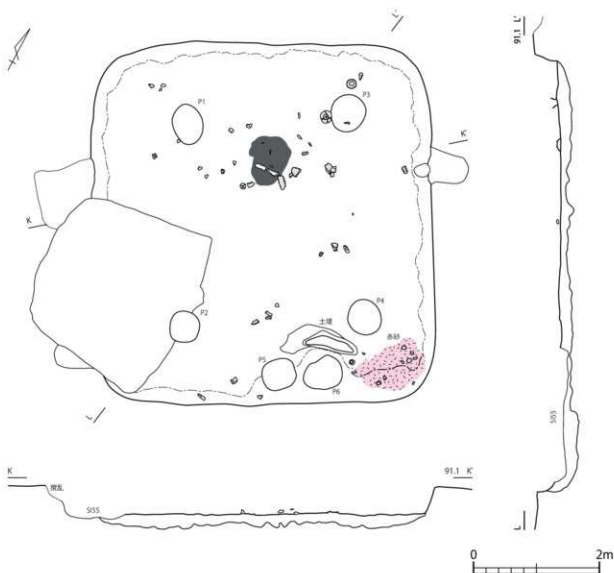
貯蔵穴・土堤・赤砂



P6(貯蔵穴)

1. 10YR2/1 黒色土層 黒焼土をベースとし、直径1mm程度の赤褐色スコリア3%, ローム粒子3%を含む。締まり強、粘性ごくわずか、粒子粗くやや砂質。
2. 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 黒焼土をベースとし、ローム粒子3%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
3. 7.5YR3/1.5 黒褐色土層 黒焼土をベースとし、ローム粒子15%, 直径20mm以下(直径5mm以下主体)のロームブロック10%, 直径25mm以下の道層土ブロック2%を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
4. 10YR4/2 灰褐色土層 黒焼土上にローム粒子20%, 直径50mm以下のロームブロック30%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
5. 10YR4/2 灰褐色土層 黒焼土とロームを混雑。ローム粒子10%, 直径20mm以下のロームブロック50%を含む。締まりは硬固で、粘性ごくわずか、粒子細かい。
6. 10YR2/1 黒色土層 黒焼土相当。ローム粒子2%を含む。締まり強、粘性ごくわずか、粒子極めて細かい。人為的堆積。
7. 10YR3/1 黒褐色土層 第239回12層に該当。
8. 10YR1/7.1 黒色土層 第239回12層に該当。
9. 10YR3/2 黒褐色土層 第239回13層に該当。
10. 10YR3/1.5 黒褐色土層 第239回15層に該当。

第241図 SI56(4) 炉・貯蔵穴・土堤・赤砂 (1/30)



第 242 図 SI56(5) 遺物出土状況図 (1/60)

P5 は梯子穴と考えられる。隅丸方形を呈し、長軸 57cm、短軸 54cm を測る。床面からの深さは 34cm で、掘り方底面よりやや深い程度である。覆土は 3 層に分けられ、52・53 層はローム粒子やブロックを多く含んでいる。

貯蔵穴 P6 は、平面形態は歪な楕円形を呈し、規模は長軸 67cm、短軸 51cm、床面からの深さは 29cm を測る。底面は、東側が比較的平坦なのに対し、西側はビット状に一段深くなっている。覆土は 4 層に分けられ、いずれもⅢ層土をベースとしている。また、覆土最上層東端の一部を覆うように、小砂利の分布が確認された。

土堤は長さ 123cm、幅 37cm、床面からの高さ 5cm で、貯蔵穴 P6 を囲むようにわずかにカーブしている。ロームを多く混和した上層と、Ⅲ層を用いた下層からなり、硬緻に構築されている。

炬は地床炬で不整形を呈し、長軸 83cm、短軸 65cm を測る。竪穴建物跡貼床土中を底面とする掘り方を持つ。中央やや南寄りの枕石を境に南側が 1 段浅くなっている。5 層からなる覆土のうち 3 層



第 243 図 SI56(6) 遺物分布図 (1/60)

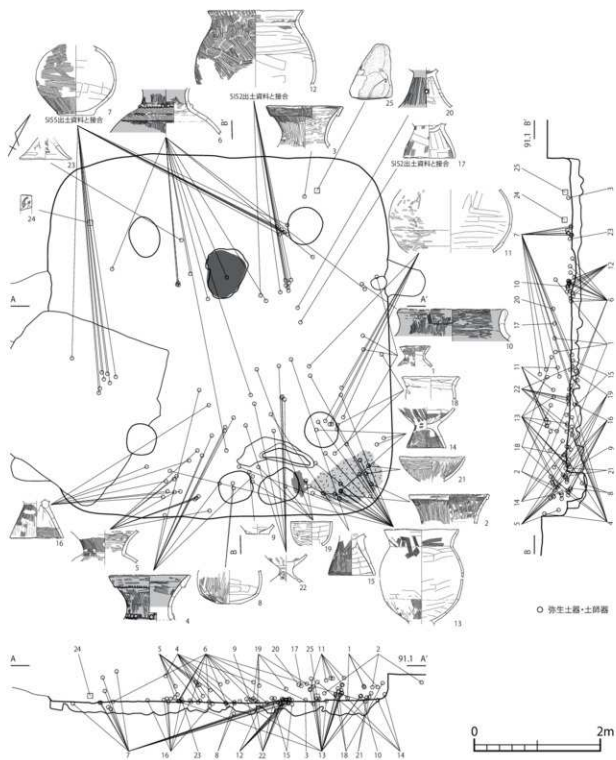
が強く被熱・硬化している。枕石は、2 点の礎が並べられた状態で検出された。

赤砂は建物跡南東角の壁沿いで検出された。範囲は長軸 115cm、短軸 79cm で、床面から 6cm の盛り上がり確認された。上面からは土器片が複数出土した。(相原)

出土遺物 縄文土器片 5 点と弥生土器・土師器片 429 点、土師器 1 点、須恵器 1 点、土製品 2 点、石器 2 点、石製品 1 点、礎 56 点が出土した。

遺物出土状況 遺物の出土点が非常に多く、特に炉の周辺と竪穴建物跡南東壁側で遺物が集中して出土した。また、他の SI 遺構と比較すると、覆土上層出土土器片と床面出土土器片が接合する個体が多いことが特徴である。壺 2 と広口壺 11、台付甕 17、高坏脚部 20 は覆土上層のみから出土した。

炉の周辺の床面では、壺 (第 248・250 図 3・6・7)、台付甕 (第 249・250 図 12)、小型高坏または器台 (第 249・251 図 23)、石杵 (同 25) 等が集中して出土した。南東壁側の床面からは、壺 (第



第 244 図 SI56(7) 遺物接合図 (1/60)

248・250 図 1・4・5・8・9)、台付甕 (第 249・250 図 13、第 249・251 図 14・15・16)、甕 (同 18)、鉢または小型高坏 (同 19)、小型高坏 (同 21・22) 等が集中して出土した。

西側の床面からは、砥石 (同 24) が出土した。

このうち、炉の周辺の床面から出土した台付甕 (第 249・250 図 12) と台付甕脚部 (第 249・251 図 17) は、SI52 との遺構間接合である。

土器 第 248・250 図 1～9 は、壺である。1 は、小型の壺である。単口縁で、口縁は外反し、頸部は強く屈曲する。頸部外面は粗いハケ状工具による幅広のハケメが残る。小型壺の可能性はある。2～4 は、折り返し口縁壺の口縁部から頸部である。2 は、折り返し部分の幅は狭い。口唇部はハケ状工具で平坦に面取りされた後、ミガキが加えられる。口縁部と頸部は外反する。頸部は外面と内面ともに、ハケ調整後にミガキが施される。3 は、口唇部はハケで平坦に面取りされ、口縁部から頸部は外反する。頸部の屈曲は緩やかである。口縁部外面はハケ調整後に縦列沈線文が 5 箇所施され、4 本 1 組のものが 2 箇所、3 本 1 組のものが 3 箇所である。4 は、口唇部は平坦で、口縁部と頸部は大きく外反する。折り返し部下端に刻みを有する。頸部には円形浮文が貼り付けられる。剥離痕跡を加えると、最大で 5 点 1 組であったと推測され、これが 4 箇所に存在したと考えられる。円形浮文の下側に 2 条の S 字状自縄結節文が施文され、肩部文様帯の上端を区画するものと考えられる。口縁部から頸部外面と、口縁部内面はミガキ後赤彩が施される。円形浮文も同様に赤彩される。5 は、頸部から肩部である。口縁部は大きく外反する。頸部は突帯を有し、強く屈曲する。突帯は頸部のハケ調整後に細い粘土紐を貼り付けた後、下側を肩部のハケ調整の際に合わせて整形され、最後に突帯外面にミガキまたはナデが施される。潰れた形状の突帯であり、作りは粗い。6 は、頸部から胴部上半である。頸部はほぼ垂直に立ち上がる。肩部に羽状縄文が施文される。上端は 2 条の S 字状自縄結節文で区画され、上段は単節 LR で下端が Z 字状端末結節文、下段は単節 RL で下端が S 字状単末結節文である。上段上端の S 字状自縄結節文の位置に、2 点 1 組の円形浮文が 4 箇所に貼り付けられる。また、上段下端の Z 字状端末結節文の位置に、4 点 1 組の円形浮文が 4 箇所に貼り付けられ、それぞれの中間部分には、ハケ状工具で目印がつけられた後、円形朱文が施文される。円形浮文は上段と下段で互い違いの配置である。頸部内外面と胴部外面はミガキ後赤彩される。また、円形浮文も全て赤彩される。7 は、胴部から底部である。最大径は胴部下半に位置し、球形である。底部外面は平坦である。胴部外面全体にハケメが残る。8 は、胴部から底部である。底部は皿状で、胴部と結合される。この境は強く屈曲する。最大径は胴部下半に位置する。底部外面はヘラケズリによりやや窪む。焼成はやや軟質で、色調は橙色である。ヒサゴ形壺であると考えられる。9 は、小型の壺の底部片である。底部外面は平坦である。

10 は、広口壺の口縁部である。折り返し口縁で、口唇部の一部は面取りされて平坦である。頸部はゆるやかに屈曲する。器厚は厚い。内外面はミガキ後赤彩される。11 は、壺または広口壺の胴部である。胴部は張り出し、胴部径が大きい。

12～17 は、台付甕である。12 は、口縁部から胴部上半で、口唇部はハケ状工具により平坦に面取りされ、刻みを有する。頸部は緩やかに屈曲する。胴部最大径に対し、口径は小さい。外面は、粗いハケ状工具による幅広のハケ調整が施される。13 は、口縁部から胴部である。胴部上半と下半は接合しないが、同一個体と判断した。口唇部は丸みを帯びる。口縁はやや外反し、頸部が屈曲する。



1. SI56 全景 (西南西から)



2. SI56 P2 土層断面 (東北東から)



3. SI56 P4 土層断面 (東北東から)



4. SI56 P3 土層断面 (東北東から)



5. SI56 P3 全景 (東北東から)

第 245 図 SI56 写真 (1)



1. SI56 土層断面 A-A'(南南東から)



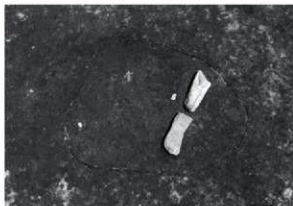
2. SI56 土層断面 B-B'(東北東から)



3. SI56 P6(貯蔵穴)土層断面 J-J'(東北東から)



4. SI56 P5・P6・土堤全景(北北西から)



5. SI56 炉全景(西南西から)



6. SI56 炉土層断面(東から)



7. SI56 炉火床部検出状況(西北西から)



8. SI56 掘り方全景(西南西から)

第 246 図 SI56 写真 (2)



1. SI56 赤砂検出状況(西北西から)



2. SI56 砂利検出状況(北北西から)



3. SI56 遺物出土状況(西南西から)



4. SI56 遺物出土状況(東から)



5. SI56 遺物出土状況(東から)

第 247 図 SI56 写真(3)

最大径に対し、胴部がやや長い。焼成は軟質で、胎土に小礫を多数含む。搬入品の可能性がある。14は、胴部下半から脚部である。脚部はわずかに内湾する。外面は細かいハケ状工具による幅狭のハケ調整の後、粗いハケ状工具による幅広のハケ調整が施される。脚部内面は粗いハケ状工具による横方向の幅広のハケ調整が施される。15は脚部で、直線的に広がる。縦長の形状である。外面は粗いハケ状工具による幅広のハケ調整が施される。胴部と脚部の接合部は、脚部内面に大きく突出する。16は脚部で、直線的に広がる。外面は幅粗いハケ状工具による幅広のハケ調整が施される。粘土収縮によるひび割れが目立ち、これをナデ消した痕跡が残る。脚部内面は粗いハケ状工具による横方向の幅広のハケ調整が施される。17は脚部で、内湾する。外面は細かいハケ状工具による幅狭のハケ調整。胴部と脚部の接合部は、脚部内面にやや突出する。

18と19は、鉢である。18は口縁部から胴部で、口唇部は平坦である。口縁部外面はケズリに近い粗いナデ面を残す。頸部はヘラナデされ、折り返し口縁状の段が生じている。19は、鉢の体部または小型高坏の坏部である。口唇部は外側につまみ出される。体部または坏部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁部付近は垂直である。

20は、高坏の脚部である。脚部は大きく外反しながら広がる。4箇所に穿孔を有する。外面はミガキ後赤彩される。

21と22は、小型高坏である。21は坏部で、坏部は内湾する。口唇部付近はつまみ上げられて直立する。22は、坏部から脚部である。脚部上半は垂直に立ち上がり、中実である。坏部との境界と脚部下半との境界がそれぞれ屈曲する。脚部に穿孔を有する。

23は、小型高坏または器台の脚部である。脚部下端がやや外反し大きく広がる。脚部に穿孔を有する。

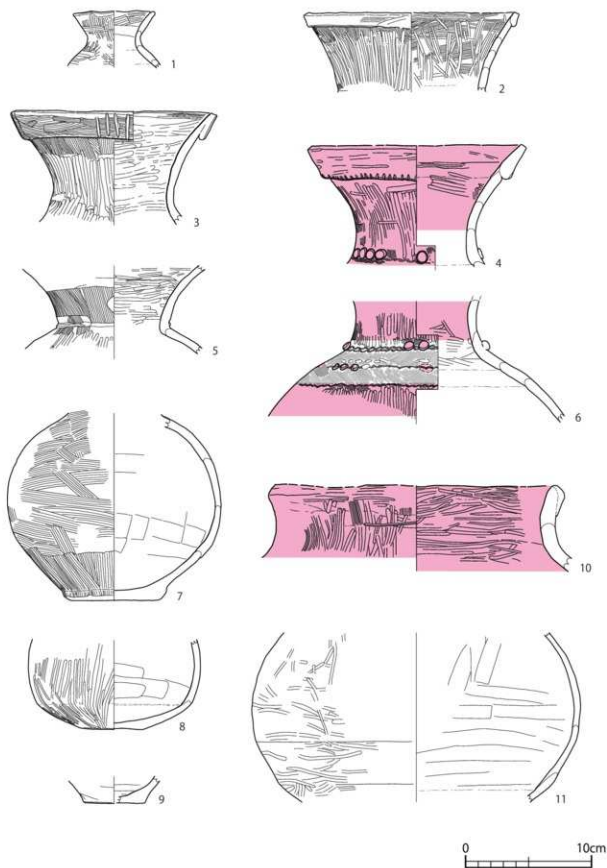
土器の年代は、比田井編年（比田井2001）の古墳時代前期Ⅰ段階新相に相当すると考えられる。

石製品 第249・251図24は、シルト岩製の砥石である。扁平な形状で、正面と3側面に磨減痕が残る。25は、砂岩製の石杵である。形状は四角錐に近い。下側面は平坦で、全面が磨減する。

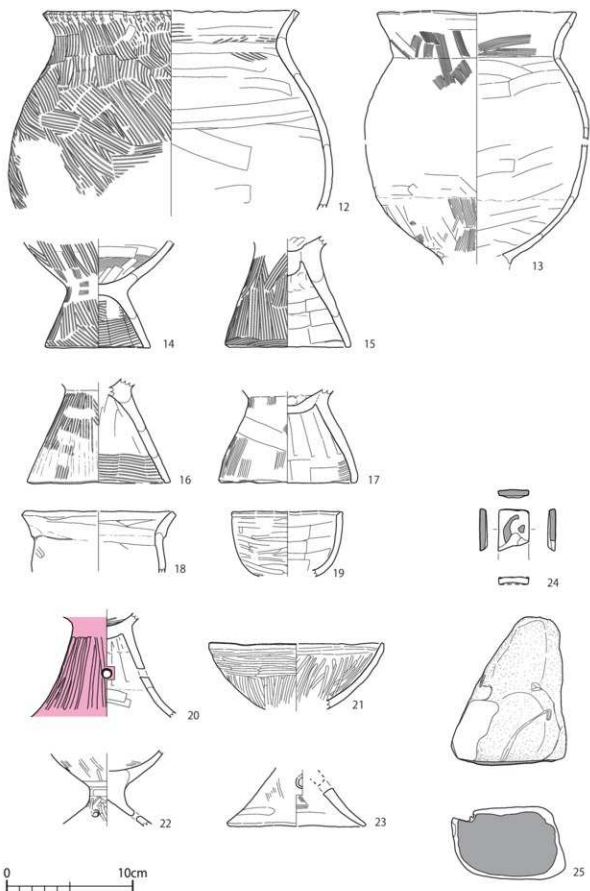
炭化種実（水洗選別） 土壌の水洗選別の結果、杓からイネ、アワ、オオムギ、ウリ科の炭化種子が検出された。特に、イネが多量である。また、第249・251図17の台付甕脚部内から、アワの炭化種子が検出された。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。

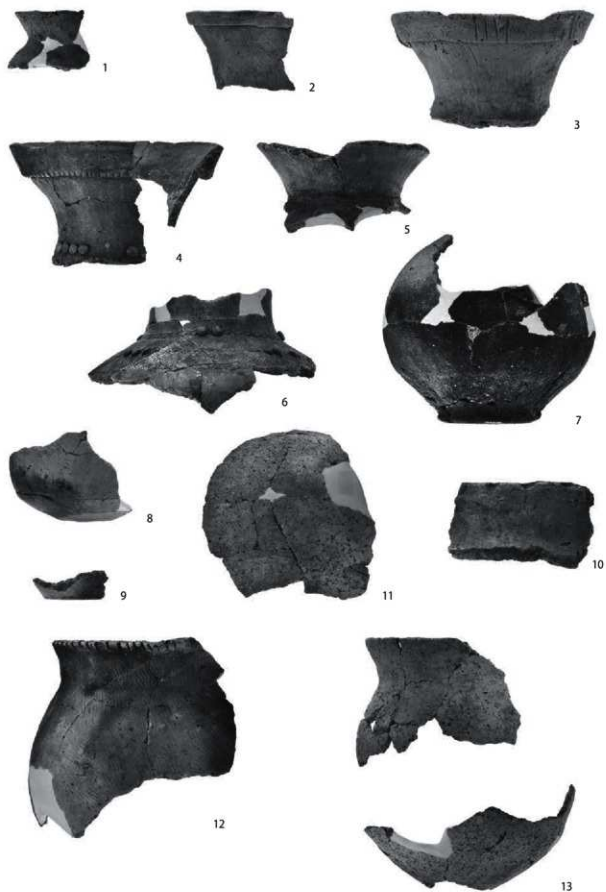
（守屋）



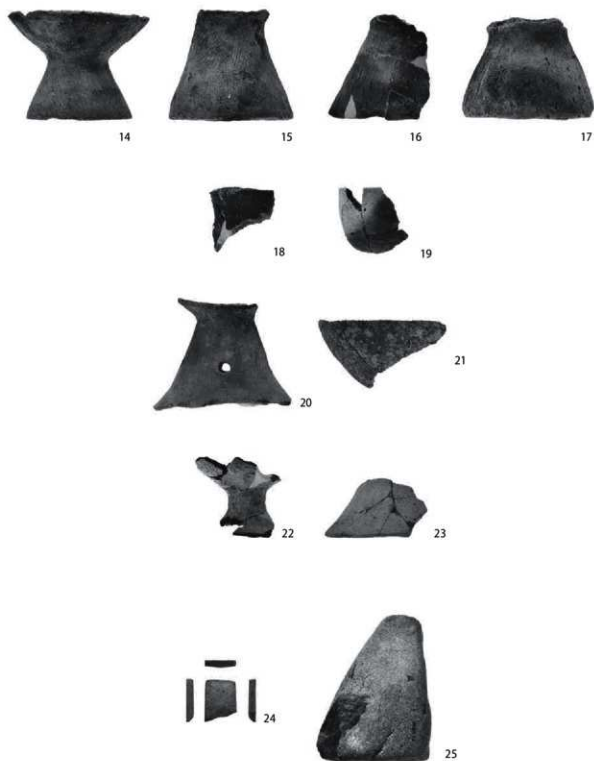
第248図 SI56出土遺物(1)(1/3)



第249図 SI56出土遺物(2)(1/3)



第250图 SI56出土遺物写真(1)



第251図 SI56出土遺物写真(2)

第 27 表 S156 出土土器観察表(1)

図	番号	部位	器種	注量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第 248 ~ 250 図	1	甕土床面	甕	(6.2) —	小型で、やや粗い作りである。口縁部から頸部は外反する。	外面：口縁部から頸部縦方向の幅広いハケ調整後縦方向または縦方向のミガキ。内面：口縁部縦方向のハケ調整またはナデ。	小礫 チャート	良好		7.5YR7/4 にぶい青	残存率 25 ~ 50%。 小型の甕。粗いハケ状工具による幅広いハケメ(菊川系の緑色か?)
	2	甕土中から下層	甕	(16.3) —	折り返し口縁で、折り返し部の幅が狭い。口縁部はハケで平坦に面取りされる。口縁部と頸部は外反。	外面：口縁部ハケ調整後ナデ。頸部縦方向のハケ調整後縦方向と横方向のミガキ。内面：口縁部から頸部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。	小礫 長石	良好		10YR6/4 にぶい黄緑	残存率 25% 以下
	3	甕土床面	甕	15.7 —	複合口縁で、口縁は外反する。口縁部はハケで平坦に面取りされる。頸部の屈曲は緩やかである。口縁部には 4 本 1 組の縦列沈線文が 2 箇所、3 本 1 組のものが 3 箇所存在する。	外面：口縁部と口縁部縦方向のハケ調整。頸部から肩部縦方向のミガキ。頸部のミガキは下方。肩部のミガキは上方。内面：口縁部から頸部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。	小礫 石英	良好		7.5YR7/6 橙	残存率 25% 以下
	4	甕土床面	甕	16.4 —	折り返し口縁で、口縁部は平坦。口縁部と頸部は大きく外反。折り返し部下端に斜みを有する。頸部には凹形浮文が、5 点 1 組で 4 箇所配置されると想定される。	外面：口縁部ヨコナデ後縦方向のミガキ。頸部ハケ調整後縦方向のミガキ。凹形浮文下方に 2 条の S 点。内面：口縁部から頸部ナデまたはハケ調整後縦方向のミガキ。	小礫 長石 石英	良好	外面全体、 口縁部から 頸部内面	2.5YR4/4 にぶい赤黒	残存率 25% 以下
	5	甕土床面	甕	— — —	口縁部は大きく外反する。頸部は突角を有し、強く屈曲する。突部の作りは粗い。	外面：口縁部から頸部縦方向のハケ調整。口縁部付近はその後縦方向のナデ。頸部突角ミガキ。頸部縦方向のハケ調整後ミガキ。内面：口縁部縦方向のミガキ。	中小礫 雲母	良好		5YR5/6 明赤黄	残存率 25% 以下。 頸部突角
	6	甕土床面	甕	— —	頸部はほぼ垂直に立ち上る。肩部羽状線文(上端部に 2 点 1 組の凹形浮文が 4 箇所、羽状線文中間部に 4 点 1 組の凹形浮文が 4 箇所、互い違いに配置される。	外面：頸部縦方向(下方向)のミガキ。肩部に羽状線文(上端 2 条の S 点、上段単節線 L 段、下段単節線 L 段)。羽状線文中間部に横方向のハケ調整またはナデ後に凹形浮文。凹形浮文貼付箇所には予めミガキまたはナデによる凹目。頸部縦方向(上方向)のミガキ。内面：頸部と肩部ナデ後横方向のミガキ。	小礫 角閃石	良好	頸部・ 頸部外面、 凹形浮文、 凹形赤文、 頸部内面	7.5YR5/4 にぶい青 (赤彩) 10R4/4 赤黒	残存率 25% 以下
	7	甕土床面	甕	— (14.7) 7.1	ハケ調整甕。最大径は頸部下平に位置し、球形。底部外面は平坦。	外面：頸部縦方向、底部付近縦方向のハケ調整。内面：頸部縦方向のナデ。	小礫 長石 石英	良好		7.5YR3/2 黒黒	残存率 50%。ハケ調整甕
	8	甕土床面	甕	— 4.8	底部付近は瓶状で、頸部との境は強く屈曲する。頸部最大径は頸部下平に位置する。底部外面はヘラズリにより窪む。	外面：頸部縦方向のミガキ。底部ヘラズリ。内面：頸部縦方向のヘラナデ。	小礫	やや軟質		5YR6/8 橙	残存率 25% 以下
	9	甕土床面	甕	— 4.7	小型の甕の底部片である。底部外面は平坦。	外面：ナデ。内面：横方向のナデ。	小礫 白色砂粒 石英	良好		7.5YR6/4 にぶい青	残存率 25% 以下
	10	甕土床面	皿口甕	(22.4) —	折り返し口縁。口縁部の一部は平坦。胎厚が薄い。	外面：口縁部縦方向のハケ調整後縦方向のミガキ。頸部縦方向のミガキ。内面：口縁部から頸部ナデ後縦方向のミガキ。	小礫 白色砂粒	良好	両面	10R4/4 赤黒	残存率 25% 以下。 口縁部に破損
第 249 ~ 250 図	11	甕土上から中層	甕か 皿口甕	— —	頸部は瓶状で、頸部最大径が頸部に対して大きくと想定される。	外面：頸部ナデ後縦方向のナデ。内面：頸部縦方向のヘラナデ。	小礫多数	良好		7.5YR7/6 橙	残存率 25% 以下
	12	甕土床面	甕 S152床面	(10.6) —	口縁部はハケ状工具により平坦に面取りされ、斜みを有する。頸部は緩やかに屈曲する。口縁は頸部最大径に対して小さい。	外面：口縁部から頸部縦方向の幅広いハケ調整。頸部斜め方向のハケ調整。内面：口縁部縦方向のハケ調整後縦方向のナデ。頸部縦方向のヘラナデ。	小礫 白色砂粒	良好		10YR6/3 にぶい黄緑	残存率 25 ~ 50%。 頸部縦方向。粗いハケ状工具による幅広いハケメ(菊川系の緑色か?)
	13	甕土床面	甕	(15.4) —	口縁部は丸みを帯びる。口縁部はやや外反し、頸部が屈曲する。	外面：口縁部から頸部縦方向のハケ調整後ナデ。頸部ハケ調整後ナデ。内面：口縁部から頸部縦方向のヘラナデ。	小礫多数	軟質		7.5YR7/6 橙	残存率 25 ~ 50%。 上平と下平は接合していないが、同一胴体とする

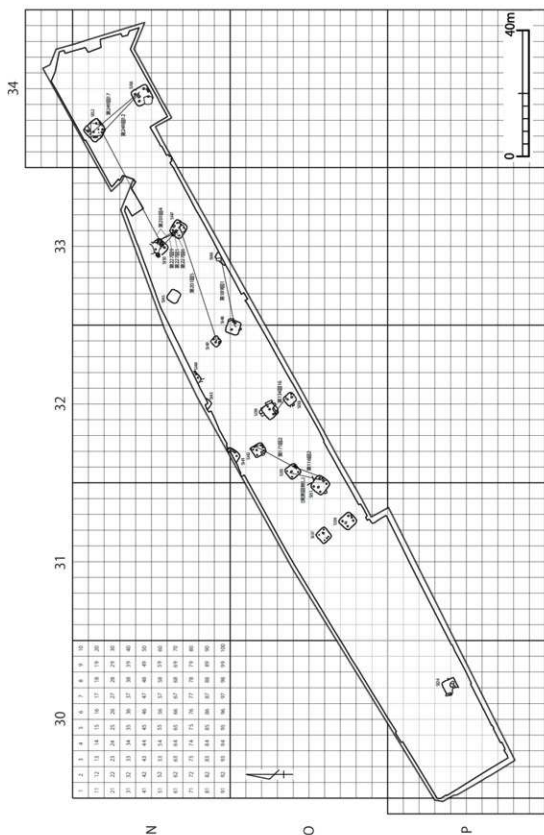
第 27 表 SI56 出土土器観察表 (2)

図	番号	層位	器種	法量	図形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第 29 ・ 251 図	14	覆土 床面	台付甕	— (8.3) 8.2	— 脚部はわずかに内湾する。	外面：胴部から脚部縦方向の縦か いハケ調整後斜め方向の幅広のハ ケ調整。内面：胴部縦方向の縦か いハケ調整後ヘラナデ。脚部縦方 向の幅広のハケ調整。	小礫 長石 石英 白色砂粒	良好		7.5YR5/4 にぶい黄	残存率 25～50%。 粗いハケ状工具に よる幅広のハケ メ（菊川系の緑微 か？）
	15	覆土 床面	台付甕	— — 9.8	— 脚部は直線的に広がる。 縦長の形状。胴部と脚部 の接合部は、脚部内面に 大きく突出する。	外面：脚部縦方向の幅広のハケ調 整。内面：脚部縦方向のヘラナデ。	小礫 長石 白色砂粒	良好		7.5YR6/6 橙	残存率 25% 以下。 粗いハケ状工具に よる幅広のハケ メ（菊川系の緑微 か？）
	16	覆土 床面	台付甕	— — (11.2)	— 脚部は直線的に広がる。 粘土剥離によるむき割れ が目立つ。	外面：脚部縦方向の幅広のハケ調 整後縦方向のナデ。内面：脚部ヘ ラナデ後下端のみ縦方向の幅広の ハケ調整。	小礫 石英	良好		10YR5/3 にぶい黄緑	残存率 25% 以下。 粗いハケ状工具に よる幅広のハケ メ（菊川系の緑微 か？）
	17	覆土 上層 SI52床面	台付甕	— — 10.6	— 脚部は内湾する。胴部径 に対して脚部高が低い。 胴部と脚部の接合部は、 脚部内面にやや突出す る。	外面：脚部縦方向のハケ調整後一 部縦方向のナデ。内面：脚部縦方 向のヘラナデと一部ハケ調整。	小礫多数	良好		10YR7/4 にぶい黄緑	残存率 25% 以下。 遺構間接合。ヘラ ナデとハケメは同 一工具によるもの か？
	18	覆土 床面	鉢	(11.6) — —	— 小型の鉢。口部は平坦 で、胴部にヘラナデよ る段を有する。	外面：口部ナデ。口縁部ケズリ に近い粗いナデ。胴部ヘラナデま たはミガキ。内面：口縁部縦方向 のナデ。	小礫多数	良好		7.5YR4/1 暗灰	残存率 25% 以下
	19	覆土 床面	鉢か 小型 高杯	(8.6) — —	— 全体的に内湾するが、口 縁部は垂直に近く、下平 で大きく湾曲する。口縁 は平坦で、明瞭に内傾す る。	外面：縦方向のミガキ。内面：横 方向のヘラナデ。	小礫 長石 雲母 白色砂粒	良好		10YR6/4 にぶい黄緑	残存率 25% 以下
	20	覆土 中層	高杯	— — 8.8	— 脚部は大きく外反しなが ら広がる。胴部に 4 個所 の穿孔を有する。	外面：脚部縦方向のミガキ後横方 向のミガキまたはヘラナデ。内面： 脚部縦方向のナデ。	小礫 石英 チャート	良好	外面	2.5YR5/6 明赤褐	残存率 40%。イ ネ風梨正果
	21	覆土 床面	小型 高杯	(13.6) — —	— 環部は内湾する。口部は つつまみ上げられて直立 する。	外面：環部ナデ後上半は横方向、 下半は縦方向のミガキ。内面：環 部縦方向のミガキ。	小礫 長石 石英	やや軟質		10YR7/3 にぶい黄緑	残存率 25% 以下
	22	覆土 床面	小型 高杯	— — —	— 脚部上半は垂直に立ち上 がり、中実である。環部 との境界と脚部下半との 境界が斜曲する。脚部に 穿孔を有する。	外面：縦方向のミガキ。環部と脚 部の境界ハケ調整後横方向のナデ。 内面：環部ミガキ。脚部ナデ。穿孔： 外面と内面の両側から穿孔される。	小礫 石英 白色砂粒	良好		10YR6/3 にぶい黄緑	残存率 40%。赤 石の可能性あり
	23	覆土 床面	小型 高杯 か器台	— — (10.6)	— 脚部下端が外反する。脚 部に穿孔を有する。	外面：脚部縦方向のハケ調整後横 方向のナデ。内面：脚部ハケ調整 後ナデ。	小礫	良好		7.5YR6/6 橙	残存率 25% 以下

第 28 表 弥生時代終末期～古墳時代前期竪穴建物跡・竪穴状遺構一覧表

遺構名	グリッド	測図番号 図面	写真	平面形状	規模 (cm) 長軸 短軸 深さ	検出 面	主柱 穴数	非	貯蔵 穴	土壇	春砂	遺物	備考 (重要関係等)
SI24	30P- 37-38- 47-48	第79-90 図	第81図	隅丸 方形	482 440 22	Ⅲ	—	—	—	—	—	縄文土器 12、弥生土器 30、 石器 1、礎 14	97°状遺構。 SI22、SK62・63、SKK157、 礎瓦に切られる。
SI31	310- 60-70- 320- 51-61	第84～ 90図	第91～ 93図	隅丸 方形	513 496 66	Ⅲ 3	4	○	○	○	○	縄文土器 14、弥生土器 165、 土師器 3、須恵器 7、 石器 3、礎 85、炭化物 13	SK113 と接する。 SI30、SP472、SKK359・ 362・390、SKK355・360 ・365 に切られる。 棚状施設あり。
SI34	310- 68-78- 79-88	第97～ 102図	第103～ 105図	隅丸 方形	481 440 61	Ⅲ	4	○	○	○	○	縄文土器 7、弥生土器 352、 土師器 1、石器 4、右製品 1、 礎 120、炭化物 13	SK92、SKK172 に切られる。
SI35	320- 31-32- 41-42	第110～ 113図	第114～ 115図	隅丸 方形	411 406 38	Ⅲ	4	○	○	○	○	縄文土器 3、弥生土器 64、 土師器 2、土製品 1、 礎 20、炭化物 5	SKK392 に切られる。
SI37	310- 57-58- 67-68	第118～ 121図	第122- 123図	隅丸 方形	415 396 40	Ⅲ 3	4	○	○	○	○	縄文土器 3、弥生土器 107、 礎 25	SKK493 に切られる。
SI38	320-35- 36-46	第126～ 129図	第130- 131図	隅丸 方形	369 344 71	Ⅲ	—	○	○	—	—	縄文土器 12、弥生土器 484、 土製品 1、石器 2、礎 21	SKK376・377・387・501・ 502、礎瓦に切られる。
SI39	320- 24-25- 26-35	第138～ 143図	第144～ 146図	隅丸 方形	461 439 61	Ⅲ	—	○	○	○	○	縄文土器 6、弥生土器 107、 須恵器 1、石器 3、礎 82、 金属 1、炭化物 20	SP531 を切る。SKK349・ 380・381・382・383・ 384・496、礎瓦に切られる。 鉄鏃出土。
SI41	32N- 92-93- 154図	第149～ 154図	第155～ 157図	(隅丸 長方形)	(292) (489) 74	Ⅲ (2)	(—)	○	○	○	○	縄文土器 4、弥生土器 207、 土製品 2、石器 4、右製品 4、 礎 59、炭漬 1、炭化物 76	
SI42	320- 12-13- 22-23	第165～ 168図	第169- 170図	隅丸 長方形	418 373 28	Ⅲ	4	○	○	○	2基	縄文土器 2、弥生土器 133、 土師器 2、石器 2、右製品 1、 礎 231	SKK522・523・524・526 に切られる。
SI43	32N- 85-86	第173- 174図	第175図	(隅丸 長方形)	(249) (266) 60	Ⅲ (—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	縄文土器 1、弥生土器 8、 須恵器 1、土製品 2、 礎 4、炭化物 34	礎瓦に切られる。
SI44	32N-77- 78-87	第178- 179図	第180図	(隅丸 長方形)	(147) (377) 53	Ⅲ (—)	(—)	○	(—)	○	○	縄文土器 1、弥生土器・土 師器 73、 土製品 1、石器 1、右製品 1、 礎 9	礎瓦に切られる。
SI45	33N-52- 62-63	第183- 184図	第185図	隅丸 方形	390 372 48	Ⅲ	—	—	—	—	—	縄文土器 2、弥生土器・土 師器 8、 炭化物 1	97°状遺構。 SK131、SKK549・551・ 552-553、礎瓦に切られる。
SI46	33N- 94-95	第186- 187図	第188図	(隅丸 長方形)	(261) (436) 28	Ⅲ (—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	弥生土器・土師器 48、礎 8、 炭化物 11	SKK678・681、礎瓦に切 られる。
SI47	33N- 66-67- 76-77	第191～ 197図	第198～ 200図	隅丸 長方形	505 454 65	Ⅲ	4	○	○	○	○	縄文土器 13、弥生土器・土 師器 288、 土製品 2、石器 1、礎 63、 炭化物 1	SK145、礎瓦に切られる。
SI48	32N-100 ・33N 91 320-10 330-1	第205～ 207図	第208- 209図	隅丸 方形	440 430 39	Ⅲ	—	○	○	○	○	縄文土器 6、弥生土器・土 師器 152、 土師器 1、土製品 4、 石器 1、礎 81、炭化物 6	SD9、SKK594・598・602 ・603、礎瓦に切られる。
SI49	32N- 89-90- 99-100	第212～ 214図	第215図	隅丸 方形	288 281 47	Ⅲ	—	○	○	—	—	縄文土器 5、弥生土器・土 師器 13、 礎 17、炭化物 5	SKK900・975・976・977、 SKK593、礎瓦に切られる。
SI50	33N- 55-56- 65-66	第218～ 223図	第224～ 226図	隅丸 長方形	530 477 66	Ⅲ (3)	○	○	—	○	—	縄文土器 5、弥生土器・土 師器 108、 土製品 3、石器 1、礎 37、 炭化物 12	SK146、SKK1005、SKK644 ・711・712、礎瓦に切られる。
SI52	34N-3- 12-13- 14-23	第229～ 233図	第234- 235図	隅丸 方形	615 582 28	Ⅲ	4	○	○	—	○	縄文土器 10、弥生土器・土 師器 334、 土製品 5、石器 1、礎 36、 炭化物 2	SK181、SP572・573・575 ・615、SKK787・789・ 794・940・941・944、礎 瓦に切られる。
SI56	34N-35- 44-45- 46-55	第238～ 244図	第245～ 247図	隅丸 方形	571 547 53	Ⅲ	4	○	○	○	○	縄文土器 5、弥生土器・土 師器 429、 土師器 1、須恵器 1、土製品 2、 石器 2、右製品 1、礎 56	SI55、SP597、SKK837・ 839、SKK843、礎瓦に切 られる。

※ () 内は調査範囲・遺存範囲内での数値・状況を示す。



第 252 図 弥生時代終末期～古墳時代前期遺構間接合分布図 (1/1,200)

B 方形周溝墓

方形周溝墓は、調査区南西部で1基が検出された。遺構略号はSZである。

SZ2 (第253～260図、第29表)

遺構 調査区南西部の30P・4・5・13～16・24～26グリッドで検出された。平面形態は長方形で、長軸(南東-北西)885m、短軸(南西-北東)788cm、方台部は長軸(南東-北西)731cm、短軸(南西-北東)601cmを測る。検出面はⅢ層上である。

周溝の一部が古代の遺構SI28、SK90、SP483、近世以降の遺構SDK199・200・222、SKK253・268・277・278・280・284・285・287・288・316及び攪乱に切られている他、周溝内側の方台部にはSI26・SK108、SKK275・276・286が位置している。

北西溝の一部が攪乱により破壊されているが、周溝は全周し、周溝が切れる陸橋部(ブリッジ)を有さないものと思われ、伊藤敏行の分類(伊藤1996)に拠るところのD1型に相当する。

周溝の断面形態は概ね逆台形で、底面は比較的平坦である。検出面での幅は118～70cm、検出面からの深さは63～37cmを測る。前述の通り陸橋部は無いが、西側コーナー部分の底面には段差があり、他の部分よりは若干浅くなっている。

覆土は、計9箇所断面観察を行った。いずれの断面も5～9層に分けられる。

覆土上層の1・3層については、黄褐色スコリアを多く含む粒子の粗い黒色土層で、各土層断面で確認されている。

中層については、周溝各部で様相が異なっている。南西溝については、黄褐色スコリアを含まない黒褐色土主体の7層を黒色土主体の5層が溝状に切っており、7層まで堆積した時点で、周溝内が細い溝状に掘り返された痕跡と考えられる。北東溝については、南西溝と同じ黄褐色スコリアを含まない黒褐色土層が一部で見られる他、上記と同じと思われるⅢ3層土や墳丘に使用されていた可能性のあるⅣ層土ベースの土壌が堆積していた。南東溝・北西溝についても、黄褐色スコリアを含まない黒褐色土の堆積が確認された。

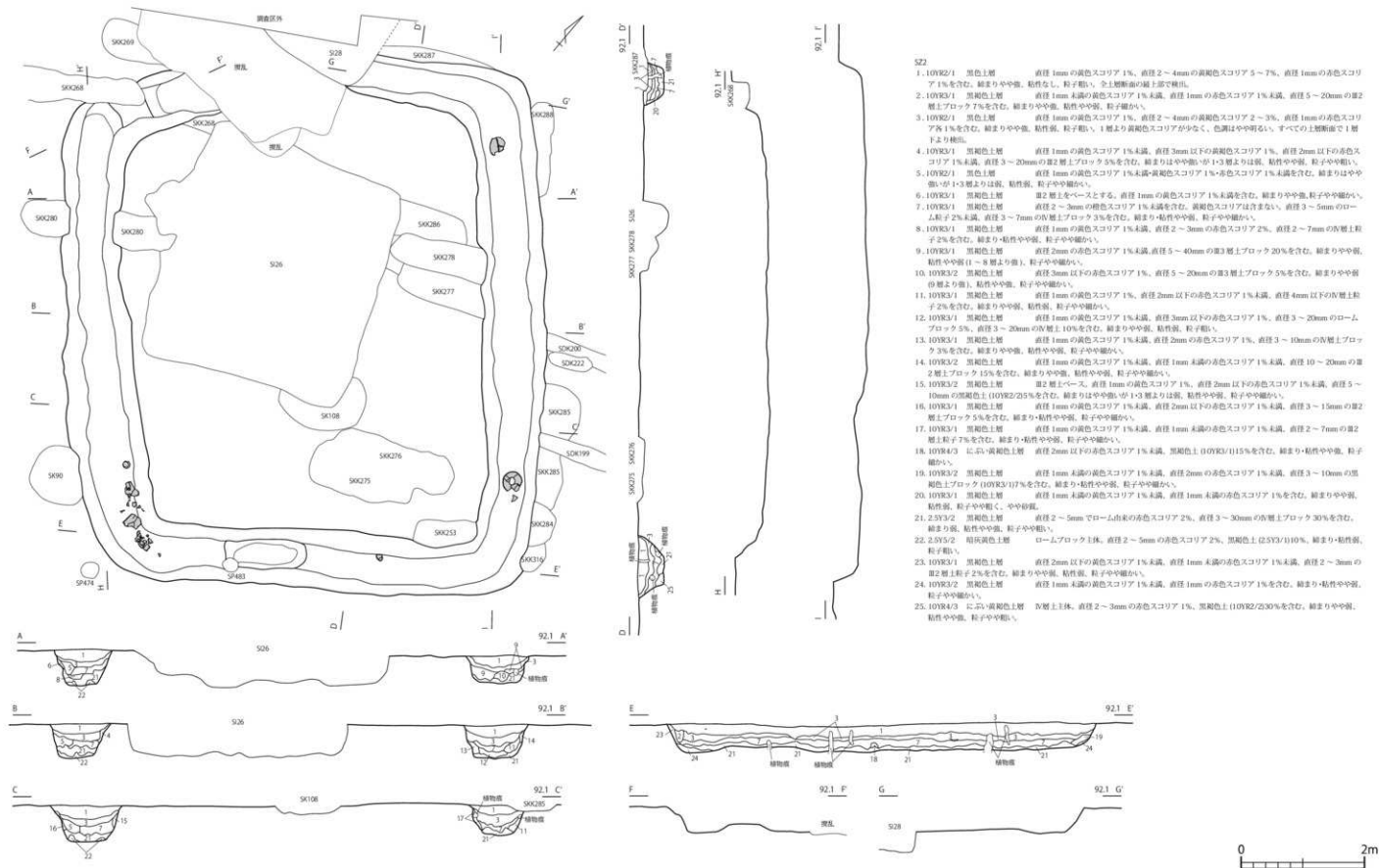
下層は、Ⅳ層土やⅤ層土のブロックを多く含む層が主体で、底面に敷き均したというよりは、周囲からの崩落等により堆積したものと思われる。

墳丘は、方台部に古代のSI26が位置することから、早い段階ですでに削平されていたものと思われる。主体部についても、墳丘とともに削平されたか、SI26によって破壊されたものと思われる。

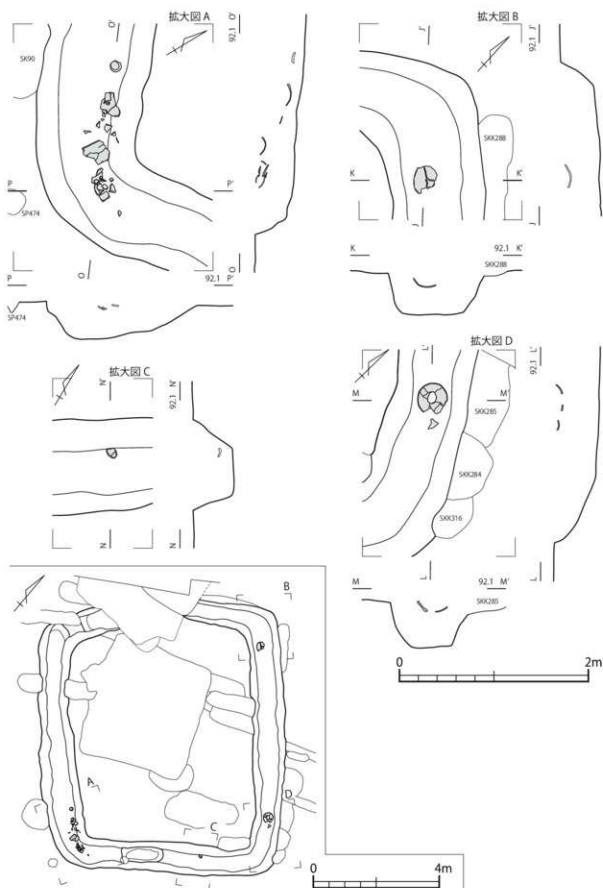
なお、南東側周溝の中心部よりやや南西寄りでは長軸133cm、短軸50cm、周溝底面からの深さ約8cmの土坑状の掘り込みが確認されたが、非常に浅く、また覆土や遺物の出土状況からは、付帯施設と認識することはできなかった。(相原)

出土遺物 縄文土器片8点と弥生土器・土師器片102点、古代の土師器30点、須恵器1点、焼成粘土塊3点、礫111点が出土した。

遺物出土状況 周溝の南隅(第254図拡大図A)、北隅(同拡大図B)、東隅(同拡大図D)に遺物が集中して出土した。特に第259・260図1の大型壺は、北隅、東隅、南隅と南東側周溝(同拡大図C)の中央に分かれて出土した。意図的な破壊によるものと考えられ、方形周溝墓における祭祀儀礼が行われたことが推測される。また、各出土地点における出土層位は、すべて周溝の上層であるため、周溝がある程度埋没した後に儀礼が行われたと考えられる。



第253図 S22(1)1/60



第254図 SZ2(2) 遺物出土状況図 (1/40・1/120)

土器 第259・260図1は、大型の壺の頸部から底部である。頸部は強く屈曲し、胴部は球胴形である。最大径は胴部中間に位置する。底部外面は平坦である。外面はミガキ後赤彩が施される。明瞭な龍目痕が確認される。南隅(第254図拡大図A地点)から胴部上半の約2/3(aとする、以下同じ)が、北隅(同拡大図B地点)から胴部上半の約1/3(b)が、東隅(同拡大図D地点)から胴部下半(d)が、南東側周溝の中央(同拡大図C地点)から底部(c)がそれぞれ出土した。破片のサイズと割れ、ヒビの状況から、意図的に打ち欠いた際の打撃点と考えられる箇所が数点確認される。1点目はaとbの間で、放射状の割れ・ヒビが確認される。2点目はaの中間地点の1つ目で、放射状の割れ・ヒビが確認され、小片が多数接合した部分である。3点目はaの中間地点の2つ目で、放射状の割れ・ヒビが確認される。4点目はcとdの間で、底部縁辺部の1箇所に、破損が激しい箇所が存在する。また、表出圧痕として、多量のアワ有ふ果圧痕が確認された(第V章第6節参照)。圧痕残存部位の内訳は、頸部断面から1点、胴部外面から2点、胴部内面から1点、胴部断面から1点、底部外面から6点、底部内面から1点である。他に、アズキ垂属種子の可能性のある圧痕が胴部内面から1点確認された。断面から2点の圧痕が確認されていることから、未確認の潜在圧痕が多数存在している可能性がある。2は、壺の底部である。底部外面は中央がやや窪む。1と同様に、底部外面からアワ有ふ果の表出圧痕が3点確認された。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期であると考えられる。

(守屋)

C 土坑(第261～263図、第30表)

土坑は、調査区南西部から中央部東寄りにかけて、計6基が検出された。遺構略号はSKである。検出面は、SK111を除いて、Ⅲ層上である。いずれも平面形態は隅丸長方形である。覆土は、同時期の竪穴建物跡のものに類似し、黄褐色スコリア多く含む黒色土や黒褐色土が主体であることから、帰属時期はいずれも弥生時代終末期～古墳時代前期とした。

SK163を除いては、基本土層Ⅳ層～Ⅴ層直上までの掘り込みを有するが、SK163はⅤ層を深く掘り込んでいる。

以下に概略を記す。

SK79 検出面では隅丸長方形を呈するが、底面は小判型で、北側が一段深くなっている。3層からなる覆土は、いずれも黄褐色や橙色のスコリアを多く含む黒色土が主体である。

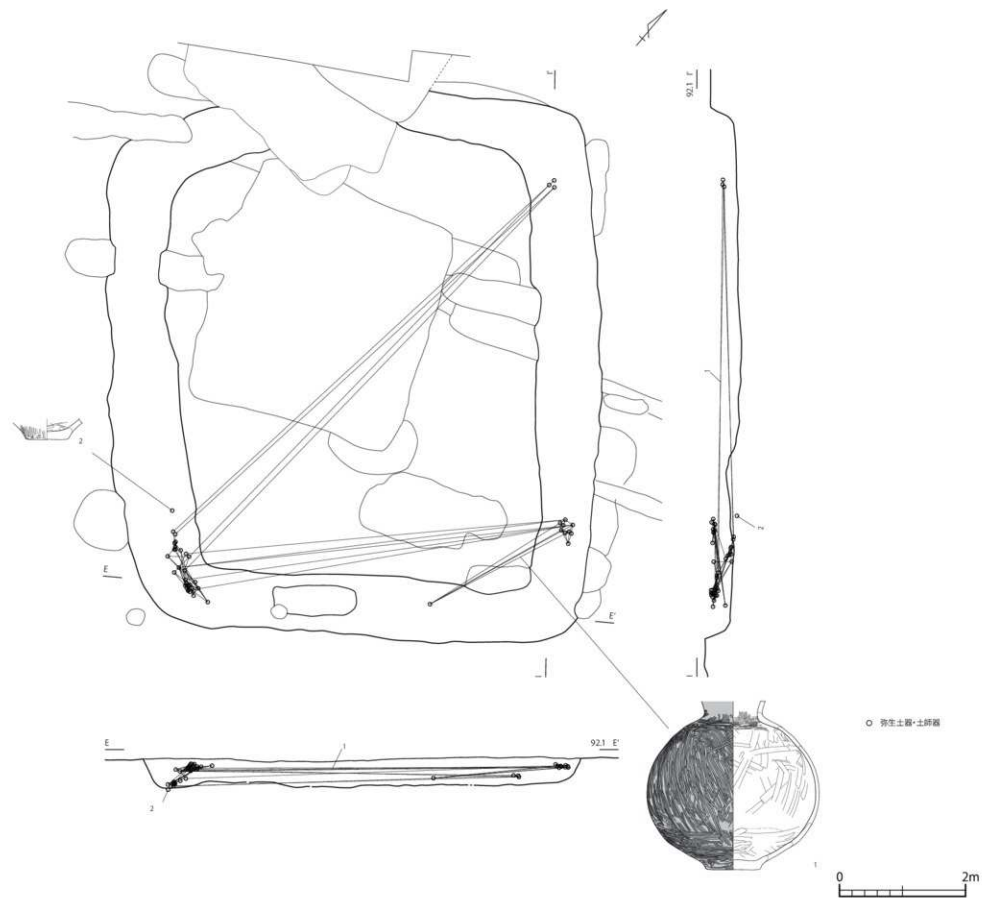
SK93 隅丸長方形を呈するが、底面は凹凸が多い。覆土は4層に分けられ、うち1～3層はⅡ3層に相当し、4層はⅣ層由来とみられる黄褐色土を斑状に含有する。SI37に近接する。

SK111 Ⅱ3層で検出され、SI34とSI37の中間付近に位置している。底面はわずかに凹凸を有している。覆土は3層からなり、3層は斑状の暗褐色土をやや多く含んでいる。SI31に近接する。

SK113 隅丸長方形の土坑で、同時代の建物跡SI31と接している。検出面からの深さは28cmとやや浅く、底面は平坦である。覆土は3層に分けられ、最下層の3層が強く硬化していた他、1層も部分的に強く硬化していた。

SK161 底面に比較的大きな凹凸を有する土坑。覆土は3層に分けられ、最下層の3層には暗褐色土を斑状に多く含んでいる。

SK163 検出面からの深さが、他の同時期の土坑と比べて深く、ローム層を深く掘り込んでいる。覆土は6層からなり、最下層の層は、ローム粒子やブロックを極めて多く含んでいる。遺物は、弥生



第 255 図 SZ2(3) 遺物接合図 (1/60)



1. SZ2 全景 (南南東から)



2. SZ2 南西溝全景 (南南東から)



3. SZ2 北東溝全景 (南南東から)



4. SZ2 南東溝全景 (東北東から)



5. SZ2 周溝西隅 (南南西から)

第 256 図 SZ2 写真 (1)



1. SZ2 周溝土層断面 A-A' 南西溝 (南南東から)



2. SZ2 周溝土層断面 A-A' 北東溝 (南南東から)



3. SZ2 周溝土層断面 B-B' 南西溝 (南南東から)



4. SZ2 周溝土層断面 B-B' 北東溝 (南南東から)



5. SZ2 周溝土層断面 C-C' 南西溝 (南南東から)



6. SZ2 周溝土層断面 C-C' 北東溝 (南南東から)



7. SZ2 周溝土層断面 D-D' 南東溝 (北東から)



8. SZ2 周溝土層断面 D-D' 北西溝 (北東から)



9. SZ2 周溝土層断面 E-E' (南南東から)

第 257 図 SZ2 写真 (2)



1. SZ2 遺物出土状況 (南南東から)



2. SZ2 遺物出土状況 南東隅 (南から)



3. SZ2 遺物出土状況 北東隅 (東北東から)

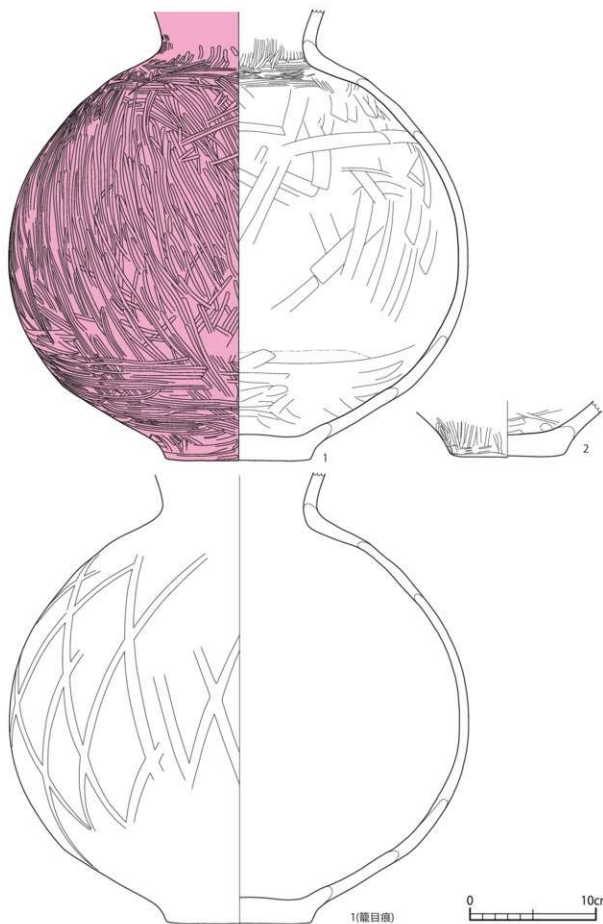


4. SZ2 遺物出土状況 南溝～南東隅 (南から)



5. SZ2 遺物出土状況 南東隅 (東北東から)

第 258 図 SZ2 写真 (3)



第259図 SZ2出土遺物(1/3)



第260図 SZ2出土遺物写真

第 29 表 SZ2 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	注	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色図	備考
第 259・260 図	1	覆土 中層	— —	大型の甕である。胴部と肩部の境界が強く屈曲する。最大径は胴部下平に位置する。底部外面は平出。	外面：頸部縦方向、肩部横方向、胴部上平縦方向、胴部下平底部付近横方向のミガキ。内面：頸部縦方向、肩部縦方向のミガキ。胴部上平縦方向のヘラナデ、下平横方向のヘラナデ。	中々礫 石灰 炭石 白色砂粒	良好	外面	10R4/6 赤	残存率 80%。甕、日皿あり。枝、葉、種子等が多数混入。アワ有る炭圧痕多数。アズキ歯痕種子？圧痕
	2	覆土 下層	— 8.8	底部片。底部外面は中央がやや窪む。	外面：胴部ナデ後縦方向のミガキ。内面：横方向のナデ。	中々礫 チャート 石灰 炭石 白色砂粒	良好		7.5YR4/6 褐	破片。アワ有る炭痕

土器の高坏片が 3 点出土し、全て接合した。元屋敷系高坏の坏部である。(相原・守屋)

D ビット (第 264・265 図、第 30 表)

ビット (遺構略号 SP) は調査区内の各所において 7 基が検出された。このうち、SP560 と 561 が中心間で 285cm と近接し、SP516 と 517 が中心間 702cm と比較的近接している。検出面は SP516・517 がⅡ層、それ以外がⅢ層上である。

覆土は、主に黄褐色スコリアを含む黒色土が主体である。土坑と同じく、覆土の様相から帰属時期はいずれも弥生時代終末期～古墳時代前期とした。

以下に概略を記す。

SP418 調査区南西部で検出された。卵形を呈し、掘り込みは浅い。覆土は黄褐色スコリアを含むⅡ 3 層を主体とする。

SP503 調査区中央部付近、SI34 の南西約 100cm に位置し、浅い楕円形を呈する。

SP516 調査区東寄りに位置する浅い円形のビットである。

SP517 調査区東寄りに位置する浅い隅丸長方形のビット。底面は、東側がビット状に 1 段深くなっている。礫 (頁岩) が 1 点出土した。

SP551 調査区中央部北寄りに位置し、楕円形を呈する。検出面からの深さは 56cm を測る。覆土は 5 層に分けられ、そのうち 5 層は締まりが強く、柱掘り方の覆土と考えられる。

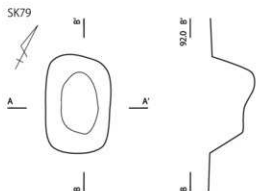
SP560・561 調査区東部に位置し、いずれも平面形態は円形を呈する。中心間の距離が 285cm と近接しており、覆土の様相も近似していることから、何らかの関連性が想定される。SP560 からは弥生土器の甕胴部小片が出土している (相原)

2) 遺構外出土遺物 (第 266～268 図、第 31 表)

A 弥生時代前期の土器 (第 266・268 図、第 31 表)

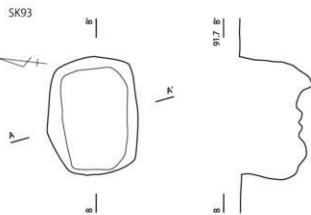
出土状況 30P-27 グリッドを中心に、包含層 (SDK・SKK を含む) から弥生時代前期の土器片が 17 点出土した。また、弥生時代終末期の竪穴建物跡 SI34 から 1 点、古墳前期の竪穴建物跡 SI47 から 2 点出土しているため、今回の調査では合計 20 点の破片が出土した。このうち特徴的な破片 4 点を図示した。

土器 第 266・268 図 1～4 は、甕である。1 は、甕の口縁部である。波状口縁部であると考えられ、口縁部は有段である。口縁部外面は横方向のミガキが施され、胴部外面には茎束状の細い原体による斜め方向の条痕文が残る。30P-28 グリッドから出土した。2 と 3 は、甕の胴部で、外面は貝殻



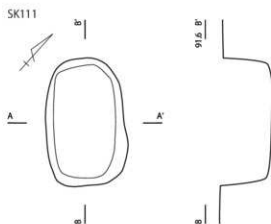
SK79

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色・褐色スコリア 10%、黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 30%が横状に散じる。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い、B3 層相当。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 20%、黒色スコリア 20%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 20%が横状に散じる。締まり強、粘性有り、粒子やや粗い、B3 層相当。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15%、黒色スコリア 15%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 15%が横状に散じる。締まり強、粘性有り、粒子やや粗い、B3 層相当。



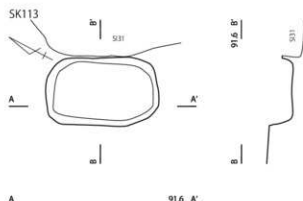
SK93

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8) 15%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 7%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 7%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい、B3 層相当。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%、直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 7%、直径 1mm 程度の黒色スコリア 7%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい、B3 層相当。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 3%、直径 1～5mm 程度の赤褐色スコリア 2%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい、B3 層相当。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 5%、暗褐色土 (10YR3/4) 7%、黄褐色土 (10YR5/8) 2%が横状に散じる。締まり有るが部分的に弱、粘性有り、粒子細かい。



SK111

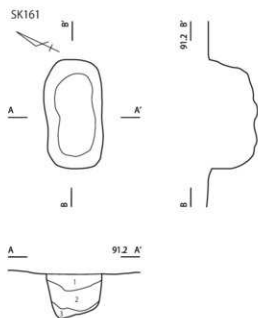
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 10%・褐色スコリア 10%を含む。締まりやや強、粘性やや弱、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 10%・褐色スコリア 5%、直径 5mm 以下のローム粒子 1%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 10%が横状に散じる。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。



SK113

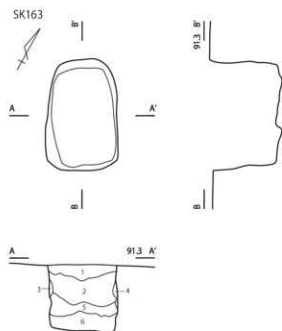
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 15%、直径 4mm 以下の褐色スコリア 10%、直径 1mm 以下の浅黄褐色粒子 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/3) 3%が横状に散じる。締まりやや強 (部分的に強く硬化する)、粘性やや強、粒子細かい。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 程度の黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の褐色スコリア 2%を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 15%が横状に散じる。締まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア・褐色スコリア各 3%を含む。暗褐色土 3%が横状に散じる。締まり極めて強、粘性やや強、粒子細かい。





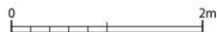
SK161

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色・黒色スコリア各 2%・にぶい黄褐色粒子 10% を含む。粘まり強、粘性やや強、粒子細かい。B3 層初分。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 5%・褐色スコリア 3%・黒色スコリア 2%・にぶい黄褐色粒子 7% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 3%。暗褐色土 (10YR3/4) 2% が塊状に散じる。粘まり強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 2%・にぶい黄褐色粒子 3% を含む。暗褐色土・黒色土 (10YR2/1) 各 9% が塊状に散じる。粘まりやや強、粘性強、粒子細かい。



SK163

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 7%・褐色スコリア 3%・直径 5mm 以下の黒色スコリア 2%・直径 1mm 程の浅黄褐色粒子 20% を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 2%・褐色土 (10YR4/6) 5% が塊状に散じる。粘まり強、粘性有り、粒子細かい。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア 2%・褐色スコリア 1%・直径 1mm 程の浅黄褐色粒子 10% を含む。黒褐色土 30%。暗褐色土 (10YR3/4) 2% が塊状に散じる。粘まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア 1% を含む。暗褐色・褐色土各 9% が塊状に散じる。粘まりやや強、粘性やや強、粒子細かい。
4. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 1% を含む。黒褐色土 5%・褐色土 3% が塊状に散じる。粘まりやや強、粘性強、粒子細かい。
5. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア各 3%・直径 5mm 以下のローム粒子 5%・直径 1mm 程の浅黄褐色・褐色スコリア 10% を含む。暗褐色土 10% が塊状に散じる。粘まり強、粘性強、粒子細かい。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 3%・ローム粒子 30%・直径 10～30mm のロームブロック 7% を含む。黒色土 (10YR2/1) 20%。暗褐色・褐色土各 10% が塊状に散じる。粘まりやや強、粘性強、粒子細かい。



第 262 図 SK161・163(1/40)



1. SK79 全景 (南南東から)



2. SK93 全景 (南から)



3. SK111 全景 (南南東から)



4. SK113 全景 (南南東から)



5. SK161 土層断面 (西南西から)



6. SK161 全景 (西南西から)



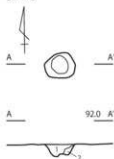
7. SK163 土層断面 (南南東から)



8. SK163 全景 (南南東から)

第 263 図 SK79・93・111・113・161・163 写真

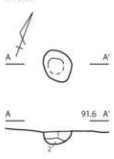
SP418



SP418

1. 10YR1 7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15%、黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 30%が噴状に凝結する。締まりやや強、粘性有り、粒子細かい。B3 層相当。
2. 10YR1 7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 15%、黒色スコリア 10%を含む。黒褐色土 30%が噴状に凝結する。締まり強、粘性有り、粒子細かい。B3 層相当。

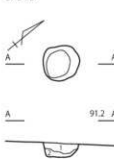
SP503



SP503

1. 10YR1 7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%、褐色スコリア 5%を含む。締まり・粘性有り、粒子粗い。B3 層相当。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 2%、褐色スコリア 1%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 7%が噴状に凝結する。締まりやや強、粘性やや強、粒子粗い。

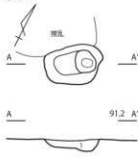
SP516



SP516

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 7%、褐色スコリア 5%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 3%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 30%が噴状に凝結する。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。

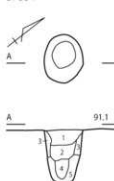
SP517



SP517

1. 10YR1 7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色・褐色スコリア 5%、直径 2~5mm の黒色スコリア 5%を含む。黒褐色土 (10YR2/2) 30%が噴状に凝結する。締まり・粘性有り、粒子やや粗い。

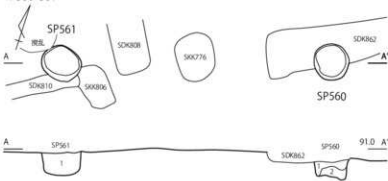
SP551



SP551

1. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土ベース、直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の暗褐色土 (10YR2/3) 5%がブロック状に凝結する。締まり極めて強、粘性強、粒子細かい。人為的堆積。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土ベース、直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の暗褐色土 (10YR2/3) 1%未満、直径 3mm 以下のローム粒子 1%未満を含む。黒褐色土 3%がブロック状に凝結する。締まり極めて強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
3. 10YR2/3 暗褐色土層 黒褐色土ベース、直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の暗褐色土 (10YR2/3) 1%未満を含む。黒褐色土 3%がブロック状に凝結する。締まり極めて強、粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土ベース、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の暗褐色土 (10YR3/4) 5%が塊状に凝結する。黒褐色土 (10YR4/6) 3%、いずれも下部に集中して凝結する。締まり極めて強、粘性やや強、粒子粗い。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土ベース、直径 3mm 以下の暗褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 1%、直径 30mm のロームブロック 3%を含む。暗褐色土 (10YR3/3) 20%が噴状に凝結する。黒褐色土 5%が全体に凝結する。締まり強、粘性有り、粒子細かい。

SP560・561

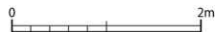


SP561

1. 10YR1 7/1 黒色土層 黒褐色土ベース、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、黒色スコリア 2%、直径 10mm 程度のロームブロック状になっている黒褐色土 (10YR2/2) 7%を含む。締まり・粘性やや強、粒子やや粗い。

SP560

1. 10YR1 7/1 黒色土層 黒褐色土ベース、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 3%、黒色スコリア 1%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR5/6) 2%を含む。締まりにやや欠き、粘性はやや強、粒子はやや粗い。
2. 10YR1 7/1 黒色土層 黒褐色土ベース、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア 5%、黒色スコリア 1%、直径 7mm 程度のロームブロック状になっている黒褐色土 (10YR2/2) 10%を含む。締まり強 (硬質)、粘性やや強、粒子やや粗い。





1. SP418 土層断面 (南から)



2. SP503 土層断面 (南南東から)



3. SP516 土層断面 (南東から)



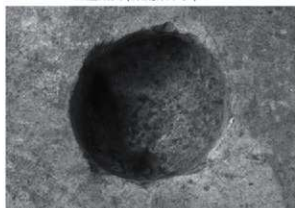
4. SP517 土層断面 (南南東から)



5. SP551 土層断面 (東南東から)



6. SP551 全景 (東南東から)



7. SP560 全景 (東北東から)



8. SP561 土層断面 (南南東から)

第 265 図 SP418・503・516・517・551・560・561 写真

第30表 弥生時代土坑・ピット一覧表

遺構名	グリッド	埋蔵番号		形状	サイズ (cm)			横断面	遺物	備考(重複関係等)
		図面	写真		長さ	短径	深さ			
SK70	30P-65	第261図	第263図	隅丸長方形	D	104	68	47	Ⅲ	縄文土器1 罐1、石器1
SK93	31O-68	第261図	第263図	隅丸長方形	C	124	95	76	Ⅲ	罐2
SK111	31O-60	第261図	第263図	隅丸長方形	C	134	85	55	Ⅲ3	縄文土器1 SE31に近接。
SK113	31O-60	第261図	第263図	隅丸長方形	C	119	72	28	Ⅲ	弥生土器/土 師器1, 罐2 SE31に近接。
SK161	33N-74	第262図	第263図	隅丸長方形	A	114	61	50	Ⅲ	無し
SK163	32O-18・28	第262図	第263図	隅丸長方形	C	116	75	76	Ⅲ	弥生土器/土 師器3
SP418	30P-20	第264図	第265図	楕円形	D	33	27	13	Ⅲ	無し
SP503	31O-77・78	第264図	第265図	楕円形	A	36	28	14	Ⅲ	無し
SP516	33N-48	第264図	第265図	円形	C	40	38	16	Ⅲ	無し
SP517	33N-50	第264図	第265図	隅丸長方形	D	62	42	13	Ⅲ	罐1
SP551	32N-94	第264図	第265図	楕円形	A	51	41	56	Ⅲ	無し
SP560	34N-15	第264図	第265図	円形	D	38	37	22	Ⅲ	弥生土器/土 師器1 SDK862に切られる。
SP561	34N-15・25	第264図	第265図	円形	C	40	35	26	Ⅲ	無し SDK810、SK8806、罐瓦に切られる。

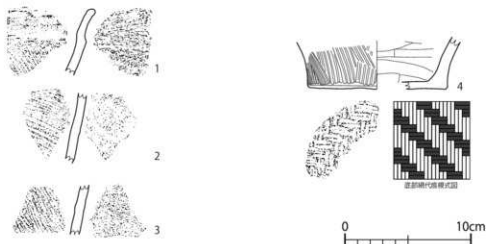
条痕文が施される。ともに 30P-27 グリッドから出土した。2 と 3 は、同一個体の可能性がある。4 は、甕の胴部から底部である。胴部はやや外反しながら立ち上がる。胴部外面は貝殻条痕文が施される。底部外面には網代痕が残り、網代は 2 本 1 単位の 2 本飛び網代である。30P-17 グリッドから出土した。

B 弥生時代終末期～古墳時代前期の土器 (第 267・268 図、第 31 表)

出土遺物 包含層から、弥生時代終末期～古墳時代前期の遺物は、土器片 1,014 点が出土した。また、近世以降の遺構である SDK から土器片 440 点、土製品 1 点、SDK から土器片 510 点が出土した。

遺物出土状況 SI 出土遺物と接合した破片が複数存在する。特に SI を切る SK や SDK、SKK 出土土器片がその SI 出土土器片と接合する事例が多い。

土器 第 267・268 図 1～11 は、壺である。1 は複合口縁で、口唇部が平坦である。口縁部はやや内湾し、頸部は外反する。口縁部外面は横方向のハケ調整後にナデが施される。一部に無節 R の撫糸文がやや右上がりに施文される。頸部外面と口縁部から頸部内面はミガキ後赤彩が施される。焼成は良好で、胎土が緻密である。31O-45 グリッドから出土した。2 は複合口縁で、口唇部は平坦で単節 LR の縄文が施文される。口縁部は内湾し、頸部は外反する。口縁部外面は羽状縄文が施文され、上段は単節 RL で下端が S 字状端末結節文、下段は単節 RL である。31O-58 グリッドから出土した。3 は、複合口縁で、口唇部はハケ状工具で平坦に面取りされる。口縁部は大きく外反する。口縁部外面は横方向のハケメが残り、内面はミガキ後赤彩が施される。SI50 に隣接する 33N-56 グリッドから出土した。4 は、頸部である。頸部は大きく外反し、肩部との境界は強く屈曲する。外面はミガキ後赤彩が施される。30O-88・89 グリッドから出土した。5 は、胴部下半で、明瞭な稜を有する。外面は粗いハケ状工具による幅広のハケ調整、斜め方向のミガキが施される。色調は赤褐色を呈する。胎土は在地のものとは異なり、白色小角礫を多く含む。搬入品であると考えられる。SI52 を切る土坑 SK181 から出土した。SI47 で出土した壺頸部 (第 201・203 図 2) と同一個体の可能性がある。6 は、胴部下半から底部で、やや内湾しながら立ち上がる。底部外面は平坦である。33N-86 グリッドから出土した。7 は、胴部下半から底部である。底部側面に稜が無く、胴部下半はやや内湾しながら立ち上がる。底部外面は緩やかに窪む。外面は粗いハケ状工具による縦方向の幅広のハケ調整後、横方向



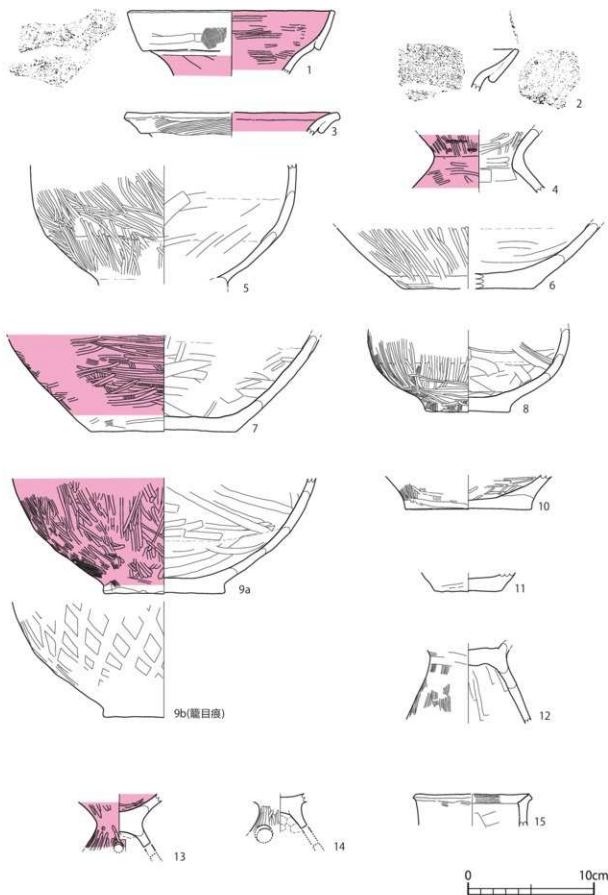
第266図 遺構外出土遺物(弥生時代前期)(1/3)

のミガキ後赤彩が施される。SKK347 及び SI39 を切る SKK382 から出土した。SKK382 の遺構範囲はすべて SI39 の範囲の内側であることから、7 は本来は SI39 に伴う可能性がある。8 は、本来は胴部下半から底部である。胴部下半に稜を有する。底部は円盤状で、外面は平坦である。SI39 を切る SKK382 から出土した。SKK382 は SI39 の範囲の内側であることから、8 は SI39 に伴う可能性がある。9 は、胴部下半から底部で、内湾しながら立ち上がる。底部は円盤状で、外面は平坦である。胴部外面は縦方向のミガキ後赤彩が施される。胴部外面に籠目痕が残る。320-36 グリッドの SI38 に隣接する地点で、破片が集中的に出土した。同一地点から、同一個体と思われる破片が数点出土しており、このうち1点の肩部片には、単節LRで下端がZ字状端末結節文の縄文が施文される。10は底部である。底部は円盤状で、外面は平坦である。320-19・29 グリッドの SDK639 から出土した。11 は底部で、外面は緩やかに窪む。33N-83 グリッドの SKK634 から出土した。

12 は、台付甕の脚部である。脚部はやや内湾する。底部内面の脚部接合部はナデにより平坦である。SI48 を切る SKK602 から出土した。SKK602 は SI48 の範囲の内側であることから、12 は SI48 に伴う可能性がある。

13 は高環で、脚部は外反する。脚部に4箇所の穿孔を有する。ミガキ後、環部内外面と脚部外面に赤彩が施される。310-79 グリッドの SKK341 から出土した。14 は、高環の脚部で、やや外反する。脚部に3箇所の穿孔を有する。310-97 グリッドの SKK227 から出土した。

15 は、鉢の口縁部である。口唇部は平坦。口縁部は直線的に開き、内面の体部との境は「く」の字状に強く屈曲する。320-4 グリッドから出土した。(守屋)

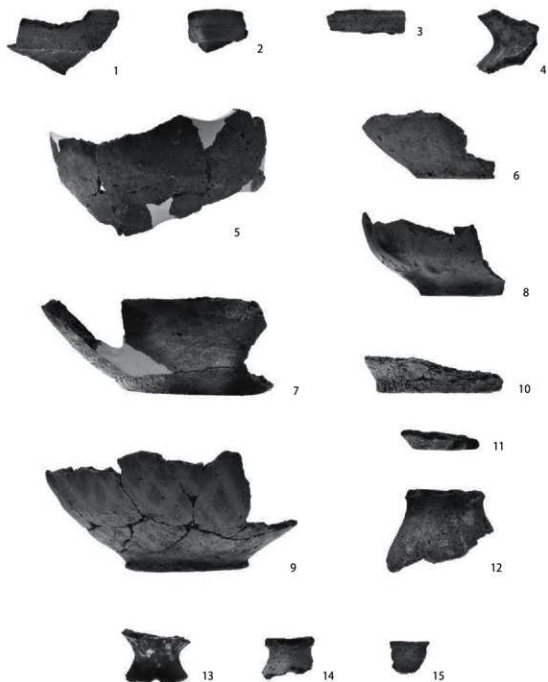


第267図 遺構外出土遺物(弥生時代終末期)(1/3)

弥生時代前期



弥生時代終末期～古墳時代前期



第268図 遺構外出土遺物写真

第31表 遺構外出土土器観察表(1)

図	番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色彩	色調	備考
第266・268図	1	包含層 (30P-28) II層	甕	— — —	波状口縁。口縁部は有段。 —	外面：口縁部横方向のミガキ。胴部中央部の縦い帯状体による斜め方向の条痕文。内面：ナデまたはミガキ。	小礫 石英 角閃石 白色砂粒	良好		10YR4/2 灰黄期	破片
	2	包含層 (30P-27) II層	甕	— — —	胴部片 —	外面：貝殻痕文。内面：ナデ。	小礫 石英	良好		7.5YR4/4 期	破片
	3	包含層 (30P-27) II層	甕	— — —	胴部片 —	外面：貝殻痕文。内面：ナデ。	小礫 白色砂粒	良好		7.5YR5/4 にぶい期	破片
	4	包含層 (30P-17) II層	甕	— — — (10.8)	胴部はやや外反しなから立ち上がる。底部外面に胴部面(2本越え3本越り1本送り、2本1組)が残る。	外面：胴部縦方向の貝殻痕文。内面：横方向のナデ。	小礫 炭石 角閃石 石英	良好		10YR6/4 にぶい黄褐色	残存率25%以下、胴部面(2本1単位)の2本残片(胴部)
第267・268図	1	包含層 (31O-43) II層	甕	(15.9) — —	複合口縁で、やや内湾する。口縁部は平坦。頸部は外反。	外面：口縁部横方向のハケ調整後ナデ。一部に無蓋までやや右がりの隠れた、頸部ナデ。内面：口縁部から頸部ナデ後横方向のミガキ。	小礫 白色砂粒	緻密	頸部外面 内面	5YR5/4 にぶい赤褐色 (赤系) 2.5YR5/4 期	残存率25%以下
	2	包含層 (31O-58) II層	甕	— — —	複合口縁で、口唇部は平坦。口縁部は内湾し、頸部は外反。	外面：口唇部平坦1段。口縁部羽状横文(上段平坦部1段、下段平坦部1段)。内面：口唇部から頸部ナデ。	小礫 石英 石英 白色砂粒	良好		10YR5/2 灰黄期	破片
	3	包含層 (33N-56) II層	甕	(10.6) — —	複合口縁で、大きく外反する。口唇部は平坦。	外面：口唇部と口縁部横方向のハケ調整。内面：口縁部横方向のハケ調整後横方向のミガキ。	中礫 炭石 石英 角閃石	良好	内面	10YR7/4 にぶい黄褐色	残存率25%以下
	4	包含層 (33O-88-89) II層	甕	— — —	頸部は大きく外反し、肩部との境界は強く曲がる。	外面：頸部縦方向のハケ調整後横方向のミガキ。肩部ナデ後横方向のミガキ。内面：頸部ナデ後横方向のミガキ。肩部ナデ。	灰白色小礫 赤褐色小礫	良好	外面	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	残存率25%以下
	5	SK181 (34N-3・13) 覆土	甕	— — —	胴部下半に輪線を有する。	外面：胴部縦方向のハケ調整後斜め方向のミガキ。内面：胴部縦方向のヘラナデ。	白色小礫 炭石 石英	緻密		5YR3/6 暗赤期	残存率25%以下、細いハケ状工具による縦筋のハケメ(菊川系の模倣か?、購入品か)。第201・203図2と類似
	6	包含層 (33N-86) 一括	甕	— — — 10.4	胴部下半はやや内湾しなから立ち上がる。底部外面は平坦。	外面：胴部ナデ後横方向のミガキ。下腹縦方向のハケ調整後ナデ。内面：胴部縦方向のヘラナデ。	小礫 チャート 炭石 石英	良好		10YR7/4 にぶい黄褐色	残存率25%以下
	7	SKK382 (32O-25) 覆土	甕	— — — 11.4	底部側面に輪は無く、胴部下半はやや内湾しなから立ち上がる。底部外面は緩やかに窪む。	外面：胴部縦方向の輪筋のハケ調整後横方向のミガキ。内面：胴部縦方向のヘラナデ。	小礫 石英	良好	外面	(赤系) 2.5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR7/6 期	残存率25%以下、細いハケ状工具による縦筋のハケメ
	8	SKK382 (32O-25) 覆土	甕	— — — 6.4	胴部下半に輪を有する。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：胴部縦または横方向のハケ調整後横方向のミガキ。底部付近横方向のミガキ。内面：胴部縦方向のヘラナデまたはハケ調整。	小礫 石英 石英 白色砂粒	良好		10YR6/4 にぶい黄褐色	残存率25%以下、アツ有る変色面
	9	包含層 (32O-36) II層	甕	— — — 9.4	胴部下半は内湾しなから立ち上がる。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：胴部ハケ調整後ミガキ。内面：胴部縦方向のヘラナデ。	赤褐色小礫 石英 角閃石	良好	外面	5YR5/3 にぶい赤褐色	残存率25%以下、胴部面が明確に残る。イネ粉説・アツ有る変色面
	10	SKK639 (32O-19・29) 覆土	甕	— — — (2.7) 10.0	底部片。底部は円盤状で、外面は平坦。	外面：底部側面縦方向のハケ調整後横方向のナデ。内面：底部ナデ後横方向のナデ。	中礫 炭石 石英 角閃石	良好		10YR7/4 にぶい黄褐色	残存率25%以下
	11	SKK634 (33N-83) 覆土	甕	— — — (1.5) 5.4	底部片。底部外面は緩やかに窪む。	外面：ナデ。内面：底部ナデ。	小礫	良好		10YR6/4 にぶい黄褐色	残存率25%以下、小型の壺か

第31表 遺構外出土土器観察表(2)

図番号	層位	器種	法量	器形の特徴		製作技法の特徴	胎土	焼成	色彩	色調	備考
第267・268図	12	SKK602 (33N-91 +330-1) 甕土	台付甕 — (B.3)	胴部はやや内湾する。底部内面の胴部接合部は平肌。		外面：胴部縦方向のハケ調整後ナデ内面：底部ナデ。胴部ヘラナデ。	小礫 チャート	良好		10YR6/4 にふい黄褐色	残存率25%以下。 アワ有ふ果圧痕
	13	SKK341 (310-79) 甕土	高杯 — (B.3)	胴部に4箇所の穿孔。		外面：ナデ後縦方向のミガキ。内面：坯部ナデまたはミガキ。胴部コビナデ。	小礫 石英 長石	良好	外面 坯部内面	10R4/3 赤褐色	残存率25～50%
	14	SKK227 (310-97) 甕土	高杯 — (B.3)	胴部に3箇所の穿孔。		外面：胴部縦方向(下から上)のミガキ。内面：底部ミガキ。胴部ナデ。	小礫 長石 石英 角閃石	良好		10YR7/4 にふい黄褐色	残存率25%以下
	15	包含層 (320-4) II層	鉢 — (B.8)	口縁部は平坦。口縁部は直線的に開き、内面の体部との境はくの字状に強く屈曲。胴部上平は外側に膨らむ。		外面：胴部ハケ調整後ナデ。内面：口縁部横方向のハケ調整。胴部ハケ調整後ナデ。	小礫 石英	良好		10YR6/4 にふい黄褐色	残存率25%以下。 アワ有ふ果圧痕

第32表 弥生時代出土土製品観察表

図番号	遺構名	層位	種別	石材	法量 (cm/g)				備考
					長さ	幅	厚さ	重量	
第82・83図	S24	床面	台石	安山岩	6.8	11.1	—	1,032.0	磨減面あり
第95・96図	S13	甕土下層	石片	砂岩	11.7	8.4	5.6	812.0	磨減面あり
第107・109図	S13	床面	有孔石製品	粘板岩	5.6	3.8	1.0	31.0	穿孔あり。石製垂飾か
第107・109図	S13	床面	磨石	花崗岩	5.8	4.6	2.5	137.0	磨減面あり
第107・109図	S13	床面	台石	砂岩	42.8	22.4	11.5	14,025.0	磨減面あり
第134・137図	S138	甕土下層	石片	砂岩	10.9	10.4	5.1	768.0	磨減面あり
第134・137図	S138	床面	台石	砂岩	22.5	23.9	15.6	14,400.0	磨減面あり
第147・148図	S139	床面	磨石	ホルンフェルス	17.4	6.0	6.0	908.0	磨減面あり
第161・164図	S141	甕土中層	磨石	アブライト	5.2	4.8	4.8	218.0	磨減面あり
第161・164図	S141	甕土下層	磨石	鏡子砂岩	10.2	6.5	2.15	211.0	磨減面あり
第161・164図	S141	床面	台石	砂岩	32.0	18.7	10.8	7,205.0	磨減面あり
第181・182図	S144	床面	台石	砂岩	21.5	31.2	11.6	12,242.0	磨減面あり
第202・204図	S147	床面	磨石	鏡子砂岩	13.5	7.35	2.3	313.0	磨減面あり
第249・251図	S156	床面	砥石	シルト岩	3.3	2.4	0.6	6.0	磨減面あり
第249・251図	S156	床面	石片	砂岩	11.8	9.1	5.7	848.0	磨減面あり

4 古墳時代中～後期

古墳時代中～後期の遺構は、古墳（円墳）1基と土坑2基である。

遺物は、遺構の覆土等から土師器や石製品が出土している。

1) 遺構と遺構出土遺物

A 古墳

古墳（遺構略号はSZ）はSZ3の1基が検出された。

SZ3（第269～274図、第33表）

調査区北西端の34M・85・86、94・95・96、34N・3・4・5グリッドで検出された円墳である。墳丘は確認されず、周溝部分のみ残存していた。調査区外となる北側の大部分は、日野市教育委員会により発掘調査が行われている。調査範囲内においては、ライフライン等の攪乱により幅400cmにわたって破壊され、周溝が東西に分断されたような状態であった。

周溝西側部分では、外側にL字状土壌のSK183・184が確認されている他、覆土上面でSP578が検出されている。

遺構 周溝はⅢ1層を検出面としており、周溝の幅は上端で250cm程度と想定されるが、調査時に検出面の一部を掘り下げてしまったため、詳細は不明である。下端の幅は75～90cmである。検出面からの深さは168cmを測る。

周溝の断面形態は逆台形と推定される。周溝底面は凹凸が顕著で、それぞれの凹凸が掘削時の何らかの範囲を示しているものと思われる。調査範囲内においては、陸橋部は確認されていない。

覆土は、中央の攪乱を境に西側と東側それぞれで観察を行ったところ、西側にL字状土壌があることを除いては、両側共に、凡そ同じ傾向が見られた。最下層にはロームをを主体とする層（西側32・37～40・42層、東側60・68層等）が確認された。覆土中層には、墳丘側から流れ込んでいるとみられる層（西側4・6・17・18・20層、東側54・57層等）があり、これは墳丘の崩土が流れ込んだものとみられる。

明確な墳丘は確認されなかったが、土層断面A-A'を観察すると、攪乱で大きく破壊されているが、墳丘は、周溝外よりも掘り窪められた後、Ⅲ3層上に構築されたものとみられる。なお、33層や70層が層位的に墳丘の可能性が考えられる層である。（相原）

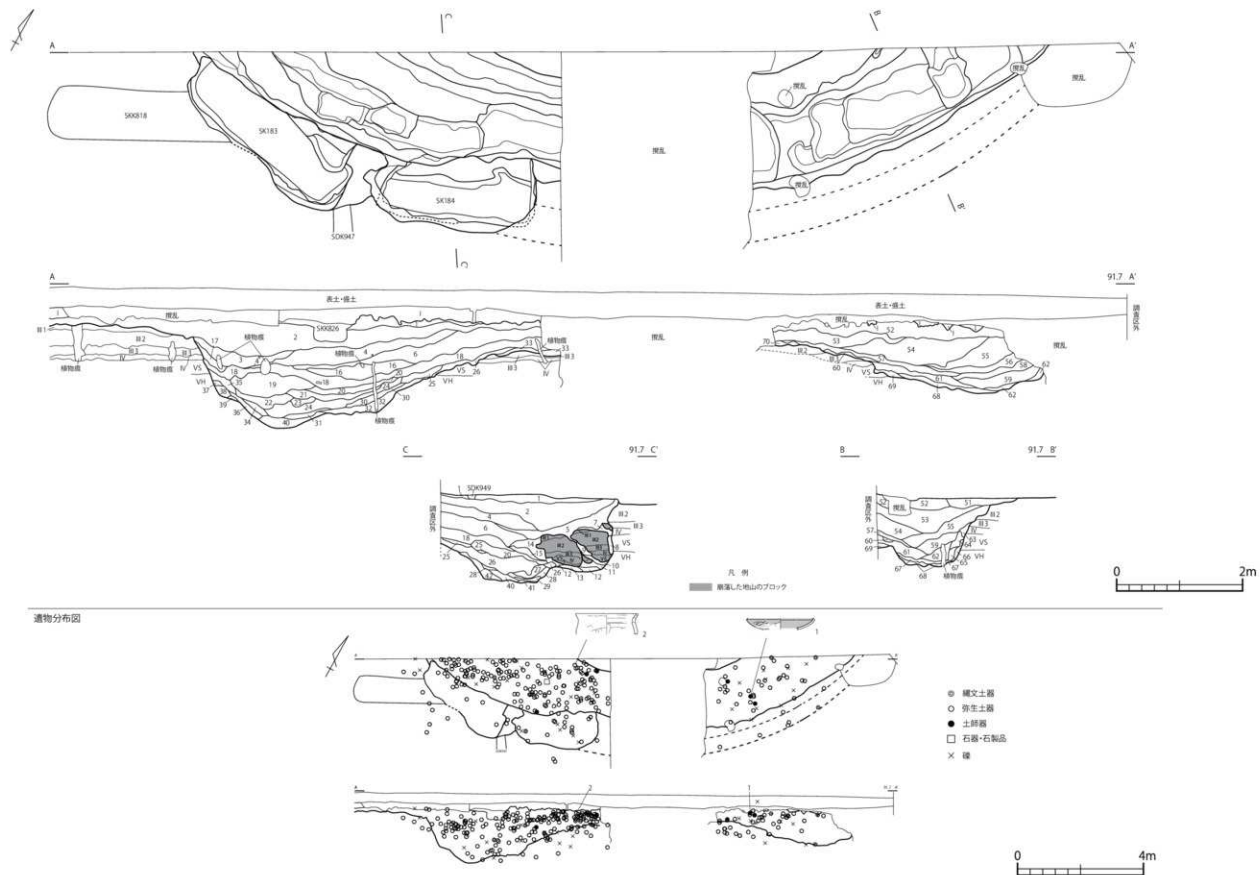
出土遺物 周溝から、縄文土器片5点と弥生土器片206点、古墳時代中期～後期の土師器22点、古代の土師器2点、須恵器1点、石器1点、石製品1点、礫28点、動物骨1点が出土した。

遺物出土状況 古墳時代中期から後期の土師器片は、古墳周溝の上層から出土したものが大半であり、古墳の時期に伴うものであるかは不明である。このうち、周溝覆土の上層から出土した土師器2点を図示した。

土器 第273・274図1は、甕の口縁部から胴部である。単口縁で、口唇部は丸みを帯びる。口縁部は外反し、頸部は緩やかに屈曲する。輪積み痕をよく残す。口縁部外面と内面はヨコナデで、胴部外面はケズリ、胴部内面はヘラナデである。2は、比企型環の坏部である。口縁部は有段で、頸部は屈曲する。坏部は内湾する。体部外面はケズリで、内面はナデである。外面と内面が赤彩される。

遺物の時期は、古墳時代中期である。

（守屋）



523

西側遺構断面

1. 7.5V1R/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 10%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 7%を含む。B2層相当上、細まり有り、粘性、粘つくわず、粘り強い。
2. 10.1V2R/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 15%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%、ローム粒子 3%を含む。細まり有り、粘性、粘つくわず、粘り強い。
3. 7.5V1R/2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 7%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア (2.5V1R/1)5%を含む。細まり・粘り強い、粘り強い、自然乾燥。
4. 7.5V1R/3/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 15%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%、ローム粒子 7%を含む。細まり有り、粘性、粘つくわず、粘り強い。
5. 10.1V2R/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 10%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%、直径 40mm 以下の黒土ブロック 5%を含む。細まり有り、粘性、粘つくわず、粘り強い。
6. 7.5V1R/1/5 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 15%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 10%を含む。細まり有り、粘性、粘つくわず、粘り強い。
7. 7.5V1R/2/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 3%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
8. 10.1V3R/4 赤い黄褐色土層 黒土に多量のロームが混在。ローム粒子 40%、直径 10mm 以下のロームブロック 7%、直径 15mm 以下の黒土ブロック 2%を含む。細まりなし、粘性有り、粘り強い。SK184の天井部腐蝕に伴い、割れが入り土が落ちた。
9. 7.5V1R/7/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 1mm 以下の赤い黄褐色スコリア 2%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
10. 10.1V4R/2 灰黄褐色土層 黒土をベースとし、直径 5mm 以下のロームブロック 10%、直径 20mm 以下のロームブロック 5%を含む。細まり有り、粘性強い、粘り強い。
11. 10.1V4R/3/1 赤い黄褐色土層 黒土をベースとし、直径 40mm 以下の黒土ブロック 7%を含む。細まり有り、粘性強い、粘り強い。
12. 10.1V1R/7/1 黒色土層 黒土をベース、ローム粒子 3%を含む。細まり有り、粘性強い、粘り強い。
13. 10.1V3R/3/2 灰黄褐色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 20%、直径 10mm 以下のロームブロック 5%を含む。細まり有り、粘性強い、粘り強い。
14. SK184の天井腐蝕に伴い、土が落ちた。
15. 10.1V2R/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 2%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
15. 10.1V1R/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 7%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
16. 7.5V1R/4/2 黒色土層 直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (2.5V1R/3)3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 15%、直径 10mm 以下のロームブロック 1%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
17. 5.1V2R/2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の赤い黄褐色スコリア 3%、直径 4mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%、ローム粒子 3%を含む。細まりは3層より弱、粘り強い、粘り強い。
18. 7.5V1R/3/2/5 灰褐色土層 直径 4mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 25%、直径 5mm 以下のロームブロック 10%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
19. 7.5V1R/7/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 1%未満を含む。細まり・粘性有り、粘り強い。
20. 10.1V3R/4/2 赤い黄褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 40%、直径 15mm 以下のロームブロック 5%、直径 10mm 以下の黒土ブロック 3%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
21. 7.5V1R/2/5/1 灰褐色土層 黒土をベースとし、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 10%、直径 7mm 以下のロームブロック 2%を含む。細まり有り、粘性強い、粘り強い。
22. 7.5V1R/2/5/1 灰褐色土層 黒土をベースとし、ローム粒子 25%、直径 50mm 以下のロームブロック 7%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。人為的埋設の可能性有り。
23. 7.5V1R/2/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 3%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
24. 10.1V2R/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 10%、直径 20mm 以下のロームブロック 1%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
25. 10.1V3R/1/5 灰褐色土層 直径 7mm 以下の赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 20%、直径 20mm 以下のロームブロック 5%、直径 15mm 以下の黒土ブロック 5%を含む。細まり・粘性強い、粘り強い。
26. 10.1V3R/5 黒褐色土層 ローム粒子・直径 100mm 以下のロームブロックからはばるる (VS層上端でVH層を含む)。細まり有り、粘性有り、粘り強い。SK184腐蝕に伴い、古墳土が大きく剥離して落ちた。
27. 10.1V3R/1/5 灰褐色土層 直径 4mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 5%を含む。細まり・粘性有り、粘り強い。
28. 10.1V4R/2 灰黄褐色土層 ローム粒子 30%、直径 10mm 以下のロームブロック 3%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
29. 10.1V2R/1 黒色土層 ローム粒子 3%を含む。細まりなし、粘性、粘り強い。
30. 7.5V1R/2/5/1 灰褐色土層 22層を埋設する。黒土をベースとし、ローム粒子 20%、直径 30mm 以下のロームブロック 3%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
31. 10.1V3R/1/5 灰褐色土層 ローム粒子 30%、直径 30mm 以下のロームブロック 1%、直径 30mm 以下の黒土ブロック 1%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
32. 10.1V4R/6 黒色土層 ローム粒子 90mm 以下のロームブロック 40%を含む。細まり有り、粘性有り、粘り強い。
33. 7.5V1R/1/5 灰褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
34. 10.1V3R/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 30%、直径 5mm 以下のロームブロック 1%を含む。細まりなし、粘性、粘り強い。
35. 10.1V3R/2 黒褐色土層 黒土をベースとし、ローム粒子 10%、直径 10mm 以下のロームブロック 2%、直径 20mm 以下のロームブロック 5%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
36. 10.1V3R/2/5 黒褐色土層 黒土をベースとし、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 25%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
37. 10.1V3R/5 黒褐色土層 はローム粒子からなり、直径 10mm 以下のロームブロック 3%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
38. 10.1V4R/3 赤い黄褐色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 40%、黒褐色土粒子 (10.1V3R/2)15%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
39. 10.1V4R/6 黒褐色土層 ローム粒子からなり、ロームの再堆積。細まり・粘性、粘り強い。
40. 10.1V4R/2/5 赤い黄褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 30%、直径 15mm 以下のロームブロック 5%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
41. 10.1V1R/7/1 黒色土層 ローム粒子 5%、直径 5mm 以下のロームブロック 2%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
42. 10.1V2R/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 20%、直径 15mm 以下のロームブロック 7%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。

東側遺構断面

51. 10.1V2R/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 10%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア 1%未満を含む。細まり有り、粘性なし、粘り強い。
52. 10.1V2R/2 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 3%を含む。細まり有り、粘性なし、粘り強い。
53. 7.5V1R/2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 5%、ローム粒子 10%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
54. 7.5V1R/3/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 25%を含む。細まりは中程度で53層と同程度、粘性なし、粘り強い。
55. 10.1V2R/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、ローム粒子 7%、直径 20mm 以下の黒土ブロック 5%を含む。細まり・粘性、粘り強い。
56. 10.1V1R/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 7%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 1%未満、直径 3mm 以下の黒色スコリア 7%を含む。細まり・粘性、粘り強い。
57. 10.1V3R/2 黒褐色土層 ローム粒子 20%を含む。細まり有り、粘性なし、粘り強い。
58. 10.1V2R/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア 1%未満、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2%、ローム粒子 2%、粘り強い。
59. 7.5V1R/7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤い黄褐色スコリア 3%、ローム粒子 3%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
60. 10.1V4R/2 灰黄褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 5%、ローム粒子 30%、直径 10mm 以下のロームブロック 2%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
61. 7.5V1R/1/5 黒褐色土層 直径 7mm 以下の赤褐色スコリア 2%、ローム粒子 15%を含む。細まり、粘性、粘り強い。
62. 10.1V2R/1 黒色土層 黒土をベースとし、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 1%を含む。細まり、粘性、粘り強い。
63. 10.1V4R/3 赤い黄褐色土層 黒土をベースとし、粘り強い。
64. 10.1V3R/2 黒褐色土層 黒土をベースとし、粘り強い。
65. 10.1V3R/5/2 灰黄褐色土層 黒土をベースとし、直径 10mm 以下のロームブロック 3%、直径 15mm 以下の黒土ブロック 7%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。
66. 10.1V4R/3 赤い黄褐色土層 ローム粒子 40%を含む。細まりなし、粘性有り、粘り強い。
67. 10.1V3R/1 黒褐色土層 ローム粒子 30%を含む。細まり・粘性有り、粘り強い。
68. 10.1V3R/2/5 灰黄褐色土層 ローム粒子 10%、直径 10mm 以下のロームブロック 1%、直径 20mm 以下の黒土ブロック 2%を含む。細まり・粘性有り、粘り強い。
69. 10.1V4R/2 灰黄褐色土層 ローム粒子 30%を含む。細まり有り、粘り強い。
70. 7.5V1R/1/5 黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 2%を含む。細まり有り、粘性、粘り強い。



1. SZ3 全景 (南東から)



2. SZ3 全景 西側 (東北東から)



3. SZ3 全景 東側 (西南西から)

第 271 図 SZ3 写真 (1)



1. SZ3 土層断面 B-B' (南西から)



2. SZ3 土層断面 C-C' (西南西から)



3. SZ3 土層断面 A-A' 西側 (南南東から)



4. SZ3 土層断面 A-A' 東側 (南南東から)



5. SZ3 西側周溝 (南南西から)



6. SZ3 東側周溝 (東北東から)

第 272 図 SZ3 写真 (2)



第273図 SZ3出土遺物(1/3)



第274図 SZ3出土遺物写真

第 33 表 SZ3 出土土器観察表

図 番号	層位	器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	赤彩	色調	備考	
第 273 ・ 274 図	1	覆土 上層	環	— — —	口縁部は有段で、頸部は 屈曲する。環部は内湾す る。	外面：体部ケズリ。内面：ナデ。	チャート 炭石 石英	良好	外面 内面	2.5Y3/1 黒褐	破片。比企型環
	2	覆土 上層	甕	(13.2) (4.4) —	単口縁で、口縁部は丸み を帯びる。口縁部は外反 し、頸部は緩やかに屈曲。 輪轡み痕をよく残す。	外面：口縁部ヨコナデ。胴部外面 ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。	石英 白色砂粒	良好		2.5YR4/4 にぶい赤褐	破片

B 土坑（第275・276図）

SZ3の周溝に接する状態でSK183・184の2基が検出された。いずれもいわゆる「L字状土坑」で、日野市域では古墳の周溝に接するかたちで構築される事例が多い。帰属時期はSZ3と同じ古墳時代中～後期とみなす。ただし、SZ3の周溝からSK183・184が掘り込まれていることから、両者にはある程度の時間差があることが想定される。

SK183 SZ3周溝外側、調査範囲内における西端部で検出された。検出面はⅢ層上である。平面形態は隅丸長方形で、北側の長辺はSZ3に接している他、近世以降の遺構（SKK818・SDK947）に切られている。ハードローム層（VH）まで掘り込まれた底部は、比較的平坦である。検出面から底面までの深さは94cmを測り、SZ3周溝の底面はそこから更に74cm下である。東西の壁は、調査時には開き気味に立ち上がっていたが、構築時の形状としては、北側のSZ3周溝側から東西に長い横穴状に掘り込まれていたと想定される。

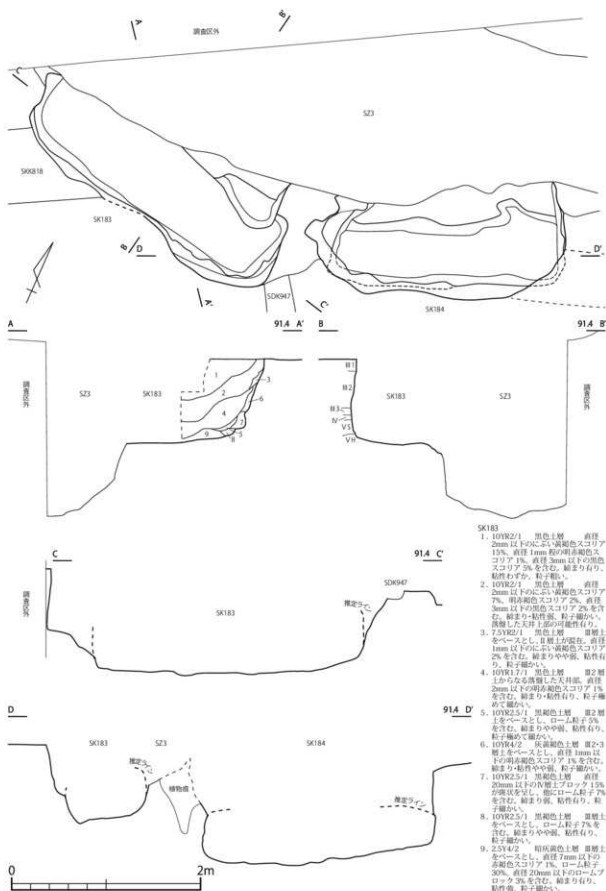
南壁は、調査時の状況としてはややオーバーハング気味に立ち上がる。

覆土は確認できた範囲では9層からなる。2・4層は崩落した天井部と想定され、そのうち4層はⅢ2層上に相当する。

遺物は、3点出土し、砥石、焼成粘土塊、礫が各1点ずつである。焼成粘土塊は周溝の最下層から、砥石は崩落した天井部の上層から出土している。

（相原・守屋）

SK184 SK183と同じく、SZ3の周溝外側に接する状態で検出された。SK183の東側に位置する。検出面はⅢ層上である。平面形態はやや不定形な隅丸長方形で、底部は比較的平坦である。検出面か



第275图 SK183·184(1/40)



1. SK183・184 全景 (東北東から)



2. SK183 土層断面 (東から)



3. SK183 全景 (北から)



4. SK184 全景 (北北西から)

第276図 SK183・184 写真

ら底面までの深さは 127cm を測り、SK183 の底面より 33cm 深く、SZ3 の底面より 38cm 浅い。

SK183 同様、構築時には、SZ3 の周溝側から東西に長い横穴状に掘り込まれていたと想定される。SZ3 の土層断面 C-C' (第 269 図) を見ると、SK184 に相当する部分には地山の大きなブロックが確認でき、本来は SK184 の天井部だったものが崩落したと考えられる。

また、東・南・西壁共に部分的にオーバーハングがみられ、このことから、当初は横穴状であったと言える。オーバーハングの痕跡から推定すると、底面から天井部分までは 70cm 程度であったとみられる。

覆土は、SZ3 の土層断面 C-C' (第 269 図) のうち 5・7～13 層が SK184 に伴うもので、天井崩落後に流入したと思われる 5・7～11 層と、崩落以前から堆積していた 12・13 層に分けられる。

当遺構に伴うものとして取り上げた遺物は、礫 2 点のみである。

(相原)

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	86.5kg (A判)
本文	マットコート紙	57.5kg (A判)
写真図版	マットコート紙	57.5kg (A判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	エコマーク商品認定基準適合	
製版線数	150 線 (カラー 175 線)	
本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用		

日野市

平山遺跡

——一般国道 20 号 (日野バイパス (延伸)) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査その 2——

東京都埋蔵文化財センター調査報告 第 382 集 第 1 分冊

2024 年 3 月 31 日 発行

編集・発行

公益財団法人東京都教育支援機構
東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目 14 番 2

TEL 042 - 374 - 8044

印刷 株式会社 丸井工文社

東京都港区三田 3-11-36